

平成30年度版
(通巻第10号)

千葉県立保健医療大学

教育研究年報



Annual Report of Education and Research
Chiba prefectural University
Of Health Sciences
2018

平成30年度教育研究年報の発行にあたって

教育研究年報（年報）は千葉県立保健医療大学（本学）が開設された平成21年度末に第1号が刊行された。その巻頭言で山浦晶前学長は、次のように述べている、「教育研究年報は、各教員が毎年の業績を振り返り、更なる発展に資するのは当然として、認証評価の際にも大学評価の重要な審査項目になるものであり、各教員の再任審査時にも必須の資料となる」。2015年10月、本学は開学後7年にして大学基準協会による機関別認証評価を初めて受審し、本学の現状が明らかとなった。

認証評価の評価結果は適合と認定されたが、内容は「自己点検・評価に関する取り組みや内部質保証システムの整備が不十分であること、管理運営の意思決定プロセスが不明確であることなどをはじめとして、さまざまな問題も抱えている。キャンパスの統合や大学院設置等、貴大学の長期目標が何年も頓挫していることから、県との協力・連携体制を強化し、種々の問題解決に向けて共に取り組んでいくことが喫緊の課題である。」という厳しいものであった。評価結果の10内部質保証の項で「開学した 2009（平成21）年度以降、毎年『教育研究年報』を大学ホームページに公表しているが、同年報は委員会の活動実績と教員の研究活動記録が主であり、自己点検・評価の結果に相当するものではない。」という指摘があった。この指摘を受けて平成27年度から年報に「年度当初の目標」、「評価（成果及び改善すべき事項）」、「次年度の目標」の項目を新たに加え、自己点検・評価とそれに基づく改善のプロセスを明確にした。年報は本学における内部質保証のエビデンスである。

認証評価では七点の努力課題と二点の改善勧告が示された。努力課題はその対応状況を、改善勧告はその改善状況を改善報告書としてまとめ、2019年7月末日までに大学基準協会へ提出した。上述の内部質保証の課題も改善勧告の一つである。改善報告書を期限までに提出するために改善のための取組み（平成28年度重点施策）を平成28年度中に策定し、平成30年度に達成した。

開学後7年を経て本学は平成27年度に設置計画履行状況等調査（AC）を完了した。「設置計画履行状況等調査の結果について」という文科省からの通知にはその他意見として以下のような意見が付されていた、「設置者より示された「県立保健医療大学の整備に係わるロードマップ」について、大学と設置者の十分な連携のもと、着実に実行すること。中略、また、キャンパスの整備に当たっては、大学が単なる施設ではなく教育研究機関であることを認識し、大学設置基準第40条の3（大学は、その教育研究上の目的を達成するため、必要な経費の確保等により、教育研究にふさわしい環境の整備に努めるものとする）に照らして適切な整備に努めること。」。認証評価、ACにより本学が教育、研究、管理・運営など様々な面で多くの課題を抱えていることを全教職員は改めて認識した。このような状況下で平成28年度重点施策を作成し、課題を一つ一つ解決していく体制を構築した。我々の成すべきことは、本学の原点に立ち返り、その達成に向けて愚直に努力を続けることである。

2019年9月

学長 田邊政裕

目 次

第 1 部 大学組織の活動記録

I	千葉県立保健医療大学の概要	2
1.	千葉県立保健医療大学の沿革	2
2.	大学の理念・目的	2
3.	健康科学部の目的	2
4.	千葉県立保健医療大学組織図	4
II	年間記録（一年の歩み）	5
1.	平成 30 年度学事歴および行事	5
2.	各学科定員等	5
III	管理運営の状況	6
1.	評議会の活動報告	6
2.	大学運営会議の活動報告	7
3.	教授会の活動報告	9
4.	各種委員会等の活動報告	13
5.	各学科・専攻の管理・運営活動報告	56
6.	事務局の活動	59
7.	FD の実施状況	60
IV	教育活動	62
1.	共通教育	62
2.	看護学科	62
3.	栄養学科	63
4.	歯科衛生学科	63
5.	リハビリテーション学科理学療法学専攻	64
6.	リハビリテーション学科作業療法学専攻	64
7.	学生による授業評価	65
8.	大学全体	66
V	学生の受け入れ状況	68
1.	学生の受け入れ方針	68
2.	年度当初の重点課題	71
3.	入学者選抜状況	71
4.	学生募集のための取り組み	73
5.	学生の在籍状況	74
6.	評価（成果および改善すべき事項）	75
7.	次年度の方策	75
VI	学生支援	77
1.	年度当初の重点課題等	77
2.	活動内容	77
3.	キャンパスハラスメント	78
4.	各学科・専攻の取り組み	78
5.	平成 30 年度千葉県立保健医療大学卒業時調査	80

6. 評価（成果および改善すべき事項）	81
7. 次年度の方策	82
VII 社会連携・社会貢献	83
1. 社会との連携・協力に関する方針	83
2. 年度当初の重点課題	83
3. 活動内容	83
4. 評価（成果および改善すべき事項）	89
5. 次年度の方策	89
VIII 教育研究等環境	90
1. 年度当初の重点課題	90
2. 施設・設備の整備状況	90
3. 図書館の状況	90
4. 研究倫理を遵守するための措置	91
5. 評価（成果および改善事項）	91
6. 次年度の方策	91
IX 研究活動報告	92
1. 看護学科	92
2. 栄養学科	92
3. 歯科衛生学科	92
4. リハビリテーション学科理学療法学専攻	92
5. リハビリテーション学科作業療法学専攻	92
X 内部質保証のための取り組み	
1. 年度当初の課題	94
2. 評価（成果および改善すべき事項）	94
3. 次年度の方策	95

第2部 教員の教育研究活動記録

・学長	99
・看護学科	103
教授 石井 邦子	105
教授 佐藤 まゆみ	108
教授 西野 郁子	111
教授 佐藤 紀子	113
教授 小川 真	116
教授 河部 房子	118
教授 神田 みなみ	121
教授 杉本 知子	123
教授 片平 伸子	126
准教授 浅井 美千代	128
准教授 雨宮 有子	130
准教授 三枝 香代子	134
准教授 細谷 紀子	136
准教授 植村 由美子	139

准教授	川城 由紀子	141
准教授	西村 宣子	143
准教授	北川 良子	145
講師	植田 麻実	148
講師	成 玉恵	150
講師	石川 紀子	152
講師	今井 宏美	154
講師	富樫 恵美子	156
講師	田口 智恵美	157
講師	加藤 隆子	159
講師	高山 京子	161
講師	川村 紀子	163
講師	佐伯 京子	165
講師	杉本 健太郎	167
助教	宮澤 早織	169
助教	大内 美穂子	170
助教	上野 佳代	172
助教	鈴木 恵子	174
助教	中山 静和	176
助教	堀川 英起	178
助教	椿 祥子	180
助教	相馬 由紀子	182
助教	坂本 明子	184
助教	杉本 亜矢子	186
助教	木村 亜由美	188
• 栄養学科		191
教授	渡邊 智子	193
教授	長谷川 卓志	198
教授	豊島 裕子	200
教授	東本 恭幸	201
教授	細山田 康恵	204
教授	井上 裕光	206
准教授	荒井 裕介	209
准教授	越川 求	211
准教授	谷内 洋子	213
准教授	河野 公子	217
講師	金澤 匠	219
講師	海老原 泰代	221
助教	阿曾 菜美	224
助教	田村 友峰子	226
助教	三宅 理江子	228
助教	岡田 亜紀子	230
助教	峰村 貴央	233
• 歯科衛生学科		235
教授	大川 由一	237
教授	酒巻 裕之	240
教授	麻賀 多美代	243
教授	島田 美恵子	246

教授	石川 裕子	249
准教授	金子 潤	251
准教授	荒川 真	254
准教授	河野 舞	256
講師	麻生 智子	258
講師	榎本 輝樹	261
講師	鈴鹿 祐子	263
講師	山中 紗都	265
助教	木戸田 直実	267
・リハビリテーション学科理学療法学専攻		
教授	雄賀多 聡	271
教授	三和 真人	273
准教授	竹内 弥彦	276
講師	高杉 潤	279
講師	大谷 拓哉	282
助教	藤尾 公哉	284
助教	江戸 優裕	286
・リハビリテーション学科作業療法学専攻		
教授	岡村 太郎	291
教授	高橋 伸佳	294
准教授	安部 能成	296
准教授	藤田 佳男	299
准教授	有川 真弓	302
講師	吉野 智佳子	306
講師	佐藤 大介	309
助教	松尾 真輔	311
資料		
資料1	履修規程別表	314
資料2	平成30年度非常勤講師一覧	343

第 1 部

大学組織の活動記録

第1部 大学組織の活動記録

I 千葉県立保健医療大学の概要

1. 千葉県立保健医療大学の沿革

千葉県立保健医療大学は2009年4月に開学した。幕張にある千葉県立衛生短期大学と仁戸名にある千葉県医療技術大学校が再編整備され、1学部2キャンパスの4年制大学になったものである。前身の2校は順次閉学され、2011年4月からは保健医療大学のみでの運営になった。

保健医療大学開学までの道のりを振り返ると、4年制大学への要望はすでに衛生短期大学の佐藤学長（2代目、1985年4月～1993年3月）の頃からあったものの、県庁内に検討会ができたのは2003年になってからである。2005年4月に保健医療大学準備室が健康福祉部医療整備課内に設置され、これは課相当の保健医療大学設立準備室に改組された。この間、保健医療大学整備検討委員会が設置され（2005年7月）、整備計画が策定された（2006年7月）。

2008年3月に文部科学省に認可申請書を提出し、同年10月末に大学設置認可の通知があり、同年12月の県議会を経て（大学設置管理条例の議決）、直ちに入学募集・入学試験を行うという実に目まぐるしい1年であった。こうして多くの方々のご努力、ご支援のもとに2009年4月に開学の日を迎えることができた。千葉県立保健医療大学の開学を認めた堂本知事から、森田知事に代ったのもこの頃であった。

2. 大学の理念・目的

千葉県立保健医療大学は、保健医療に関わる優れた専門的知識及び技術を教授研究し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材を育成するとともに、研究成果を地域に還元することにより、県民の保健医療の向上に寄与します。

(1) 高い倫理観と豊かな人間性を持った人材の育成

生命の尊厳を深く理解し、専門職としての高い倫理観を育み、人間を総合的に理解し、多様性を認めあう広い視野を持った人材を育成します。

(2) 健康づくりなどの保健医療に関わるすぐれた専門職の育成

すぐれた専門的知識・技術を習得し、一人ひとりの状況に応じた健康づくりなどの多様な保健医療を研究・企画・評価する能力を持った人材を育成します。

(3) 地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材の育成

地域に開かれた大学において、県民、保健医療関係者と広く連携・交流を行い、地域社会に貢献する意識態度を醸成します。また、国の内外を問わず国際的な視野を持って活動できる人材を育成します。

(4) 県の健康づくり政策のシンクタンク機能

健康づくりなどの保健医療の政策課題に関する実践的研究を行い、その成果を地域に還元し、県の健康づくり政策に貢献します。

3. 健康科学部の目的

健康科学部は、本学の理念・目的を達成するために以下の人材育成を学部の目的とします。

- (1) 生涯にわたり総合的に保健医療を発展させようとする意欲を持った人材の育成
- (2) 科学的真理を追究する力を持った人材の育成
- (3) 専門的知識、技術、実践力及び指導力を身につけた人材の育成
- (4) 多様な分野で他の専門職と自在に連携、協働できる人材の育成
- (5) 総合的な健康づくりの推進力となり、保健医療の発展に寄与できる人材の育成

なお、学部の目的を達成するためには大学が定める所定の期間在学し、大学・学部の理念・目的に沿って設定された

学科・各専攻の授業科目を履修し、卒業要件に満たす単位を修める必要があります。

〈学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

I 倫理観とプロフェッショナリズム

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務をはたすことができる。

II コミュニケーション能力

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることができる。

III 実践に必要な知識

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に高い教養を身に付け、専門領域の実践に必要な知識を有し、それを健康づくりの支援に活用することができる。

IV 健康づくりの実践

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に個人・家族・地域に対し健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、根拠に基づいた適切で有効な健康づくりの支援を提供できる。

V 健康づくりの環境の整備・改善

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の整備・改善に努めることができる。

VI 多職種との協働

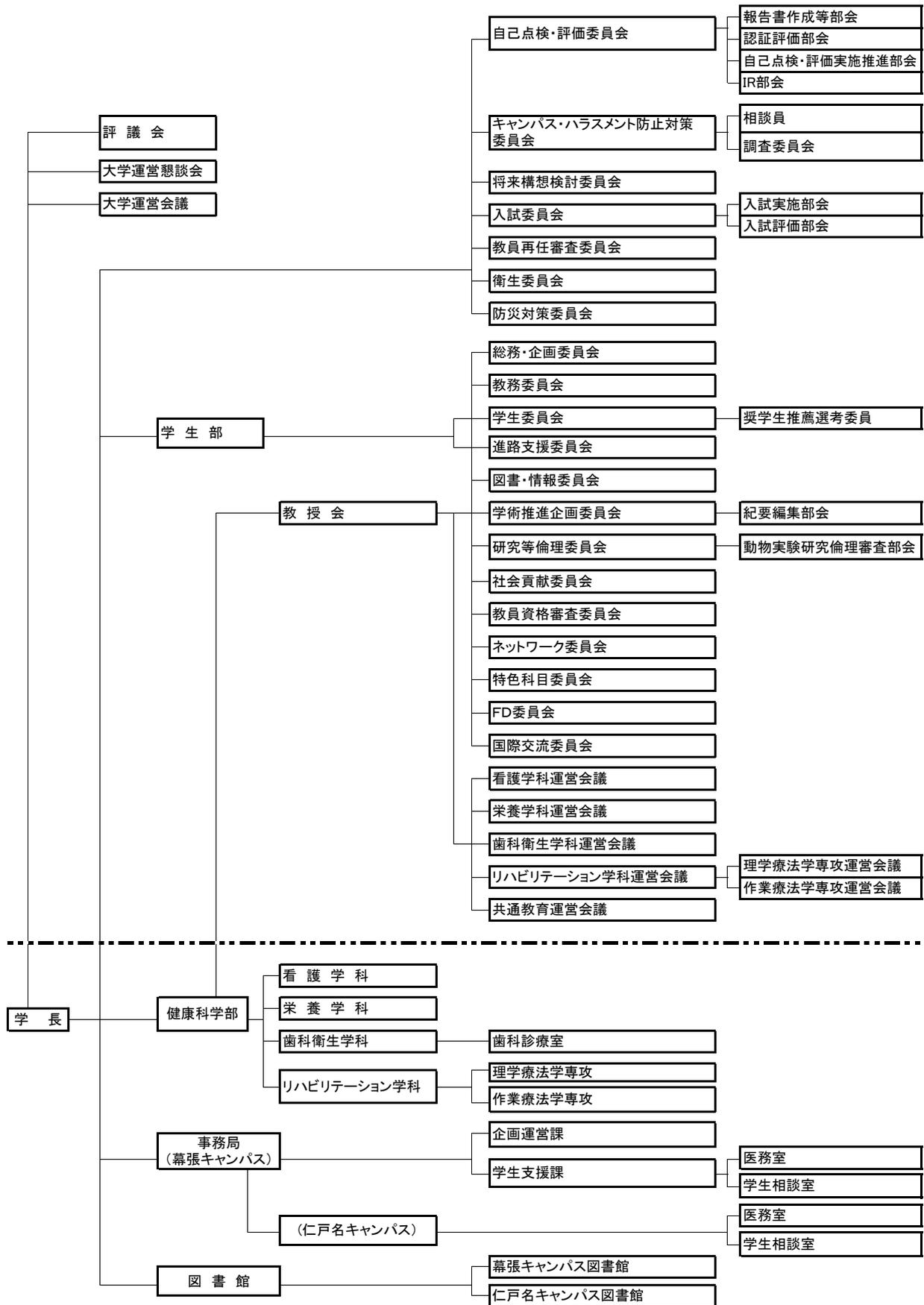
千葉県立保健医療大学生は、卒業時に対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動することができる。

VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に論理的思考による探究心を身につけ、自己研鑽に励み、自己および専門職として生涯にわたり成長できる資質を示すことができる。

(2018年1月15日改変，同4月1日施行)

4. 千葉県立保健医療大学組織図



II 年間記録（一年の歩み）

1. 平成30年度学事歴及び行事

行 事	日 程
入学式, 新入生ガイダンス	4月4日(水)
新入生ガイダンス	4月5日(木)幕張, 4月11日(水)仁戸名
前期授業期間	4月9日(月)~7月31日(火)
前期履修登録期間	4月9日(月)~17日(火)
前期末試験	8月1日(水)~8月9日(木)
夏季休業	8月10日(金)~9月30日(日)
オープンキャンパス	7月14日(土), 15日(日)
前期試験結果発表	8月23日(木)
後期授業期間	10月1日(月)~2月8日(金)
後期履修登録期間	10月2日(火)~5日(金)
公開講座	10月7日(日)
大学祭(いずみ祭)	10月7日(日), 8日(月)
公開講座	10月21日(日)
開学記念日	10月28日(日)
特別選抜(推薦・社会人)入学試験	11月17日(土)
3年次編入学試験	11月18日(日)
冬季休業	12月24日(月)~1月6日(日)
大学入試センター試験	1月19日(土), 20日(日)
後期末試験	2月12日(火)~2月20日(水)
一般選抜2段階入学試験	2月25日(月)
後期試験結果発表	2月28日(木)
卒業式	3月13日(水)
春季休業	3月22日(金)~3月31日(日)

2. 各学科定員等

1) 入学定員, 収容定員, 在籍者数(2019年3月1日現在)

学部名	学 科 名	入学定員	総 定 員	在籍者数
健 康 科 学 部	看護学科	80人	340人 (編入学20名含む)	335人
	栄養学科	25人	100人	102人
	歯科衛生学科	25人	100人	98人
	リハビリテーション学科 (理学療法学専攻)	(25人)	(100人)	(100人)
	(作業療法学専攻)	(25人)	(100人)	(102人)
合 計		180人	740人	737人

2) 履修規程別表 資料1参照, 非常勤講師担当教員授業科目表 資料2参照

Ⅲ 管理運営の状況

1. 評議会の活動報告

A	議長名	田邊 政裕（保健医療大学長）
B	評議員名	大嶋 良弘（税理士法人 大嶋会計代表社員） 來生 新（放送大学長） 水野 創（株式会社ちばざん総合研究所取締役社長） 横山 正博（県健康福祉部長） 雄賀多 聡（保健医療大学健康科学部長） 布施 高広（保健医療大学事務局長）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 本学の設置の目的を達成するための基本的な計画に関する事項 2 学則その他重要な規程の制定又は改廃に関する事項 3 本学の予算及び決算に関する事項 4 学部、学科その他の重要な組織の設置又は廃止及び学生の定員に関する事項 5 教員の人事の方針に関する事項 6 本学の教育研究活動等の状況について本学が行う評価に関する事項 7 その他本学の運営に関する重要事項
E	年度当初の重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度重点施策（設置計画履行状況等調査、機関別認証評価で指摘された諸課題の解決） ・設置者より示されたロードマップの着実な実行（平成 29 年度末までにキャンパス内バリアフリー化, 平成 31 年度末までに大学院設置, 看護学科定員増）
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	9月12日	1 学長候補者選考日程（案）について 2 学長候補者の面接について（案） 3 学長候補者選考を行う旨の公示（案）について 4 学長候補者推薦依頼の公示（案）について 5 学長候補者学内意向調査委員会の設置について（案） 6 学長候補者学内意向調査に係る投票・立会人の推薦について（案） 7 学則別表及び履修規程の一部改正について 【報告】 1 平成 31 年度大学入学者選抜における募集人員の変更について 2 平成 31 年度個別入学者試験実施に関する指針の制定について 3 平成 29 年度卒業生国家試験合否について
2	11月9日	1 学長候補者の選考について 2 学長候補者選考結果の公示について 【報告】 平成 29 年度決算について
2	平成 31 年 3月19日	1 学長の人事評価について 2 大学認証評価への対応について（組織改革について） 3 管理規則の一部改正について 4 大学運営会議規程の一部改正について 5 リハビリテーション学科専攻長選考規程の一部改正について 6 臨床教授等の称号付与に関する規程の制定について 7 中長期ビジョンについて

		【報 告】 1 平成 31 年度当初予算について 2 平成 31 年度入学者選抜試験結果について 3 平成 30 年度分野別就職状況について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	・平成 30 年度重点施策において新たに以下の施策が達成された。 未達成（取組継続）の重点施策が 23 項目あり、平成 30 年度の取組みは十分ではなかった。 教育 3. (オ) 千葉県内高等学校（主に推薦枠高校）との定期的な情報交換と大学説明会等の開催 10. 教育ワークショップを定期的に開催 学生支援 3. 学生支援の方針に照らした学生支援の検証と改善	
I	次年度の方策	
	・平成 30 年度の重点施策達成状況を踏まえた次年度以降の重点施策（達成目標）の策定	

2. 大学運営会議の活動報告

A	議長名	田邊 政裕・学長
B	構成員名	雄賀多 聡・学部長 西野 郁子・学生部長 豊島 裕子・図書館長 石井 邦子・看護学科長 渡邊 智子・栄養学科長 大川 由一・歯科衛生学科長 三和 真人・リハビリテーション学科理学療法学専攻長 岡村 太郎・リハビリテーション学科長 兼 作業療法学専攻長 布施 高広・事務局長
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 学長からの諮問事項に関すること 2 評議会及び教授会に諮る案件の事前調整に関すること 3 学科間の調整に関すること 4 その他大学運営に係る企画及び調整に関すること
E	年度当初の重点課題	
	・上記（評議会活動報告）	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月23日	【報 告】 1 平成 30 年度目標・計画について 2 IR 専門部会について 3 平成 30 年度歯科衛生学科授業科目における担当教員の変更について 4 歯科診療室救急対応マニュアル（案）について
2	5月28日	1 学内共同研究における科研費の申請・採択について
3	6月25日	1 教員資格審査に係る募集要項等について 2 学部カリキュラムポリシーについて

		<p>3 学生の公欠について</p> <p>【報告】</p> <p>1 看護学科専門科目 担当教員の追加・変更について</p> <p>2 共通教育 担当教員の変更について</p> <p>3 厚生局指摘事項への対応について</p> <p>4 連携拠点施設に求められる施策の具体的展開について</p> <p>5 第1回保健医療大学に関する勉強会について</p>
4	8月1日	1 平成31年度保健医療大学当初予算について
5	8月27日	<p>1 長谷川教授の後任について 【栄養】</p> <p>2 千葉県立保健医療大学後援会よりの寄付申出について</p> <p>【報告】</p> <p>1 学長選考のスケジュール案について</p>
6	9月25日	<p>1 千葉県立保健医療大学後援会よりの寄付物品について</p> <p>【報告】</p> <p>1 平成30年度 歯科衛生学科授業科目担当専任教員の追加について</p> <p>2 IR部会の立ち上げ及び学生アンケート調査の実施について</p> <p>3 平成30年度公立大学協会生活科学・環境学系部会について</p>
7	10月29日	<p>1 教員ホームページにおける研究業績の記載について</p> <p>【報告】</p> <p>1 神田外語大学通訳ボランティア養成への協力について</p>
8	12月25日	<p>1 リハビリテーション学科専攻長選考規程について</p> <p>2 学内情報システムについて</p> <p>3 平成31年度大学運営会議日程案について</p> <p>【報告】</p> <p>1 ヒト抜去歯の提供依頼をする際の手続きについて</p>
9	平成31年 1月28日	<p>1 千葉県立保健医療大学臨床教授等の称号付与に関する規程について</p> <p>2 海外渡航時の安全確保に関する指針（案）等について</p> <p>【報告】</p> <p>1 平成31年度当初予算について</p> <p>2 【栄養】平成31年度「栄養疫学」担当教員の変更について</p> <p>3 【共通教育】保健医療基礎科目「救命・救急の理論と実際」の平成31年度講義担当者変更について</p> <p>4 平成30年度卒業式について</p> <p>5 平成31年度入学式について</p>
10	平成31年 2月18日	<p>1 組織図及び学内委員会規程について（管理・運営WGによる改革案）</p> <p>2 学長補佐について</p> <p>3 学則の一部改正について</p> <p>4 中長期ビジョンについて</p> <p>5 千葉県立保健医療大学名誉教授の推薦について</p> <p>【報告】</p> <p>1 2019, 2020年度学部長, 学科長専攻長, 委員長等について</p> <p>2 平成31年度 歯科衛生学科専門科目における担当教員の変更について</p>
11	平成31年 3月11日	<p>1 組織図及び学内委員会規程について</p> <p>2 学長補佐について</p> <p>3 千葉県立保健医療大学管理規則及び学則の一部改正について</p> <p>【報告】</p> <p>1 千葉テレビへの出演依頼について</p>

G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	・上記（評議会活動報告）	
I	次年度の方策	
	・上記（評議会活動報告）	

3. 教授会の活動報告

教授会は健康科学部すべての教授によって組織され、学部長が招集し、議長となって運営した。開催頻度は月 1 回を定例とし、必要に応じて臨時教授会を開催した。平成 30 年度教授会の主な議題は下表のとおりである。

A	年度当初の重点課題		
	学内の組織改革（教授会の所掌を教育関連項目に絞り、管理運営面を切り離す）により、教授会のスリム化を目指す。		
B	会議記録		
	月日	主な議題	主な報告事項
1	4月2日	1) 歯科衛生学科：教授の資格審査結果について 2) 栄養学科：准教授の資格審査結果について 3) 理学療法学専攻：助教の資格審査結果について 4) 看護・母性看護学・助産学領域：助教の公募について 5) 看護・公衆衛生看護学領域：助教の公募について 6) 教員資格審査委員会：栄養学科・教授の設置について 7) 教員資格審査委員会：共通教育・准教授の設置について 8) 学生の休学・退学について【看護・歯科】 9) 非常勤講師の新規任用について【看護】 10) 公欠の取り扱いについて	運営会議報告 ・平成 29 年度第 2 回評議会について ・平成 29 年度国家試験合格率について ・平成 30 年度新規教職員・学生へのメールアドレスの付け方の変更について 進路支援委員会：平成 29 年度国家試験合格率について
2	4月6日 (臨時)	1) 既修得単位の認定について 2) 非常勤講師の新規追加について 3) 時間割の変更について	
3	5月7日	1) 栄養学科：准教授の選考について 2) 理学療法学専攻：助教の選考について 3) 看護・精神看護学領域：教授の資格審査結果について 4) 歯科衛生学科：助教の資格審査結果について 5) 栄養学科：教授の公募について 6) 教員再任審査における平成 30 年度からの変更事項について 7) 研究費の配分について 8) 学生の休学について【看護・歯科・理学】	平成 30 年度第 1 回運営会議について 平成 30 年度学長裁量研究費について 総務・企画委員会：平成 30 年度教育備品の購入予定について 教務委員会：授業評価アンケートの変更について 学術推進企画委員会：平成 30 年度共同研究費採択について FD 委員会：前年度 FD・SD の参加率について 入試委員会：平成 31 年度入学者選抜要項について
4	6月4日	1) 教員再任審査について 2) 歯科衛生学科：教授の選考について 3) 歯科衛生学科：助教の選考について 4) 栄養：教授の資格審査結果について 5) 看護，看護管理学領域：講師の資格審査結果について	平成 30 年度第 2 回運営会議について 教務委員会：栄養学科の食品衛生養成施設使用新規登録申請について 学術推進企画委員会：共同研究費二次募集について 事務局：事務処理の適正な執行について

		<p>6) 看護，公衆衛生看護学領域：助教の資格審査結果について</p> <p>7) 看護，母性看護学・助産学領域の助教の資格審査結果について</p> <p>8) 教員資格審査委員会の設置（看護，精神看護学，教授）について</p> <p>9) 教員資格審査委員会の設置（理学療法学専攻，准教授）について</p> <p>10) 教員資格審査委員会の設置（看護，公衆衛生看護学領域，助教）について</p> <p>11) 教員資格審査委員会の設置（看護，母性看護学・助産学領域，助教）について</p> <p>12) 学生の休学について【作業】</p>	て
5	7月2日	<p>1) 栄養学科：教授の選考について</p> <p>2) 看護学科，看護管理学領域：講師の選考について</p> <p>3) 看護学科，精神看護学：教授の公募について</p> <p>4) 理学療法学専攻：准教授の公募について</p> <p>5) 一般教養科目：准教授（教育学）の公募について</p> <p>6) 看護学科，公衆衛生看護学領域：助教の公募について</p> <p>7) 看護学科，母性看護学・助産学領域：助教の公募について</p> <p>8) 教員資格審査委員会の設置（共通教育・教授）について</p> <p>9) 平成30年度後期入学科目等履修生等の募集について</p> <p>10) 学生の休学について【看護・作業】</p> <p>11) 非常勤講師の新規任用について【共通・看護】</p> <p>12) 時間割変更要望について【看護】</p> <p>13) 新々カリキュラムについて</p>	<p>平成30年度第3回運営会議について</p> <p>教務委員会：前期末試験日程について</p> <p>進路支援委員会：キャリアセミナーについて</p> <p>図書情報委員会：平成30年度の推薦図書の購入予算について</p> <p>学術推進企画委員会：①平成30年度学内共同研究費2次募集の採択結果について，②紀要第10巻編集方針（案）について</p> <p>研究等倫理委員会：倫理研修会日程について</p> <p>入試実施部会：著作権セミナーについて</p> <p>事務局：①職員の綱紀粛正について，②受託許可申請の徹底について</p>
6	9月3日	<p>1) 教員公募における書類様式等の変更について</p> <p>2) 栄養，教育学：准教授の資格審査結果について</p> <p>3) 理学療法学専攻：准教授の資格審査結果について</p> <p>4) 看護，公衆衛生看護学領域：助教の資格審査結果について</p> <p>5) 作業療法学専攻，神経内科：教授の公募について</p> <p>6) 教員資格審査委員会の設置（栄養，准教授）について</p> <p>7) 来年度以降の予算要求手順について</p> <p>8) 平成31年度「学内研究費」について</p> <p>9) 平成30年度個人研究費欠員分の取扱いについて</p> <p>10) 履修規程の改正について</p> <p>11) GPA制度に関する規程（案）について</p> <p>12) 平成30年度後期入学科目等履修生等の応募状況について【理学】</p> <p>13) 学生の休学・復学について【看護・歯科・理学】</p> <p>14) 非常勤講師の任用について【栄養】</p> <p>15) 平成30年度後期 時間割の変更要望について【栄養】</p> <p>16) 学生向けMicrosoft officeの学割・卒割について</p>	<p>平成30年度第4回・第5回運営会議について</p> <p>第2回医療整備課とのミーティングについて</p> <p>総務・企画委員会：来年度よりの組織改編に伴う規程の変更案について</p> <p>研究等倫理委員会：コンプライアンス教育研修会の日程変更について</p> <p>社会貢献委員会：公開講座について</p> <p>FD委員会：著作権セミナーの出席率について</p> <p>特色科目委員会：新々カリキュラム用授業科目概要について</p> <p>入試委員会：入学者選抜試験実施に関する指針について</p> <p>入試実施部会：今年度入試の変更点について</p> <p>事務局：学長候補者選考のスケジュールについて</p>

7	10月1日	<ul style="list-style-type: none"> 1) 学部長候補者選考日程(案)について 2) 栄養, 教育学: 准教授の選考について 3) 理学療法学専攻: 准教授の選考について 4) 看護, 公衆衛生看護学領域: 助教の選考について 5) 看護, 精神看護学領域: 教授の資格審査結果について 6) 栄養: 准教授の公募について 7) 教員資格審査委員会の設置(看護, 成人看護学領域, 教授)について 8) 教員資格審査委員会の設置(栄養, 教授) 9) 非常勤講師の新規任用について【歯科・理学】 10) 学生の退学・復学について【看護・理学・作業】 	<p>第1回評議会について</p> <p>第6回運営会議について</p> <p>総務・企画委員会: 平成31年度当初予算の要求状況について</p> <p>教務委員会: 追試験に関する事例について</p> <p>学生委員会: いずみ祭について</p> <p>社会貢献委員会: 公開講座について</p> <p>自己点検・評価実施推進部会: 平成30年度自己点検・評価について</p> <p>I R部会: I R部会の設置について</p> <p>入試実施部会: ①オープンキャンパスの開催結果について, ②平成31年度大学入試センター試験について</p>
8	11月5日	<ul style="list-style-type: none"> 1) 学部長候補者選考予備選挙管理委員会の設置について 2) 看護, 精神看護学領域: 教授の選考について 3) 作業療法学専攻・神経内科: 教授の資格審査結果について 4) 栄養: 准教授の資格審査結果について 5) 看護, 母性看護学・助産学領域: 助教の資格審査結果について 6) 看護, 成人看護学領域: 教授の公募について 7) 栄養: 教授の公募について 8) 2020年度学年暦の方針について 9) 学生の休学について【看護・歯科】 	<p>第3回医療整備課とのミーティングについて</p> <p>第7回運営会議について</p> <p>学術推進企画委員会: イブニングセミナーについて</p> <p>社会貢献委員会: 公開講座について</p> <p>自己点検・評価委員会: 認証評価の改善報告書について</p> <p>入試実施部会: 採点結果の集計及び結果報告について</p>
9	11月26日	特別選抜・3年次編入合否判定について	平成31年度一般選抜募集要項の訂正について
10	12月3日	<ul style="list-style-type: none"> 1) 教員再任審査について 2) 作業療法学専攻・神経内科: 教授の選考について 3) 栄養学科: 准教授の選考について 4) 看護学科, 母性看護学・助産学領域: 助教の選考について 5) 看護学科, 成人看護学領域: 教授の資格審査結果について 6) 栄養学科: 教授の公募結果及び教員資格審査委員会の設置について 追加) 栄養学科: 講師の教員資格審査委員会の設置について 7) 平成31年度前期 科目等履修生等の募集について 8) 平成31年度学年暦案について 9) 学生の休学・復学について【作業】 10) 非常勤講師の新規任用について【共通・歯科・リハ】 11) 学則及び履修規程別表の一部改正について 12) 看護学科編入生の既修得単位として認定する科目に関する要項の一部改正について 	<p>教務委員会: ①平成31年度時間割案について, ②平成31年度シラバスの作成について</p> <p>学術推進企画委員会: 平成31年度学内共同研究募集要項案について</p> <p>F D委員会: 講演会について</p> <p>国際交流委員会: ウィスコンシン州友好使節団の来学・意見交換について</p> <p>将来構想検討委員会: 中長期ビジョンについて</p> <p>事務局: ①学長候補者選考結果について, ②学部長候補者選考について, ③学内情報システムの更新予定について</p>
11	平成31年1月7日	<ul style="list-style-type: none"> 1) 学部長候補者の選考について 2) 看護学科・成人看護学領域: 教授の選考について 3) 栄養学科: 教授の公募について 4) 栄養学科: 講師の公募について 	<p>第8回運営会議について</p> <p>教務委員会: ①後期期末試験日程について, ②平成31年度時間割変更について, ③平成31年度時間割変更につ</p>

		追加)看護学科・成人看護学:准教授の教員資格審査委員会の設置について 5) リハビリテーション学科専攻長選考規程について 6) 平成 31 年度新入生・在学生ガイダンスのスケジュール(案)について 7) 非常勤講師の新規任用について【保健医療基礎・栄養】 8) 学生の復学について【作業】 9) 平成 31 年度教授会日程案について	いて,④学生の履修登録漏れの修正について 進路支援委員会:キャリアセミナーについて 事務局:①学科長候補予定者及び専攻長候補予定者の推薦について,②平成 30 年度卒業式について
12	平成 31 年 2 月 4 日	1) 学科長候補者及び専攻長の選考について 2) 栄養学科:教授の資格審査結果について 3) 栄養学科:講師の資格審査結果について 4) 看護学科・成人看護学領域:准教授の公募について 5) 栄養学科:教授の教員資格審査委員会の設置について 6) 栄養学科:助教の教員資格審査委員会の設置について 7) 千葉県立保健医療大学臨床教授等の称号付与に関する規程について 8) 非常勤講師の新規任用について【保健医療基礎・歯科・理学】 9) 履修規程別表(旧カリ)の一部改正について【栄養】 10) 教授会申合せ「気象災害等により交通機関が運行されない場合の授業等の取り扱いについて」の改正について	第 9 回運営会議について 教務委員会:①授業科目ナンバリングについて,②教育ワークショップについて 学術推進企画委員会:科研費申請率について 社会貢献委員会:平成 31 年度の公開講座のテーマについて I R 部会:大学 I R コンソーシアムのマークシート調査について 入試委員会:入試委員会の組織改革について 入試実施部会:平成 31 年度一般選抜試験要領について 将来構想検討委員会:組織改正案について 事務局:平成 31 年度入学式について 学生部:幕張キャンパスにおける盗難について
13	平成 31 年 2 月 27 日	平成 30 年度卒業判定について	
14	平成 31 年 3 月 4 日	1) 平成 31 年度一般選抜合否判定について 2) 平成 31 年度教授会の日程について 3) 栄養学科:教授の選考について 4) 栄養学科:講師の選考について 5) 看護学科・成人看護学:准教授の資格審査結果について 6) 栄養学科:教授の公募について 7) 栄養学科:助教の公募について 8) 教員資格審査委員会の設置(看護・基礎看護学,助教)について 9) 組織図及び学内委員会規程について(管理・運営 WG による改革案) 10) 学長補佐について 11) 千葉県立保健医療大学管理規則及び学則の改正について 12) 平成 31 年度保健医療大学運営予算研究費について 13) 千葉県立保健医療大学施設管理規程について 14) 非常勤講師の新規任用について 15) 学生の復学・退学について【栄養・理学・作業・看護】	第 10 回運営会議について 新学部長等及び委員長選考について 総務・企画委員会:平成 31 年度の教育用予算及び全学整備のための備品費について 教務委員会:①教育ワークショップについて,②平成 31 年度の時間割について,③学生の履修登録漏れについて 研究等倫理委員会:「データ収集と管理に関する研究等倫理審査委員会の指針」の改正案について F D 委員会:講演会について 報告書作成等部会:平成 29 年度版教育研究年報について 入試委員会:平成 33 年度入学者選抜予告公表について 将来構想検討委員会:組織図及び委員会規程の改正について 事務局:情報セキュリティ監査の結果について

	16) 履修規程別表（新々カリ）の一部改正について 【栄養】	
C	評価（成果および改善事項）	
	昨年度に引き続き、管理・運営ワーキンググループ（以下「WG」という。）において、学内組織全体のあり方（教授会の所掌を教育関連項目に絞り、管理運営面を切り離す）について検討を継続した結果、来年度より新たな組織体制となり、教授会のスリム化が達成される見込み。	
D	次年度の方策	
	新たな組織体制・新たな学部長のもと円滑な教授会運営を目指す。	

4. 各種委員会等の活動報告

1) 学長直属委員会

(1) 自己点検・評価委員会

A	委員長名 委員長代理	田邊 政裕・学長 雄賀多 聡・学部長
B	委員名	西野 郁子・学生部長 豊島 裕子・図書館長 兼 自己点検・評価委員会報告書作成等部会長 石井 邦子・看護学科長 渡邊 智子・栄養学科長 大川 由一・歯科衛生学科長 三和 真人・リハビリテーション学科理学療法学専攻長 岡村 太郎・リハビリテーション学科長 兼 作業療法学専攻長 兼 自己点検・評価委員会認証評価部会長 兼 自己点検・評価委員会自己点検・評価実施推進部会長 兼 自己点検・評価委員会 IR 部会長 布施 高広・事務局長
C	部会名と 部会員名	<p>【報告書作成等部会】</p> 部会長：豊島 裕子・教授（栄養学科） 部会員：石川 紀子・講師（看護学科） 杉本 亜矢子・助教（看護学科） 山中 紗都・講師（歯科衛生学科） 金子 潤・准教授（歯科衛生学科） 高杉 潤・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 松尾 真輔・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻） <p>【自己点検・評価実施推進部会】</p> 部会長：岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 部会員：杉本 知子・教授（看護学科） 片平 伸子・教授（看護学科） 川城 由紀子・准教授（看護学科） 井上 裕光・教授（栄養学科） 金子 潤・准教授（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 松原 千栄里・事務局企画運営課長 <p>【認証評価部会】</p> 部会長：岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 部会員：佐藤 まゆみ・教授（看護学科） 細山田 康恵・教授（栄養学科） 田中 宏明・事務局企画運営課主事 <p>【IR 部会】</p> 部会長：岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 部会員：河部 房子・教授（看護学科） 神田 みなみ・教授（看護学科）

		東本 恭幸・教授（栄養学科） 井上 裕光・教授（栄養学科） 麻賀 多美代・教授（歯科衛生学科） 榎本 輝樹・講師（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・講師（リハビリテーション学科理学療法専攻） 田中 宏明・事務局企画運営課主事 阿部 真希子・事務局学生支援課主事
D	所掌事務	1 自己点検・評価の基本方針及び実施計画等の策定に関する事項 2 自己点検・評価の項目の設定に関する事項 3 自己点検・評価の実施に関する事項 4 自己点検・評価に関する報告書の作成及び公表に関する事項 5 認証評価に関する事項 6 その他, 自己点検・評価に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	・ IR 部会の設置 ・ 自己点検・評価実施推進部会による平成 30 年度重点施策・改善計画実施状況調査（中間点評価, 最終評価）	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4 月 16 日	1 平成 29 年度重点施策・改善計画実施状況最終報告の確認について 2 大学基準協会による改善勧告の達成状況報告（平成 29 年度）について 3 IR 部会の設置について 【報告】 1 平成 30 年度重点施策・改善計画実施案の今後の進行について
2	7 月 2 日	1 改善報告書提出に向けたタイムライン及び報告書作成手順について 2 平成 30 年度アニュアル・レポートについて
3	10 月 15 日	1 大学認証評価における改善報告書について 2 学生マークシート調査の実施について 3 平成 30 年度重点施策・改善計画実施状況報告書作成について
4	平成 31 年 2 月 4 日	1 連携拠点としての具体的展開について 【報告】 1 授業評価アンケートについて 2 平成 30 年度大学評価シンポジウム（大学基準協会）について
	開催日	自己点検・評価専門部会の主な議題【報告書作成等部会】
1	5 月 8 日	1 教育研究年報の項目と作成について 2 今年度のスケジュール 3 委員会運営経費について
	開催日	自己点検・評価専門部会の主な議題【自己点検・評価実施推進部会】
1	10 月 25 日	1 平成 30 年度重点施策・改善計画実施状況報告書作成について
2	平成 31 年 3 月 7 日	1 平成 30 年度重点施策・改善計画実施状況報告書について
	開催日	自己点検・評価専門部会の主な議題【認証評価部会】
1	5 月 29 日	1 認証評価部会の今後について 2 部会員の選出について
2	7 月 4 日	1 改善報告書提出に向けたタイムラインについて 2 改善報告書作成者について
3	9 月 10 日	1 改善報告書原稿の確認・修正について
	開催日	自己点検・評価専門部会の主な議題【IR 部会】
1	9 月 25 日	1 IR 部会設置の趣旨について

		2 大学 IR コンソーシアムについて 3 学生アンケートの実施について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	<ul style="list-style-type: none"> IR 部会は立ち上げられたが実質的な活動は行われていない 自己点検・評価実施推進部会による平成 30 年度重点施策・改善計画実施状況調査（中間点評価，最終評価）が行われ，達成された施策が明確化された 	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> IR 部会の活動によって自己点検・評価に必要なデータの収集・解析を行う 平成 31 年度重点施策の達成状況調査 	

(2) キャンパス・ハラスメント防止対策委員会

A	委員長名	田邊 政裕・学長
B	委員名	雄賀多 聡・学部長 西野 郁子・学生部長 布施 高広・事務局長 杉本 知子・教授（看護学科） 渡邊 智子・教授（栄養学科） 高橋 伸佳・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 【外部委員】 山下 洋一郎（弁護士） 有馬 和子（臨床心理士）
C	部会名と 部会員名 (相談員名)	【相談員】 小川 真・教授（看護学科） 片平 伸子・教授（看護学科） 川村 紀子・講師（看護学科） 渡邊 智子・教授（栄養学科） 海老原 泰代・講師（栄養学科） 榎本 輝樹・講師（歯科衛生学科） 麻生 智子・講師（歯科衛生学科） 竹内 弥彦・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 松尾 真輔・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 松原 千栄里・課長（事務局企画運営課） 村上 健・主事（事務局企画運営課） 【キャンパス・ハラスメント調査委員会】 キャンパス・ハラスメント防止対策委員会が推薦する者から学長が指名
D	所掌事務	1 キャンパス・ハラスメントの防止及び排除に関する基本方針の策定に関すること 2 キャンパス・ハラスメントに関する啓発及び研修に関すること 3 キャンパス・ハラスメントに関する苦情の申出及び相談への対応に関すること 4 上記に掲げるもののほか、キャンパス・ハラスメントの防止及び排除に関すること
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> 本学におけるキャンパス・ハラスメントに関する実態の把握 キャンパス・ハラスメントの実態に基づく啓発，防止策の企画・実施 	

F		会議記録（含む部会の開催）
開催日		主な議題
1	平成 31 年 2 月 6 日	【議題】 1 平成 29 年度ハラスメント FD の結果について 2 平成 30 年度キャンパス・ハラスメント実態調査について 3 委員会規程の変更案について 4 来年度の予定について
2	平成 31 年 3 月 12 日	1 キャンパス・ハラスメント事案について
G		行事開催記録
開催日		行事名称及び行事の内容
		なし
H		評価（成果および改善事項）
		・調査により本学におけるキャンパス・ハラスメントの実態が明らかとなり，調査を継続することとした
I		次年度の方策
		・キャンパス・ハラスメントに関する調査及び啓発，防止を目的とする実態調査を行う ・キャンパス・ハラスメントに関する啓発，防止を目的とする講演会・研修会を企画する

(3) 将来構想検討委員会

A	委員長名 副委員長名	田邊 政裕・学長 雄賀多 聡・学部長
B	構成員名	西野 郁子・学生部長 豊島 裕子・図書館長 石井 邦子・看護学科長 渡邊 智子・栄養学科長 大川 由一・歯科衛生学科長 三和 真人・リハビリテーション学科理学療法学専攻長 岡村 太郎・リハビリテーション学科長 兼 作業療法学専攻長 佐藤 まゆみ・教授（看護学科） 河部 房子・教授（看護学科） 井上 裕光・教授（栄養学科） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科） 布施 高広・事務局長
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 キャンパス統合の検討に関すること 2 大学院設置の検討に関すること 3 実践研修研究センター（仮称）設置の検討に関すること 4 公立大学法人化等の検討に関すること 5 その他大学の発展・充実のための将来構想・将来計画の協議・立案に関すること
E		年度当初の重点課題
		・平成 30 年度重点施策（設置計画履行状況等調査，機関別認証評価で指摘された諸課題の解決策） ・設置者より示されたロードマップの着実な実行（キャンパス内バリアフリー化，大学院設置，看護学科定員増）
F		会議記録（含む部会の開催）
開催日		主な議題
1	4 月 23 日	1 保健医療計画の連携拠点に求められる施策の具体的展開について 【報告】 1 教員懇談会報告

		2 開学 10 周年記念事業実行委員会報告 3 学長裁量研究「千葉県の地域包括ケアを支える看護職者の研修ニーズに関する二次分析」の紹介
2	9 月 10 日	1 教授、准教授の人事・編成方針について 2 大学組織図の改正について 3 大学組織図改定に伴う教授会、運営会議、各委員会規程の整備・修正について 4 「千葉県立保健医療大学臨床教授等の称号付与に関する規程」案について 5 平成 31 年度公開講座について 6 社会貢献委員会重点施策課題「卒業生の初任者・卒後研修を雇用者と協働で企画、実施」の実働について
3	9 月 25 日	1 栄養学科長谷川教授の後任について 2 大学組織図の改正について 3 大学組織図改定に伴う教授会、運営会議、各委員会規程の整備・修正について
4	11 月 26 日	1 中長期ビジョン策定に向けた現状評価と課題について
5	平成 31 年 1 月 28 日	1 組織図及び学内委員会規程について（管理・運営 WG による改革案） 2 中長期ビジョンについて（2019～）
6	平成 31 年 2 月 15 日	1 組織図及び学内委員会規程について（管理・運営 WG による改革案） 2 学長補佐について 3 学則の一部改正について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	<ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度重点施策において教育、学生支援に関する施策が達成された（上記評議会の項目参照） 設置者より示されたロードマップ（キャンパス内バリアフリー化、大学院設置、看護学科定員増）については進展が見られなかった 	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度の達成状況を踏まえた平成 31 年度重点施策の策定（上記） ロードマップの着実な実行（上記） 	

(4) 入試委員会

A	委員長名 委員長代理	田邊 政裕・学長 雄賀多 聡・学部長
B	委員名	石井 邦子・看護学科長 渡邊 智子・栄養学科長 大川 由一・歯科衛生学科長 三和 真人・リハビリテーション学科理学療法学専攻長 岡村 太郎・リハビリテーション学科長 兼 作業療法学専攻長 豊島 裕子・共通教育運営会議会長 佐藤 紀子・教授（看護学科・入試実施部会長） 井上 裕光・教授（栄養学科・入試評価部会長） 布施 高広・事務局長 鈴木 由紀子・学生支援課長
C	部会名と 部会員名	【入試実施部会】別に掲載 【入試評価部会】別に掲載

D	所掌事務	1 学生の募集に関すること 2 入学者選抜試験に関する事項 3 専門部会等に関する事項 4 その他入学者選抜試験に関する重要事項
E	年度当初の重点課題	
	1. 公正かつ適切な入試の実施 2. AP（アドミッション・ポリシー）にのっとり学生の獲得のための受験生確保 3. 入試制度の見直し 4. 質の高い試験問題の作成と開示方法の検討 5. 入学生の学力把握の方法の検討	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月16日	議題 1 アドミッション・ポリシーについて 2 平成32年度入学者選抜に関する変更予告について
2	6月11日	議題 1 個別入学者選抜試験実施に関する指針について 報告 1 平成30年度入学者選抜に関する研究会について
3	8月31日	議題 1 平成33年度千葉県立保健医療大学入学者選抜の予告公表について 2 平成33年度千葉県立保健医療大学入学者選抜の今後の課題等について 報告 1 平成31年度大学入試センター試験の共同実施について 2 平成31年度編入学試験における合否判定方法について 3 平成31年度大学入試センター試験入試担当者連絡協議会について 4 平成30年度入試委員会開催予定について
4	10月10日	報告 1 平成31年度編入学試験における合否判定方法について 2 平成32年度入試日程について
5	11月26日	議題 1 平成31年度特別選抜・3年次編入学試験の合否判定について 2 平成31年度センター試験要配慮者及びセンター試験実施要領について
6	平成31年 1月22日	議題 1 入試委員会規程案及び大学組織図案について
7	平成31年 2月12日	議題 1 平成30年度（平成31年度入学者選抜）一般選抜試験に係る第一段階選抜について 2 平成30年度（平成31年度入学者選抜）の追加合格者の決定方針について 3 平成31年度（平成32年度入学者選抜）入試スケジュールについて 4 平成32年度（平成33年度入学者選抜）に係る予告公表（第3報）について
8	平成31年 3月4日	議題 1 平成30年度（平成31年度入学者選抜）一般選抜試験合否判定について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	11月17日	特別選抜（推薦・社会人）試験
2	11月18日	看護学科3年次編入学試験
3	平成31年	大学入試センター試験

	1月19日・20日	
4	平成31年 2月25日	一般選抜試験（前期日程）
H	評価（成果および改善事項）	
<p>1. 公正かつ適切な入試の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 入試実施に大きな問題はなかったが、センター入試において教員のマニュアルの確認不足が原因と思われるトラブルがいくつか生じていた。 <p>2. APにのっとった学生の獲得のための受験生確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学案内の充実（サークル紹介ページを増設）、オープンキャンパスの企画を見直した。全体説明会の内容も改善し、来場者の満足度は高かった（アンケート回収率もアップ）。 平成29年度実施の一般入試志願者数はすべての学科専攻において定員の3倍を超え（3.8倍）、二段階選抜を実施した。また、推薦入試についても、志願者数が前年より27.6%増え、志願者数減の対策に一定の効果はあったといえる。 <p>3. 入試制度の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去2学年分の分析、各学科専攻の意向調査の結果を踏まえ、平成32年度以降の選抜方法として、推薦枠を5割まで拡大する方針を出した。 <p>4. 質の高い試験問題の作成と開示方法の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題作成ガイドを作成し、問題作成者への説明を徹底し、小論文として読解力、表現力や論理的思考力を測定できる問を重視した試験問題を作成することができた。 平成30年度入試問題は、3月末に学内閲覧とHP上で公表を開始した。 <p>5. 入学予定者の入学前指導について何らかの方策が必要であるが、今のところ、受験生向けに呼びかけることが現実的かもしれない。なお、入学前指導を組織的に行ってない以上、引き続き入学者の学力把握を行う必要がある。</p>		
I	次年度の方策	
<p>平成29年度の重点課題は次年度も継続する。平成32年度（平成33年度入学者）からの本学における入試選抜方法については、高大接続の観点から、平成32年度入学試験改革に向けて、千葉県内高等学校（主に推薦枠高校）との意見交換の機会も作りながら、情報収集に努め、できるだけ早い段階で公表できるように準備を進める。</p>		

(5)入試実施部会

A	部会長名 副部会長名	佐藤 紀子・教授（看護学科） 酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科）
B	部会員	佐藤 紀子・教授、三枝 香代子・准教授（看護学科） 渡邊 智子・教授、荒井 裕介・准教授（栄養学科） 酒巻 裕之・教授、麻賀 多美代・教授（歯科衛生学科） 三和 真人・教授、高杉 潤・講師（リハビリテーション学科理学療法専攻） 藤田 佳男・准教授、吉野 智佳子・講師（リハビリテーション学科作業療法専攻） 高橋 伸佳・教授、長谷川 卓志・教授（共通教育運営会議） 井上 裕光・教授（入試評価部会長） 鈴木 由紀子・学生支援課長（事務局）
C	所掌事務	<p>1 学生募集に関する事項</p> <p>(1) 学生募集要項の作成に関すること</p> <p>(2) オープンキャンパスの開催に関すること</p> <p>(3) 広報に関すること</p> <p>2 入学者選抜試験の計画及び実施に関する事項</p> <p>(1) 入学者選抜試験実施要領に関すること</p> <p>(2) 試験監督等役割分担に関すること</p> <p>(3) 入学者選抜試験問題の作成及び管理に関すること</p>

		(4) 採点の立会い及び採点結果の集計に関すること (5) 合格者の発表に関すること 3 その他入学者選抜試験の実施に関すること
D	年度当初の重点課題	
	1 公正かつ適切な入試の実施 2 AP に則った学生の獲得のための志願者確保 3 入試選抜方法の見直し（入試委員会・評価部会との連携） 4 質の高い試験問題の作成と試験問題開示の評価	
E	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月9日	議題 1 入試実施部会年間スケジュールについて 2 平成30年度の入試実施部会の目標 3 入試実施部会の予算について 4 オープンキャンパスについて 報告 1 学校説明会について 2 平成31年度入学者選抜要項について 3 平成30年度入試結果について 4 平成30年度入学選抜試験のアンケート結果について
2	5月8日	議題 1 班別説明会の日程について 2 オープンキャンパスについて 3 学生募集要項（推薦入学・社会人・編入学）について 4 試験実施要領（特別選抜・編入学）について 5 FD&SDの運営について
3	6月11日	議題 1 オープンキャンパスについて 2 学生募集要項（推薦入学・社会人・編入学）について 3 試験実施要領（特別選抜・編入学）について 報告 1 平成30年度入学者選抜に関する研究会について 2 平成31年度大学入学者選抜実施要項（文科省）について
4	7月9日	議題 1 オープンキャンパスについて 2 平成31年度特別選抜実施要領及び編入学実施要領について 3 平成31年度学生募集要項（一般選抜）について 報告 1 大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会及び大学入試センター試験千葉地区連絡会議について
5	9月10日	議題 1 オープンキャンパスの評価について 2 試験実施要領（特別選抜・編入学）及び任務分担について 3 各種監督マニュアルについて 4 大学入学共通テスト試行調査（プレテスト）独自実施要領について 5 平成31年度大学入学者選抜大学入試センター試験の実施について 6 第7回（11月開催）入試実施部会の日程について

		報告 1 第1回大学入試センター試験入試担当者連絡協議会について 2 平成33年度大学入学者選抜の予告公表について
6	10月9日	議題 1 平成31年度大学入試センター試験独自実施要領について
7	11月5日	議題 1 平成31年度大学入学者選抜大学入試センター試験について 2 平成31年度大学入試センター試験独自実施要領について 3 平成31年度一般選抜実施要領について 報告 1 平成31年度一般選抜に係る人選の依頼について 2 平成31年度編入学試験の面接方法に関する確認事項について
8	12月10日	議題 1 平成31年度大学入試センター試験について 2 平成31年度一般選抜実施要領について 3 大学案内について
9	平成31年 1月15日	議題 1 平成31年度オープンキャンパスについて 2 大学案内について 3 新高校2年生対象 進学説明会について
10	平成31年 2月12日	議題 1 大学案内について 2 一般選抜実施体制について
11	平成31年 3月11日	議題 1 大学案内について 2 オープンキャンパスについて
F	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	6月22日	入試関連FD&SD 大学教職員のための著作権の基礎知識
2	7月14日・15日	オープンキャンパス
3	11月10日	試行調査(プレテスト)
4	11月17日	特別選抜(推薦・社会人)試験
5	11月18日	看護学科3年次編入学試験
6	12月13日	センター試験全体説明会
7	12月25日	センター試験業務班別説明会
8	平成31年 1月19日・ 20日	大学入試センター試験
9	平成31年 2月25日	一般選抜試験(前期日程)
10	平成31年 4月11日～ 3月30日	学校説明会・模擬授業の開催
G	評価(成果および改善事項)	
	1 公正かつ適切な入試の実施 ・昨年度のアンケート結果を踏まえ実施マニュアルに反映させ、入試実施に大きな問題はなかったが、センター入試において教員のマニュアルの確認不足が原因と思われるトラブルがいくつか生じていた。	

	<p>2 APにのっつた学生の獲得のための受験生確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き入試実施部会のなかに広報プロジェクトチームをつくり、大学案内の充実、オープンキャンパスの企画を見直した。オープンキャンパスは、平成30年度は、3連休の2日間に実施することとし両日で過去最多の2,486名の来場者数となった。全体説明会の内容は、昨年度より特色科目および入試の動向等の説明を充実させた。アンケート結果では、大変参考になったと回答した割合が72.7%であった。学科別説明会に対しても大変参考になったと回答した割合は84.9%と来場者の満足度は高かった。 ・平成30年度の高校生向け大学説明会は、依頼件数143件、実施件数79件、受講生数1,884名(H30.12末現在)(前年1,762名)、資料提供39件という実績で、参加教員数は88名と教員一人当たり1.1回であった。 ・今年度の志願者数は、推薦157名(前年比80.9%)、社会人9名(前年比69.2%)、編入学12名(前年比80.0%)、一般選抜318名(前年比76.6%)であり、いずれも前年を下回る志願者数であった。次年度は、志願者確保に向けて分析し、さらなる取り組みが必要である。 <p>3 入試選抜方法の見直し(入試委員会・評価部会との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度入学者選抜方法については、平成30年度末までに変更予告を第4報まで出した。まだ、詳細が決定していないところも多々あり、文科省、他大学の情報を収集しながら、本学の方針を決めていく必要がある。 <p>4 質の高い試験問題の作成と試験問題開示の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度部会で作成した問題作成ガイドを用いて、問題作成者への説明を徹底した。APに則った試験問題の作成に向け、作問の意図を明確にするようにした。小論文の作問の質は担保できる体制が整ってきたが、今後は、採点ミスを防止する体制整備を強化する必要がある。能力の弁別性の評価は引き続き課題である。 ・平成29年度3月末から前年度の試験問題を学内およびHPで閲覧可能となった。現段階では、トラブル等は発生していない。学内閲覧の実績は、平成30年度3月時点で本人閲覧が57件、本人以外の閲覧が6件の計63件であった。
H	次年度の方策
<p>次年度からは、委員会組織が改変し、入試実施委員会と入試改革検討委員会の両委員会で入試に関わる業務を推進していくこととなる。両委員会の所掌事項を明確にし、連動しながら上記重点課題について改善策を講じる。</p>	

(6) 入試評価部会

A	<p>部会長名 副部会長名</p>	<p>井上 裕光・教授(栄養学科) 神田 みなみ・教授(看護学科)</p>
B	部会員名	<p>佐藤 紀子・教授(看護学科): 職指定・入試実施部会長 東本 恭幸・教授(共通教育運営会議) 細山田 康恵・教授(栄養学科) 河野 舞・准教授(歯科衛生学科) 藤尾 公哉・助教(リハビリテーション学科理学療法専攻) 吉野 智佳子・講師(リハビリテーション学科作業療法専攻) 鈴木 由紀子・学生支援課長(事務局)</p>
C	所掌事務	<p>1 入学者選抜試験問題及び入学者選抜試験結果の分析に関すること 2 入学者選抜試験実施の評価に関すること 3 入学者選抜試験に関する改善の検討に関すること 4 その他入学者選抜試験の調査及び評価に関すること</p>
D	年度当初の重点課題	
<p>1. 入学生の学力把握の方法を今後とも検討する。特に、新入生にとって、入学後の適切な授業選択へと活用できるための方策を考える必要がある。</p> <p>2. 平成29年度に実施する平成30年度入試について、入試が適切に実施されたかどうかについて評価分析す</p>		

<p>る。なお、試験問題公開について入試実施部会で議論する。</p> <p>3. 入試実施後アンケートから、入試運営上の問題を検討する。</p> <p>4. 小論文出題内容について、引き続き学力の観点からの分析を行う。また、外注すべきかどうかについて、さらに、検討する。</p> <p>5. 認証評価のための自己点検・評価報告書で課題として挙げられた、「入学者選抜と入学後の修学状況等についての評価」について、さらに、英語についての入学直後の学力把握を検討する。また、公開した3つのポリシーとの関係の中で、入試をどのように位置づけていけばよいかについて検討を開始する。</p>		
E	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	平成 31 年 3 月 25 日	<p>報告</p> <p>1 一般選抜の結果</p> <p>2 辞退者の結果</p> <p>議題</p> <p>1 特別選抜・一般選抜の実施状況の評価について</p> <p>2 試験問題の検討</p> <p>3 今後の評価部会担当のありかたについて</p>
F	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
G	評価（成果および改善事項）	
<p>1. 入学者アンケートにより、今年度も特別選抜枠の入学生の多数がセンター試験を受けている。入学予定者の入学前指導について何らかの方策が必要であるが、今のところ、受験生向けに呼びかけることが現実的かもしれない。なお、入学前指導を組織的に行っていない以上、低学力対策が必要であるが具体的な方策は定められていない</p> <p>2. 平成 30 年度に実施した平成 31 年度入試について、入試が適切に実施されたと思われる。ただし、(医学部不正入試問題の余波で) 今後の入試問題の公開範囲（模範解答、出題意図）の検討が必要である。</p> <p>3. 入試実施後アンケートからは、入試運営上特段の問題はないと、入試委員会へ報告した。</p> <p>4. 小論文出題内容については、今後とも検討が必要である。</p> <p>5. 今後の高大接続改革の動きの中で入学者への入学後の措置が課題となっている。</p> <p>6. 入学試験問題の公開については、印刷の予備を利用した、事務局前での閲覧、県立高校への配布等が行われた。</p>		
H	次年度の方策	
<p>(組織再編があり、入試評価部会は実質的に 入試改革検討委員会へ引き継がれる)</p> <p>1. 入学生の学力把握の方法を今後とも検討する。特に、高等学校新課程学習指導要領が発表されたことを受けた検討が必要である。とくに、新カリキュラム導入の新入生にとっての卒業までの評価を活用した、今後の方策を考える必要がある。</p> <p>2. 平成 31 年度に実施する平成 32 年度入試について、入試が適切に実施されたかどうかについて評価分析する。</p> <p>3. 入試実施後アンケートから、入試運営上の問題を検討する。</p> <p>4. 小論文出題内容について、引き続き学力の観点からの分析を行う。また、外注すべきかどうかについて、さらに、検討する。</p> <p>5. 認証評価のための自己点検・評価報告書で課題として挙げられた、「入学者選抜と入学後の修学状況等についての評価」について、さらに、英語についての入学直後の学力把握を検討する。また、公開した3つのポリシーとの関係の中で、入試をどのように位置づけていけばよいかについてさらに検討する。</p> <p>6. 高等教育無償化の議論の中で、本学の GPA を f GPA として再編することが教務委員会で決められた(過去のデータも一括に変換されてしまうため、新システム上では f GPA のみになってしまう)。指標の変更を踏まえた検討を引き続き行う必要がある。</p>		

(7) 教員再任審査委員会

A	委員長名 委員長代理	田邊 政裕・学長 雄賀多 聡・学部長
B	委員名	佐藤 紀子・教授（看護学科） 大川 由一・教授（歯科衛生学科） 布施 高広・事務局長
C	部会名と 部会員名	【専門部会】 委員長の指名による（各学科・専攻より1名）
D	所掌事務	1 業績評価の基準及び評価方法等に関する事項 2 任期中における業績評価に関する事項 3 休職等があった場合における延長する任期に関する事項 4 その他教員の任期制に関すること
E	年度当初の重点課題	
・所掌事項の達成		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月26日	1 審査対象者の確認について 2 審査の手順・様式について 3 平成30年度からの変更事項について 4 平成30年度の検討事項について
	5月10日	（専門部会）再任審査申請者の審査
2	6月1日	1 専門部会による業績審査の検討及び再任審査結果の決定 2 報告書作成等部会からの報告事項に対する検討
3	10月11日	1 審査対象者の確認について 2 審査の手順・様式について 3 再任審査委員会規程案について 4 教員の任期の延長について
4	11月12日	1 業績審査の検討及び再任審査結果の決定 2 業績審査の方法に関する検討について 3 教員の任期の延長について（修正案）
5	平成31年 3月4日	1 来年度以降の再任審査方法について 2 委員会新規程案について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
・前期18名（看護9名，栄養2名，歯科衛生2名，理学療法2名，作業療法3名），後期3名（看護2名，栄養1名）再任審査を行い，全員再任可と判定された。		
I	次年度の方策	
・適切な再任審査の実施		

(8) 衛生委員会

A	委員長名	統括安全衛生管理者：田邊 政裕・学長 衛生管理者：荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 産業医：豊島 裕子・教授（栄養学科・共通教育運営会議）
B	委員名	岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 松原 千栄里・企画運営課長（事務局）

C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 労働者の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること 2 労働者の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること 3 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に係るものに関すること 4 上記に掲げるもののほか、労働者の健康障害の防止及び健康の保持増進に関すること
E	年度当初の重点課題	
・所掌事項の達成		
F	会議記録（含む部会の開催）	
開催日		主な議題
1	8月31日	【報告】 1 平成29年度衛生委員会の運営状況等について 【議題】 1 平成30年度衛生委員会の運営計画等について 2 職場巡視・環境測定の結果について
G	行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
・所掌事項は概ね達成された		
I	次年度の方策	
・教職員の健康実態の把握 ・ワークライフバランスにも配慮した衛生環境・管理運営体制の構築		

(9)防災対策委員会

A	委員長名	田邊 政裕・学長
B	委員名	雄賀多 聡・学部長 西野 郁子・学生部長（看護学科） 豊島 裕子・図書館長（栄養学科） 石井 邦子・看護学科長 渡邊 智子・栄養学科長 大川 由一・歯科衛生学科長 岡村 太郎・リハビリテーション学科長 兼 作業療法学専攻 荒井 裕介・栄養学科(学長指名) 布施 高広・事務局長 松原 千栄里・企画運営課長(防火管理者) 鈴木 由紀子・学生支援課長
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 防災計画の作成に関する事項 2 防災設備の設置及び充実に関する事項 3 防災教育及び防災訓練に関する事項 4 その他防災に関する事項
E	年度当初の重点課題	
・所掌事項の達成		
F	会議記録（含む部会の開催）	
開催日		主な議題
1	6月5日	1 災害時における保健医療大学の対応等について

		2 平成 30 年度消防関係の編成について 3 防災訓練について
2	11 月 5 日	1 仁戸名キャンパスにおける防災訓練について 2 幕張キャンパスにおける防災訓練の結果について 3 平成 31 年度防災訓練日について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	6 月 28 日	1 防災訓練の実施 (幕張キャンパス)
2	11 月 14 日	2 防災訓練の実施 (仁戸名キャンパス)
H	評価 (成果および改善事項)	
	・災害時の対応周知や防災訓練の実施などにより目標は概ね達成された	
I	次年度の方策	
	・防災対策などを含む総合的なリスクマネジメントの策定	

2) 学内委員会

(1) 総務・企画委員会

A	委員長名	佐藤 まゆみ・教授(看護学科)
B	委員名	東本 恭幸・教授 (栄養学科) 大川 由一・教授 (歯科衛生学科) 竹内 弥彦・准教授 (リハビリテーション学科 理学療法学専攻) 岡村 太郎・教授 (リハビリテーション学科 作業療法学専攻) 島田 美恵子・教授 (共通教育運営会議)
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 学内規程に関すること 2 予算に関すること 3 教育及び研究施設の整備及び管理に関すること 4 広報に関すること 5 国際交流に関すること 6 ファカルティ・ディベロップメントに関すること 7 勤務評定 (教育公務員特例法第 20 条) に関すること 8 教授会が付託した事項に関すること 9 他の委員会の所掌に属しないこと
E	年度当初の重点課題	
	<p>所掌事務および重点施策 2 項目に関する活動を行う。特に以下の 2 点について積極的に活動していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「当初予算要求に係るスケジュール (教育用備品, 全学整備にあたる備品, 修繕費)」を運用した結果, ①大学から医療整備課に提出される予算要求のうち, 備品費 (教育用・全学整備用) と修繕費については組織的な審議・決定の機会があるが, 他の費目に関しては機会がない, ②医療整備課に提出した予算要求のうち, 平成 29 年度は教育用備品費についてのみしか金額を明らかにしてもらえなかった, ③県の予算編成後, 大学全体の予算を経理担当者が配分しているが, 配分方針が不明確であるうえ, それを組織的に審議・決定する機会がない, といった問題点が明らかになった。次年度はこれらを改善し, 予算要求及び予算編成後の配分に関する大学全体としての組織的な審議・決定プロセスを構築する必要がある。 ・「千葉県立保健医療大学整備計画」の内容を医療整備課と共有するとともに, 計画に沿って施設整備を行う。 	
F	会議記録 (含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	4 月 16 日	1 平成 30 年度委員会スケジュールについて 2 平成 30 年度全学整備について

		3 平成30年度委員会経費について 4 平成31年度予算要求について
2	6月4日	1 平成30年度予算の執行について 2 平成31年度予算について 3 研究費の配分について 4 当委員会が担当する重点施策・努力課題・改善勧告について
3	7月9日	1 大学組織図改定に伴う教授会、運営会議、各委員会規程の整備・修正作業について 2 来年度以降の予算要求手順について 3 平成31年度「学内研究費」について 4 平成30年度個人研究費欠員分の取扱いについて 5 平成29年度個人研究費の執行残について 6 「千葉県立保健医療大学臨床教授等の称号付与に関する規程案」について 7 IR専門部会員の選出
4	9月10日	1 千葉県立保健医療大学後援会よりの寄付申出への対応について 2 平成30年度備品購入費予算の残額の取り扱いについて
5	平成31年 2月18日	1 平成31年度教育予算及び研究予算の配分について 2 千葉県立保健医療大学施設管理規程（別表）について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	<p>・備品費（教育用・全学整備用）と修繕費については組織的な審議・決定の機会があったが、学内研究費（個人・共同研究・学長裁量）については、これまで総額を決定する機関がなく、事務局で前年度と同様の金額を要求していた。これを改め総務企画委員会で概算額・科目内訳決定等を行うこととした。予算の全学的な意思決定プロセスを明確化するために、学長決定前に大学運営会議で予算案の承認を得ることとした。従来、医療整備課との折衝は事務局が独自に行っていたが、平成30年度からは決定権者である学長に折衝内容を随時報告、確認することにした。11月から12月に予算が内定することになるので、その結果を受けて、必要があれば事務局で予算配分案を作成して大学運営会議に提案し、また、財政課で具体的な予算配分が行われるのであれば、それを運営会議に報告し、承認を得ることとなった。予算の最終決定は学長が行い、決定後、教授会、評議会に予算報告を行うこととした。平成31年度からは上記の進め方で予算要求を行い、不都合があれば適宜見直すことが承認された。</p> <p>・平成31年度からの大学組織改定に伴う大学運営会議、教授会、各委員会規程の整備・修正作業を実施した。</p>	
I	次年度の方策	
	<p>大学から医療整備課に提出される予算要求のうち、教育用備品費（学科・専攻、共通教育・全学整備用）と修繕費に加え、次年度（令和2年度予算要求）からは図書館および歯科診療室の備品費についても、総務・企画委員会で組織的な審議・決定の機会を設ける。施設の改修（エレベーターやバリアフリー化等）については、これまで事務局を通じて県に要望していたが、大学として組織的な検討を行うためにも、令和3年度予算要求からは、総務・企画委員会で順位付けを行い、県に要求できるようにする。引き続き「千葉県立保健医療大学整備計画」の内容を医療整備課と共有しつつ、計画に沿って施設整備を遂行する。</p>	

(2) 教務委員会

A	委員長名 副委員長名	河部 房子・教授（看護学科） 神田 みなみ・教授（共通教育運営会議）
B	委員名	北川 良子・准教授（看護学科） 今井 宏美・講師（看護学科） 田口 智恵美・講師（看護学科）

		豊島 裕子・教授（栄養学科） 金澤 匠・講師（栄養学科） 酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科） 麻生 智子・講師（歯科衛生学科） 三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 竹内 弥彦・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 高橋 伸佳・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 越川 求・准教授（共通教育運営会議） 鈴木 由紀子・学生支援課長（事務局）
C	部会名と部会員名	【新々カリキュラム作成作業部会】 部会長：河部 房子・教授（看護学科） 部会員：金澤 匠・講師（栄養学科） 酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科） 三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 神田みなみ・教授（共通教育運営会議） 【授業負担調査作業部会】 部会長：河部 房子・教授（看護学科） 部会員：今井 宏美・講師（看護学科） 金澤 匠・講師（栄養学科） 麻生 智子・講師（歯科衛生学科） 竹内 弥彦・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）
D	所掌事務	1 教育課程及び授業日程に関すること 2 学生の入学，再入学，休学，復学，転学，留学，退学及び除籍並びに卒業等に関すること 3 試験及び単位の認定に関すること 4 学生の実習に関すること 5 科目等履修生，特別聴講学生，聴講生，研修生，研究生及び外国人留学生に関すること 6 教授会が付託した事項に関すること 7 その他教務に関すること
E	年度当初の重点課題	
	1 4年間一貫カリキュラム（新々カリ）を完成させる。 ① 学部カリキュラム・ポリシーの完成 ② 作成したディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに基づいた教育課程の編成，整備 ③ 作成したカリキュラム表に基づいた各学科・専攻のカリキュラム・マップの完成 ④ カリキュラム・マップに基づいた科目ナンバリングの検討 ⑤ カリキュラム改正の変更申請 ⑥ 短期集中授業の導入の可能性について検討 2 教育ワークショップを企画し，教員の教育力の向上，教育内容の充実につなげる。 3 進路支援委員会と連携し，国家試験の合格率を向上させる。 4 GPA 制度導入に関して，学生・教職員へ周知し，教員対象のFDを実施する。	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
臨	4月6日	1 既修得単位の認定について

1		2 非常勤講師の新規任用について 3 時間割変更要望について
1	4月16日	1 時間割変更要望について 2 学生の休学について 3 授業評価アンケートについて 4 カリキュラム・ポリシーについて 5 GPA 規程案について 6 新々カリキュラム作成の方針について
2	5月21日	1 学生の休学について 2 授業評価アンケートについて 3 カリキュラム・ポリシーについて 4 授業負担調査の実施について 5 栄養学科の食品衛生（監視員/管理者）養成施設に係る新規登録申請について
3	6月18日	1 平成30年度 後期入学科目等履修生等の募集について 2 平成30年度 前期末試験日程（案）について 3 学生の休学について 4 非常勤講師の新規任用について 5 時間割変更要望について 6 実習施設の新規追加について 7 授業評価アンケートについて 8 新々カリキュラム（案）について 9 厚生局指摘事項への対応案について
4	7月23日	1 平成30年度 後期履修登録について 2 学生の休学・復学について 3 履修規程の改正（進級要件）について 4 学生の不正行為に対する取り扱いについて
臨 2	8月20日	1 平成30年度前期追再試験・補講の日程（案）について 2 平成30年度後期入学 科目履修生等の応募状況について 3 学生の休学・復学について 4 非常勤講師の任用について 5 平成30年度後期時間割変更要望について
5	9月18日	1 平成31年度時間割の変更要望について 2 学生の復学・退学について 3 非常勤講師の新規任用について 4 追試験に関する取り決めについて 5 卒業時調査について
6	10月15日	1 eラーニング導入検討に関する説明について 2 平成31年度時間割変更要望について 3 学生の休学について 4 実習施設の新規追加について 5 平成31・32年度 学年暦（案）について 6 平成31年度版学生ハンドブックの修正について
7	11月19日	1 平成31年度前期科目等履修生等の募集について 2 平成31年度学年暦（案）について 3 平成31年度時間割（案）について 4 平成31年度シラバスの作成について 5 実習施設の新規追加について

		<ul style="list-style-type: none"> 6 非常勤講師の新規任用について 7 学生の休学について 8 履修登録の修正等について 9 学則及び履修規程別表の一部改正について 10 看護学科編入生の既修得単位として認定する科目に関する要項の一部改正について 11 平成31年度版学生ハンドブックの修正について 12 教育ワークショップについて
8	12月17日	<ul style="list-style-type: none"> 1 平成30年度後期末試験日程(案)について 2 平成31年度新入生・在学生ガイダンスのスケジュール(案)について 3 非常勤講師の新規任用について 4 平成30年度時間割変更要望について 5 平成31年度放送大学との単位互換科目の検討について 6 学生の復学について 7 学生の履修登録漏れの修正について 8 科目ナンバリングについて 9 授業評価アンケートについて 10 「気象災害等により交通機関が運行されない場合の授業等の取り扱いについて」の修正について 11 平成31年度教務委員会の規程案について 12 平成30年度教育ワークショップの企画案について
9	平成31年 1月21日	<ul style="list-style-type: none"> 1 平成31年度 時間割変更要望について 2 平成31年度ガイダンスのスケジュールの一部変更について 3 非常勤講師の新規任用について 4 履修規程別表(旧カリ)の一部改正について 5 「気象災害等により交通機関が運行されない場合の授業等の取り扱いについて」の改正について 6 授業評価アンケートについて 7 実務経験のある教員による授業のシラバス掲載について 8 平成30年度教育ワークショップについて
10	平成31年 2月26日	<ul style="list-style-type: none"> 1 授業評価アンケートについて 2 平成30年度卒業判定について 3 平成30年度後期追再試験・補講の日程について 4 平成31年度 時間割について 5 履修規程別表(新々カリ)の一部改正について 6 実習施設の新規追加について 7 非常勤講師の新規任用について 8 学生の休学・復学・退学について 9 学生の履修登録漏れについて 10 単位登録に関する修正について 11 平成30年度教育ワークショップについて 12 平成30年度 重点施策・改善計画実施状況報告書について
11	平成31年 3月18日	<ul style="list-style-type: none"> 1 平成31年度教務委員会の年間スケジュールについて 2 平成31年度前期履修登録について 3 履修登録取り消し制度の手続き方法について 4 平成31年度時間割変更要望について 5 学生の休学・復学・退学について

		6 非常勤講師の任用について 7 実習施設の新規追加について 8 教育ワークショップのアンケート結果について
開催日		新々カリキュラム作成作業部会の主な議題
1	4月16日	1 各学科・専攻の検討状況について 2 今後の作業予定について
2	5月30日	1 各学科・専攻の検討状況について 2 新規科目の開講時期・単位数・担当教員について 3 進級要件について
3	6月20日	1 各学科・専攻の新々カリキュラムについて 2 進級要件について
4	9月3日	1 科目ナンバリングについて 2 カリキュラム・マップの完成について
5	11月26日	1 新々カリキュラム時間割について 2 科目ナンバリングについて 3 カリキュラム・マップについて
6	12月17日	1 科目ナンバリングについて 2 カリキュラム・マップについて
G	行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容
1	平成31年 3月8日	平成30年度 千葉県立保健医療大学教育ワークショップ (テーマ：GPA制度の活用と大学における成績評価 対象：全教員)
H	評価（成果および改善事項）	
<p>1. 4年一貫教育カリキュラムの構築については、学部・学科のディプロマ・ポリシーをふまえ、学部・学科のカリキュラム・ポリシーを検討し、完成させた。これまで継続的に検討してきたコンピテンシーやパフォーマンス・レベルをふまえ、学年進行で卒業時に求められる実践能力を獲得できるような順序性のあるカリキュラムを検討し、新々カリキュラムを完成させた。完成させた新々カリキュラムの文部科学省への変更申請を行い、平成31年度より導入されることとなった。これと並行して各学科・専攻のカリキュラム・マップと科目ナンバリングも作成し、それぞれ完成した。また、Semester制の弾力化や短期集中授業の導入の可能性については、非常勤講師予算の問題や現行の時間割の複雑さ等から、現実的に困難であるという結論に至った。</p> <p>2. 国家試験対策は、各学科の進路支援委員会が中心となって模擬試験、対策講座などを実施しており、これにより高い合格率を維持できているため、現段階で進路支援委員会との連携は実施していない。</p> <p>3. 平成29年度に完成したGPA制度に関する規程案が教授会にて承認された。GPA制度を有効活用するには、教員の成績評価の適切性が問われる。そこで平成30年度教育ワークショップのテーマを「GPA制度の活用と大学における成績評価」とし、開催した。具体的には、GPA制度そのものや成績評価に対する理解を深めるための講演会と、本学のGPA制度に関する説明、GPA活用に関する意見交換を行った。</p> <p>4. この他今年度より、授業評価アンケートの実施が所掌事項となったことを受け、アンケート内容と運用方法について検討した。</p>		
I	次年度の方策	
<p>1 4年一貫教育カリキュラム（新々カリキュラム）の導入を円滑に進める。</p> <p>2 教員の教育力の向上、教育内容の充実につながるよう、教育ワークショップを企画・実施する。</p> <p>3 GPA制度の円滑な導入を進める。特に、履修取り消し制度等、新たな仕組みについての混乱が生じないように、学生・教職員への周知徹底をはかる。</p>		

(3) 学生委員会

A	委員長名	西野 郁子・教授（看護学科）学生部長
---	------	--------------------

B	委員名	細谷 紀子・准教授（看護学科） 高山 京子・講師（看護学科） 井上 裕光・教授（栄養学科） 阿曾 菜美・助教（栄養学科）（10月まで） 河野 公子・准教授（栄養学科）（11月から） 麻賀 多美代・教授（歯科衛生学科） 河野 舞・准教授（歯科衛生学科）（9月から） 大谷 拓哉・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 安部 能成・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 小川 真・教授（共通教育運営会議）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 学生の福利厚生及び保健衛生に関すること 2 学生の課外活動に関すること 3 学生の奨学金等貸与に関すること 4 授業料等の減免に関すること 5 教授会が付託した事項に関すること 6 後援会、同窓会に関すること 7 その他学生に関すること
E	年度当初の重点課題	
所掌事務に関する活動を計画的に行う。「学生支援に関する方針」に基づき、学生支援のあり方を検討し充実を図っていく。学修環境の整備や学生支援について、優先順位を考慮して改善に取り組む。		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月9日	議題 1 平成30年度の委員会スケジュールについて 2 平成30年度学生支援計画について 3 日本学生支援機構奨学生選考事務について 4 平成30年度委員会活動費（研究費予備分）について 5 その他 報告 1 平成30年度健康診断等実施項目年間計画について 2 学生へのパンフレットの配布について 3 その他
2	4月23日	議題 1 学生団体の活動報告・設立について 2 学生相談件数の実態調査について【2017, 2018】 3 学長・学部長と学生との懇談会について 4 その他 報告 1 平成30年度健康診断受診状況・ワクチン接種状況について 2 平成30年度健康診断の運営について 3 平成30年度学生保険の加入状況について 4 日本学生支援機構奨学生選考事務について 5 その他
3	5月14日	議題 1 前期授業料減免審査について 2 平成30年度学生支援計画について 3 学生相談件数の実態調査について 4 平成31年度全学整備備品要求について 5 その他 報告 1 日本学生支援機構奨学生の推薦について

		<ul style="list-style-type: none"> 2 学長・学部長と学生との懇談会について 3 平成30年度委員会活動費（研究費予備分）について 4 健康診断結果の集団指導計画について 5 その他
4	6月11日	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 次年度予算の策定について 2 県庁生協幕張店舗の半額セールについて 3 その他 <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 いずみ祭の企画の進行状況について 2 学長・学部長と学生との懇談会について 3 後援会総会報告 4 健康診断結果について 5 その他
5	7月9日	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 学生団体の設立について 2 第3回B型肝炎ワクチン接種の日程について 3 大学祭について 4 その他 <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 健康診断結果の集団指導について 2 後援会による仁戸名キャンパスの災害用備蓄品の設置場所について 3 県庁生協幕張店舗の半額セールについて 4 その他
6	9月10日	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 31年度WILLの払い込み等について 2 平成31年度健康診断及び大学祭の日程について 3 学生向けセミナーについて 4 仁戸名キャンパスでの学生応援フェアについて 5 その他 <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 平成30年度いずみ祭の準備状況について 2 ワクチン接種状況について 3 第3回B型肝炎ワクチン接種の日程について及びインフルエンザワクチン接種について 4 その他
7	10月15日	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 後期授業料減免審査について 2 日本学生支援機構奨学生選考事務について 3 学生向けセミナーについて 4 定期健康診断前に健康診断を受診する学生について 5 2018年度卒業時調査について 6 学生ハンドブックの修正について 7 自己管理ファイルの修正について 8 その他 <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 平成30年度いずみ祭の報告 2 ワクチン接種指導状況について 3 仁戸名キャンパスでの学生応援フェアについて 4 駐輪場調査について 5 その他
8	11月12日	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 学生団体の設立について 2 学生ハンドブックの修正について 3 自己健康管理ファイルの修正について 4 B型肝炎ワクチン接種について

		5 平成31年度健康診断・ワクチン接種計画について 6 学生向けセミナーについて 7 その他 報告 1 日本学生支援機構奨学生の推薦について 2 平成30年度いずみ祭の反省会の報告 3 駐輪場調査について 4 その他
9	12月10日	議題 1 平成31年度健康診断・ワクチン接種計画について 2 県庁生協売店及び無人販売について 3 第2回学生応援フェアの日程について 4 卒業式について 5 その他 報告 1 B型肝炎ワクチン接種について 2 学長・学部長と学生との懇談会の報告 3 その他
10	平成31年 2月18日	議題 1 卒業式について 2 平成31年度健康診断について 3 平成31年度緊急消防援助隊の合同訓練への学生ボランティア協力について 4 仁戸名の洋式トイレ等設備について 5 学生向けセミナーについて 6 駐輪場にかかる周知について 7 その他 報告 1 第3回学生応援フェアについて 2 同窓会の入会に関する協力依頼 3 学生相談件数の実態調査について 4 その他
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	4月6日	健康診断
2	7月6日	学長等との懇談会（1年生）
3	7月10日	学長等との懇談会（看護学科・栄養学科・歯科衛生学科・看護学科編入3年生）
4	9月4日	学長等との懇談会（リハビリテーション学科2,3年生）
H	評価（成果および改善事項）	
<p>【所掌事務1：学生の福利厚生】</p> <p>①平成30年度学生支援計画を立案し、以下のような活動を行った。学生ホールの椅子とテーブルの増設について平成31年度予算要求をした。県庁生協による仁戸名キャンパスの無人販売の経過を把握し、適切な販売がされるよう学生へ協力を促した。学生向けセミナーについて、次年度開催の方針を決定した。駐輪の現状を把握し対策の必要性を検討した。②学生から教員への相談について実態調査を行い分析した。③学生保険の加入状況を随時把握し学生指導を行った。平成31年度学生保険について検討した。④「平成31年度学生ハンドブック」の内容を検討し、加除修正した。</p> <p>【所掌事務1：学生の保健衛生】①平成30年度健康診断を実施した。健康診断結果を4月中に実習施設に提出する必要のあるリハビリテーション学科4年生数名については、昨年度整備した方法により学校医のクリニックで健康診断を実施できるようにした。診断結果に基づき学生指導を行った。②平成30年度ワクチン接種計画（B型肝炎ワクチン・インフルエンザワクチン）を立案し実施した。また、ワクチン接種状況を継続的に把握し学生指導を行った。③ワクチン接種に係る配布資料等を検討した。④平成31年度健康診断の実施計画について検討した。⑤「平成31年度自己健康管理ファイル」の内容を検討し、最新情報を加筆するなど修正した。⑥平成31</p>		

年度健康診断前後の指導に係る資料を検討し、最新情報に改善した。⑦平成 31 年度健康診断中、唯一学生負担であった Q F T 検査について他の県立専門学校と共同して県負担を要請し、予算化された。

【所掌事務 2：学生の課外活動】①学生団体（学生サークル）設立申請を審議した。②大学祭の実施を支援した。③新入生歓迎会・スポーツ大会等の学生会の活動を支援した。④学生会の運営について助言・支援した。

【所掌事務 3：奨学金等貸与】日本学生支援機構奨学生を選考し推薦を行った。

【所掌事務 4：授業料等の減免】授業料減免（前期・後期）について審議した。

【所掌事務 6：後援会，同窓会】①学生支援のために後援会理事会と連携した。特に，開学 10 周年記念としての後援会からの寄付の申し出に対し，幕張キャンパスおよび仁戸名キャンパス講義室の机 21 台，椅子 258 脚の寄贈を受けることになり，その調整をした。②後援会からの要望をうけて県庁生協幕張売店および仁戸名キャンパスでの販売において学生応援フェアの開催を支援した。③同窓会へ大学祭への支援を依頼した。④卒業生への同窓会入会に関して支援を行った。

【所掌事務 7：その他】①平成 30 年度卒業式の運営について検討した。②平成 31 年度緊急消防援助隊の合同訓練への学生ボランティア協力について検討し，次年度協力をする事とした。

I	次年度の方策
関係機関からの情報や学生からの要望も捉えながら，所掌事務および学生支援計画に沿った活動を行う。検討事項毎に委員の中からリーダーを担ってもらい委員会体制を取り，学生支援の充実や検討事項の解決を目指していく。	

(4) 進路支援委員会

A	委員長名	西野 郁子・教授（看護学科） 学生部長
B	委員名	杉本 知子・教授（看護学科） 細山田 康恵・教授（栄養学科） 麻賀 多美代・教授（歯科衛生学科） 高杉 潤・講師（リハビリテーション学科理学療法専攻） 佐藤 大介・講師（リハビリテーション学科作業療法専攻）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 就職及び進学に関する事 2 県内就職の推進に関する事 3 教授会が付託した事項に関する事 4 その他学生の就職及び進学に関する事
E	年度当初の重点課題	
学生が希望する進路に進むことができるよう，また，県内就職の推進に向けて，所掌事務に関する活動を計画的に行う。		
F	会議記録（含む部会の開催）	
開催日		主な議題
1	4 月 23 日	議題 1 平成 30 年度委員会スケジュールについて 2 平成 30 年度進路支援計画について 3 平成 30 年度委員会活動予算について 4 2018 年キャリアセミナー年間計画 および第 1 回キャリアセミナーについて 報告 1 平成 29 年度就職進学状況について 2 平成 29 年度国家試験の結果について 3 平成 29 年度卒業時アンケート結果について その他
2	5 月 21 日	議題 1 平成 30 年度委員会スケジュールについて 2 平成 30 年度進路支援計画について 3 平成 30 年度後援会助成依頼について

		<p>4 2018年キャリアセミナー年間計画および 第1回・第2回キャリアセミナーについて</p> <p>5 その他</p> <p>報告 1 平成29年度卒業時アンケート結果について 2 平成30年度進路支援委員会活動費について 3 平成29年度進路情報室の利用状況について 4 元学卒ジョブサポーターのボランティア申し出について 5 その他</p>
3	6月21日	<p>議題 1 第1回・第2回キャリアセミナーについて 2 第3回キャリアセミナーについて 3 次年度予算の策定について 4 仁戸名キャンパスの学卒ジョブサポーター進路相談について 5 その他</p> <p>報告 1 平成30年度後援会総会報告 2 学内求人票の様式変更 3 その他</p>
4	9月3日	<p>議題 1 進路希望調査について 2 進路ガイドブックについて 3 卒業時調査について 4 その他</p> <p>報告 1 第1回・第2回キャリアセミナーについて 2 仁戸名キャンパスの学卒ジョブサポーター進路相談について 3 学内求人一覧表の様式変更 4 その他</p>
5	11月26日	<p>議題 1 卒業時調査について 2 進路ガイドブックについて 3 第3回キャリアセミナー 4 その他</p> <p>報告 1 千葉県立保健医療大学職業紹介業務運営規定 2 求職票, 進路希望調査および卒業時調査のスケジュール 3 「進路に関する報告」の進捗状況について 4 国家試験受験手続の進捗状況について 5 平成30年度進路情報室の前期利用状況について 6 その他</p>
6	平成31年 1月28日	<p>議題 1 第3回キャリアセミナーについて 2 職業安定法改正 「職業紹介事業者の職業紹介実績等の情報提供」等について 3 その他</p> <p>報告 1 「進路に関する報告」の進捗状況について 2 進路ガイドブック, 求職票, 進路希望調査および卒業時調査の進捗状況について 3 国家試験に係る進捗状況について 4 その他</p>
7	平成31年 3月18日	<p>議題 1 第3回キャリアセミナーの振り返りと次年度計画について 2 平成30年度卒業時調査の結果と次年度進路支援について 3 その他</p> <p>報告 1 「進路に関する報告」の進捗状況について</p>

		2 国家試験に係る進捗状況について 3 その他
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	8月9日	第1回キャリアセミナー 「就活の極意！」 1部：就活の進め方 -履歴書・エントリーシートの書き方と面接試験のポイント- 2部：採用者はここを見る！現場の求める人材とは（学科別分科会）
2	8月23日	第2回キャリアセミナー 公務員試験の内容と対策
3	平成31年 2月20日	第3回キャリアセミナー 就職活動に必要なマナーのツボ 1部：社会人として必要なマナー 2部：こんなときどうする？～電話のかけ方、面接のマナーなど～
H	評価（成果および改善事項）	
<p>【所掌事務1：就職・進学支援】①平成30年度進路支援計画に基づき、全学的な事業や学科専攻毎の事業を含め、大学全体として学生への進路支援を行った。②平成29年度キャリアセミナーの評価をふまえ、平成30年度第1回・第2回・第3回キャリアセミナーの企画・運営・評価を行った。③進路情報室の運営を行い、利用状況の把握を行った。学生向け求人一覧等の改善を行った。幕張キャンパスの進路情報室にハローワーク・ジョブサポーターの派遣（週1～2回）を依頼した。また、仁戸名キャンパスの学生が、就職相談ができるよう、仁戸名キャンパスへの派遣も依頼し、派遣（9月～11月）が実施された。学生には好評であった。④ジョブサポーターと情報交換・意見交換を行い、ジョブサポーターと教職員が同じ考え方のもと連携して進路支援を行うことができるようにした。学科の進路支援事業への協力（講義・情報提供）もいただいた。⑤平成30年度就職進学状況についてとりまとめを行った。⑥平成31年度の「進路ガイドブック」の内容を千葉公共職業安定所の協力を得た上で、検討し改善した。相談が多かった手紙、履歴書の書き方、面接の流れ、また法令等変更による修正等の改善を行ったため、全学生に現在求められている書類等の情報が伝わるものとなった。⑦進路支援事業に関して後援会に助成を依頼する内容を検討した。⑧平成30年度就職率は100%であった。</p> <p>【所掌事務2：国家試験対策】①平成29年度・30年度国家試験結果をとりまとめた。②学科専攻と連携を図り、大学全体として学生への国家試験受験支援を行った。③国家試験模擬試験受験に対して後援会から助成を受けられるよう各委員が調整し、助成を受けられた。④国家試験に関わる手続きを確認し、学生の書類作成の支援、願書の提出、受験票の配布、免許申請手続き等を行った。⑤平成30年度国家試験合格率は、保健師91.4%、助産師100%、看護師98.7%、管理栄養士96%、歯科衛生士100%、理学療法士100%、作業療法士96.2%であった。</p> <p>【所掌事務3：県内就職の推進】①平成30年度県内就職率は69%（前年度62%）であった。②進路支援事業では県内保健医療関連施設から講師を派遣してもらい、県内就職を促進するようにした。</p> <p>【所掌事務4：その他】平成30年度卒業時調査の調査票作成（進路支援部分）を行い、調査を計画・実施した。</p>		
I	次年度の方策	
所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率100%（全学科）をめざし、学科専攻と連携を図り、大学全体として取り組んでいきたい。		

(5) 図書・情報委員会

A	委員長名	豊島 裕子・教授（栄養学科）図書館長
B	委員名	小川 真・教授（看護学科） 石川 紀子・講師（看護学科） 長谷川 卓志・教授（栄養学科） 谷内 洋子・准教授（栄養学科） 大川 由一・教授（歯科衛生学科） 鈴鹿 祐子・講師（歯科衛生学科）

		三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法専攻） 藤尾 公哉・助教（リハビリテーション学科理学療法専攻） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法専攻） 安部 能成・准教授（リハビリテーション学科作業療法専攻） 植田 麻実・講師（共通教育運営会議） 榎本 輝樹・講師（共通教育運営会議） 井上 裕光・教授（学長指名）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 図書館の整備運営及び図書館教育に関すること 2 図書資料等の収集、購入計画及び管理に関すること 3 情報システムの整備運営に関すること 4 ホームページの管理運営に関すること 5 情報処理教育及び情報研究に関すること 6 教授会が付託した事項に関すること 7 その他図書館及び情報システムに関すること
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学生向け文献検索セミナーへの外部講師の招聘。 ・図書館に関する学生アンケートの実施。 	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	5月14日	1 平成29年度図書・情報委員会議題一覧 2 平成29年度図書館利用統計について 3 平成30年度図書館関係予算について 4 定期購読雑誌の購入計画について 5 平成30年度資料費予算執行について 6 平成30年度定期購入図書について 7 電子ジャーナル・データベースについて 8 平成30年度購入図書の推薦について 9 文献検索セミナーの開催について 10 図書館だより「ぼーれぼーれ」の発行計画について
2	10月29日	1 平成30年度4～9月図書館利用統計について 2 平成30年度図書館蔵書点検結果報告 3 図書の推薦（第2回）について 4 定期購読雑誌の購入について 5 電子ジャーナル・オンラインデータベースの更新について 6 平成30年度および次年度文献検索セミナーについて 7 図書館利用に関する学生アンケートの実施について
3	平成31年 3月11日	1 資料購入関係予算の執行状況について 2 平成31年度図書館の開館スケジュールについて 3 平成30年度文献検索セミナー実施報告 4 図書館利用統計について 5 幕張キャンパス図書館の除籍について 6 電子ジャーナル・データベース、および電子書籍について 7 図書館だより「ぼーれぼーれ」の刊行について 8 図書館利用学生アンケートについて 9 仁戸名キャンパス図書館除籍資料の選定について

		10 平成 31 年度定期購読雑誌について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	4月2日	図書館ガイダンス（新任教員向け）
2	4月4日	図書館ガイダンス（新入生ガイダンス）
3	4月6日	図書館ガイダンス（幕張図書館ツアー）（看護2回，その他の学科・専攻ごとに各1回 合計6回）
4	4月9日	文献検索ガイダンス（栄養学科4年生）
5	4月11日	図書館ガイダンス（仁戸名図書館オリエンテーション）
6	4月12日	図書館ガイダンス（仁戸名図書館オリエンテーション）
7	4月17日	第1回文献検索セミナー「雑誌論文の調べ方 医中誌を中心に」
8	5月28日	文献検索ガイダンス（リハビリテーション学科理学療法専攻3年生）
9	6月6日	第2回文献検索セミナー「根拠のある医学情報を探すには」 佐藤正恵氏（千葉県済生 会習志野病院図書室司書）
10	6月14日	文献検索ガイダンス（リハビリテーション学科作業療法専攻3年生）
11	7月27日	文献検索ガイダンス（情報リテラシー1年生・1クラス2グループ 合計2回）
12	7月30日	文献検索ガイダンス（情報リテラシー1年生・2クラス4グループ 合計4回）
13	8月1日	図書館ガイダンス（新任教員向け）
14	9月3日	図書館ガイダンス（新任教員向け）
15	10月1日	図書館ガイダンス（新任教員向け）
16	10月25日	文献検索ガイダンス（歯科衛生学科3年生）
17	平成31年 1月11日	第3回文献検索セミナー「根拠のある医学情報を探すには」 佐藤正恵氏（千葉県済生 会習志野病院図書室司書）
18	平成31年 2月1日	第4回文献検索セミナー「文献管理ソフト EndNote 活用法」 吉田衣里氏（ユサコ株式 会社）
H	評価（成果および改善事項）	
	<p>・学生向け文献検索セミナーへの外部講師の招聘。 学生を対象とした文献検索セミナーに，専門的な知識を持つ外部講師を招聘した。理解しやすく実践的な内容で，学生の検索能力向上に資するセミナーとなった。</p> <p>・図書館に関する学生アンケートの実施。 学生を対象とした図書館利用に関するアンケートを実施した。集計結果は，今後の図書館運営を検討する上で貴重な資料となった。</p>	
I	次年度の方策	
	<p>・引き続き学生向け文献検索セミナーへの外部講師の招聘を実施する。</p> <p>・学生アンケートの結果を受け，サービスの向上に努める。</p>	

(6) 学術推進企画委員会

A	委員長名	三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法専攻）
B	委員名	川城 由紀子・准教授（看護学科） 佐伯 恭子・講師（看護学科） 細山田 康恵・教授（栄養学科） 越川 求・准教授（栄養学科） 金子 潤・准教授（歯科衛生学科） 河野 舞・准教授（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・講師（リハビリテーション学科理学療法専攻） 吉野 智佳子・講師（リハビリテーション学科作業療法専攻） 佐藤 大介・講師（リハビリテーション学科作業療法専攻）

		植田 麻実・講師（共通教育運営会議） 榎本 輝樹・講師（共通教育運営会議）
C	部会名と 部会員名	<p>【紀要編集部会】 部長： 細山田 康恵・教授（栄養学科） 副部長：三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 部会員： 小川 真・教授（看護学科） 佐藤 紀子・教授（看護学科） 長谷川 卓志・教授（栄養学科） 金子 潤・准教授（歯科衛生学科） 河野 舞・准教授（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 吉野 智佳子・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 高橋 伸佳・教授（共通教育運営会議） 井上 裕光・教授（共通教育運営会議）</p> <p>【共同研究部会】 部長： 金子 潤・准教授（歯科衛生学科） 部会員： 細山田 康恵・教授（栄養学科） 河野 舞・准教授（歯科衛生学科） 佐伯 恭子・講師（看護学科） 大谷 拓哉・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 榎本 輝樹・講師（共通教育運営会議）</p> <p>【共同研究審査部会】 部長： 三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 部会員： 神田 みなみ・教授（看護学科） 浅井 美千代・准教授（看護学科） 細山田 康恵・教授（栄養学科） 谷内 洋子・准教授（栄養学科） 石川 裕子・教授（歯科衛生学科） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 藤田 佳男・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 植田 麻実・講師（共通教育運営会議） 榎本 輝樹・講師（共通教育運営会議）</p>
D	所掌事務	<ol style="list-style-type: none"> 1 大学内の学術推進に関すること 2 共同研究等の募集及び審査等に関すること 3 紀要の編集及び発行に関すること 4 大型外部資金の獲得に関すること 5 動物実験に関すること 6 教授会が付託した事項に関すること 7 その他学術推進に関すること
E	年度当初の重点課題	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他学科(学内), 他大学, 地域の病院, 診療所, 保健・医療・介護施設, 企業等との協働による介入研究により地域包括ケアに資する新たなエビデンスを創出あるいはエビデンスを確認する。 本年度は, UR 都市機構と本学で結んでいる提携協定をもとに, “保健医療大学健康プログラム (通称: ほい大健康プログラム)” も継続する。 2. イノベーションに繋がるオンリー・ワンの研究の企画・推進を継続する。 	

F		会議記録（含む部会の開催）
	開催日	主な議題
1	4月16日	1 平成30年度共同研究申請課題の再ヒアリング結果について 2 平成30年度共同研究（一般、萌芽、若手）の採択について 3 その他
2	5月21日	1 共同研究部会 ・第9回共同研究発表会の案内について ・共同研究発表会用抄録の書き方について 2 紀要編集部会 ・紀要9巻の送付先について 3 外部資金獲得について 4 その他
3	6月18日	1 共同研究部会 ・平成30年度学内共同研究二次募集について 2 紀要編集部会 ・紀要第9巻の送付先について ・紀要第10巻の編集方針について 3 イブニングセミナー ・平成30年度第1回イブニングセミナーについて 4 外部資金獲得について 5 その他
4	7月17日	1 共同研究部会 ・平成30年度学内共同研究二次募集の結果について ・第9回共同研究発表会について 2 紀要編集部会 3 イブニングセミナー ・平成30年度第2回イブニングセミナーについて 4 外部資金獲得について 5 その他 ・委員会開催予定日について ・平成31年度当初予算について
5	8月20日	1 共同研究部会 ・第9回共同研究発表会の役割分担について 2 紀要編集部会 3 イブニングセミナー ・平成30年度第2回イブニングセミナーについて 4 外部資金獲得について ・平成31年度科研費公募要領等説明会について 5 その他 ・千葉県立衛生短期大学紀要に係る照会について
6	9月18日	共同研究部会 ・学内共同研究に係る変更申請について 2 紀要編集部会 ・著作権譲渡同意書の変更案について ・査読に係る判定方法の追加案について 3 イブニングセミナー 4 外部資金獲得について

		<ul style="list-style-type: none"> ・平成 31 年度科学研究費助成事業について 5 その他
7	10 月 15 日	<ol style="list-style-type: none"> 1 共同研究部会 <ul style="list-style-type: none"> ・学内共同研究に係る変更申請について 2 紀要編集部会 <ul style="list-style-type: none"> ・紀要の進捗状況等について 3 イブニングセミナー <ul style="list-style-type: none"> ・第 2 回イブニングセミナーの結果報告について 4 外部資金獲得について <ul style="list-style-type: none"> ・平成 31 年度科学研究費助成事業に係る学内説明会の結果報告について 5 その他
8	11 月 19 日	<ol style="list-style-type: none"> 1 共同研究部会 <ul style="list-style-type: none"> ・学内共同研究に係る変更申請について ・平成 31 年度学内共同研究費募集要項等について 2 紀要編集部会 <ul style="list-style-type: none"> ・紀要の進捗状況等について 3 イブニングセミナー <ul style="list-style-type: none"> ・第 3 回イブニングセミナーについて 4 外部資金獲得について <ul style="list-style-type: none"> ・平成 31 年度科学研究費助成事業の申請数等について 5 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・本学紀要掲載記事の複製許諾願いについて
9	12 月 17 日	<ol style="list-style-type: none"> 1 共同研究部会 <ul style="list-style-type: none"> ・2019 年度共同研究計画審査要領等について 2 紀要編集部会 <ul style="list-style-type: none"> ・紀要の進捗状況等について 3 イブニングセミナー <ul style="list-style-type: none"> ・第 3 回イブニングセミナーについて 4 外部資金獲得 <ul style="list-style-type: none"> ・平成 31 年度科学研究費助成事業の申請率について 5 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・学術推進企画委員会新規程案について ・本学紀要掲載記事の複製許諾願いについて
10	平成 31 年 1 月 21 日	<ol style="list-style-type: none"> 1 共同研究部会 2 紀要編集部会 3 イブニングセミナー 4 外部資金獲得 <ul style="list-style-type: none"> ・平成 31 年度科学研究費助成事業の申請率について 5 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・学術推進企画委員会新規程案について
11	平成 31 年 2 月 18 日	<ol style="list-style-type: none"> 1 共同研究部会 <ul style="list-style-type: none"> ・2019 年度学内共同研究費の募集状況について 2 紀要編集部会 <ul style="list-style-type: none"> ・紀要の進捗状況について 3 イブニングセミナー 4 外部資金獲得 5 その他

		・来年度の委員会開催日程について
12	平成 31 年 3 月 18 日	1 共同研究部会 ・2019 年度学内共同研究費（一次募集）の審査結果について 2 紀要編集部会 3 イブニングセミナー 4 外部資金獲得 5 その他 ・J-stage の進捗状況等について
開催日		紀要編集部会の主な議題
1	9 月 11 日	1 紀要編集スケジュールについて 2 投稿予定論文の応募状況と担当者について 3 編集担当者・査読者の役割について 4 査読情報の閲覧について 3 その他
2	10 月 15 日	1 投稿論文編集者・査読者の決定について 2 査読依頼の手続きについて 3 その他
3	11 月 7 日	1 査読結果および審査結果について 2 その他
4	平成 31 年 1 月 7 日	1 再査読結果および審査結果について 2 その他
開催日		学内共同研究審査部会の主な議題
1	平成 31 年 2 月 1 日	1 審査部会長の選出について 2 審査スケジュール及び要領の確認 3 その他
2	平成 31 年 2 月 18 日	1 申請書の配布について 2 審査方法の確認について 3 その他
3	平成 31 年 3 月 7 日	1 審査結果について (1) 採点 (2) 意見伝達・ヒアリング 2 その他
開催日		学内共同研究部会の主な議題
4	平成 31 年 3 月 8 日	1 意見伝達・ヒアリング担当の決定 2 その他
G	行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容
1	7 月 24 日	第 1 回イブニングセミナー 「尺度作成のプロセス～日本語版 SOC 作成を通して」 戸ヶ里 泰典（放送大学・教授）
2	8 月 28 日	平成 30 年度共同研究発表会
3	9 月 18 日	第 2 回イブニングセミナー 「回復期リハビリテーションにおける栄養とサルコペニア」近藤 国嗣（東京湾岸リハビリテーション病院・病院長）
4	平成 31 年 3 月 7 日	第 3 回イブニングセミナー 「がん患者の周術期口腔管理の重要性」教授（国立がん研究センター中央病院・歯科医長）
H	評価（成果および改善事項）	

平成 30 年度の総括	
所掌事務 1. 大学内の学術推進に関すること	
◇ 共同研究発表会を開催し、教員間の研究交流を図った。	
◇ 研究の質向上をメインテーマとして、3 回のイブニングセミナーを開催し、教職員の出席率は平成 29 年度と同様、50%を下回った。今後、教職員が是非とも参加したいテーマを模索していきたい。	
所掌事務 2. 学内共同研究等の募集および審査に関すること	
◇ 2019 年度学内共同研究費募集要項ならびに審査基準を改定、公表した。	
◇ 2019 年度学内共同研究費の公募を行い、審査部会にて審査採択を行った。最終の採択にあたり、ヒアリングを全員に課し、申請書類の再提出をお願いするケースもあった。今後は、更に厳選な審査をして、採否を明確にすることにした。	
所掌事務 3. 紀要の編集、発行に関すること	
◇ 紀要編集にあたり、編集担当者・査読者の役割について確認した。	
◇ 第 10 巻の募集を行い、査読、編集を行った。	
所掌事務 4. 大型外部資金の獲得に関すること	
◇ 科研費、厚労省科研その他、研究助成金の情報収集を行い、科研費については応募に係る学内説明会を開催した。	
所掌事務 5. 動物実験に関すること 特になし	
所掌事務 6. 教授会の付託事項 特になし	
所掌事務 7. その他学術推進に関すること 特になし	
I	次年度の方策
1 前記 H30 年度の課題として挙げた外部資金獲得、および学内共同研究助成等に関する申請が減少していることを鑑み、研究助成の促進につながるセミナー等の Events が必要である。	
2 紀要は継続し、論文作成の試金石としていく。	

(7) 研究等倫理委員会

A	委員長名	雄賀多 聡・教授 (学部長)
B	委員名	—学内委員— 植村 由美子・准教授(看護学科) 杉本 健太郎・講師(看護学科) 細山田 康恵・教授(栄養学科) 荒井 裕介・准教授(栄養学科) 島田 美恵子・教授(歯科衛生学科) 鈴鹿 祐子・講師(歯科衛生学科) 高杉 潤・講師(リハビリテーション学科理学療法専攻) 藤田 佳男・准教授(リハビリテーション学科作業療法学専攻), 布施 高広・事務局長 —学外委員— 安村 勉・教授 (学習院大学専門職大学院法務研究科) 鎌田 浩二・准教授 (千葉大学文学部国際言語文化学科) 竹内 治・弁護士 (松本・山下総合法律事務所) 望月 由紀・准教授 (東都医療大学幕張ヒューマンケア学部看護学科) 島津 実伸・特任助教 (千葉大学医学部附属病院臨床試験部)
C	部会名と 部会員名	—動物実験研究倫理審査部会— 部会長：雄賀多 聡・教授 (学部長) 部会員：細山田 康恵・教授(栄養学科) 金澤 匠・講師 (栄養学科) 峰村 貴央・助教 (栄養学科)

		小川 真・教授 (看護学科)
D	所掌事務	人間および動物を直接対象とする研究等に対して，倫理に係る必要事項を審査する．
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> 審査結果通知書の申請者への迅速な返却に加え，学内教員向けに研究等倫理委員会の審査の流れを周知し，倫理審査が原因の研究開始遅延を防ぐ． 研究倫理研修の実施． 	
F	会議記録 (含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	4月11日	1 倫理審査申請案件の審査 (7件：承認3件，条件付き承認1件，保留3件) 2 研究倫理・コンプライアンス研修会 (新採教員向け) について
2	5月9日	倫理審査申請案件の審査 (4件：承認1件，条件付き承認3件)
3	6月13日	倫理審査申請案件の審査 (7件：条件付き承認5件，保留2件)
4	7月11日	1 倫理審査申請案件の審査 (12件：承認3件，条件付き承認8件，保留1件) 2 抜去歯の倫理審査について 3 倫理審査申請者の待機について 4 コンプライアンス研修会について
5	9月12日	1 倫理審査申請案件の審査 (6件：承認4件，条件付き承認2件) 2 研究等倫理委員会に係る規程の変更について 3 「コンプライアンス教育」研修会のアンケート結果について
6	10月10日	1 倫理審査申請案件の審査 (3件：承認1件，条件付き承認1件，保留1件) 2 研究等倫理委員会に係る規程の変更について
7	12月12日	1 倫理審査申請案件の審査 (2件：承認1件，条件付き承認1件) 2 「ヒト抜去歯の提供依頼をする際の手続き(案)」について 3 「研究等倫理委員会規程」変更案について 4 「データ収集と管理に関する研究等倫理委員会の指針」変更案について
8	平成31年 1月16日	1 倫理審査申請案件の審査 (6件：承認4件，条件付き承認1件，保留1件) 2 「研究等倫理委員会規程」変更案について 3 「データ収集と管理に関する研究等倫理委員会の指針」変更案について 4 科研費の内部監査について 5 学生の卒業論文に係る倫理審査について
9	平成31年 2月13日	1 倫理審査申請案件の審査 (4件：承認2件，条件付き承認2件) 2 動物実験の外部検証について 3 2019年度委員会日程案について
	開催日	動物実験研究倫理審査部会の主な議題
1	5月1日	動物実験申請案件の審査 (2件：承認2件)
2	5月18日	動物実験申請案件の審査 (1件：承認1件)
3	7月20日	動物実験申請案件の審査 (1件：承認1件)
4	9月21日	動物実験申請案件の審査 (1件：承認1件)
5	11月21日	動物実験申請案件の審査 (1件：承認1件)
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	4月6日	研究等倫理委員会研修会 (新任教員向け)
2	9月7日	コンプライアンス教育研修会 「物品購入依頼研修」
3	平成31年	平成30年度科学研究費助成事業に係る内部監査の実施

	2月6日	
H	評価（成果および改善事項）	
<p>人を対象とする研究の審査件数は36件（承認33%，条件付き承認44%，保留22%），動物実験の審査件数は6件（全て承認）であった。前年度の課題であった，新任教員への研修会を4月に実施し，コンプライアンス研修会を9月に実施した。科研費内部監査も前年同様に実施した。また，「データ収集と管理に関する研究等倫理委員会の指針」をアップデートした。本学全体の組織改革に伴い委員会規程を見直し，来年度より委員会名称を「研究倫理審査委員会」へ変更することとした。</p>		
I	次年度の方策	
<ul style="list-style-type: none"> ・新任教員への倫理教育を継続して実施する。 ・研究倫理不正の防止と，研究費不正使用防止を明確にする。 		

(8) 社会貢献委員会

A	委員長名	島田 美恵子・教授（歯科衛生学科 共通教育運営会議）
B	委員名	加藤 隆子・講師（看護学科） 田村 友峰子・助教（栄養学科） 山中 紗都・講師（歯科衛生学科） 藤尾 公哉・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 安部 能成・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 公開講座の企画及び運営に関すること。 2 教授会が付託した事項に関すること。 3 その他社会貢献活動に関すること。
E	年度当初の重点課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の評価指標を検討し，大学としての地域貢献を組織的に取り組んでいく。 ・職能団体が実施している卒業研修とは異なる，本学独自の卒業研修について，学内で討議し，概念の統一を諮る必要がある。卒業生のニーズ調査を含め，社会貢献委員会のみでは実施できない課題を含んでいる。学生委員会，進路支援委員会，将来構想検討委員会など，関連する活動を担う委員会と，連携する。 ・生涯教育センター設立のロードマップを作成する。 		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月9日	1 委員長選任 所掌事務確認 2 平成30年度公開講座について 3 重点施策・改善計画について
2	5月21日	1 公開講座について 2 「ちば 賢ときちやうプロジェクト」について 3 重点施策（職能団体研究等）について
3	7月23日	1 公開講座について 役割分担 2 東京オリンピック・パラリンピックについて 3 本学HPについて
4	10月29日	1 平成30年度 平成31年度 公開講座について
5	11月26日	1 公開講座アンケート結果について 2 社会貢献委員会規程について 他
6	平成31年 1月28日	1 平成31年度公開講座について 2 本学におけるYoutube等の活用について
G	行事開催記録	

開催日		行事名称及び行事の内容
1	10月7日	公開講座 メインテーマ「地域で元気に暮らすには」 ① おいしく食べて元気に暮らすために ② 発達が気になる子の不思議な行動を理解するヒント-大人も子どもも元気に暮らすために
2	10月18日	千葉県健康福祉部健康福祉政策課 第三次千葉県地域福祉支援計画見直しにかかるヒアリング1: 地域団体代表者を交えて、団体の活動紹介と意見交換
3	10月21日	公開講座 ① 咬むことと健康寿命-口腔から全身へ- ② 家族のための介護入門-しんどくならないための少しのテクニク-
4	11月1日	千葉県健康福祉部健康福祉政策課 第三次千葉県地域福祉支援計画見直しにかかるヒアリング2: 学長・佐藤紀子教授をアドバイザーとして意見交換
H	評価 (成果および改善事項)	
<p>・糖尿病性腎症の患者ケアに従事する保健医療専門職(中小規模病院勤務で、院内での研修がない医療職)を対象とした講座(「ちば 腎(じーん)ときちやうプロジェクト」)を企画立案したが、担当者(健康福祉課)への報告に留まり、実施には至らなかった。</p> <p>健康福祉部健康福祉政策課からのヒアリング依頼とその実施は、本学がシンクタンク機能を果たす足掛かりにつながると考えられる。職能団体、勤務施設などが主催者する卒後研修体制がとられていることが確認されており、本学が主催する卒後教育の必要性や内容について各学科での意見は未だ統一されていない。</p>		
I	次年度の方策	
<p>・地域活動の評価指標を検討し、HPの内容を充実させ、大学としての地域貢献を組織的に取り組んでいく。</p> <p>・職能団体が実施している卒後研修とは異なる、本学独自の卒後研修について、学内で討議し、概念の統一を諮る必要がある。卒業生のニーズ調査を含め、社会貢献委員会のみでは実施できない課題を含んでいる。学生委員会、進路支援委員会、将来構想検討委員会など、関連する活動を担う委員会と、連携する。</p>		

(9) ネットワーク委員会

A	委員長名	井上 裕光・教授(共通教育運営会議)
B	委員名	浅井 美千代・准教授(看護学科) 西村 宣子・准教授(看護学科) 長谷川 卓志・教授(栄養学科) 海老原 泰代・講師(栄養学科) 荒川 真・准教授(歯科衛生学科) 河野 舞・准教授(歯科衛生学科) 大谷 拓哉・講師(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 江戸 優裕・助教(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 岡村 太郎・教授(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 佐藤 大介・講師(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 榎本 輝樹・講師(共通教育運営会議) 陪席: 松原 千栄里・企画運営課長(事務局)
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事務	1 情報システム(情報ネットワークシステム, 教務・入試システム, 図書システム)の活用等に関すること 2 教員の情報システムの活用を支援すること 3 学生の情報システムの活用等を支援すること 4 大学の情報セキュリティポリシーに関すること

E	年度当初の重点課題	
	<p>1. 大学ホームページ改訂に向けた維持管理作業を検討する。予算措置できない委員会であるため、事務局と協力しながら、新HPの運用方法を検討する。</p> <p>2. 新大学ネットワークシステム更改までの安定運用を図る。特に導入後4年を経過したため、ハードディスク・UPS等消耗部品の入れ替えが予想されるため、十分な告知と業者との連携で対応する。同時に、次期システムへの情報収集を行うとともに、大学の拡張計画（大学院設置・新々カリ導入）に対応可能なシステム構築を目指す。</p> <p>3. 学生MLの更新・整備を行い、shienkaアカウントによる定期的な情報発信を行う（作業を年間スケジュール化し、学生・教職員がもっと利用できるようにする）。</p> <p>4. 東京オリンピック決定後に急増しているサイバー攻撃（ネットワーク攻撃の高度化・精緻化・IoT機器攻撃・日本人によるサイバーテロ）に対応するために、教職員への情報提供・注意喚起の啓蒙活動により、システム構成員全体のセキュリティ意識向上を図る。ただし、これまでのセキュリティ講習会への参加呼びかけではなく、別の方法を検討して実質的な意識向上が必要になっている。</p> <p>5. 次期情報ネットワークシステム更改のための作業が、まだ十分でない。委員会として活動できない内容（業者へのヒアリング等非常に高度な知識が必要な作業）が多いため、管理者グループ（井上委員長・榎本委員）を中心に行い、学内への通知が可能になった段階で、全容についての説明とセキュリティについて告知するなど、現実的な対応を検討する。</p> <p>6. 広報委員会（仮称）設置に向けて、以後の情報発信方法を事務局とともに手順化できるようにする。</p>	
F	会議・活動記録（含む部会の開催）等	
	開催日	主な議題
1	4月メール会議	<p>平成29年度引継ぎ事項確認</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学生向け一斉メール加除 2 学生向け一斉メールの学年別の教員参加の加除 3 学科別領域別学内フォルダへの修正等 4 学内フォルダの整理 5 授業フォルダの整理 6 卒業研究向けのゼミ用フォルダ等の整理 7 大学ホームページ改訂後のメンテナンス作業について（事務局） 8 HP用データのメンテナンス作業内容について 9 H29年度以降の教員情報（情報公開） 10 SNSによる情報発信開始（榎本委員担当）学長・事務局経由ルートでメール決裁以降随時メール会議 <p>（緊急の課題がなく、また、当初今年度に立ち上がる予定だった広報委員会への引継ぎと業務の切り分けが未定となってしまった。なお、広報委員会が稼動した場合、ネットワーク委員会は解散し、学内情報システム管理業務はネットワーク管理者へ、HP等維持管理業務は事務局へ作業量確認の上、移管する予定だった。しかし、広報委員会設置が次年度へ送られたため、実務作業のみメール会議として報告した）</p>
2	4月 5月 6月 メール会議	<ol style="list-style-type: none"> 1 HP改訂報告 2 以後のHP更改作業内容 3 今年度第一回学内情報メンテナンス日程調整 4 組織改変が来年度へ（広報機能分離） 5 新情報ネットワークシステム要望聴取継続 <p>なお今後はできるだけメール会議で議題を議論する</p>
3	6月25-29日	第一回情報処理施設メンテナンス実施（セキュリティ強化のため実施）
4	7月-10月	MS-Office つきのPCがマイクロソフトの方針で市場から減ってしまい、Officeのために高額で購入するしかない学生が増えている（高額なPCを買わされることになる）ことへの対応として、ウチダの学割（MS-office）導入へ内田洋行との折衝、書類作成依

		頼, ネットワーク委員会メール審議, 契約書作成, 導入決定 10 月, 10/1 教授会へ報告
5	8 月 22 日	仁戸名キャンパス停電を伴う自家用電気工作物点検
6	9 月 13 日	幕張キャンパス停電を伴う自家用電気工作物点検 (ファン交換, 購入した UPS 交換をあわせて実施)
7	9 月-11 月	学部長から HP 上の教員業績記載について検討指示, メール会議で審議し, 検討案を提出, 11 月から検討案で HP 業績箇所を更改
8	12 月 10-14 日	第二回情報処理施設メンテナンス実施, および老朽化の判定
9	2 月-3 月	サーバー不調箇所, および学内情報システムで 3 月末日までの保守期間で修理可能な箇所を見つけ, 修理依頼 (LL 教室カラープリンタ等)
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		ネットワークプリンタ設定を 8 回, 学内接続作業を 1 回行った.
H	評価 (成果および改善事項)	
	<p>1. 大学ホームページ改定後の更新作業の範囲に目処があった. 新たに認証評価で指摘された「教員の業績公開」の方向性を示すことができた. これ以上の内容は, 新たに立ち上がる広報委員会で審議を行い, 研究情報の広報について以後検討を開始する. なお, これまで行ってきた入試広報に関しては, 広報委員会の検討事項からは除外することで, 委員会の分掌を決めることができた.</p> <p>2. リース延長が不可避となったため, 新規の PC 導入について (Windows10Pro) 猶予を告知した. 現在のサーバーは Windows7Pro までしかサポートできず, システム更改後の新サーバーで Windows10Pro が利用可能になる予定. また, 2020 年 1 月 14 日に Windows7 のセキュリティサポートが切れるため, その時点までに学内から Windows7 を撤去することを教授会で依頼した.</p> <p>3. 学生緊急 ML 整備を行ったが, 学科によって対応が非常に悪く, 依頼から収集完了まで 1 ヶ月以上かかった. shienka アカウントにより運用は 3 年目となり発信もコンスタントに行えるようになった. なお, 学内教員の学生メール利用の徹底も問題となっている (教員側が学生にメール利用を徹底できていない). 成績入力前後のメール確認ができない学生が出てきていることも重大な課題である.</p> <p>4. これまでとは異なり, 複数デバイス (情報端末) を利用している際に, 誘導メールによりアカウント乗っ取りが発生した. 今後のセキュリティ向上活動については, 教職員への情報提供・注意喚起の啓蒙活動により, システム構成員全体のセキュリティ意識向上を図り続けることが必要であるが, 総務省からの方針転換 (パスワード 90 日ルール撤廃) にみられるように, 複雑性を増し, ささまざまな状況でも対応可能なセキュリティ能力を身につけるための方策が必要になっている. これらについては, 結局, 新情報ネットワークシステムが導入され, 実際の運用がはじまってからでなければ, 機材を利用しての実地の運用が不可能である.</p> <p>5. 次期情報ネットワークシステム更改時期が来年度になってしまった. 委員会として検討できない内容 (業者へのヒアリング等非常に高度な知識が必要な作業) が多いため, 管理者グループ (井上委員長・榎本委員) を中心に, 学内への通知が可能になった段階で, 全容についての説明とセキュリティについて告知するなど, 現実的な対応を検討した.</p> <p>6. 広報委員会 (仮称) 設置に向けて, 以後の情報発信方法を事務局とともに手順化できるようにする方策は立案したが, リース延長作業優先でほぼすべての予定が崩れた.</p>	
I	次年度の方策	
	<p>1. 新 HP の運用方法を検討する.</p> <p>2. リース延長を無事に行う. それに伴う, 交換対応・費用概算を進め, 延長する期間 (リース本体は 1 年間の延長になるため, 保守運用経費を実質どのくらいの期間見積もるか) を確定し, その後新大学ネットワークシステム更改へ進めるようにする. 2019 年度中のシステム更改を目指す.</p> <p>3. 学生 ML の更新・整備を行い, shienka アカウントによる定期的な情報発信を行う (作業を年間スケジュール化し, 学生・教職員がもっと利用できるようにする).</p> <p>4. 東京オリンピック決定後に急増しているサイバー攻撃 (ネットワーク攻撃の高度化・精緻化・IoT 機器攻撃・日本人によるサイバーテロ) に対応するために, 教職員への情報提供・注意喚起の啓蒙活動により, システム構成員全体のセキュリティ意識向上を図る. ただし, これまでのセキュリティ講習会への参加呼びかけではなく, 別の方法を検討して実質的な意識向上が必要になっている.</p> <p>5. 新システム導入後の学内への情宣・教育活動について, 現実的な対応を検討する.</p> <p>6. 広報委員会 (仮称) 設置に向けて, 以後の情報発信方法を事務局とともに手順化できるようにする.</p>	

(10) 特色科目委員会

A	委員長名	雄賀多 聡・教授 (学部長)
B	委員名	雨宮 有子・准教授 (看護学科) 神田 みなみ・教授 (看護学科, 体験ゼミナール科目責任者) 河部 房子・教授 (看護学科, 教務委員長) 金澤 匠・講師 (栄養学科) 金子 潤・准教授 (歯科衛生学科, 専門職間の連携活動論科目責任者) 島田 美恵子・教授 (歯科衛生学科, 共通教育運営会議) 藤田 佳男・准教授 (リハビリテーション学科作業療法学専攻, 千葉県の健康づくり科目責任者) 【陪席】鈴木 由紀子・学生支援課長 (事務局)
C	部会名と 部会員名	【体験ゼミナール】 部長: 神田 みなみ・教授 (看護学科) 部会員: 浅井 美千代・准教授 (看護学科) 植田 麻実・講師 (看護学科) 金澤 匠・講師 (栄養学科) 島田 美恵子・教授 (歯科衛生学科) 藤尾 公哉・助教 (リハビリテーション学科理学療法学専攻) 松尾 真輔・助教 (リハビリテーション学科作業療法学専攻) 【千葉県の健康づくり】 部長: 藤田 佳男・准教授 (リハビリテーション学科作業療法学専攻) 部会員: 雨宮 有子・准教授 (看護学科) 荒井 祐介・准教授 (栄養学科) 榎本 輝樹・講師 (歯科衛生学科) 高杉 潤・講師 (リハビリテーション学科理学療法学専攻) 【専門職間の連携活動論】 部長: 金子 潤・准教授 (歯科衛生学科) 部会員: 成 玉恵・講師 (看護学科) 田村 友峰子・助教 (栄養学科) 鈴鹿 祐子・講師 (歯科衛生学科) 藤尾 公哉・助教 (リハビリテーション学科理学療法学専攻) 吉野 智佳子・講師 (リハビリテーション学科作業療法学専攻)
D	所掌事務	1 特色科目 (体験ゼミナール, 千葉県の健康づくり, 専門職間の連携活動論) の運営に関すること 2 特色科目を通じた一体的な目標の達成と科目相互の連携に関すること 3 特色科目の評価と改善に関すること 4 特色科目の目標達成に向けた学生, 教員へのFDに関すること 5 科目責任者の推薦に関すること
E	年度当初の重点課題	
	・新々カリキュラムに向けた特色科目全体の見直し	
F	会議記録 (含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	4月26日	1 平成30年度特色科目の予定及び計画について 2 新々カリキュラムに向けた特色科目の見直しについて 3 学生のボランティア活動を単位認定する制度について 4 今年度予算の確認及び次年度の予算要求について 5 「健康づくり」で購入した備蓄食品 (水) の処分について

2	6月7日	<ul style="list-style-type: none"> 1 学生のボランティア活動を単位認定する制度について 2 平成31年度当初予算作成について 3 「専門職間の関係活動論 (IPE)」開講時期の検討について 4 「倫理」をテーマとした講義について
3	8月28日	<ul style="list-style-type: none"> 1 新々カリキュラムの特色科目「授業科目の概要」について 2 新設科目「社会実習」の科目責任者について 3 平成31年度当初予算の報告と報告書作成について 4 平成30年度前期「体験ゼミナール」の報告について 5 東京オリンピック・パラリンピックのボランティアについて
4	12月26日	<ul style="list-style-type: none"> 1 各科目の進捗状況報告 2 新設科目「社会実習」について 3 平成31年度科目責任者について 4 平成30年度予算執行状況について 5 平成31年度組織再編に関連する「特色科目委員会」の位置づけについて <p>【報告】 学内のオリパラボランティア説明会について</p>
5	平成31年 2月20日	<ul style="list-style-type: none"> 1 各科目年度末報告 2 平成31年度科目責任者確認 3 平成31年度特色科目当初予算(内示) 4 平成31年度組織再編に関連する「特色科目運営会」について
開催日		体験ゼミナール作業部会の主な議題
1	4月5日	<ul style="list-style-type: none"> 1 訪問団体の確定・新規訪問団体 2 履修者数の確定 3 担当教員調整 4 授業・ガイダンス確認と準備 5 実習要項の準備
2	4月13日	<ul style="list-style-type: none"> 1 訪問団体からの承諾書・要望書の確認 2 学生振り分け 3 担当教員確定 4 文具等の確認と補充 5 全体授業（講演を含む）の準備
3	4月20日	<ul style="list-style-type: none"> 1 欠席等の扱いの確認 2 教員説明会および担当教員用団体ファイルの準備 3 文具類の購入・予算申請（案） 4 全体授業の準備
4	5月18日	<ul style="list-style-type: none"> 1 全体授業の準備 2 貸出文具類の仕分け
5	6月22日	<ul style="list-style-type: none"> 1 成果報告会・最終報告会の準備 2 教員報告会の準備
6	8月1日	<ul style="list-style-type: none"> 1 学生提出物の仕分け 2 学生アンケートの仕分け・入力担当確認
7	12月13日	<ul style="list-style-type: none"> 1 報告書作成・原稿検討 2 学生提出物返却 学科・専攻別仕分け
8	平成31年 1月17日	<ul style="list-style-type: none"> 1 報告書作成・原稿準備 2 次年度要項（学生用と教員用）の検討
9	平成31年 2月28日	<ul style="list-style-type: none"> 1 次年度要項（学生用と教員用）の原稿検討 2 報告書印刷進捗状況
開催日		千葉県健康づくり

1	6月20日	1 外部講師調整 2 今年度運用マニュアルの検討
2	7月25日	1 講義内容および担当分担の確認
3	9月19日	1 担当分担の調整 2 教員用資料の準備
4	平成31年 1月30日	1 レポートの仕分け 2 報告書作成について 3 今年度の反省と課題 4 次年度シラバスの検討
開催日		専門職間の連携活動論
1	5月25日	1 昨年度のアンケート結果確認 2 今年度の日程・内容確認 3 新々カリでの開講時期について
2	6月29日	1 実施要項・教員用資料の修正 2 特別講義講師の選任
3	7月26日	1 実施要項・教員用資料修正版確認 2 学生教員配置・使用教室について
4	9月21日	1 実施要項・教員用資料最終確認 2 教員説明会について
5	10月22日	1 演習当日の役割分担 2 学生・教員アンケートについて 3 成績評価について
6	12月14日	1 事後レポート等の仕分け 2 成績評価準備
7	平成31年 1月11日	1 事後レポート等の学生への返却準備
G	行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容
H	評価（成果および改善事項）	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生のボランティア活動を単位認定する制度につき検討し、第4の特色科目として「社会実習（ボランティア活動）」を新々カリキュラムに設定することとした。 ・学生・教員アンケートや学生と学長・学部長との懇談会の意見では、現行の学内完結型「専門職間の連携活動論」の満足度は高く、他大学との連携を求める声は大きくない。 		
I	次年度の方策	
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の特色科目の個別3科目体制の運用に加え、2020年度開設の新々カリキュラム「社会実習（ボランティア活動）」の具体的内容の検討。 		

(11) FD委員会

A	委員長名	雄賀多 聡・教授（学部長，研究等倫理委員長，特色科目委員長）
B	委員名	佐藤 まゆみ・教授（総務・企画委員長）， 河部 房子・教授（教務委員長） 西野 都子・教授（学生委員長） 豊島 裕子・教授（図書・情報委員長） 三和 真人・教授（学術推進企画委員長） 島田 美恵子・教授（社会貢献委員長） 井上 裕光・教授（ネットワーク委員長） 田邊 政裕・学長（自己点検・評価委員長） 佐藤 紀子・教授（入試実施部会長）

		【陪席】布施 高広・事務局長
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 学内のFDの推進に関すること 2 学内のFDの連携, 調整に関すること 3 教授会が付託した事項に関すること 4 その他FDに関すること
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育ワークショップ」の定期開催化 ・入学試験作問に関するFDの開催 	
F	会議記録 (含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	4月25日	1 平成29年度実績および平成30年度計画について 2 カリキュラムプランニング勉強会参加予定者について
2	7月26日	1 著作権セミナーの結果報告について 2 今後のFD企画について
3	11月21日	1 FD・SD平成30年度計画・実績について 2 平成31年度施行予定の新FD・SD委員会規程について
4	12月26日	1 FD&SD研修会について 2 倫理研修会について 3 教育ワークショップ(教務委員会研修会)について 4 平成31年度施行予定の組織改編・新FD・SD委員会規程案について 5 第3回イブニングセミナーについて 6 カリキュラム・プランニングについて 7 事務局へのSDについて
5	平成31年 3月27日	1 平成30年度実績報告・2019年度予定 2 新FD・SD委員会の委員構成について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	4月6日	研究倫理・コンプライアンス研修会(新任教員対象)「本学の研究倫理審査体制」 研究等倫理委員会
2	6月22日	FD&SDセミナー「大学教職員のための著作権の基礎知識」入試実施部会
3	7月24日	イブニングセミナー「尺度作成のプロセス」学術推進企画委員会
4	9月5日	コンプライアンス教育研修会「物品購入依頼研修」研究等倫理委員会
5	9月18日	イブニングセミナー「回復期リハビリテーションにおける栄養とサルコペニア」 学術推進企画委員会
6	平成31年 3月6日	FD&SDセミナー「いつでも・どこでも・だれにでも」FD委員会
7	平成31年 3月8日	教育ワークショップ「GPA制度の活用と大学における成績評価」教務委員会
8	平成31年 3月19日	イブニングセミナー「がん患者の周術期口腔管理の重要性」学術推進企画委員会
H	評価(成果および改善事項)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・6月22日開催の「著作権セミナー」は、教員参加率55%。アンケート回収率は86%。満足76.7%、やや満足23.3%と好評であった。 ・「発達障害」の理解を促すために、3月6日「いつでも・どこでも・だれにでも～必要な支援がうけられ 	

<p>るためにすべきこと～」を開催した。教員参加率 50.6%。アンケート回収率は 95%。アンケート回答の満足度平均は 5 点満点中と 4.3 と好評であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2019 年度よりの GPA 導入に向け、教育ワークショップ「GPA 制度の活用と大学における成績評価」を 3 月 6 日に実施した。教員参加率は 60.2%，アンケート回収率 96%。うち、満足 77.3%，やや満足 22.7%とこちらも好評であった。 ・ 入学試験作問に関する FD の開催はできなかった。 	
I	次年度の方策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学試験作問に関する FD の開催。 	

(12) 国際交流委員会

A	委員長名	雄賀多 聡・教授 (学部長)
B	委員名	片平 伸子・教授 (看護学科) 谷内 洋子・准教授 (栄養学科) 荒川 真・准教授 (歯科衛生学科) 三和 真人・教授 (リハビリテーション学科理学療法学専攻) 大谷 拓哉・講師 (リハビリテーション学科理学療法学専攻) 佐藤 大介・講師 (リハビリテーション学科作業療法学専攻) 神田 みなみ・教授 (看護学科) 【陪席】布施 高広・事務局長
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 国際交流の基本事項に関わる方針および計画に関すること 2 学術交流協定に関すること 3 学術及び教育交流の推進に関すること 4 留学生の教育交流に関すること 5 国際交流関係機関との連携および協力に関すること 6 その他国際交流に関すること
E	年度当初の重点課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 米国 Wisconsin 州の大学, Concordia University of Wisconsin (CUW) および Waukesha County Technical College (WCTC) との交流協定締結。 ・ 韓国 Inje 大学との交流実施。 		
F	会議記録 (含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	6 月 11 日	1 学生の海外渡航リスク管理について 2 平成 30 年度海外出張計画について 3 NWT C (アメリカ: ノースイースト・ウィスコンシン・テクニカル・カレッジ) について 4 トビタテ! 留学 JAPAN について 5 アジア経済研究所について
2	11 月 22 日	1 ウィスコンシン州友好使節団来県について 2 平成 31 年度海外大学との交流について 3 海外ボランティアについて
3	平成 31 年 1 月 22 日	1 国際交流委員会新規程 (案) について 2 海外渡航時の安全確保に関する指針 (案) 及び学生の海外渡航リスク管理マニュアル (案) について 3 来年度海外出張計画について
G	行事開催記録	

開催日	行事名称及び行事の内容
	なし
H	評価（成果および改善事項）
	<ul style="list-style-type: none"> ・本学学生の海外渡航時の安全確保に関する指針及び海外渡航リスク管理マニュアルを策定した。 ・米国 Wisconsin 州よりの友好使節団の教育グループ（Madison Area Technical College ; MATC 教員）が来学し、意見交換を行った。 ・韓国 Inje 大学との国際交流の進展は得られなかった。
I	次年度の方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・米国 Wisconsin 州の大学・韓国 Inje 大学との国際交流の進展を模索。

5. 各学科・専攻の管理・運営活動報告

1) 看護学科

(1) 教員組織

教員は、教授9名、准教授8名、講師11名、助教10名、計38名の構成であった。

(2) 年度当初の重点課題

欠員2名でのスタートであり、教員間の連携を密にして教育活動を確実に行うこと、学科独自の社会貢献事業を実現すること、新々カリ導入に向けた態勢を整えることが課題であった。各委員会が前年度からの課題解決と共に、新たな課題にも着手した。

(3) 取組状況

学科の管理・運営は、全教員が構成員となる看護学科運営会議が中心であり、5回開催された。看護学科教授会は、看護学科全体の主要課題や方向性を迅速に審議し決定するために設置されており、12回開催した。

学科内に下記の委員会を設置し、定期的な会議により、全学関連委員会や看護学科運営会議等との連携・調整のもと、それぞれの活動を行った。各委員会の主要な活動は、以下の通りである。

看護学科総務・企画委員会では、2018年度予算執行状況を鑑みながら全領域の希望を網羅し2019年度の集中配当予算要求書を整えられた。学科の念願であった携帯電話の更新予算も獲得できた。特別講義の講師謝礼単価の変更に伴い生じた残額の確認・再募集・返納をタイムリーに行えた。2018年度未着任教員および退職教員の個人研究費の学科内再配分予算を教育充実のために執行できた。次年度に向け、予算要求方法の一部変更に伴う混乱の防止及び必要な物の確実な購入の実現ならびに経年的購入実績を踏まえた公平・公正な予算管理を確認した。予定外のワックスがけ等がされ実習運営に支障が出たことに対し事務局経由で事前調整と予定通りの実施厳守を確認し教育に支障のない清掃体制を備えた。6月に希望取りまとめがされたがオープンカウンターで落札されず12月以降の貸与となった。次年度は5月上旬までに照合開始し早期貸与に努めることを事務局担当者と確認した。学科長が付託する事項において必要なこと、および円滑な学科運営に必要な事項を滞りなく実施できた。

看護学科教務委員会では、カリキュラム実施部会、実習検討部会、ポートフォリオ担当の役割で活動した。カリキュラム実施部会では在校生・入学生ガイダンスの実施、時間割の調整、定期試験監督者の調整、特別講義時間数の調整を行った。実習検討部会では実習計画書の立案、領域別実習のグループ編成の作成、実習要項の修正、災害時マニュアルの改訂、実習オリエンテーションの実施、実習公文書依頼のとりまとめ、ポートフォリオの取り組み支援、必修科目単位未修得学生に対する個別履修計画の確認等を行った。必修科目単位未修得状況学生、休学学生、復学学生に合わせ個別履修計画の確認作業を行い、学生の意向や学習進度を考慮した履修計画を提案した。また平成30年度は、新々カリキュラム作業部会を臨時で立ち上げ新々カリキュラムの作成を行った。

看護学科学生・進路支援委員会では、個別履修支援が必要な学生に対する指導方針の整備、進路支援ガイダンス等の工夫・改善、県内就職推進に向けた指導体制の強化を行った。詳細は、「学生支援」の項で述べる。

看護学科入試検討委員会では、入試、オープンキャンパス、学校説明会の活動を担当した。入試に関しては、「看護学科面接試験実施要領」を作成し、全教員に公正かつ適切な入試が図れるよう看護学科面接担当者説明会において、基準点のつけ方（基準点となる受験生の状況）の周知徹底に努めた。オープンキャンパスについては、実施計画の作成、当日の運営総括、評価を行った。看護学科来場者数は、合計1440名で昨年より500名増となり学科説明、演習体験、個別相談に対応した。高校から依頼される学校説明会、大学見学、模擬授業については、教員が適切に対応できるように説明会マニュアルを作成した。学校説明会は年間48校の参加となった。

看護学科社会貢献委員会では、県内看護職員のスキルアップに向け、2つのワーキンググループを立ち上げ、研究的に取り組んだ。1つは、千葉県内看護職員の研修ニーズ調査結果（平成25年度実施）の中で、研修参加の機会が比較的少ないと推測される施設（小規模病院、診療所、訪問、特養・老健）を対象に二次分析を行った。学長裁量研究費を獲得して実施し、看護職者が研修を希望する理由、施設内研修に参加しづらい理由、施設外研修に参加しづらい理由、施設外研修を受ける際に重視する点を明らかにした。もう1つは、看護管理者を対象とした院内研究指導支援研修プログラムの考案・実施・評価について、学内共同研究費を獲得して取り組んだ。研修プログラムは、「研究テーマの設定」「研究計画の立案」「倫理的問題への対応」「論文のまとめ方・発表のし方」についての講義、研究指導に関する困難さや課題解決の糸口の共有を図るためのグループ討議とし、講師やファシリテータを学科教員で実施した。研修会には300床未満の医療施設から20名の参加がみられ、研修参加後に、研究や研究指導への関心度及び知識獲得状況が増加し、研修満足度も高かった。以上のように、年度当初の計画通り、千葉県の看護職者を対象とした研修ニーズと研修企画・実施について具体化することができた。次年度もニーズに即した研修の企画・実施を継続することが課題である。

看護学科倫理審査委員会は、看護学科倫理審査委員会は、4年生の必修科目である看護研究において、学生が人を対象とする調査を実施する場合の倫理審査を行った。平成30年度は33件の審査を行い、滞りなく審査を進めることができた。さらに学生の研究倫理の質向上を目指し、今年度の倫理審査時の審査者からの指摘内容を整理し、学科内教員に情報提供を行った。

(4) 評価(成果および改善事項)

各委員会が連携を密にして円滑に活動を行い、新々カリキュラムに向けた履修指導体制や学生支援体制の整備を完了することができた。学科独自の社会貢献事業も実現することができた。

(5) 次年度の方策

PDCAサイクルによる各委員会の活動を継続する。各委員会のメンバーが交代となるため、引継を確実にし、活動の活性化につながるようにする。

2) 栄養学科

(1) 教員組織

教員構成は教授 6 名，准教授 3 名，講師 2 名，助教 5 名の計 16 名でスタートし，8 月に准教授 1 名が加わり 17 名の構成であった。後期に，産休教員（助教）の代替として非常勤職員 1 名を迎えた。専門科目の担当教員は 15 名，栄養教諭課程（選択）（兼：一般教育科目）の担当教員は 2 名である。

(2) 年度当初の重点課題等

各委員会が引き続き確実に責務を果たすとともに，連携を密にして円滑な組織運営を図る。新カリキュラムの検討および新カリキュラムにおいて，食品衛生監視員・食品衛生管理者の資格取得ができるよう検討する。学科会議，年 2 回実施する自己点検評価のための学科長と各教員との面談なども有効に活用しコミュニケーションのさらなる充実を図る。

(3) 取組状況

栄養学科の管理・運営は教授で構成する教授会及び全教員を構成員とする学科運営会議を中心とし，それぞれ 5 回，18 回実施した。学長直属委員会・部会及び教授会学内委員会・部会には学科教員の全員がいずれかの委員会・ワーキンググループの組織に所属し，委員長・部会長・構成委員として参加した。

学生教育とそれに関わる教員間の運営を円滑に行うために，月 2 回の学科運営会議を実施し，教授会報告，各委員会報告，各委員会の検討事項の検討，学生教育の進捗状況，学生生活の報告，その他必要事項の検討や周知を行った。新カリキュラムにおいて，卒業時に食品衛生監視員・食品衛生管理者の資格が取得できるようになった。

学年別の担任・副担任制，国家試験対策会議（国家試験担当教員，学科長，担任，副担任），臨地実習担当者会議，栄養教諭担当者会議，卒業論文担当者会議，卒業論文のための倫理審査委員会がある。それぞれ，適切に機能し各会議では学科会議で必要事項を周知した。

入試関係については，各教員が，学内見学者への対応，各高校への出張説明会等を行った。オープンキャンパスでは，教員がスタッフとして学科の紹介や参加者の誘導などを行った。特別選抜入学試験・一般選抜入学試験入試に際しては，入試の監督・採点・集計・受験者誘導など入試関連業務を担当した。

社会活動として，文部科学省，千葉県，学術団体，栄養士会等の職能団体の委員および研修会の講師など，また，新聞，TV，Web を通し，臨床栄養，食育，食文化等の健康づくりに関する活動を行った。

(4) 評価（成果および改善事項）

新カリキュラムを学んだ 25 名の卒業生を輩出した。管理栄養士国家試験には 1 名が不合格であったため，合格率 96%であった。就職を希望した卒業生の就職率は 100%であった。昨年度为国家試験合格率は，92%であったが，今年度は 96%であった。不合格となった 1 名は，栄養士として就職した。国家試験については，学生指導および学科会議での報告による全教員への現状の周知により学科全体で，国家試験対策を検討し，来年度も取り組みたい。臨地実習については，担当教員間での協力及び実習先との綿密な打ち合わせ等により，期間内で 3 分野の臨地実習が終了するよう調整できた。

学生募集は，全学科の平均倍率 2.5 に対して 2.9 であった。学科の平均倍率は，昨年 4.3 に対して，低下傾向にあった。次年度は，オープンキャンパス等で，良い所をアピールし，受験生が増加するよう取り組みたい。

(5) 次年度の方策

新体制で各委員会が確実に責務を果たすとともに，連携を密にして円滑な組織運営を図る。専門科目がすべて専任教員が担当できるように，欠員の人材を確保をする。

3) 歯科衛生学科

(1) 教員組織

学科教員の構成は，教授 5 名，准教授 3 名，講師 4 名，助教 1 名である。教員のうち歯科専門職は 11 名（歯科医師 5 名，歯科衛生士 6 名）となっている。

(2) 年度当初の重点課題等

欠員となっている歯科衛生士教員の確保を図り，平成 31 年度からの新カリキュラムの導入にむけた体制づくりを進めていく。

(3) 取組状況

歯科衛生学科の管理・運営体制は，全教員が構成員となる歯科衛生学科会議が中心で 11 回開催された。本学付属の歯科診療室の管理・運営体制は，歯科診療を担当する歯科医師，歯科衛生士が構成員となる歯科診療室会議が中心

となり 11 回開催された。歯科診療室では、毎週初日の診療開始前に週間予定、連絡事項、医療安全体制等について確認した。大学全体の管理・運営については、学科の全教員が各種委員会、部会、ワーキンググループ等の組織に所属し、構成員として積極的に活動を行ってきた。

入試関係については、大学説明会に積極的に参加し、高校生向けに本学ならびに当学科の紹介を実施した。7 月に開催されたオープンキャンパスでは教員がスタッフとして学科の紹介、実習室での演習体験、個別相談に対応した。特別選抜入学試験・一般選抜入学試験入試に際しては、入試の監督・採点・集計・受験者誘導など入試関連業務を担当した。

(4) 評価（成果および改善事項）

平成 30 年度 9 月より教授、助教各 1 名が着任し、歯科衛生士教員の確保をはかることができた。今後は新カリキュラムの導入にむけた体制構築が求められる。

(5) 次年度の方策

大学のシンクタンク機能として地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラム（誤嚥による肺炎予防のために）を実践・評価する。

4) リハビリテーション学科理学療法学専攻

(1) 教員組織

教授 2 名・准教授 1 名・講師 2 名・助教 2 名（本年度後期 9 月より 1 名加わる）の計 7 名（本年度准教授 1 名休職）。職種は、医師 1 名、理学療法士 6 名。

(2) 年度当初の重点課題

ワンキャンパス化、および大学院構想の事実上棚上の現状があり、今後いつ開始になるの先が見通せない。実際、他学科の教員ではそのことを理由に退職した教員も現れており、本専攻の教員の退職等、他大学に流出する可能性は否定できない。慰留をすることは難しいと判断せざるを得ない。一方、理学療法士の職域の拡大が進んでいるを顧みると、教員組織数から考えても、最低人数（厚労省指定規則 6 名の専門職）で如何に専攻運営を行うかが課題であり、教育以外の教員の研究活動は難しい。中には、社会貢献等に力を注いでいる教員もいるが、本来の業務である教育と研究、加えて臨床ができない点が課題であろう。

(3) 取組状況

幕張キャンパスで開催される教授会・運営会議や各種委員会へは仁戸名キャンパスから移動し、他学科の教員と比較して、助教も含めて確実に各種委員会に少なくとも 3 つ以上参加している。毎週水曜午前、理学療法学専攻会議を所属の全教員で実施し、教授会・運営会議・各種委員会やワーキンググループ等の活動状況や主な取組内容の進捗状況を報告している。また、学校説明会等の学外対応の負担は一部の教員に偏りがないように配慮をしている。加えて、学生の学習・実習状況等、教員間での情報伝達と共有化を図るよう努めている。

(4) 評価（成果および改善事項）

教員数は現有 7 名（後期 9 月から加わって）であるが、実質 6 名の専門職（理学療法士）と医師 1 名で教授会・運営会議・各種委員会、および 2 ヶ月に 1 回のリハビリテーション学科会議・学科教授会（構成員 4 名）と、毎週の専攻会議を予定通りに開催している。

(5) 次年度の方策

本年度同様、専門職教員の充足と増員および職位の不均衡是正を求めたい。この現状では大学としての体を成しているとは言い難く、改善を強く望むものである。一方、その中で果たすべき着実な管理・運営は実施していく。

5) リハビリテーション学科作業療法学専攻

(1) 教員組織

リハビリテーション学科作業療法学専攻の教員構成は、2018 年度は教授 2 名、准教授 3 名、講師 2 名、助教 1 名、計 8 名であった。内訳として、医師 1 名、作業療法士 7 名の構成で運営された。

(2) 年度当初の重点課題

作業療法学専攻の運営管理上の重点課題

- ① 実習病院、実習施設の獲得活動については、改善に取り組み。
- ② 施設・設備の老朽化や設備の改善。
- ③ 作業療法学専攻への入学応募者の増加に取り組む。

- ④ 日本作業療法士協会の認定申請，世界作業療法士連盟認定。

(3) 取組状況

- ①実習病院，実習施設の獲得活動について，身体障害領域は十分ではないものの確保しているが，精神障害分野・発達障害分野に関して，学生の数に見合った実習が確保できているとは言えない。千葉県内のほとんどすべての病院・施設をあたったが，実習施設としての獲得につながらない。大学から通学できる施設として，東京方面や埼玉方面に実習病院の開拓を進める。
- ②老朽化のため使用継続不能な備品や修繕などの請求は，総務企画委員会を通じて予算計上ができるようになった。2018年度は前年，重点的に予算配分があったので，修理や老朽化など軽微な予算獲得している。
- ③学生募集の業務・広報活動として，SNSの利用とオープンキャンパスを実施している。専攻としてSNS等を通じた広報活動が実施できた。今後，作業療法学専攻としてのさらなる活用が望まれる。
- ④リハビリテーション教育評価機構が定めたリハビリテーション教育の施設基準及びカリキュラムの提供，実施ができる養成施設と認定され，認定の有効期間として2018年4月1日より2023年3月31日までとなった。日本作業療法士協会および世界作業療法士連盟（The World Federation of Occupational Therapists, WFOT）の定めた「作業療法士教育の最適基準」の適合校として2018年3月17日に認定登録され，2018年1月1日より2022年12月31日まで認定期間とされた。

(4) 評価（成果および改善事項）

- ①学生のキャンパス間における移動などの問題は解決しておらず，受講できない科目が生じることがある。現段階では，時間割を作成時に年度ごとに工夫をしているものの限界がある。
- ②実習担当を統合する委員を設け，臨床体験実習から評価実習，総合実習，地域作業療法学実習に至るまで総合的に管理できるよう試み，慢性的な不足状況は継続しているが，状況把握と対策ができた。
- ③教育環境は，平成29年度の予算の配当により少しであるものの改善している。施設の老朽化などについては，総務企画委員会と後援会より継続した予算の配当とご援助いただき机・椅子，プロジェクターなどの改善が実施されている。
- ④広報に関するホームページの改善の予定が組まれている。SNSを使用し，授業等の広報活動の活用を試みた。
- ⑤最終判定と日本作業療法士協会及び世界作業療法士連盟（WFOT）の教育基準を満たしていると判定され2018年3月17日より2022年12月31日まで認定は有効とされた。

(5) 次年度の方策

本年度と同様に実習病院，実習施設の獲得活動については強化し，実習施設数のスーパーバイザー（臨床実習指導者）のFD活動などの取り組みについて計画・実施する。さらに，学生が満足のできる学生生活・学習が送れるよう施設・設備の老朽化や設備の改善や夜間の通学路における安全への取り組みが方策として必要である。

6. 事務局の活動

事務局は，企画運営課と学生支援課の2課で構成されている。

1) 職員組織

2018年4月1日現在，事務局長1名，企画運営課は課長を含め職員10名，嘱託5名の計15名，学生支援課は課長を含め職員5名，嘱託8名の計13名，合計29名で運営している。企画運営課は，教授会，大学運営会議，各種委員会等に係る事務，学内研究費，科学研究費補助金等の執行事務，教育用消耗品や備品等の購入手務，施設の維持管理や実習機関への委託事務等を担当し，学生支援課は，カリキュラム編成や授業時間割の調整，非常勤講師の調整，単位認定等の教育課程に関する事務，入学試験，大学入試センター試験に係る業務，学生の実習，就職支援に係る業務等を担当している。

2) SDの取り組み

(1) 年度当初の重点課題

大学職員としての資質向上。

(2) 実施状況

6月22日

「大学教職員のための著作権の基礎知識」／講師（一社）日本著作権教育研究会 理事 内田 弘二／

参加人数 50 名

9 月 5 日

「千葉県における研究費の使用ルール・手順について」／講師 保健医療大学企画運営課 主事 小林崇史／

参加人数 48 名

3 月 6 日

「いつでも・どこでも・だれにでも～必要な支援が受けられるためにすべきこと～」／

講師 千葉県総合教育センター研究企画部 研究指導主事 川西 努／参加人数 44 名

その他下記の入試、奨学金関係の会議及び公立大学に係る研修会等に出席した。

- ① 5 月 14 日 大学改革支援研究会・公立大学に関する基礎研修（公立大学協会主催）
- ② 6 月 4 日 入学者選抜に関する研究会（公立大学協会主催）
- ③ 6 月 18 日 公立大学協会担当者研修会及び公立大学実態調査表作成説明会（公立大学協会主催）
- ④ 6 月 19 日 全国キャリア・就職ガイダンス（文部科学省、就職問題懇談会、日本学生支援機構主催）
- ⑤ 7 月 11 日～7 月 13 日 公立大学職員セミナー（公立大学協会主催）
- ⑥ 7 月 13 日 共同認証プロジェクトに関する説明会（大学基準協会主催）
- ⑦ 8 月 20 日 大学入学者選抜大学入試センター試験入試担当者連絡協議会（第 1 回）（大学入試センター主催）
- ⑧ 8 月 28 日 公立大学協会関東・甲信越地区協議会（公立大学協会主催）
- ⑨ 9 月 12 日 大学 IR コンソーシアム会員校向け ワークショップ（大学 IR コンソーシアム主催）
- ⑩ 9 月 20 日 障害学生支援理解・啓発セミナー1（日本学生支援機構主催）
- ⑪ 10 月 9 日 日本学生支援機構奨学金 業務研修会（日本学生支援機構主催）
- ⑫ 11 月 13 日 キャリア教育・就職支援ワークショップ（日本学生支援機構主催）
- ⑬ 12 月 3 日 大学入学者選抜大学入試センター試験入試担当者連絡協議会（第 2 回）（大学入試センター主催）
- ⑭ 12 月 12 日 2018 年 IR システムデータ登録講習会（大学 IR コンソーシアム主催）
- ⑮ 1 月 30 日 日本学生支援機構奨学業務連絡協議会（日本学生支援機構主催）
- ⑯ 3 月 8 日 日本学生支援機構奨学金採用・返還誓約書業務等研修会（日本学生支援機構主催）

7. FD の実施状況

1) 年度当初の重点課題等

- ・「教育ワークショップ」の定期開催化
- ・入学試験作問に関する FD の開催

2) 主な活動

- ・4 月 6 日 研究倫理・コンプライアンス研修会（新任教員対象）「本学の研究倫理審査体制」
- ・6 月 22 日 FD&SD セミナー「大学教職員のための著作権の基礎知識」
- ・7 月 24 日 イブニングセミナー「尺度作成のプロセス」
- ・9 月 5 日 コンプライアンス教育研修会「千葉県における研究費の使用ルール・手順について」
- ・9 月 18 日 イブニングセミナー「回復期リハビリテーションにおける栄養とサルコペニア」
- ・3 月 6 日 FD&SD セミナー「いつでも・どこでも・だれにでも～必要な支援が受けられるためにすべきこと～」
- ・3 月 8 日 教育ワークショップ「GPA 制度の活用と大学における成績評価」
- ・3 月 19 日 イブニングセミナー「がん患者の周術期口腔管理の重要性」

3) 評価(成果および改善すべき事項)

- ・6 月 22 日開催の「著作権セミナー」は、教員参加率 55%。アンケート回収率は 86%。満足 76.7%、やや満足 23.3% と好評であった。
- ・「発達障害」の理解を促すために、3 月 6 日「いつでも・どこでも・だれにでも～必要な支援が受けられるためにすべきこと～」を開催した。教員参加率 50.6%。アンケート回収率は 95%。アンケート回答の満足度平均は 5 点満点中と 4.3 と好評であった。
- ・2019 年度よりの GPA 導入に向け、教育ワークショップ「GPA 制度の活用と大学における成績評価」を 3 月 6 日に実施した。教員参加率は 60.2%、アンケート回収率 96%。うち、満足 77.3%、やや満足 22.7%とこちらも好評

であった。

- ・入学試験作問に関するFDの開催はできなかった。

4)次年度の方策

- ・入学試験作問に関するFDの開催。

IV 教育活動

1. 共通教育

1) 教育方針

体系的な初年次教育を行い、学問や大学教育全般に対する動機付けおよび論理的思考や問題発見・解決能力の基盤を作る。

2) 年度当初の重点課題

- ① 初年次教育および学生の現状に関するアンケート調査を、全教員対象に行う。
- ② 共通教育運営会議において、プレゼンテーションなど口頭発表の技法教育の現状を検討する。
- ③ 学問や大学教育全般に対する動機付け教育を全学科1年生対象に行う。
- ④ 論理的思考・問題解決能力向上のための現行教育内容の検証、新々カリに関連新科目を導入する。

3) 取組状況

- ①全教員 82 名を対象にアンケート調査を行った。7月に追加調査を実施し、結果は千葉県立保健医療大学紀要第9巻で報告した。
- ②共通教育運営会議構成員が科目責任者を担う「2018年度体験ゼミナール」では、報告会において個人が単独で、必ずポスター前で口頭発表する場を設けた。また、「2018年度体験ゼミナール」にて、学長による「大学の学び」の講義を設けるとともに、今年度も共通教育で作成した「レポートの書き方1・2」を図書館に常備した。
- ③グローバル教育に着目し、英語教育の充実と並行して、特別講師をお招きして国際的に活躍する医療従事者について講演を行った。自主的な学びの動機づけを強化した。
- ④新々カリ科目は2020年度から実施される。

4) 評価（成果および改善事項）

年度当初の目標は概ね達成できたと考えている。

5) 次年度の方策

次年度以降、一般教養科目・保健医療基礎科目を検討するメンバーは大幅に追加される。基礎教育課程の見直し・再構築を全学的に検討し、学問・大学教育全般に対する動機付け教育導入を実現したい。

2. 看護学科

1) 教育方針

学生が、確かな看護実践能力や自己研さん力を身に付けられるように、きめ細やかな教育を行う。ポートフォリオ、看護実践能力評価票等を活用し、学生の主体的学習を促進する。

2) 年度当初の重点課題

計画通りに教育活動を実施するとともに新々カリ作成に向けた総括的なカリキュラム評価を行う。

3) 教育内容・方法

1年次に、特色科目の「体験ゼミナール」、一般教養科目とともに、「薬理学Ⅰ、Ⅱ」「病理学Ⅰ、Ⅱ」等の保健医療基礎科目、「人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の専門基礎科目、「看護学入門」「看護技術論Ⅰ」「看護ふれあい体験学習」等の基礎看護科目を開講した。1年次の前期から看護実習を開講することは、看護学を学ぶ動機付けとして高い効果が得られている。2年次には、「医療・生活支援看護概論」「療養支援看護概論」「高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ（総論）」「健康支援看護概論」「育成支援看護概論」等の実践看護科目を開講した。後期には、実践的・専門的な知識や技術等を学ぶ実践看護科目の方法論（講義・演習科目）を開講した。また「看護キャリア発達論」「看護倫理」等を開講した。3年次前期には、各専門領域（基礎看護、医療・生活支援看護、療養支援看護、健康支援看護、育成支援看護、発展看護）それぞれの「方法論」が、新カリキュラム科目として開講された。3年次後期から4年次前期にかけて、実践看護科目の実習である成人看護学実習等が実施された。4年次においては、通期で「看護研究」に取り組み、研究計画の立案から研究実施、論文の作成を行い、に各領域で研究発表会が実施された。また、後期には「総合実習」「専門職間の連携活動論」（特色科目）が実施され、他の専門職と自らの専門性について深く考える機会となった。また、新規開講となる「看護学統合」を実施し、4年間の学びの統合と卒業後の自己研さんの明確化を図り、次年度に向けた評価を行った。

助産課程では、3～4年次に「助産診断・技術学Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「助産学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を開講した。

4) 評価（成果および改善事項）

新カリキュラムにおけるすべての科目を滞りなく開講し、新々カリ意向のための授業評価を行った。

5) 次年度の方策

令和元年は新々カリキュラムと現行カリキュラムが同時進行するため滞りなく教育が実施できるように各部会が

活動を行っていく。また令和2年度は東京オリンピック開催による学年暦の大幅変更と、新々カリキュラムと現行カリキュラムの同時進行が重なるため、時間割作成作業が煩雑になることが予測される。令和2年度の教育が円滑に行えるよう、調整作業を実施していく。

3. 栄養学科

1) 教育方針

大学・学科の教育理念と教育目標に基づき、管理栄養士に資する人材を育成するために科学的根拠に基づく専門基礎科目の知識を身につけるための丁寧な教育、病傷者及び児童・生徒との円滑なコミュニケーション能力、多職種で連携しチームとして活動できる能力及び態度を身につける教育を丁寧に実践する。

2) 年度当初の重点課題

引き続き、担任、副担任、科目担当教員から積極的な履修指導を行う。また、栄養教諭課程(選択)の履修については、オリエンテーションで担任、関係の教員から、引き続き丁寧な説明を実施し、更なる増加を目指す。国家試験対策、就職支援についても引き続き丁寧に実施する。

3) 取組状況

全員の進級及び卒業、希望する職場への就職支援、栄養教諭課程(選択)の履修者の増加については、担任・副担任、国家試験対策会議、臨地実習担当者会議などが適切に機能し、学科会議により状況を全教員が共有でき取組ができ、目標を達成できた。学生の個人的相談は担任を中心としたが、オフィスアワーを学生に掲示し全教員に相談可能とし成果をあげている。

3年後期の臨地実習を目標に1年次では「食品学」「栄養学」「生化学」「解剖生理学」「食事設計と栄養」「食品衛生学」及び「調理学」の専門基礎科目を配当し、管理栄養士に必要とされる科学的根拠に基づく知識を身につける教育を実施している。前期は座学中心で、後期は実験・実習による専門的スキルやコミュニケーション能力の育成を実践した。3年次では主に専門科目と臨地実習、4年次では主に総合演習・卒業研究を配当し、管理栄養士としての専門性を育成した。また、1年、3年、4年では特色科目を配当し、他の専門職と自らの専門性等について学ぶ機会となった。

4) 評価(成果および改善事項)

4年生全員が卒業、1～3年生は全員進級できた。管理栄養士国家試験不合格者1名については、努力不足と考えられるため、次年度の管理栄養士国家試験対策としてさらに丁寧な指導を行いたい。栄養教諭課程(選択)の履修者は1年6名、2年9名、3年13名、4年生15名であった。

5) 次年度の方策

4年生の面接試験対策や国家試験対策について、担任を中心に学科教員で丁寧な指導を行い、希望する就職先・国家試験合格率100%を目指したい。1～3年生は、全員が進級できるように、きめ細やかな指導を目指す。

4. 歯科衛生学科

1) 教育方針

専門知識の修得のみならず、豊かな人間性と高い倫理観を備え、他の専門職と連携・協働し、質の高い歯科医療サービスを提供できる実践力のある人材の育成に取り組む。

2) 年度当初の重点課題

平成31年度からの新々カリキュラムの導入を目指し、現状の教育課程、教育内容の再構築をはかる。

3) 取組状況

1年次、2年次は保健医療基礎科目、歯科衛生基礎科目を中心とした講義、演習を、2年次から3年前期にかけては、小児・成人・高齢者を対象とした生涯歯科衛生科目の講義、演習を開講した。3年次では歯科衛生健康推進科目の講義・演習を開講した。臨床実習として開講している3年次後期・4年次前期の「歯科診療室総合実習」では、本学に併設している歯科診療室において、1、2年次学んだ知識と技術を実践の場において統合させ、臨床的判断や行動が主体的に実施できることを目的に実習を行った。臨地実習については、3年次後期の「歯科診療所実習」でチーム歯科医療等の実践について体験した。「発達歯科衛生実習Ⅰ(小児)」で幕張西小学校1・3・6学年の児童を対象にブラッシング指導を行った。さらに袖ヶ浦特別支援学校では、担当教員から障害児童の対応を学ぶとともに、児童全員の口腔ケアを実施した。「発達歯科衛生実習Ⅱ(成人・高齢者)」では、千葉市内の介護保険施設において高齢者の生活について理解し、看護・介護職員から高齢者に対する日常生活の援助方法について学ぶとともに高齢者の口腔ケアを実施した。「地域歯科衛生実習」では、千葉市・市原市・浦安市の保健センターにおいて地域歯科保健の現状を理解するとともに、歯科衛生士の役割・機能について学修した。4年次後期の「病院実習」では病院における歯科衛生士の役割や多職種連携の重要性について理解を深めた。3年次後期から4年次後期の期間は、卒業研究に取り組み、各学科教員が個別に学生の研究指導を行った。国家試験については、卒業生20名全員

が歯科衛生士国家試験に合格した。

4) 評価（成果および改善事項）

平成 31 年度の入学生から適応される新カリキュラムについて、4 年間にわたるカリキュラムマップを作成するとともに授業科目と教育内容の再構築をはかった。

5) 次年度の方策

平成 31 年度から導入された順序性を考慮し、学年進行に沿った新々カリキュラムの教育を適正に進めていく。

5. リハビリテーション学科理学療法専攻

1) 教育方針

全学年の学生が授業に欠席することなく、実習に参加し、単位を落とさず、且つ休学や退学なくして最終学年までを全うすること。また、毎年度継続している国家試験全員合格を今後も推し進めることである。

2) 年度当初の重点課題

臨床実習での、学生の接遇(実習中の対象者や指導者とのコミュニケーション)・実践力(適応能力や対応力等)に対する評価を向上させる。また、国家試験全員合格の継続が他学科にない本専攻教職員の責務である。

3) 取組状況

前年度に引き続き、2 学年以降の学生に学内で実技練習をさせたり、症例情報に基づく演習を多く取り入れたり工夫をしている。特に、3 学年の学生には臨床実習を意識した授業を展開(実習前の実技試験: OSCE)している。2020 年度から理学療法に関する指定規則の改定があり、実習前のみならず、実習後の OSCE を視野に入れる必要がある。また、各学年担任は、半期に一度、受け持ち学生と面談し、学習状況、生活状況、理学療法士へのモチベーションの有無を再確認しながら、学年振興に努めている。

4) 評価（成果および改善事項）

最終学年の臨床実習Ⅲ・Ⅳを終了して卒業にたどり着いた 4 学年 21 名は全員国家試験に合格し、開学以来の国家試験合格率 100%は継続されている。一方、休学中であった 1 名はそのまま継続した。また、1 年次と 2 年次に単位を落とし、3 学年の臨床実習Ⅱに到達しなかった留年生 4 名は、臨床実習Ⅱを無事終了し、4 学年の臨床実習Ⅲ・Ⅳに向け努力している。

5) 次年度の方策

平成 30 年度同様に、国家試験合格率 100%を目指す。実習中断となる学生がいないようにコンピテンシーに基づき、学生の評価を実施していく。

6. リハビリテーション学科作業療法専攻

1) 教育方針

作業療法学専攻では、大学・学科専攻の教育理念と教育目標に基づき、さらに対象者本位の作業療法の実践技術提供に資する人材を育成するために学生教育重視を実践し、継続した。また、国家試験の受験生の合格に向けて、教員の指導体制も強化し、課外活動を推し進めた。臨床実習に関して学生の利便性や指導内容を考慮し、方針として千葉県内での臨床実習施設の獲得を優先し、前年通り実施した。

学部のコンピテンシーに基づき 2016 年度から作業療法専攻のコンピテンシーを作成し、カリキュラムの検討等をはじめ、アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの再検討を行い、完成し、新々カリキュラムも整えられた。

2) 年度当初の重点課題

作業療法学専攻の教育活動における重点課題

知識・技術の確認と職業人としての態度の獲得を目的とし、「特色科目」、「一般教養科目」、「保健医療基礎科目」、「専門科目」の統合的として臨床実習の充実を課題とすることに変化はないが、新しいカリキュラムに基づいて新々カリキュラムの準備に取り組む。

3) 取組状況

2018 年度は開学 10 年目となり、昨年同様、1 年生は特色科目として「体験ゼミナール」では、健康な県民と交流を図ることで千葉県の地域の特性や千葉県で生活する人々の特徴を理解し、実習で対象となる人々を生活者として捉える視点を養うことが継続してできた。さらに今後実施される新々カリキュラムにおいて、評価・治療学→演習→実習の科目の取り組む順序性には変化はない。

作業療法学専攻の専門科目として新カリキュラムとして強化した「臨床体験実習」、「評価実習Ⅰ・Ⅱ」、「総合実習Ⅰ・Ⅱ」、「地域作業療法実習」を実施できた。「臨床体験実習」は主に千葉県内の作業療法を実施している様々な分野の病院・施設 22 施設（病院 13 施設：9）の協力を得て実施できた。また「評価実習Ⅰ・Ⅱ」においては、身体障害分野は 20 施設（Ⅰ期 11、Ⅱ期 10）、精神障害分野は 5 施設（Ⅰ期 3、Ⅱ期 2）、老年期障害分野は 10 施設

(Ⅰ期6, Ⅱ期7), 発達障害分野は3施設(Ⅰ期1, Ⅱ期2), 県外施設の合計3施設(Ⅰ期1, Ⅱ期2)にて実施され, 作業療法評価について学習し, その前後において分野に沿った作業療法セミナーが開講された。「総合実習Ⅰ・Ⅱ」は全施設50施設となる。分野別として身体障害分野は, 28施設(Ⅰ期16, Ⅱ期14), 精神・老年障害分野は20施設(Ⅰ期12, Ⅱ期12), 発達障害分野は4施設(Ⅰ期2, Ⅱ期2)の協力があった。県外施設は合計6施設であった。ほぼ県内で実施可能であったが, 学生の県外出身地域を勘案し, 数か所県外の実習施設に協力を依頼した。「地域作業療法実習」は, 県内23施設にて実施され, うち2施設は県外であった。

2018年度の国家試験合格者数は, 25名(26名受験し1名不合格:合格率96.2%)であった。

卒業論文は, 各学生に対して担当教員を決め指導にあたり発表会を実施し, 卒業論文集を発行した。

4) 評価(成果および改善事項)

臨床実習については, おおきな問題もなく運営できた。実習先との連携や学生の実習に対するの対応する力が伸びていることが確認された。

5) 次年度の方策

高齢化の進展に伴う医療需要の増大や地域包括ケアシステムの構築などにより, 作業療法士に新たに求められる役割や知識が広がってきた。これらの社会情勢に鑑み, 「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則」(1966年文部省・厚生省令第3号。以下「指定規則」という)においてカリキュラムの改善, 臨床実習の在り方, 専任教員の要件などの改正が2020年4月の入学生から適用することが考えられている。動向として管理学や薬学, 画像診断学などのカリキュラムの補強と教員, 臨床実習指導者の指導力の向上が求められることになることと予測される。

これらの指定規則の動向も踏まえ, 開学以来3回目の新々カリキュラムに向けて計画を立てる必要がある, また専攻のコンピテンシーに基づき, アドミッション・ポリシー, ディプロマ・ポリシー, カリキュラム・ポリシー, 新しい指定規則を鑑みながら, 新々カリキュラムの完成に向け, 準備に取り掛かることになる。

7. 学生による授業評価

平成30年度より, 学生による授業評価アンケートを教務委員会が担当して実施することとなった。このアンケートの対象科目は, 前期・後期・通年で開講される講義および演習科目(非常勤講師担当を含む)である。実施に先立ち, アンケート用紙について内容を見直した。従来2つに分けていた質問項目は統合して整理し, すべての項目に対して5段階で回答する方式に変更した。実施に際しては, 予め担当教員にアンケート用紙を必要数配布しておき, それぞれの授業の最終日等, 担当者の判断で適切な時期に実施し, 学生が回収して事務局に提出した。

アンケートの対象科目は385科目で, 履修学生数は14,742名であった。アンケートへの回答があった科目は361科目で, 回答した学生数は延べ10,597名, 回収率は71.9%(平成29年度は69.0%)であった。

回答があった361科目の合計の結果は表に示すとおりである。14項目中11の質問項目で「そう思う」「少しそう思う」を合わせた割合が70~80%と高い数値を示したが, いずれも29年度に比べるとやや低かった。「そう思う」「少しそう思う」を合わせた割合が70%未満の質問項目は, 「予習を行った」「復習を行った」がそれぞれ28.7%, 42.2%(29年度31.9%, 43.8%), 「この授業のシラバスは役に立った」が60.3%(29年度66.4%)であり, これらも29年度よりも低い数値であった。最も評価の高かった項目は, 「教員の熱意が感じられた」83.7%であった。また, 「全体としてこの授業を受けられてよかった」は, 82.2%の学生が肯定的な評価をしており, 本学学生が授業内容に概ね満足していることが推察された。

以上より, 回答があった361科目の合計の結果からは, 本学学生が授業方法やその内容に概ね満足していることが推察できた。しかし, 「予習を行った」「復習を行った」は例年低い数値であり, 学生の主体的な取り組みを促すことに関してなお改善の必要がある。

なお教員には, 担当する授業科目の集計結果と学生からの自由記載によるコメントを通知した。そして, 集計結果表の「教員からのコメント等欄」に, 授業評価結果をふまえてのコメントを記載するよう依頼した。今年度より, コメントの記載を, 集計用紙に記載してもらう方式から, 電子ファイルに直接入力する方式へと変更した。そのコメント記載欄を含めた全科目の集計結果表を学内において, 学生と教職員を対象として, 約1か月公開した。

平成30年度学生による授業評価 : 実数

(人)

	そう思う	少しそう思う	どちらとも言えない	あまり思わない	思わない・無回答	延回答数
授業に積極的に取り組んだ	4,241	4,326	1,753	203	74	10,597
予習を行った	1,307	1,737	2,850	2,015	2,688	10,597
復習を行った	1,639	2,830	3,104	1,520	1,504	10,597
この授業のシラバスは役に立った	3,070	3,313	3,480	483	251	10,597
授業の目標が明確に示されていた	4,136	3,775	2,248	317	121	10,597

成績評価の方法を事前に理解していた	4,398	3,828	1,967	292	112	10,597
内容がよく理解できるように準備されていた	4,479	3,797	1,816	364	141	10,597
授業方法に工夫がなされていた	4,418	3,676	1,993	369	141	10,597
学生の理解度に対して配慮がされていた	4,386	3,590	2,007	442	172	10,597
授業内容が充実していた	4,996	3,489	1,692	300	120	10,597
教員の熱意が感じられた	5,485	3,378	1,456	182	96	10,597
教員の説明はわかりやすかった	4,762	3,476	1,796	385	178	10,597
教員の話し方は聞き取りやすかった	4,841	3,425	1,723	407	201	10,597
全体としてこの授業を受けられてよかった	5,271	3,439	1,533	231	123	10,597

平成30年度学生による授業評価：割合

(%)

	そう思う	少しそう思う	どちらとも言えない	あまり思わない	思わない・無回答	延回答数
授業に積極的に取り組んだ	40.0	40.8	16.5	1.9	0.7	100.0
予習を行った	12.3	16.4	26.9	19.0	25.4	100.0
復習を行った	15.5	26.7	29.3	14.3	14.2	100.0
この授業のシラバスは役に立った	29.0	31.3	32.8	4.6	2.4	100.0
授業の目標が明確に示されていた	39.0	35.6	21.2	3.0	1.1	100.0
成績評価の方法を事前に理解していた	41.5	36.1	18.6	2.8	1.1	100.0
内容がよく理解できるように準備されていた	42.3	35.8	17.1	3.4	1.3	100.0
授業方法に工夫がなされていた	41.7	34.7	18.8	3.5	1.3	100.0
学生の理解度に対して配慮がされていた	41.4	33.9	18.9	4.2	1.6	100.0
授業内容が充実していた	47.1	32.9	16.0	2.8	1.1	100.0
教員の熱意が感じられた	51.8	31.9	13.7	1.7	0.9	100.0
教員の説明はわかりやすかった	44.9	32.8	16.9	3.6	1.7	100.0
教員の話し方は聞き取りやすかった	45.7	32.3	16.3	3.8	1.9	100.0
全体としてこの授業を受けられてよかった	49.7	32.5	14.5	2.2	1.2	100.0

8. 大学全体

1) 評価(成果および改善すべき事項)

平成30年度卒業生に対して実施した卒業時アンケート調査から、本学の教育目標への到達度をみると、多くの学生が各医療専門職としての基本的な実践力を身につけた状態で卒業していると捉えられた。しかし、「地域の健康づくりに貢献する力」「生涯にわたり科学的に真理を探究する力」について、身につけていないとする卒業生が若干多い傾向にあった。「地域の健康づくりに貢献する力」は、今後地域包括ケアシステムが推進されていく中で、ますます重要となる能力であり、平成31年度より導入予定の新々カリキュラムにおいても重視している。新々カリキュラムを展開していく中で、この能力の育成につながる教育内容をさらに充実させていく必要がある。

また卒業時アンケート調査結果では、特色科目、一般教養科目、保健医療基礎科目、専門科目、いずれも教育に対する満足度は概ね高く、授業評価アンケート結果においても、授業全般に対する満足度は高く、学生にとっての教育内容は充実しているといえる。「予習を行った」「復習を行った」の項目は、授業評価アンケートと同様に評価が低くなっており、例年と同様の結果である。時間外の自己学習を促進する方略について検討していくことが求められる。一方でこの予習・復習に関しては、科目の特徴により、予習・復習にかけるウエイトの大きさやその内容が異なるとも考えられる。各科目責任者が担当科目の特徴に応じて授業評価アンケート結果を評価し、学生の学修を支援する方略について担当者レベルで検討する必要がある。

授業評価アンケートについては、今年度より教務委員会担当となったことに伴い、質問項目の見直しを行い、質問項目の順序性を整理した。また平成29年度に実施した教育ワークショップをふまえ、授業評価アンケート結果が教員のFDとして機能するような仕組みについて検討した。その結果、学生の満足度を示す質問項目「全体としてこの授業を受けられてよかった」の回答結果について、「そう思う」5点～「思わない」1点として数値化した平均値を算出し、科目責任者にフィードバックすることとした。またこの項目について、「そう思う」「少しそう思う」と回答した学生数よりも、「あまり思わない」「思わない」と回答した学生数が上回った場合、その授業科目の科目責任者に教務委員会から授業改善を勧告することとした。各科目責任者においては、学生の授業満足度についてこの数値化されたデータを含めて経年的に動向を把握し、授業評価・授業改善につなげていくことが望まれる。また、科目責任者への

アンケート結果のフィードバックはこれまで翌年の前期にまとめて行っていたが、前期分は後期、後期分は翌年の前期の年2回とすることや、コメントの記入を紙媒体から電子ファイルへの記入とすること等の変更を行った。

これまで検討を続けてきた新々カリキュラムに関しては、既に完成しているディプロマ・ポリシーおよび新たに作成したカリキュラム・ポリシーに基づき、さらに現行カリキュラムの評価結果をふまえ、各学科・専攻で新々カリキュラムを作成した。作成にあたっては、1年次から4年次までの学修がディプロマ・ポリシーの達成にどのようにつながるのか、特色科目・一般教養科目から専門科目への順序性を十分に検討し、この流れを視覚化するカリキュラム・マップを完成させた。また、新々カリキュラム導入に合わせて進級要件の設定とGPA制度を導入することとし、関連の規程について整備した。特にGPA制度の導入に関しては、適正な成績評価がGPAの信頼性に直結することから、GPA制度の導入と成績評価をテーマとした教育ワークショップを開催し、FDを行った。

2) 次年度の方策

新々カリキュラムが導入され現行カリキュラムとの同時進行となることや、GPA制度が導入されることから、滞りなく円滑に教育が展開されるよう、事務局との連携を密にしていく必要がある。新々カリキュラムは、これまでの教育課程とその成果を基盤にディプロマ・ポリシーにつながる教育課程として再構築されたものである。各学科・専攻の教員においては、担当授業科目のカリキュラム・マップにおける位置づけを明確にしつつ教育実践を行い、その成果を適切に評価し、さらに評価を授業改善につなげるといった一連の教育展開が望まれる。

授業評価アンケートについては、回収率を高めるための方策や教員へのフィードバックの時期・方法など、未だ多くの課題が残っており、さらに検討を進めていく。また教育の質保証に向けた非常勤講師任用の条件の検討や、ポートフォリオの効果的な活用方法についても検討を進めていく必要がある。

V 学生の受け入れ状況

1. 学生の受け入れ方針

千葉県立保健医療大学学則において、第26条に「本学に入学することができる者」について定めており、入学選抜方法は、一般選抜、特別選抜(推薦入学及び社会人特別選抜)、編入学(3年次)となっている。また、各選抜種別に出願資格があり、「入学者選抜要項」に記載し、受験生および関係者に周知をしている。なお、2019年からは、「3つの方針(学位授与、教育課程の編成・実施、入学者受入)」として、大学ホームページに公表している。

本学が求める学生像については、大学ホームページ、学生募集要項に、大学および各学科・専攻のアドミッションポリシーを提示している。2018年に改正された大学のアドミッションポリシーでは、このカタカナ用語を避けて「入学者受入」として、全学の方針のあとに各学科専攻の方針が示された。

まず、全学方針は、「求める学生像」として、

「千葉県立保健医療大学は、高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材を育成します。本学のカリキュラムを履修することで学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に示された能力を卒業時に発揮できる以下の素養を有する学生を求めます。」と、3つの方針の連関を示し、

「1 基礎的な知識、技能

2 論理的思考力、状況に応じた判断力、自らの考えをまとめて伝えられる表現力

3 保健医療者を目指す者としての適性」を具体的に

「○人間性、コミュニケーション能力

○協働、責任感、地域貢献

○主体性、探求心」として、示した。また、「選抜方法」については、

「入学試験では、基礎的な知識、技能、思考力、判断力、表現力は主にセンター試験、小論文、面接等で評価します。保健医療者を目指す者としての適性は主に面接、調査書等で評価します」と明示した。

また、各学科専攻のアドミッションポリシーでは、「求める学生像」、具体的な「選抜方法」のほかに「入学までに身に付けてほしいこと」として具体的な履修内容を示している。

1) 看護学科では、

「求める学生像 医療の高度化・専門化や社会の多様化に対応できる看護専門職に必要な専門的知識と技術を身につけ、県内の看護職のリーダーとなりうることはもとより、国際的にも貢献できる高い資質をもった人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求めます。

1 看護を通して、社会に貢献する意欲がある人

2 人々の生活や生き様に強い関心を持ち、相手の立場に立って考えることができる人

3 知的好奇心が旺盛で探求心がある人

4 幅広い基礎学力を持ち、論理的・客観的に考える力を持つ人

5 自己を表現する力を持つ人」。さらに、

「選抜方法」として、

「特別選抜・推薦 将来、千葉県内で看護職として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めます。出願資格を全て満たし、出身高等学校長の推薦を受けた者を対象に、大学入試センター試験を免除して、小論文(100点)と面接(100点)の試験及び出願書類の内容から総合的に判定します。」

「特別選抜・社会人 社会人としての経験を持ち、卒業後千葉県内で看護職として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めます。大学の入学資格を有し、出願資格を全て満たす者を対象とし、大学入試センター試験を免除して、英文読解を含んだ小論文(100点)と面接(100点)の試験及び出願書類の内容から総合的に判定します。」

「編入学 既習の看護学をさらに深めるとともに、幅広い教養を身につける意欲が旺盛で、卒業後、看護職に従事する強い意志をもつ人材を求めます。出願資格に該当する者を対象とし、看護学全般の専門知識に関する記述試験(100点)および英文読解を含んだ小論文(100点)と面接(100点)の試験、出願書類の内容から総合的に判定します。」

「一般選抜 看護学を学ぶ意志のある人材を求めます。大学入試センター試験および個別学力検査等の結果と調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行います。大学入試センター試験、小論文(150点)と面接(100点)による試験を実施します。詳細は入学者選抜要項のとおりです。」

「入学までに身に付けてほしいこと 専門職は、創造的に解決策を見出していく能力が求められます。そのため、固定観念にとらわれず、知的好奇心をもって自ら積極的に調べ、疑問や問題を解決する習慣を身につけてきてください。

また、看護の対象とする人々は多様です。異なる年代や価値観を持つ人々と共に活動する経験をしてきてください。

多様な人々とコミュニケーションをとるための学習や物事を論理的に考えるための学習、及び、人々の生命現象や生活を理解するための学習をしてきてください。例えば、前者には、国語、英語、数学の学習が役立ちます。また、後

者には、生物、化学、物理、地理歴史、公民の学習が役立ちます。大学での学びの基盤となる幅広い基礎学力を身につけてきてください。」としている。

2) 栄養学科では、

「求める学生像 栄養学科では、生命活動を分子レベルで理解することを基本とした栄養学分野を総合的に学び、豊かな人間性を備え心身の健康に大きく貢献できる人材、望ましい食事及び人の栄養状態を適正化する方法を総合的・科学的に探究できる人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求めます。

- 1 管理栄養士の国家資格の取得を前提目標として学ぶ意欲を持つ人
- 2 倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たすことができる人
- 3 科学的な裏づけで得られた専門的な知識・技能を活用して健康づくりに貢献できる人
- 4 多職種との相互理解を深めながらコミュニケーションや行動ができる人
- 5 個人・家族・地域社会・国際社会への貢献や生涯にわたる自己研鑽ができる人」としている。

「選抜方法」として、

「特別選抜・推薦 将来、千葉県内で管理栄養士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めます。小論文・面接試験を課しています。小論文（100点）は物事を論理的に考え理解したことを自分の言葉で表現する能力を、面接（100点）では健康状態、高校生活、一般的質問、簡単な専門的質問についての質疑応答を通して、保健医療従事者に求められる責任感および道徳観、適性、意欲、コミュニケーションなどの能力を総合的に判定します。」

「特別選抜・社会人 社会人としての経験を生かして千葉県内で管理栄養士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めます。小論文・面接試験を課しています。小論文（100点）は論理的思考能力、表現力、理解力、学力を問う問題（英語）を、面接（100点）では健康状態、社会経験、簡単な専門的質問についての質疑応答を通して、保健医療従事者に求められる責任感および道徳観、適性、意欲、コミュニケーションなどの能力を総合的に判定します。」

「一般選抜 管理栄養士として活躍することを志望する人材を広く求めます。大学入試センター試験（550点）および個別学力検査として小論文（150点）・面接（100点）試験を課しています。小論文は物事を論理的に考え理解したことを自分の言葉で表現する能力を、面接では健康状態、一般的質問、簡単な専門的質問についての質疑応答を通して、保健医療従事者に求められる責任感および道徳観、適性、意欲、コミュニケーションなどの能力を総合的に判定します。」

「入学までに身に付けてほしいこと 入学を希望する人は、コミュニケーション能力、新しい事象の理解力や問題解決に取り組む能力、物事を論理的に考え理解したことを自分の言葉で表現する能力を必要とする専門科目を学ぶために、高等学校において、英語、数学、国語、化学基礎および生物基礎を中心とした基礎学力を身に付けておいてください。」としている。

3) 歯科衛生学科では、

「求める学生像 歯科衛生学科では、高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、口腔保健の専門知識と技能を身につけるための科学的探究心を持ち、保健医療の国際化に対応できる人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求めます。

- 1 口腔の健康に深い関心を持ち、人々の健康増進に貢献したい人
- 2 豊かな人間性を備え、相手の気持ちを理解できる人
- 3 科学的な探究心を持ち、自ら意欲的に取り組もうとする人
- 4 基礎学力があり表現力が豊かで、自分の考えや意見を論理的に説明できる人
- 5 コミュニケーションを通じて人々と協調できる人」としている。

「選抜方法」としては、

「特別選抜・推薦 千葉県内で歯科衛生士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めます。小論文試験（100点）と面接試験（100点）により学生を選抜します。小論文では、論理的・客観的な表現力について判定します。面接では、勉学意欲を含め、協調性、論理的に説明する力を総合的に判定します。」

「特別選抜・社会人 社会人としての経験を生かして千葉県内で歯科衛生士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めます。小論文試験（100点）と面接試験（100点）により学生を選抜します。小論文では、論理的・客観的な表現力について判定します。面接では、勉学意欲を含め、協調性、論理的に説明する力を総合的に判定します。」

「一般選抜 歯科衛生士として地域で活躍することを志望する人材を広く求めます。大学入試センター試験（550点）および個別学力検査での小論文試験（150点）と面接試験（100点）により学生を選抜します。小論文では、論理的・客観的な表現力について判定します。面接では、勉学意欲を含め、協調性、論理的に説明する力を総合的に判定しま

す。」

「入学までに身に付けてほしいこと 口腔の健康管理を通して地域社会に貢献する歯科衛生学を学ぶためには、高等学校で学習する基礎的な知識・技能が幅広く求められます。同時に、豊かな人間性を高めつつ、他者とコミュニケーションを上手に図れるようにすることが大切です。入学までに身につけておくべき主な科目は次のものです。

国語：近代以降の文章において、筋道を立てて読み取る読解力とともに、正しく明確な表現力を身につけておくこと。

地理歴史・公民：広く社会に関心を持ち、多様な価値観があることを理解しておくこと。

英語：基礎的な読解力やリスニング、発信力を身につけておくこと。

数学：統計学などで必要となる論理的な思考力を身につけておくこと。

理科：自然科学に関心を持ち、その基礎的な考え方を身につけておくこと。」としている。

4) リハビリテーション学科理学療法学専攻では、

「求める学生像 理学療法士として社会に貢献する意志と能力を持った人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求めます。

1 理学療法士の役割を理解し、理学療法士となる明確な目的意識を有している人

2 理学療法学を学んでいくにあたって必要な基礎学力を有している人

3 自分の意見を適切な日本語で表現できる人

4 障害のある人に対してもない人に対しても、適切なコミュニケーション能力を有している人

5 保健医療福祉領域だけでなく広く社会に関心が高く、様々な問題に挑戦できる人」としており、

「選抜方法」としては、

「特別選抜・推薦 将来、千葉県内で理学療法士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めます。

・小論文(100点)では、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題文に対する読解力、論理的思考力、国語表現力等を評価します。

・面接(100点)では、調査書等の出願書類を参考に、理学療法士を目指す動機、意欲、努力、適性等を総合的に評価します。」

「特別選抜・社会人 将来、千葉県内で理学療法士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めます。

・小論文(100点)では、高等学校で得た基礎学力を前提に、課題文に対する読解力、論理的思考力、国語表現力等を評価します。

・面接(100点)では、出願書類を参考に、今までの経歴を経て、理学療法士を目指す動機、意欲、努力、適性等を総合的に評価します。」

「一般選抜 基礎学力の把握のため、大学入試センター試験(550点)を課すとともに、小論文(150点)で課題文に対する読解力、論理的思考力、国語表現力等を評価します。

・面接(100点)では、調査書等の出願書類を参考に、理学療法士を目指す動機、意欲、努力、適性等を総合的に評価します。」

「入学までに身に付けてほしいこと 理学療法学を深く理解するため、理系科目、特に物理(力学、熱力学、電磁力学)についての基礎的な知識と科学的な思考力を身につけていることが望まれます。」としている。

5) リハビリテーション学科作業療法学専攻では、

「求める学生像 豊かな人間性や高い倫理観、鋭敏な感受性と多彩な表現力を基に、対象者の立場になって作業療法を提供できる態度・能力を身につけ、人々の健康づくりを支援し、作業療法の臨床、教育、研究の発展に貢献できる人材の育成を教育理念とし、次のような学生を求めます。

1 対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることを望んでいる人

2 個人・家族・地域が健康的またはその人らしい生活を送るための健康づくり支援を提供したいと思っている人

3 人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する地域環境(人・物・制度)の整備・改善に努めたいと思っている人

4 対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動する適性を持っている人

5 論理的思考による探究心を身につけ、自己研鑽に励み、倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たす適性を持っている人」としており、

「選抜方法」としては、

「特別選抜・推薦 将来、千葉県内で作業療法士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めます。

小論文(100点)では、課題文に対する読解力、論理的思考力、文章表現力等を評価します。

面接（100点）では、調査書等の出願書類を参考に、作業療法学専攻を志願する理由、意欲、適性などを総合的に評価します。」

「特別選抜・社会人 将来、千葉県内で作業療法士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めます。

小論文（100点）では、高校及びその後の社会人経験の中で身につけた学力を前提に、課題文に対する読解力、論理的思考力、文章表現力等を評価します。

面接（100点）では、調査書等の出願書類を参考に、出願までの経歴を経て、作業療法学専攻を志願する理由、意欲、適性などを総合的に評価します。」

「一般選抜 大学入試センター試験（550点）を課すとともに、小論文（150点）で課題文に対する読解力、論理的思考力、文章表現力等を評価します。

面接（100点）では、調査書等の出願書類を参考に、作業療法学専攻を志願する理由、意欲、適性などを総合的に評価します。」としており、

「入学までに身に付けてほしいこと 作業療法学を習得するために、「物理」、「人体の機能（生理学）」、「人体の構造（解剖学）」、「運動学」の科目は全員が必ず履修しなければいけない必修科目です。高等学校の教科では、生物基礎、化学基礎、物理基礎がこれらの科目の基礎になりますので、身につけておいてください。」としている。

2. 年度当初の重点課題

このアドミッションポリシーは、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーも同様に、平成27年度から自己点検評価の対象となってきたものであり、これからも十分な検討が必要である。そのため、平成29年度中に発表し、さらに平成30年には、大学のアドミッションポリシーと各学科のアドミッションポリシーとを整合される整理を行われ、さらに、より具体的な「入学までに身に付けてほしいこと」が示された。

また、入試改革と高大連携が進んで、高等学校の次の学習指導要領も発表され、入試制度改革も同時に進んでいる。過年度卒や社会人などこれからも新・旧課程の大学生が混在した状況が続く中で、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーの整合性を図ることを継続的に行っている。

これまでも入学者の学力把握については、組織的な対応ではなく、1年次前期科目担当者による個別の対応（基礎学力テスト）や、入学前の高等学校履修科目の調査（理科・数学等）にとどまってきた。新カリキュラムへの反映も検討に至っていない。とくに、次の学習指導要領では、数学・理科の大幅な変更が予定されているため、検討が必要な学科専攻もある。

平成25年6月、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる「障害者差別解消法」）が制定され、平成28年4月1日から施行となった。さらに、平成29年4月には、千葉県としての対応要領が公表され、あわせて大学としての対応要領も示されることになった。こうした対応要領に基づいた実質的な対応については、障害のある学生の受け入れについて、学生募集要項に「特別の配慮を必要とする志願者との事前相談」として、「障害を有する等、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、・・・（中略）・・・千葉県立保健医療大学学生支援課（表紙参照）まで連絡し、相談してください。」と記載しており、これまでどおりの事前相談を用意してきたが、今後は学生側からの申告があった場合にどのような「合理的配慮」をとるかという対応も必要となる。

3. 入学者選抜状況

本学の入学定員は、看護学科80名、栄養学科25名、歯科衛生学科25名、リハビリテーション学科50名（理学療法学専攻25名、作業療法学専攻25名）、計180名、3年次編入学（看護学科）10名である。

選抜方法については、年度毎の入学者選抜要項、学生募集要項において明示するとともに、以下のように実施している。

<一般選抜>

前期日程で実施している。募集人員はこれまで各学科・専攻入学定員の6割としてきたが、平成31年度入学者選抜から5割となった。大学入試センター試験の試験科目は、全学科、全専攻とも5教科である。平成27年度入学者選抜から、国語、地理歴史・公民、数学、外国語の4教科については、これまで通り各学科・専攻で共通した科目であるが、理科については、各学科・専攻で指定する科目が異なることとなった。平成30年度入試でも同じ対応である。

合否の判定は、大学入試センター試験及び個別学力検査等の結果と調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行っている。配点は、センター試験550点（国語、地理歴史・公民、数学、理科がそれぞれ100点、外国語が150点）、個別学力検査の小論文が150点、面接が100点である。出願者数とその学科・専攻の募集人員の3倍を超えた場合には、大学入試センター試験の成績により第1段階選抜を実施し、第1段階選抜の合格者に対してのみ個別学力検査等の第2段階選抜を実施している。

<推薦入学>

特別選抜として、推薦入学及び社会人特別選抜を行っており、募集人員は推薦入学と社会人特別選抜（若干名）を合わせて各学科・専攻入学定員の4割以内であったが、平成31年度入学者選抜から5割以内となった。出願資格における評定平均値は、出願時までで3.8以上の者としている。推薦入学の合否の判定は、大学入試センター試験を免除して、小論文と面接の試験を行い、その結果と調査書等の提出書類の内容について総合的に判定して行っている。配点は、小論文が100点、面接が100点である。

<社会人特別選抜>

募集人員は若干名であり、推薦入学と社会人特別選抜(若干名)を合わせて各学科・専攻入学定員の4割以内であったが、5割以内となった。社会人特別選抜の可否の判定は、大学入試センター試験を免除して、小論文と面接の試験を行い、その結果と願書類等の内容について総合的に判定して行っている。配点は、小論文が100点、面接が100点である。なお、小論文については、入学者選抜要項において、「英文読解を含む」と提示し、基礎的学力についても審査している。

<編入学(3年次)>

募集人員は看護学科10名である。編入学(3年次)の可否の判定は、大学入試センター試験を免除して、小論文、専門科目及び面接の試験を行い、その結果と願書類等の内容について総合的に判定して行っている。配点は、専門科目が100点、小論文が100点、面接が100点である。なお、小論文については、入学者選抜要項において、「英文読解を含む」と提示し、基礎的学力についても審査している。

以上のように、いずれの選抜においても小論文試験、面接試験を行うことで、基礎学力を含め、アドミッションポリシーに沿った選抜を行っている。

なお、平成24年度から実施されている新高等学校学習指導要領による、平成27年度入学者選抜(一般入試)における大学入試センター試験利用科目を指定するにあたり、平成24年12月までに、学部、各学科・専攻において検討がされた。国語、地理歴史・公民、数学、外国語の4教科については、これまで通り各学科・専攻で共通した科目としたが、理科については、入学するにあたり修得しておくべき知識を検討した結果、各学科・専攻で指定する科目が異なることとなった。この検証は、今年度中に行われる予定である。

なお、平成31年度までの入学者選抜状況として、平成21年度開学時からの受験競争率(出願者数を合格者数で割ったもの)を示した(表1)。

表1 受験競争率の状況(出願者数/合格者数)

一般選抜 (倍)											
年度	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年
看護学科	3.9	4.0	3.4	3.9	3.5	5.0	2.8	2.7	3.7	3.4	2.7
栄養学科	4.5	3.4	4.6	4.8	5.4	6.9	3.5	4.3	4.1	4.4	2.6
歯科衛生学科	1.3	3.3	3.6	2.5	3.0	3.9	4.1	1.3	2.5	2.7	2.6
リハビリテーション学科 理学療法専攻	5.5	6.0	5.3	5.5	6.3	3.9	3.6	1.2	4.4	3.3	4.8
リハビリテーション学科 作業療法専攻	2.6	5.6	2.7	3.9	6.1	4.6	3.7	1.8	4.1	4.1	3.3

推薦入学 (倍)											
年度	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年
看護学科	1.8	2.7	2.4	2.7	3.0	2.3	2.6	3.4	2.4	2.9	1.9
栄養学科	2.8	3.9	4.0	3.4	3.4	4.4	3.1	4.4	2.7	3.9	3.2
歯科衛生学科	1.0	1.2	1.0	1.1	1.7	1.3	1.4	1.0	1.8	1.9	1.0
リハビリテーション学科 理学療法専攻	2.6	4.1	3.9	4.1	2.5	3.3	3.1	2.6	2.3	3.0	1.7
リハビリテーション学科 作業療法専攻	1.3	1.4	1.4	3.6	1.8	1.1	2.2	1.8	1.2	1.9	1.3

社会人特別選抜 (倍)											
年度	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年
看護学科	8.3	7.3	9.3	8.0	6.0	12.5	6.3	3.6	6.5	4.5	4.0
栄養学科	3.0	3.0	2.5	3.0	6.0	5.0	—	3.0	—	—	—
歯科衛生学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リハビリテーション学科 理学療法専攻	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.0
リハビリテーション学科 作業療法専攻	5.0	5.0	—	5.0	—	—	—	—	—	—	—

* —は、合格者がいない年度

編入学(3年次)

編入学(3年次) (倍)											
年度		23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	
看護学科		2.7	3.3	2.3	4.7	14.0	3.6	3.2	7.5	12.0	

合格者数に対する出願者数の割合である受験競争率は、一般選抜では、看護学科 2.7 倍～5.0 倍、栄養学科 3.4 倍～6.9 倍、歯科衛生学科 1.3 倍～4.1 倍、リハビリテーション学科理学療法学専攻 1.2 倍～6.3 倍、作業療法学専攻 1.8 倍～6.1 倍となっている。各学科専攻とも、前年度の競争率が高い場合には次年度の競争率が下がり、前年度の競争率が低い場合には次年度の競争率が上がるという傾向がある。平成 31 年度入学者選抜から定員の割合を 6 割から 5 割へと下げたため、受験を考えていた層の受験回避を招いた可能性がある。

推薦入学では、看護学科 1.8 倍～3.0 倍、栄養学科 2.8 倍～4.4 倍、歯科衛生学科 1.0 倍～1.7 倍、リハビリテーション学科理学療法学専攻 2.5 倍～4.1 倍、作業療法学専攻 1.1 倍～3.6 倍となっている。平成 31 年度入学者選抜から割合を 4 割から 5 割以内としたため、各学科専攻とも、競争率が低下した可能性がある。なお、歯科衛生学科では、1.0 倍を維持している状況が続いており、作業療法学専攻も年度によっては 1.5 倍を下回っている。

社会人特別選抜は、看護学科、栄養学科については毎年受験者があり、受験競争率は、看護学科では 3.6 倍～12.5 倍、栄養学科では 2.5 倍～6 倍である。社会人特別選抜の募集人員は若干名であり、毎年看護学科では 1～4 名、栄養学科では 1～2 名の合格者がある。

看護学科の編入学(3 年次)は、平成 23 年度より実施しており、2.3 倍～4.7 倍で推移しており、平成 27 年度と平成 31 年度だけ 14.0 倍と 12.0 倍と高倍率であった。

4. 学生募集のための取り組み

学生募集のために行っている広報活動は、以下のとおりである。

① 大学案内の作成・配布、ホームページへの情報掲載

入試実施部会が中心となり、大学案内を作成している。大学案内には、大学の教育理念、学部・学科の構成、カリキュラムの構成、各学科・専攻の教育内容、学生生活、選抜試験の日程と過去の選抜状況、就職進学状況、国家試験合格率を掲載している。大学案内は、個人での入手希望者への配布の他、オープンキャンパス・大学模擬授業・説明会・高校での模擬講義・説明会等で配布し、県内の高校へ送付している。

ホームページには、大学の概要、入学者選抜要項、学生募集要項(アドミッションポリシーを含む)を掲載している。

② オープンキャンパスの開催

毎年、7 月または 8 月の土日の 2 日間において、各日半日ずつ開催している。全体説明会では、学長挨拶、大学紹介、入試説明を行い、その後各学科・専攻で教育内容の説明、施設見学、体験学習、個別相談等を行っている。来学者は毎年 2 日間で 2000 人程度(保護者等を含む)であり、平成 28 年度は 2184 名であった。来学者によるアンケートの結果から、受験希望者にとってオープンキャンパスの満足度は高いことがわかっている。また、地域の高校生からの希望を受けて、土曜日の午後・日曜日の午前という組み合わせの実施が参加しやすさを実現していると判断できる。

③ 高校での模擬講義・説明会等の実施、高校からの訪問への対応、大学模擬授業・説明会への参加

平成 21～25 年度までに大学に依頼のあった 407 件の高校訪問・高校からの本学訪問・大学模擬場行・説明会のうち 321 件について、のべ 375 名の教員が協力した。高校訪問・大学模擬授業・説明会の内容は、高校や指定会場での本学と各学科の説明、模擬講義等である。高校からの本学訪問については、本学と各学科の説明、模擬講義、施設見学等、高校からの依頼に合わせて対応している。

高校訪問・大学模擬授業・説明会等への出席件数および派遣教員数の実績は下記表 2 の通りである。依頼される件数が開学時より平成 23 年度まで年々増加し、すべての依頼に対応するには教育・研究に支障が出てきたため、平成 24 年度からは過去に出席した教員の意見等を踏まえた出席についての基本方針を定め、それに則り出席を検討して実施している。

表 2 高校訪問・大学模擬・説明会への出席件数および派遣教員数

年度	依頼件数	出席件数	派遣教員数(延数)	出席者数(延数)
平成 21 年度	45	42	54	—
平成 22 年度	79	69	93	1431
平成 23 年度	103	93	104	2129
平成 24 年度	94	61	64	1392
平成 25 年度	86	56	60	1210
平成 26 年度	85	43(資料参加を含めると 56)	46	1068
平成 27 年度	74	43(資料参加を含めると 60)	45	1117
平成 28 年度	98	67(資料参加を含めると 86)	73	1538
平成 29 年度	134	83(資料参加を含めると 117)	89	2082
平成 30 年度	143	79(資料参加を含めると 118)	90	2011

④ 受験情報誌への情報提供

受験情報企業等からの情報提供の要請に対し、依頼元の信頼性を考慮した上で、学生支援課による情報提供を行って

いる。

以上のような広報活動を行う中で、本学のアドミッションポリシーや教育内容への理解を促し、適性のある受験生に受験の意思決定をしてもらえるようにしている。

⑤過去問の公開

大学ホームページ上で著作権に配慮して公開している（著作権処理は行っていないため、当該部分を載せない方式である）。また、本学に来訪する受験生については、学生支援課窓口付近で過去問閲覧を認めるようになった。

<入学者選抜の実施体制>

入学者選抜の実施体制は、以下のとおりである。

入試委員会…学長直属の委員会であり、委員長は学長、所掌事務は「1. 学生の募集に関すること、2. 入学者選抜に関すること」である。

入試実施部会…入試委員会の部会であり、所掌事務は「1. 学生の募集に関する事項、2. 入試の計画及び実施に関する事項、3. その他入試の実施に関すること」である。

入試評価部会…入試委員会の部会であり、所掌事務は「1. 入学者選抜試験問題及び入学者選抜試験結果の分析に関すること、2. 入学者選抜試験実施の評価に関すること、3. 入学者選抜試験に関する改善の検討に関すること、4. その他入学者選抜試験の調査及び評価に関すること」である。

なお、合否の判定については、教授会での審議を経て決定される。

<入学者選抜における公正性を確保するための措置>

問題作成者氏名、試験問題については、入試委員長を筆頭にした数人と問題作成者だけが知り得ている。問題作成者氏名、試験問題に関して、口頭で秘密保持を説明し、誓約書の提出は求めている。

いずれの選抜においても、校正は3回行い、引用文献の妥当性、設問と模範解答の適正、採点基準の内容と配点を吟味している。印刷作業についても、他の教職員が立ち入らない状況で、入試実施部長他最少人数で行っている。

小論文試験の採点は、数個の採点班に分かれ、評価の視点・評価表を用いて一人の受験生について複数の教員で採点している。採点基準の説明後、採点班の責任者を中心に採点基準の相互確認を実施している。採点終了後の点数確認の際、点数差の大きい場合は採点班の全員で採点内容を確認している。採点終了後に採点班の全員で点数を確認し、後日、入試実施部会員による入力作業の際、評価点及び小計を確認しながら入力している。

面接試験に関しては、各学科・専攻毎に、アドミッションポリシーに沿った入学者選抜が行えるように評価基準を作成し、判断の偏りをできるだけ小さくするようにしている。

なお、教授会における合否判定の際には、受験番号のみで行っている。

<入学者選抜における透明性を確保するための措置>

配点については、入学者選抜要綱、学生募集要項掲載している。すべての選抜で、試験問題や評価観点の公開、合格に関する得点の公開などはしていない。

入試の個人成績の開示については、個人の総合得点のみを開示している。平成31年度入試で開示を求めたのは52件（特別選抜32件、編入学0件、一般選抜20件）であった。

<入学者選抜の検証体制>

入学者選抜の検証作業は、入試評価部会が行っている。毎年、それぞれの入試の選抜結果について、小論文・面接など入試科目の得点から選抜に有効に機能する試験が行われたか、小論文試験の内容・採点時の評価指標は妥当であったかを検討し、評価している。

また、その年の入試結果の特徴や、入学後の学生の傾向から注目した点について、項目間の相関などを分析し、入試の妥当性について評価している。平成26年には1期生について、入学時（入学者選抜）の試験区分と入学後の修学状況について追跡調査を行い、入試評価を行った。平成27年からは、新課程入試対応の状況が入試だけでは把握できないため、体験ゼミナール（特色科目）の枠内で、高等学校理科学習状況、センター試験科目選択状況とさらに、理科の自己診断テスト（および情報リテラシーI授業内で、中学程度の数学チェック）を行い、具体的な特徴を捉えようとした。

それぞれの入試について、各担当教員に入試実施後のアンケートを依頼し、入試の運営について意見を得ている。まとめた結果は、入試評価部会から入試実施部会に資料として提出し、次年度以降の入試運営に活かされている。

5. 学生の在籍状況

平成31年3月31日現在の在籍学生総数は731名であり、収容定員(740名)対比は0.99である。学科・専攻別の収容定員対比は、看護学科が0.99(在籍学生数335名、収容定員340名)、栄養学科が1.00(在籍学生数102名、収容定員100名)、歯科衛生学科が0.95(在籍学生数95名、収容定員100名)、リハビリテーション学科理学療法学専攻が1.00(在籍学生数100名、収容定員100名)、作業療法学専攻が0.99(在籍学生数99名、収容定員100名)である。

<退学者>

開学時から平成31年3月31日現在までの退学者総数は45名である(表3)。学科別では、看護学科11名、栄養学科7名、歯科衛生学科9名、リハビリテーション学科理学療法学専攻10名、同作業療法学専攻8名である。

退学した45名の退学理由のうち、多くは進路変更であり、若干名は家庭の事情(経済的理由含む)であった。退学した学年は3年次が最も多いが、ほとんどの退学者が休学期間を経てから退学しているため、事実上は1~2年次の段階で履修を中断している。入学総数(除籍・編入学を除く)1620名に対し、退学者は2.78%の割合であるが、退学理由の多くが進路変更であることから、受験生に対し、入学前に本学の教育内容等について理解を促すことが必要である。

表3 退学者数

2019年3月31日現在 退学者（休学後退学）名

学科等 入学年度	看護 学科	栄養 学科	歯科衛生 学科	リハビリテーション学科 理学療法専攻	リハビリテーション学科 作業療法専攻	計
平成21年度	4(3)	1(1)	0	2(2)	1(1)	8(7)
平成22年度	1(1)	1	1(1)	0	2(2)	5(4)
平成23年度	0	3(3)	1	2(2)	0	6(5)
平成24年度	0	0	0	2(2)	0	2(2)
平成25年度	1	2(2)	1(1)	2(2)	0	6(5)
平成26年度	1(1)	0	0	1(1)	0	2(2)
平成27年度	2(2)	0	1(1)	0	0	3(3)
平成28年度	0	0	1(1)	0	0	1(1)
平成29年度	1(1)	0	1(0)	1(1)	2(2)	5(4)
平成30年度	1(1)	0	3(2)	0	3(2)	7(5)

6. 評価（成果および改善すべき事項）

学生の受け入れ方針を広く社会に明示しており、その方針に沿って公正かつ適切な学生募集および入学者選抜を行っている。また、入学者選抜の検証体制も整っている。開学時以降、学生収容定員と在籍学生数の比率は適切に保たれている。

①効果が上がっている事項

入学者選抜状況で示したように、本年度から、推薦を五割未満とする上限改正が行われた。歯科衛生学科では推薦入学の受験倍率（合格者数／出願者数）が1.0倍を維持している状況であるが、それ以外は、各学科・専攻において一般選抜では3.0倍～6.0倍程度、推薦入学については2.0倍～4.0倍程度の受験倍率を保っている。高校での模擬講義・説明会やオープンキャンパス等において、大学の理念や教育内容が理解され、志願者数が確保されているものの、定員比率変更のためか、一般入試では、前年に対し減少がみられた。

入試委員会と入試実施部会による入試の実施体制・検証体制の検討の取り組みにより、入学者選抜の手続きは公正に行われ、その検証を入試評価部会で実施している。

②改善すべき事項

3つの学力として全学・各学科専攻の入学者受入がこれまでよりも整合したものとなった。ただし、今後とも入学者の学習歴に対応したものと、明確な関連を示す必要がある。とくに、高大連携による入試改革が進んでいるため、これまで以上に高校への明確な指針を示すことも考えなければならない。

情報公開に関して、入試結果については、個人の総合得点のみを口頭開示しているほかは、試験問題や合格に関する得点の公開などはしていない。文部科学省からの公平性担保の指示もあり、入学者選抜における透明性を確保するための措置として、今後とも「出題の意図」「解答例」なども、情報開示について検討する必要がある。

個別の入試については、社会人特別選抜は、募集人員は若干名としているため、年度により志願者数に差があることが問題とは認識されてこなかった。入学生が出ていない学科もあり、社会人特別選抜のあり方について検討が必要である。看護学科の編入学（3年次）は、受験倍率は2.3倍～14.0倍で推移しているものの、各年度の入学者は1～7名であり、入学者がいないこともあった。編入学定員に対する編入学生数比率は、0.10～0.70である。今後、定員数の検討、または試験の評価方法を検討し適切な定員充足を確保する必要がある。

また、平成27年度入学生からは、センター試験入試科目が学科専攻によって異なり、また、科目数も変更したため、受験者層自体が変化した可能性がある。入学生の学力動向については、従来から一般選抜と特別選抜（社会人入試・編入学試験含む）の学力差（一般選抜の方が高い）とだけしか想定されていないため、入学生の学力実態という本質的な問題が見えなくなっている恐れがある。今後とも入学時の学力把握を行い、卒業時まで追跡する必要がある。さらに、入学時の学力測定とカリキュラムの適正な設定など、検討課題が残されている。

なお、いわゆる「障害者差別解消法」への対応については、具体的な要綱を定めた後、組織的な対応が必要となるため、今後とも組織整備が必要である。

7. 次年度の方策

いわゆる3つのポリシーの適正な関係を示した上で、大学入試改革で要求される方針へ整合させる必要がある。その上で、入学者選抜を位置づけておく必要がある。また、いわゆる入試制度改革が進んでいるため、新制度への対応も必要に迫られている。

入学試験問題の公開は予算的な問題（公開のための予算が認められない）はあるものの、いつその工夫・対応が必要である。

平成 27 年度から高等学校新指導要領が適用される新課程入学生を受け入れ、卒業生を出す段階になった。社会人を含め、新・旧課程の入学生が混在した状況で、学生の学修が適正に行われるかどうかを今後とも追跡する必要がある。

さらに、いわゆる「障害者差別解消法」に対応した学生受け入れ体制を整える必要があるが、とくに学内での障害を持つ身体的ばかりでなく、いわゆる発達障害を含む) 学生への組織的な教育体制を整えることも行わなければならない。

VI 学生支援

1. 年度当初の重点課題

学生部（学生委員会・進路支援委員会）としては以下の活動に積極的に取り組んでいきたい。①学生支援に関して、所掌事務及び重点政策に関する活動、および学生支援計画に沿った活動を行う。特に、「卒業時調査」などで評価が低い項目を中心に、支援の充実をはかる必要がある。②進路支援に関して、所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率100%（全学科・専攻）をめざし、学科専攻と連携を図り、大学全体として取り組んでいきたい。

また、各学科・専攻については、学科・専攻が掲げた「次年度の方針」を適切に実施していく。

2. 活動内容

1) 学生委員会

- (1) 学生の福利厚生：①平成 30 年度学生支援計画を立案し、以下のような活動を行った。学生ホールの椅子とテーブルの増設について平成 31 年度予算要求をした。県庁生協による仁戸名キャンパスの無人販売の経過を把握し、適切な販売がされるよう学生へ協力を促した。学生向けセミナーについて、次年度開催の方針を決定した。駐輪の現状を把握し対策の必要性を検討した。②学生から教員への相談について実態調査を行い分析した。③学生保険の加入状況を随時把握し学生指導を行った。平成 31 年度学生保険について検討した。④「平成 31 年度学生ハンドブック」の内容を検討し、加除修正した。
- (2) 学生の保健衛生：①平成 30 年度健康診断を実施した。健康診断結果を 4 月中に実習施設に提出する必要があるリハビリテーション学科 4 年生数名については、昨年度整備した方法により学校医のクリニックで健康診断を実施できるようにした。診断結果に基づき学生指導を行った。②平成 30 年度ワクチン接種計画（B 型肝炎ワクチン・インフルエンザワクチン）を立案し実施した。また、ワクチン接種状況を継続的に把握し学生指導を行った。③ワクチン接種に係る配布資料等を検討した。④平成 31 年度健康診断の実施計画について検討した。⑤「平成 31 年度自己健康管理ファイル」の内容を検討し、最新情報を加筆するなど修正した。⑥平成 31 年度健康診断前後の指導に係る資料を検討し、最新情報に改善した。⑦平成 31 年度健康診断中、唯一学生負担であった Q F T 検査について他の県立専門学校と共同して県負担を要請し、予算化された。
- (3) 学生の課外活動：①学生団体（学生サークル）設立申請を審議した。②大学祭の実施を支援した。③新入生歓迎会・スポーツ大会等の学生会の活動を支援した。④学生会の運営について助言・支援した。
- (4) 奨学金等貸与：日本学生支援機構奨学生を選考し推薦を行った。
- (5) 授業料等の減免：授業料減免（前期・後期）について審議した。
- (6) 教授会が付託した事項：千葉県立保健医療大学学生表彰について検討した。
- (7) 後援会、同窓会：①学生支援のために後援会理事会と連携した。特に、開学 10 周年記念としての後援会からの寄付の申し出に対し、幕張キャンパスおよび仁戸名キャンパス講義室の机 21 台、椅子 258 脚の寄贈を受けることになり、その調整をした。②後援会からの要望をうけて県庁生協幕張売店および仁戸名キャンパスでの販売において学生応援フェアの開催を支援した。③同窓会へ大学祭への支援を依頼した。④卒業生への同窓会入会に関して支援を行った。
- (8) その他：①平成 30 年度卒業式の運営について検討した。②平成 31 年度緊急消防援助隊の合同訓練への学生ボランティア協力について検討し、次年度協力をする事とした。③学生と学長、学部長、学生部長との懇談会を年 3 回開催した。

2) 進路支援委員会

- (1) 就職・進学支援：①平成 30 年度進路支援計画に基づき、全学的な事業や学科専攻毎の事業を含め、大学全体として学生への進路支援を行った。②平成 29 年度キャリアセミナーの評価をふまえ、平成 30 年度第 1 回・第 2 回・第 3 回キャリアセミナーの企画・運営・評価を行った。③進路情報室の運営を行い、利用状況の把握を行った。学生向け求人一覧等の改善を行った。幕張キャンパスの進路情報室にハローワーク・ジョブサポーターの派遣（週 1～2 回）を依頼した。また、仁戸名キャンパスの学生が、就職相談ができるよう、仁戸名キャンパスへの派遣も依頼し、派遣（9 月～11 月）が実施された。学生には好評であった。④ジョブサポーターと情報交換・意見交換を行い、ジョブサポーターと教職員が同じ考え方のもと連携して進路支援を行うことができるようにした。学科の進路支援事業への協力（講義・情報提供）もいただいた。⑤平成 30 年度の就職進学状況についてとりまとめを行った。⑥平成 31 年度の「進路ガイドブック」の内容を千葉公共職業安定所の協力を得た上で、検討し改善した。相談が多かった手紙、履歴書の書き方、面接の流れ、また法令等変更による修正等の改善を行ったため、全学生に現在求めら

れている書類等の情報が伝わるものとなった。⑦進路支援事業に関して後援会に助成を依頼する内容を検討した。

⑧平成30年度就職率は100%であった。

- (2) 国家試験対策：①平成29年度・30年度国家試験結果をとりまとめた。②学科専攻と連携を図り、大学全体として学生への国家試験受験支援を行った。③国家試験模擬試験受験に対して後援会から助成を受けられるよう各委員が調整し、助成を受けられた。④国家試験に関わる手続きを確認し、学生の書類作成の支援、願書の提出、受験票の配布、免許申請手続き等を行った。⑤平成30年度国家試験合格率は、保健師91.4%、助産師100%、看護師98.7%、管理栄養士96%、歯科衛生士100%、理学療法士100%、作業療法士96.2%であった。
- (3) 県内就職の推進：①平成30年度県内就職率は69%（前年度62%）であった。②進路支援事業では県内保健医療関連施設から講師を派遣してもらい、県内就職を促進するようにした。
- (4) 教授会が付託した事項：平成30年度卒業時調査の調査票作成（進路支援部分）を行い、調査を計画・実施した。

3. キャンパスハラスメント

- 1) 入学生に向けて、ガイダンスでキャンパスハラスメントとその対策について説明をすると共に、しおりを配布した。
- 2) 本学におけるキャンパスハラスメントの実態を把握し、キャンパスハラスメントの防止施策や意識改革に反映させ、本学の教育・職場環境の改善を図ることを目的として、在学する全学生および教職員を対象にアンケート調査を行った。

4. 各学科・専攻の取り組み

1) 看護学科

(1) 年度当初の重点課題

看護学科の全学生が充実した学生生活を送れるように、担任・担任リーダーは、各マニュアルの内容を理解して適切に支援を行えるようにする。進路支援については就職活動が早まっている近年の動向を踏まえて、学生が積極的、主体的に進路の選択や就職活動を行えるよう、必要な情報提供や支援を行う。同時に県内就職の推進を強化する。また、国家試験受験対策について学生が積極的かつ効果的に進められるよう支援を強化することを課題とした。

(2) 取組状況

学生支援体制について「看護学科担任制マニュアル」に基づき、1年生には教員8名、2年生には教員9名、3年生には教員6名、4年生には教員2名の担任を配置した体制で支援を行った。なお、1・2年生に対しては、学生生活の状況やニーズを把握するため、年度当初と前期終了時に学生と担任との懇談会を開催した。4年生に対しては、学生生活に関する支援に加え、就職活動や国家試験受験に向けた支援を強化するため、看護研究の指導教員も担任業務の一部を担う支援体制を整えている。必修科目単位未修得がある学生等に対して適切な指導が継続的になされるよう「担任・担任リーダー業務における個別の履修計画・相談記録の作成・管理および引き継ぎに関する確認事項」を新たに作成し、「看護学科担任制マニュアル」に追加した。また、マニュアルの補足資料として「履修指導覚書」を作成し、担任の学生支援が効率的効果的になされるようにした。

進路支援においては、就職活動が本格的に開始される3年生を対象に、進路支援ガイダンスを年2回（6月・12月）、保健師・助産師・看護師として就職を予定している4年生と話す会（12月）、および卒業生と話す会（2月）を進路支援事業として実施した。各事業において、就職活動の時期が早まっている動向や学生から相談の多い事項を踏まえて工夫・改善を加えた。3年生の6月と12月および4年生の12月に就職活動の動向を把握する調査を行い、進路支援事業の改善や後輩学生への情報提供に活用した。また、県内就職の推進については、特に特別選抜により入学している学生の自覚を促すように各ガイダンスにおけるアナウンスの強化と、「推薦状作成に関するマニュアル」に基づいた適切な進路支援を実施した。

国家試験受験対策は、学生の希望を基に、今年度から新たに3年生を対象にした保健師の低学年模擬試験の実施を支援した。その他、昨年に引き続き、3年生は看護師2回の低学年模擬試験、4年生は看護師3回、保健師2回、助産師3回の模擬試験実施に向けた支援を行った。加えて、国家試験対策に関するガイダンスについて、実習と連動してより効果的に学習を進められるように実施時期を4年生対象から3年生対象に見直した。内容は、「看護師・保健師・助産師国家試験 ガイダンスと特別講義（看護師・保健師4時間、助産師1時間）」および「疫学保健統計を中心とした保健師国家試験対策（90分）」である。その他、4年生対象の「解剖生理学を中心とした看護師国家試験対策講座（90分）」の実施に関する支援を行った。

(3) 評価（成果および改善事項）

学生支援においては、履修計画の指導方針を明文化したことにより円滑に支援を行うことができた。進路支援事業については、3年生対象の各ガイダンスでは学生は熱心に内容を聴いている様子があり、4年生対象の調査結果では75～80%の学生が役立ったと回答していた。進路支援においては、就職率100%であった。国家試験合格率は、保健師91.4%（全国88.1%）、助産師100%（全国99.9%）、看護師98.7%（全国94.7%）であった。不合格学生への支援とともに国試対策が効果的に行えるよう対策を改善することが課題である。

(4) 次年度の方策

学生の修学・生活支援については、GPA制度が導入されることに伴い、学生への教育・学習指導の方法について検討をしていく。進路支援事業については、引き続き、学生の反応を踏まえ、工夫・改善を検討していく。国試対策については、引き続き合格率100%に向けて支援を強化していく。県内就職の推進および卒業生への支援についても継

続して取り組みをすすめる。

2) 栄養学科

(1) 年度当初の重点課題

国家試験合格率 100%を目指し、内・外部模擬試験の成績不良学生に対するアドバイスの強化を実施する。県内就職については、県内の就職先の紹介を強化する。

(2) 取組状況

各学年に担任・副担任を1名ずつ配置し、学生を支援し学科会議でも報告してもらい学科全体で学生支援を行った。臨地実習【臨床栄養(必修)12施設・給食経営(必修)16施設・公衆衛生(選択)20施設および栄養教育実習(選択)15校(県内8校、県外7校)】は、各担当教員が実習施設と綿密な打ち合わせを行い、事後指導として報告会を開催した。栄養管理臨地実習(選択)は1名実施した。

就職活動の支援は3年次から進路支援委員会を中心に活動の諸注意、県内の公務員試験や医療施設・福祉施設への積極的活動の支援を行った。公務員希望者には、先輩(公務員合格者)による受験対策講和や業務内容の説明会を実施した。4年次は担任・副担任による就職活動の進捗状況の報告に従い、全教員で提出書類の添削・指導、模擬面接を実施した。

サークル活動はサークル顧問、大学祭の出店支援は学生委員および給食経営管理担当教員、学習・生活指導、情報処理ガイダンスの相談などは各教員、文科省のインターンシップは学科長が担当した。ポートフォリオは全教員の応対可能時間を掲示し、いつでも対処できる体制を学生に示した。国試対策は国家試験対策会議を設置し科目担当者による国試対策講習会、内部模試3回・外部模擬3回の試験を計画・実施、さらに成績不良者には、毎回の模試終了後の面接指導も実施した。

(3) 評価(成果および改善事項)

7期生(2016年入学)は全員卒業(25名)。管理栄養士の国家試験合格率は96%、卒後の進路は、就職24名、進学1名となった。就職率は就職を希望した学生については100%であった。県内就職率36%となり、昨年の44%より減少した。就職者は全員希望する職場に就職でき、その内訳は病院20%、官公庁(行政、学校)24%、一般企業(管理栄養士・栄養士として食品会社、給食会社等に勤務)44%、児童福祉施設8%、進学4%であった。国家試験合格率及び就職率の100%達成をめざすと共に、県内就職率の向上を図りたい。

(4) 次年度の方策

国家試験の模擬試験成績不良学生に対する個別指導を強化し、国家試験100%合格を目指す。就職については、様々な分野に就職活動を経験した4年生と卒業生からアドバイスをいただき、就職活動が円滑に進むようにする。

3) 歯科衛生学科

(1) 年度当初の重点課題

国家試験合格率100%を維持するとともに、千葉県歯科医師会等関係団体と連携して県内就職率向上を目指す。

(2) 取組状況

学生に対する学修・生活等の支援は、教務委員会、学生委員会、進路支援委員会の各委員が行っているが、さらに担任・副担任制の導入により、学生を全般的にサポートする体制を整えている。具体的には、履修ガイダンス、オフィスアワーによる学修支援、キャンパスハラスメントへの対応、健康管理に関する支援、個別学生相談への対応などである。

学修支援については、専門科目の教育において、各教員が独自の教材作成とそれをういた講義・演習・実習を展開し、教育の質の向上をめざした。学外の臨床・臨地実習では、実習施設との事前打ち合わせや実習施設担当者による特別講義を行って連携を図り、実習が円滑に遂行できるよう体制を整えている。

進路支援については、求人状況に関する情報提供、エントリーカード・履歴書の記載方法、小論文の添削および模擬面接等の対策をハローワーク(公共職業安定所)の協力を得ながら支援した。また、卒業生と在学生(3,4年生)との交流の機会を設け、卒業生から就職した病院、歯科診療所、行政、企業等の詳細な仕事内容について情報提供と意見交換が行われた。さらに、進路が決定した4年生から3年生に向けて就職活動等の情報を提供する機会を設けた。国家試験対策については、進路支援委員会を中心に、学外模擬試験を2回実施するとともに、試験科目に対応した特別講義を実施するなど理解の強化をはかった。

(3) 評価(成果および改善事項)

国家試験については教員が積極的に支援し、開学時からの目標である100%を維持した。県内就職率については、千葉県歯科医師会による歯科衛生士就職準備金貸付事業の利用や関係団体との連携により、前年度の実績を上回る60%を達成した。

(4) 次年度の方策

国家試験合格率100%を維持するとともに、千葉県歯科医師会等関係団体と連携して、昨年並みの県内就職率を目指す。

4) リハビリテーション学科理学療法専攻

(1) 年度当初の重点課題

前年度に引き続き、学生の臨床実習が無事に遂行できるように学内教育と実習施設との連携を強化する。昨年度から、臨床実習におけるメンタル不調者を出さないよう、また学生の日常生活態度等の変化を見逃さないように毎週はじめに学生から睡眠時間等を記載した日常生活記録をさせ、実習訪問の担当教員にメールで提出しており、実習での睡眠や課題の負荷が高い場合には、臨床実習指導者と相談をし、学生の負担が過度にならないように配慮している。

(2) 取組状況

前年度と同様、各学年担任による半年に一度の面接に加え、9月下旬に卒業生を囲む会を引き続き開催し、学生の学習意欲を引き出すように試みている。メンタル不調者を早期に発見できるよう専攻会議において教員の情報共有をしている。進路支援・国家試験対策は前年度と同様に継続している。国家試験の模擬試験で成績が伸び悩んでいる学生には、個別対応をしたり、会議室に集合させたり、個人でのみの勉強は極力避けるように工夫をした。また、臨床実習Ⅱ（評価実習）からⅢ・Ⅳ（総合実習）まで日常生活記録を学生に記録させ、毎週はじめにメール等で提出することを義務づけ、メンタル面の不調の早期発見を試みている。

(3) 評価（成果および改善事項）

臨床実習Ⅰ（体験）とⅡ（評価実習）前に接遇やリスク管理に関する講義と演習を毎年度と同様に実施し、臨床実習に臨む姿勢のあり方を学習させた。臨床実習Ⅱを目前に、臨床前実技試験（OSCE）を実施し、実習に臨む学生の不安を払拭するように努力した。結果、優秀な学生もいる反面、進級が難しい学生も中にはいたが、とりあえず、一人の落伍者もなかった。

(4) 次年度の方策

平成30年度は、前年度と同様にメンタル不調が臨床実習中に発覚し、実習が中断とならないようにした。事前にメンタル不調者を見逃さないようにし、学年担任からの早めのカウンセリングを受けるように心掛けさせた。メンタル不調者以外で学習意欲の低い学生に対しても関わりを持って、モチベーションの確認を心掛ける。

5) リハビリテーション学科作業療法専攻

(1) 年度当初の重点課題

①学生のキャンパス間移動の時間的・金銭的（運賃）な負担を考慮し、カリキュラム上、1年生の授業は、前期は全て幕張キャンパス、後期は水曜のみ仁戸名キャンパスで行っている。2年生は火・木曜日は仁戸名、他の曜日は幕張キャンパス。3・4年生はほぼ毎日仁戸名キャンパスで学習している。特に2年生が中心に以降の移動負担が大きく課題として残る。

②作業療法士国家試験対策として、4年生よりグループ分けをし、学習環境の調整と模試を実施している。特に12月より2月まで集中して学生指導を実施している。通学・学習環境につながる安全・健康面（食事や帰路時間）への配慮が必要となっている。

(2) 取組状況

作業療法学専攻は担任・副担任制をとっている。学生は、作業療法士としての適性や就職などの問題に対して、個別に対応している。また、退学・休学など重要な案件は、担任・副担任に加え作業療法学専攻長も対応する。教員は学生支援としてサークル顧問も担当している。

学生は、学年間の交流を図るため先輩が後輩の相談などをとれるようチューター制の形式をとり、学生が自主的に1年生～4年生を小グループにわけ、各グループで交流会など開催している。

教員が仁戸名キャンパスに常駐しているため、主に幕張キャンパス（1年生、2年生）に通学している学生に対しては、メール等で連絡を取り、必要に応じて相談する時間を設けている。問題は、キャンパス間の移動などで時間的制約があるため仁戸名と幕張で同時に問題が発生した時など適時対応することは難しい。作業療法学専攻の学生支援における重点課題として、問題発生に対して即時対応できる体制づくりが必要であるものの実施に至っていない。また、進路支援や国家試験対策に関して、専攻会議を開き、情報の共有と対策について検討実施している。

(3) 成果および改善事項

①学生指導や卒業生の交流会などが行われている。また就職先として、千葉県内への就職率は昨年同様高い。

②国家試験において新卒で不合格者が1名おり、既卒者で1名計2名の不合格者となった。

(4) 次年度の方策

国家試験への対応を、組織だてて実施する必要がある。また学習環境も貧弱であり、時間的制限もある中、予算のかかからない方法で、作業療法専攻独自の工夫が必要である。

5. 平成30年度千葉県立保健医療大学卒業時調査

1) 調査の概要

本学の学生支援（修学支援・生活支援・進路支援）に対する評価を明らかにし、学生支援の改善・充実を図ることを目的に、4年次学生を対象に質問紙調査を行った。調査内容は、①本学の教育に対する満足度、②本学の教育目標への到達度、③4年間の学生生活について、④学生生活・学生支援に対する満足度、⑤実施した就職・進学活動についてである。調査時期は2018年12月～2019年2月で、学科・専攻ごとに実施した。

2) 調査の結果

(1) 対象者の概要

卒業生 173 名中 168 名から回答が得られた（回収率 97.1%）。所属学科は、看護学科 81 名（48.2%）、栄養学科 25 名（14.9%）、歯科衛生学科 19 名（11.3%）、リハビリテーション学科理学療法専攻 17 名（10.1%）、リハビリテーション学科作業療法専攻 26 名（15.5%）であった。

(2) 本学の教育に対する満足度

「特色科目」「一般教養科目」「保健医療基礎科目」「専門科目」「時間割」「4 年間のカリキュラム」「履修ガイダンス」「シラバス」「WEB 履修登録システム」等 17 項目について満足度を 4 段階で尋ねた。17 項目中 15 項目において 7 割以上の者が「とても満足」「やや満足」と回答した。「とても満足」「やや満足」と回答した者の割合が 7 割を下回る項目は「WEB による成績確認」62.5%、「学外実習：実習までの交通の便」61.4%の 2 項目であり、平成 29 年度より「WEB による成績確認」の 1 項目が多くなった。

(3) 本学の教育目標への到達度

本学の 8 個の教育目標について到達度を 4 段階で尋ねた。平成 29 年度と同様に、すべての教育目標において 8 割以上の者が「十分に身についた」「ある程度身についた」と回答した。

(4) 4 年間の学生生活に対する取り組みの程度

「特色科目の学習」「一般教養科目の学習」「保健医療基礎科目の学習」「専門科目の学習」「進路・キャリアの検討」「国家試験のための学習」「サークル活動」「いずみ祭」「友人等との交流」「教員との交流」「家族との交流」「アルバイト」「ボランティア活動」等 15 項目について、取り組みの程度及び活動から得たものの大きさの程度を 4 段階で尋ねた。15 項目中 11 項目において 7 割以上の学生が「とても熱心に取り組んだ」「やや熱心に取り組んだ」と回答し、得たものも「非常に大きい」「やや大きい」と回答した。特に「保健医療基礎科目の学習」「専門科目の学習：講義」「専門科目の学習：演習等」「専門科目の学習：学外実習」「友人等との交流」は、9 割以上の学生が熱心に取り組み、得たものも大きいと回答した。この結果は、平成 29 年度と同様の結果であった。また「将来の進路・キャリアの検討」も 9 割以上、「国家試験のための学習」もほぼ 9 割の学生が熱心に取り組み、得たものも大きいと回答した。一方、取り組みの程度が低かった活動は「ボランティア活動」33.9%、「いずみ祭」34.1%、「サークル活動」35.6%で、得たものも大きくはなく、平成 29 年度と同様の結果であった。

(5) 本学の学生支援に対する満足度

「学生ハンドブック」「オフィスアワー」「掲示による連絡」「学生用メールシステム」「教職員の対応」「健康診断」「履修支援」「就職・進学支援」「国家試験受験への支援」「長期休業」「学生保険」「奨学金制度・授業料減免制度」「学生相談」「サークル活動への支援」「休学者への支援」「5 年以上在籍する者への支援」「事務システム」「施設設備」等 58 項目について満足度を 4 段階で尋ねた。

結果のうち、学生支援に関して「とても満足」「やや満足」と回答した者の割合が 5 割を下回る項目は「掲示による連絡」「学生用メールシステム」の 2 項目であり、これらは平成 29 年度の調査でも同様に低い項目であった。

施設設備に関しては、「とても満足」「やや満足」と回答した者が 5 割にみたなかった項目は、「講義室（仁戸名）の広さ・空調」「講義室（幕張）の机・椅子」「講義室（仁戸名）の机・椅子」「講義室（仁戸名）の視聴覚設備」「情報処理室（仁戸名）」「学生ホール（仁戸名）」「運動場・運動施設（幕張）」「運動場・運動施設（仁戸名）」「トイレ（幕張）」「トイレ（仁戸名）」「幕張売店」「仁戸名無人ワゴン販売」「仁戸名弁当配達システム」の 13 項目で、平成 29 年度よりも増えていた。また、平成 28 年度までと同様に、幕張キャンパスと比較して仁戸名キャンパスの施設設備への満足度は概して低かった。

「学生生活への全体評価」は「とても満足」「やや満足」が 78.6%であり、平成 29 年度の結果よりもやや低い値であった。

(6) 実施した就職・進学活動

「活動開始時期」「受験した施設・企業数」「内定を得た施設・企業数」「実施した就職活動」「就職にあたり重視した条件・基準」「受験した進学先」等について尋ねた。

活動開始時期は「4 年次前期」30.9%が最も多かった。受験した施設・企業数は「1 か所」55.9%、「2 か所」18.0%であった。内定を得た施設・企業数は「1 か所」73.4%が多かった。

実施した就職活動は「施設ごとの就職説明会」67.6%、「合同就職説明会」59.4%、「インターンシップ」53.6%の順であった。いずれも「役に立った」と高い割合で回答されており、活用した者にとっては有効であった。また、全学および学科・専攻で実施しているキャリアセミナーや進路支援ガイダンスについては、16 項目中 15 項目で 7 割以上の参加率があった。また、概ね参加者の 7 割以上が「役に立った」と回答した。

就職にあたり重視した条件・基準は「給料」69.0%、「施設・病棟の雰囲気」63.7%、次いで「規模・機能（高度医療を行う病院、長期療養病院等）」58.3%であり、上位は平成 29 年度調査の結果と同様であった。

進学にあたり受験したのは 2 名であった。

6. 評価（成果および改善すべき事項）

学生部および学生委員会・進路支援委員会は、所掌事項に関する活動を計画的に行うことができたが、それらの活動のうち、平成30年度の成果として特筆すべきことは以下の点と考える。

学生支援としては、①平成30年度学生支援計画を立案し、学生ホールの椅子とテーブルの増設について平成31年度予算要求をした。また、県庁生協による仁戸名キャンパスの無人販売が進行するように協力をした。②平成31年度健康診断中、唯一学生負担であったQFT検査について他の県立専門学校と共同して県負担を要請し、予算化された。③開学

10周年記念としての後援会からの寄付の申し出に対し、幕張キャンパスおよび仁戸名キャンパス講義室の机21台、椅子258脚の寄贈を受けることになり、その調整をした。

進路支援については、全学および学科・専攻によるキャリアセミナーや進路支援ガイダンスを計画的に運営することができた。平成30年度卒業時調査の結果からも学生にとって有効に活用できた。

一方、学科・専攻においては、学科・専攻全体で情報共有や連携を取りながら、担任を中心に修学上・学生生活上の相談にのったりするなどして、きめ細やかに修学支援・学生生活支援を行うことができた。その結果、平成30年度卒業時調査において「学生生活への全体評価」は「とても満足」「やや満足」が78.6%であり、平成29年度の結果よりもやや低い値ではあったが、今年度も高い評価は得られた。また、学科・専攻で国家試験受験対策を行い、平成30年度国家試験合格率は保健師91.4%、助産師100%、看護師98.7%、管理栄養士96.0%、歯科衛生士100%、理学療法士100%、作業療法士96.2%であった。概ね例年通りもしくは高い合格率であった。

平成30年度卒業時調査の結果では、修学支援・学生生活支援・進路支援に関して概ね高い評価を得ているが、施設設備に関しては、満足度が低い項目が13項目あり、特に幕張キャンパスと比較して仁戸名キャンパスの施設設備への満足度は概して低かった。引き続き改善をしていく必要がある。

7. 次年度の方策

学生支援として以下の活動に積極的に取り組んでいきたい。①学生支援に関して、所掌事務に関する活動、および年度はじめに課題を検討し、それに基づいて立案する学生支援計画に沿った活動を行う。②進路支援に関して、所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率100%（全学科・専攻）をめざし、学科専攻と連携を図り、大学全体として取り組んでいきたい。

また、各学科・専攻については、学科・専攻が掲げた「次年度の方針」を適切に実施していく。

Ⅶ 社会連携・社会貢献

1. 社会との連携・協力に関する方針

広く開かれた大学として、地域の人々および地域施設との連携や交流を通して、地域社会へ貢献する。

2. 年度当初の重点課題

1. 健康づくり・病気予防への提案（県・地域の施策の点検・評価、見直し、提案）
2. 卒業生の初任者・卒後研修を雇用者と協働で企画、実施（地方創成）
3. 専門職を対象とした生涯教育の企画、実施

3. 活動内容

1) 公開講座

2018年度の公開講座は10月7日と10月21日、幕張キャンパスにて、「地域で元気に暮らすには」をメインテーマに開講された。参加者は1回目が71名、2回目が55名（計126名）であった。体験型公開講座への試みとして、非常食の試食や咬む力を高めるガムの紹介があった。また、第1回目は学祭と同日開催であることから、今年度は午前開催とし、閉講後の学祭委員長の挨拶や受講者に健康チェックを実施している学生ブースへの動員を促した。参加者のアンケートでは、「大変よかったと感じた参加者率」が2日間合計で47.9%、「よかったと感じた参加者率」が39.4%と、過去7年で最高の満足度であった。

2) 千葉県健康福祉部との連携協力

千葉県健康福祉部との意見交換会は、今年度開催されなかった。健康福祉部健康福祉政策課から、10月18日および11月1日に、「第三次千葉県地域福祉支援計画見直しにかかるヒアリング」を受けた。2回の会合で、健康福祉部から2名の出席、本学から学長、社会貢献委員長が出席した。1回目は地域の自主活動団体代表者（幕張たすけあいの会2名、柏シルバー大学院3名）を招き、学部長による司会進行で、これまでの活動報告と現状の問題点を討議した。2回目は佐藤紀子教授をアドバイザーとして迎え、千葉県全域にわたる保健活動を討議した。このヒアリング開催は、本学がシンクタンク機能を果たす足掛かりにつながると考えられた。

3) 共同研究等による学外組織との連携

2017年10月、UR都市機構と協定を締結して実施された「ほい大健康プログラム」を発展させ、2018年度は学内共同研究採択課題として、UR団地4カ所4回シリーズで、計8日間展開した。学内共同研究採択課題として、千葉市と共催した「地域在住高齢者の自助・互助活動を支援する手法の開発」が実施された。

4) 各学科・専攻の活動状況

(1) 看護学科

① 地域におけるボランティア活動等：

- ・千葉県内：スマイル・キャンサーウォークちば運営サポート。ベイタウンかふえアドバイザー。多数傷病者発生合同災害訓練、千葉県こども病院でのボランティア活動推進のための協働・調整の4件であった。
- ・千葉県外：NPO法人環境汚染等から呼吸器病患者を守る会、荻窪暮らしの保健室における健康相談等の2件であった。

③ 審議会、委員会、国家試験委員等の実績：

文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会特別委員、文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会専門委員、文部科学省職業実践力育成プログラム(BP)認定審査委員会委員、千葉県現任教育推進会議委員長、千葉県保健師現任教育検討会有識者、千葉県移行期医療支援連絡協議会委員、千葉県実習指導者講習会プロポーザル受託者選考会議委員、千葉県難病審査（腎臓病）委員、千葉市更生医療審査（慢性腎臓病）委員、柏市保健衛生審議会副委員長、柏市保健衛生審議会母子保健専門分科会、委員長・委員、野田地域・職域連携推進協議会、野田健康づくり協議会部会助言者、墨田区介護保険事業運営協議会委員、東京都台東区介護認定審査会合議体長等、16件を務めた。

④ 職能団体委員等

千葉県看護協会保健師職能委員会副委員長、助産師職能委員、千葉県看護教員養成講習会運営会議委員、千葉地区部会幹事、千葉県ナースセンター運営委員会委員等、9件を務めた。

⑤ 学会、学術団体への貢献

・所属学会・学術団体：総数92学会（延べ入会学会数218学会）であった。5名以上の教員が会員となっている学会は、日本看護科学学会、千葉看護学会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会、日本看護管理学会、日本地域看護学会、日本母性衛生学会、日本内科学会、日本在宅ケア学会、文化看護学会、日本公衆衛生看護学会、日本小児保健協会であった。

・学会、学術団体への貢献：評議員・代議員6件、理事6件、監事1件、幹事2件、学会各種委員会（学会誌編集、学会誌査読、倫理審査、社会貢献、表彰等）委員43件、学術集会各種委員会（企画、実行、査読、等）委員12件を務めた。

⑥ 講演会／研修会の講師・研究指導等：

延べ73回の講演会、研修講師、研究指導等を行った。主な講演会／研修は、千葉県実習指導者講習会、千葉県看護教員養成講習会、訪問看護病院経営者講習会、千葉県特定健診・特定保健指導実践者スキルアップ研修会、千葉県中堅前期保健師研修会、千葉県中堅後期保健師研修会、千葉県勤労者医療協会研修会、公開講座であった。研究指導／サポートは、千葉県がんセンター、千葉県循環器病センター、千葉市立海浜病院、東京歯科大学市川総合病院、我孫子ロイ

ヤルケアセンター, 板橋中央総合病院, 香取健康福祉センター, 君津健康福祉センター, 松戸健康福祉センター, 市川健康福祉センター, 野田健康福祉センター, 習志野健康福祉センター, 海匝健康福祉センター, 夷隅健康福祉センター, 印旛健康福祉センター, 千葉市若葉保健福祉センター, 千葉市美浜保健福祉センター, 野田市保健センター, 鎌ヶ谷市, 市原市でおこなった。

(2) 栄養学科

① 地域におけるボランティア活動等:

- ・千葉県内: 千葉食育ボランティア(ちば食育応援隊として食育・健康づくり活動(千葉市幕張ベイタウン夏祭り 2018, きやっせ物産展での「学生サークルちば食育応援隊」の活動の支援, 千葉市食育情報誌 Vol.4 掲載のちば食育応援隊による料理開発, 小学校での親子料理教室の支援), ちば食育研究会(ちば食育応援隊: 千葉県ちば食育ボランティア登録団体)代表, NPO 法人千葉自然学校理事, 千葉県立衛生短大栄養学科卒業生有志のネットワーク(約 200 名)構築・運営(栄養情報・求人情報を提供), UR ほい大健康プログラム(千葉県立保健医療大学が行う地域のための健康づくりプログラムの実践と評価 I, 高洲第一団地・第二団地(2018 年 6 月 19 日, 6 月 30 日, 9 月 24 日, 10 月 28 日), 千草台団地・あやめ団地(2018 年 12 月 2 日, 2019 年 2 月 21 日), 千葉県内介護施設の健康講話, 食生活向上お手伝い会,
- ・千葉県外: 文部科学省インターンシップ学生(本学栄養学科学生)への支援, 産後クラブ(3 カ月健診)食育講座(田中ウイメンズクリニック)

② 地域への保健医療活動(診療・技術指導等. 活動期間. 場所等)

食事・栄養のアドバイス・ヘルシー昼食提供(千葉食育応援隊(ほい大ごはんカフェなど): 2018 年 4 月~2019 年 3 月, 千葉県), “食育出前教室”(食事・栄養相談, 2018 年 4 月~2019 年 3 月, 久ヶ原スイミングクラブ)

③ 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績: 審議会, 委員会, 国家試験委員等 10 件

国: 文部科学省科学技術・学術審議会資源調査分科会(食品成分委員会)臨時委員, 文部科学省科学技術・学術政策局技術審査専門員, ISO/TC34 国内審議会団体事務局(FAMIC 国際課)ISO/TC34/SC12 国内対策委員
千葉県: 千葉県食育推進県民協議会委員, 平成 29 年度千葉県調理師試験委員, 地方公務員人事委員会
市町村: 千葉市食育推進協議会委員, 市川市教育振興委員会議委員, 柏市保健衛生審議会特別委員(母子保健専門分科会), 第 2 次鎌ヶ谷市食育推進計画の推進及び第 3 次鎌ヶ谷市食育推進計画策定準備に係る指導

④ 職能団体委員等

所属職業団体: 日本栄養士会, 千葉県栄養士会, 神奈川県栄養士会, 千葉県医師会, 千葉県庁医師会
委員会・役員等: 千葉県栄養士会研究教育協議会役員, 千葉県栄養士会研究教育部会役員
日本栄養改善学会 関東・甲信越支部, 実践栄養学研究セミナーチューター
第 35 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会プログラム企画委員

⑤ 学会, 学術団体への貢献

・所属学会

栄養学科教員が所属している学会は 70 学会であり, その詳細は以下の通りである。

4 名以上所属(日本栄養改善学会(11 名), 日本公衆衛生学会(6 名), 日本栄養・食糧学会(5 名), 千葉県学校保健学会(5 名), 以上 4 学会)

3 名所属(日本食品科学工学会, 日本体力学会, 以上 2 学会)

2 名所属(日本家政学会, 日本調理科学会, 日本静脈経腸栄養学会, 日本疫学会, 日本病態栄養学会, 日本生化学会, 日本給食経営管理学会, 日本在宅栄養管理学会, 日本老年学会, 日本高血圧学会, 日本糖尿病学会, 日本臨床栄養協会, 以上 12 学会)

1 名所属(日本社会医学会, 日本社会人文学会, 日本家政学会食文化研究部会, 日本口腔衛生学会, 日本きのこ学会, 儀礼文化学会, 和食文化国民会議, 更年期と加齢のヘルスケア学会, 新潟歯学会, 新潟食品技術研究会, 日本小児外科学会, 日本外科学会, 日本外科代謝栄養学会, 日本病態生理学会, 千葉県 NST ネットワーク, 日本在宅静脈経腸栄養研究会, 日本サルコペニア・フレイル学会, 千葉医学会, 日本心理学会, 日本教育心理学会, 日本人間工学会, 日本教育工学会, 日本発達心理学会, 日本パーソナリティ学会, 日本家庭科教育学会, 日本教師学学会, 日本官能評価学会, 日本脂質栄養学会, 日本解剖学会, 日本教育学会, 日本教師教育学会, 教育史学会, 日本教育史学会, 日本社会教育学会, 日本成人病(生活習慣病)学会, 日本糖尿病・妊娠学会, DOHaD 研究会, 日本肥満学会, NPO 法人西東京臨床糖尿病研究会, クリニカルパス学会, The American physiological Society, 日本臨床栄養学会, 日本食生活学会, 日本生理学会, 日本在宅医療学会, 日本災害食学会, 日本民族衛生学会, 日本食育学会, 日本衛生学会, 日本農芸化学会, 日本健康教育学会, 日本応用糖質科学会, 以上 52 学会)

・学会・学術団体への貢献

評議員, 委員会委員長, 委員などとしての学会・学術団体への貢献は 22 件であり, 詳細は下記のとおりである。

日本栄養改善学会評議員(6 名), 日本栄養改善学会栄養学雑誌編集委員, 日本栄養改善学会関東・甲信越支部幹事, 日本栄養改善学会理事候補者選挙管理委員, 日本衛生学会評議員, 日本官能評価学会(司会・大会委員・常任編集委員),

日本官能評価学会査読, 日本官能評価学会常任理事 (企画・編集), 日本調理科学会 研究委員会委員 (新潟県委員), (千葉県責任者), 日本調理科学会関東支部会役員, 日本調理科学会代議員, 日本老年医学会査読委員, 日本老年医学会代議員, 社会医学査読委員, 日本社会人文学会大会委員, 千葉県 NST ネットワーク世話人, 千葉県学校保健学会評議員・ニューズレター編集委員, 千葉県学校保健学会理事, 和食文化国民会議調査・研究部会幹事, 日本病態栄養学会評議員, 日本糖尿病妊娠学会評議員

⑥講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 : 講演会, 講師・指導等 22 件

主任保育士研修 2 件, 船橋市学校栄養士会研修会, 栄養教諭 5 年経験者研修第 2 回校外研修会, 第 5 期「いちほら市民大学」専門講座, 東葛北部在宅栄養士会研修会, 健康づくり栄養講座, 千葉県立保健医療大学公開講座, 食育指導推進全体連絡協議会, 千葉県教育委員会, 千葉県こども病院 NST 勉強会・千葉県栄養士会公衆衛生事業部研修会. 日本栄養改善学会関東・甲信越支部. 千葉県特定健診・特定保健指導初任者研修, 千葉県栄養士会生涯教育研修会, 千葉県特定健診・特定保健指導, 千葉県教育研究会学校給食部会第 4 地区 (千葉市地区)「学校給食研究協議会」, 大人のための食育講座 2 件, 成田市生涯大学院教養講座. 白井市地域包括支援センター 3 件

⑦対外広報活動 (ホームページへの掲載)

文部科学省, 千葉県, 農林水産省, 社団法人日本青果物輸入安全推進協会, 久ヶ原スイミングクラブのホームページへの掲載栄養学科教員が所属している学会は 70 学会である.

(3) 歯科衛生学科

①地域におけるボランティア活動等 : 7 件

・千葉県内 : 6 件

障害者の口腔衛生指導 (2018 年 4 月～2019 年 3 月の第 3 木曜日午前, 千葉県リハビリテーションセンター更生園), ほい大健康プログラム (2018 年 6 月 30 日, 9 月 24 日, 12 月 8 日, UR 千草台団地, あやめ台団地, 高洲団地), オーラルフレイル予防プログラム (2018 年 10 月～現在に至る. UR 花見川団地, さつきが丘団地), 打瀬中学校の職場体験学習 (2018 年 11 月 15～16 日, 千葉県立保健医療大学). パラスポーツ講座シッティングバレーボール講習会企画運営・開催 (2019 年 2 月, 千葉県立保健医療大学), 千葉市消防局応急手当インストラクター (2018 年 3 月～2019 年 4 月, 千葉市),

・千葉県外 : 1 件

オリンピックボランティア説明会出席 (東京).

②地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等) : 11 件

歯科診療 (2018 年 4 月 2 日～2019 年 3 月 27 日, 本学歯科診療室), 歯科診療補助の実施 (2018 年 9 月～現在に至る, 本学歯科診療室). 千葉市口腔がん検診 (2018 年 7 月 1 日～12 月 22 日, 本学歯科診療室), 診療指導 (2009 年 4 月 1 日～現在に至る, 日本大学松戸歯学部付属病院), 手術指導 (2011 年 4 月 1 日～現在に至る, 総合病院国保旭中央病院), ヘルシーカムカム 2018 (2018 年 5 月 27 日, 千葉そごう), 歯みがき&でんたるカップミニサッカー大会 (2018 年 12 月 9 日, 千葉ポートアリーナ), 流山市南部地域包括支援センター 体力測定と講演. (2018 年 6 月 7 日～2019 年 1 月まで 4 回, 流山ケアセンター), 中国帰国家族の会 体力測定と運動指導 (2019 年 3 月, 高洲コミュニティセンター), 白井市地域ケア会議 (2018 年 6 月. 2019 年 2 月. 白井市地域包括支援センター), 口腔と全身の健康状態に関する 90 歳調査 体力測定 (2018 年 6 月, 新潟).

③審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 : 2 件

日本歯科医療振興財団歯科衛生士試験委員会幹事委員, 東京都健康長寿医療センター研究事業委員会委員

④職能団体委員等 : 12 件

全国歯科衛生士教育協議会理事, 同教育委員会理事, 同教育委員会委員, 同教育問題検討委員会委員, 同認定委員会委員, 全国大学歯科衛生士教育協議会理事, 同教育研究委員会委員, 同雑誌編集委員長, 同雑誌編集委員, 国公立大学法人等歯科医療従事者養成機関担当者会議担当者, 千葉県歯科衛生士育成協議会役員, 同運営委員.

⑤学会, 学術団体への貢献

・所属学会・学術団体 : 総数 67 学会

日本歯周病学会, 日本カウンセリング学会, 日本健康教育学会, 保健行動科学会, 口腔病学会, 日本口腔衛生学会, 日本歯科衛生教育学会, 日本歯科衛生学会, 日本歯科医学教育学会, 日本歯科保存学会, 日本補綴歯科学会, 日本歯科審美学会, 日本歯科色彩学会, 美容口腔管理学会, 日本接着歯学会, 日本歯内療法学会, 日本アンチエイジング歯科学会, 日本口腔外科学会, 日本口腔内科学会, 日本歯科理工学会, International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons. Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, 日本口腔科学会, 日本口腔診断学会, 日本臨床口腔病理学会, 日本臨床細胞診学会, 日本有病者歯科医学会, 日本老年歯科医学会, 日本小児歯科学会, 日本看護技術学会, 日本医療安全学会, 日本公衆衛生学会, 日本顎顔面インプラント学会, 日本口腔インプラント学会, 日本医学教育学会, 日本公衆衛生学会, 国際歯科研究学会 (IADR), 国際歯科研究学会日本部会 (JADR), 日本歯科医療管理学会, 社会歯科学会, 日本体力医学会, 日本体育学会, 日本測定評価学会, 日本バイオメカニクス学会, 日本栄養改善学会, 日本栄養・食糧学会, 大学体育連合, 日本疫学会, American College of Sports Medicine, 日本咀嚼学会, 口腔ケア学会, 抗加齢歯科医学研究会, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 日本障害者歯科学会, ヘルスカウンセリング学

会, 日本歯科医学教育学会, 日本生態学会, 日本ペントス学会, 応用生態工学会, 日本教育工学会, 日本大学口腔科学会, 日本歯科基礎医学会, 東京歯科大学学会, 北海道歯学会, 新潟歯学会, 明倫短期大学学会.

・学会, 学術団体への貢献: 31 件

日本歯科衛生学会顧問, 同学会外部査読委員, 日本歯科衛生教育学会副理事長, 同学会常任理事, 同学会評議委員, 同学会編集委員会査読委員, 同学会編集委員会事前抄録担当委員, 日本歯科審美学会代議員, 同学会「歯科審美」編集委員会委員, 同学会漂白治療の特商法適応に対するワーキンググループ委員, 日本歯科色彩学会理事, 同学会ニュースレター編集委員会委員長, 同学会「歯科の色彩」編集委員会委員, 美容口腔管理学会幹事, 同学会「The Journal of Cosmetic Oral Care」編集委員, 日本大学口腔科学会評議員, 日本口腔科学会評議員, 日本口腔内科学会評議員, 日本口腔外科学会代議員, 日本医療安全学会理事, 日本医療安全学会代議員, 日本医療安全学会広報委員, 口腔衛生学会歯科衛生士委員会委員, Journal of Oral Maxillofacial Surgery, Medicine and Pathology 査読者, The Journal of Dental and Maxillofacial Research Editorial Board, Dental Materials Journal Reviewer, Journal of Oral Biosciences 査読委員, 雑誌「理科の探検」編集委員, 日本人間工学会第 59 回大会座長, PLOS ONE 査読.

⑥講演会(公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等: 17 件

千葉県立保健医療大学平成 30 年度公開講座講師「咬むことと健康長寿」, 千葉県歯科衛生士育成協議会「高校生への歯科衛生士の業務および教育についての説明会」講師, 千葉市シニアリーダー連絡会出前講座講師「オーラルフレイル予防と口からはじめる認知症予防」, 東京歯科大学大学院講師「臨床・基礎研究に必要な統計解析の基本について」, 千葉県歯科医師会主催日歯認定歯科助手講習会講師「高齢者の対応」「診療室管理・アシスタントワーク・患者対応」, 千葉県リハビリテーションセンター更生園施設入所者健康教育講師「歯は健康の原点」, 全国歯科衛生士教育協議会主催歯科衛生士専任教員講習会 I 講師「歯科衛生学教育法」, 第 11 回美容口腔管理学会認定講習会講師「歯科衛生士が主導するホワイトニングの手法」, Beaute 第 1 回ホワイトニングサミット講師「ホワイトニングを文化に」, 平成 30 年度香取保健所管内食生活改善協議会第 1 回研修会講師「歯周病と健康～全身疾患との関係～」, 柏市シルバー大学院講師(生涯課程 E 組「痛みと上手に付き合う方法」・研究課程 1 年「健康寿命と運動」・研究課程 2 年 35 期「健康寿命と運動」・生涯課程 A 組「健康寿命と運動 動いてわかる私のからだ」・課程 D 組「日常生活での体力づくり」)(5 回), フィールドミュージアム行徳野鳥観察舎友の会講演会講師「カニの巣穴を見てみよう」.

(4) リハビリテーション学科学療法専攻

②地域への保健医療活動(診療・技術指導・活動期間・場所等)

・ロコモ度測定会. 2018 年 10 月 8-9 日. 本学いずみ祭.

・社会福祉法人みやげ島あじさいの会. 施設利用者の理学療法評価とスタッフ教育指導. 平成 2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日. 三宅島.

③審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績

・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構. 評価認定委員会評価委員. 2014 年 4 月～2019 年 3 月.

・千葉県介護保険関係団体協議会. 幹事. 2014 年 4 月～現在.

・千葉県介護予防市町村支援検討会議. 構成員. 2014 年 10 月～現在.

・一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構. 評価員. 2016 年 2 月～現在.

・千葉市介護認定審査会. 予備委員. 2017 年 4 月～現在.

④職能団体委員等

・一般社団法人千葉県理学療法士会. 機関誌「理学療法の科学と研究」編集委員長.

・公益社団法人日本理学療法士協会. 第 52 回日本理学療法学会副大会長.

・一般社団法人千葉県理学療法士会. 学術部理事.

・公益社団法人日本理学療法士協会. 2016 年度代議員.

・一般社団法人日本職業・災害医学会. 評議員.

・一般社団法人千葉県理学療法士会. 理事.

・一般社団法人千葉県理学療法士会. 副会長.

・公益社団法人日本理学療法士協会. 代議員.

・一般社団法人千葉県理学療法士会. 学会検討委員会委員長.

・公益社団法人日本理学療法士協会. 介護予防・健康増進事業 都道府県コーディネーター.

・一般社団法人千葉県理学療法士会. 理事

・一般社団法人千葉県理学療法士会. 定款検討委員会委員長.

・公益社団法人日本理学療法士協会. 代議員

・一般社団法人千葉県理学療法士会. 学術局学術誌編集部長.

・一般社団法人千葉県理学療法士会. 学術局学術編集部員.

⑤学会, 学術団体への貢献

・日本リハビリテーション医学会, 日本理学療法士協会, 日本臨床神経生理学会, 日本電気生理運動学学会, 日本運動

療法学会, 世界理学療法士学会, 世界電気生理運動学学会, 日本体力医学会, 全国大学理学療法学会, 全国大学肺理学療法研究会, 千葉医学会, 日本整形外科学会, 東日本整形災害外科学会, 関東整形災害外科学会, 日本脊椎脊髄病学会, 日本小児整形外科学会, 日本職業・災害医学会, 日本骨粗鬆症学会, 日本腰痛学会, 日本足の外科学会, 日本抗加齢医学会, 日本運動器科学会, 日本小児股関節研究会, 千葉県ロコモティブシンドローム研究会, 臨床歩行分析研究会, 日本人間工学会, 日本生理人類学会, 理学療法科学学会, バイオメカニズム学会, International Association of Physiological Anthropology, 脳機能とリハビリテーション研究会, 北米神経科学会, 日本神経科学会, 日本神経心理学会, 日本高次脳機能障害学会, 日本基礎理学療法学会, コ・メディカル形態機能学会, 日本ヘルスプロモーション理学療法学会, 臨床スポーツ医学会, 日本運動疫学学会,

・日本理学療法士協会, 第52回日本理学療法学会大会 抄録査読委員, 日本リハビリテーション医学会, 第54回日本リハビリテーション医学会学会誌 抄録査読委員, 千葉県理学療法士会, 第22回千葉県理学療法士学会 抄録査読委員, バイオメカニズム学会学会誌 編集委員, 人間工学 論文査読, 理学療法の科学と研究 論文査読委員, 日本生理人類学会誌 論文査読委員, 第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会 抄録査読委員, 第6回日本支援工学理学療法学会学会誌 抄録査読委員, 第23回千葉県理学療法士学会 抄録査読委員, 第5回日本地域理学療法学会学会大会 抄録査読委員, 第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会 一般演題座長, 第23回千葉県理学療法士学会 一般演題座長, 第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会 抄録査読委員, 脳科学とリハビリテーション 投稿論文査読, 第23回千葉県理学療法士学会 抄録査読委員, 第23回千葉県理学療法士学会, 一般演題「基礎Ⅰ」座長, 第24回脳機能とリハビリテーション研究会学会誌 イブニングセミナー座長, 第53回日本理学療法学会大会 抄録査読委員, 脳機能とリハビリテーション研究会会長, 脳機能とリハビリテーション研究会学会誌 編集協力部員, 千葉県理学療法士会学会誌 論文査読, 日本運動器理学療法学会大会 抄録査読委員,

⑥講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等:

・新人教育プログラム研修会講師(千葉県理学療法士会, 「理学療法学と倫理」, 新人教育プログラム受講者, 2019年1月27日, 東都医療大学幕張キャンパス)

・ロコモ度測定会, 2018年10月7-8日, 本学第10回いずみ祭。

・千葉市緑区シニアリーダー連絡会, 千葉市地域包括ケア推進課, ロコモティブシンドローム, 千葉市民, 2018年5月17日, 千葉市緑区保健福祉センター

・千葉市若葉区シニアリーダー連絡会, 千葉市地域包括ケア推進課, ロコモティブシンドローム, 千葉市民, 2018年5月25日, 千葉市若葉区保健福祉センター

・第1回千葉県認知症対策推進セミナー, 県高齢者福祉課, 認知症予防運動～コグニサイズの実践～, 保健医療従事者, 2018年5月31日, 千葉県教育会館

・いちほら市民大学専門講座, 市原市教育委員会, 認知機能の低下予防～コグニサイズを体験しよう～, 市原市民, 2018年8月24日, サンプラザ市原

・千葉県理学療法士新人教育プログラム, 千葉県理学療法士会, 協会組織と生涯学習システム, 理学療法士, 2018年9月2日, 千葉県教育会館

・八千代市ふれあい大学校, 八千代市長寿支援課, 認知機能の低下予防～コグニサイズを体験しよう～, 八千代市民, 2018年10月26日, 八千代市地域福祉センター

・健康体力づくり指導者研修会, 県健康づくり支援課, 足腰元気にロコモ対策, 一般県民, 2018年10月28日, 千葉県総合スポーツセンター

・長生保健所管内食生活改善協議会中央研修会, 長生保健所地域保健福祉課, 認知機能の低下予防～コグニサイズを体験しよう～, 一般県民, 一ノ宮保健センター

・野田市民講演会, 野田市保健福祉部, ロコモティブシンドローム～今日から始めるロコモ予防～, 野田市民, 2018年11月20日, 野田市関宿中央公民館

・旭市介護予防講演会, 旭市高齢者福祉課, 運動による認知症予防～コグニサイズの紹介～, 旭市民, 2019年3月18日, 旭市飯岡保健センター

第2回新人研修会新人教育プログラム, 埼玉県理学療法士会, 生涯学習と理学療法の専門領域, 2018年10月14日, 文京学院大学,

(5) リハビリテーション学科作業療法専攻

①地域におけるボランティア活動等

千葉県内・外において専攻として組織的に実施しているボランティア活動はないが, 学生サークルや教員が, 協力要請や地域の要望によって自主的に以下のように参加している。

県内では, 認知症の人と家族の会千葉県支部主催のアルツハイマー啓発活動, がんカフェ, 船橋特別支援学校自立活動支援, 船橋市立船橋特別支援学校金堀校舎, 車いすラグビー公開交流会, 車いすラグビー体験, 千葉大学西千葉キャン

パスにおける車いす講習会、匝瑳市地域活性イベントの作業療法士会運営スタッフなどがある。

②地域への保健医療活動

専攻として組織だって地域への保健医療活動は、「ほい大プログラム」があげられる。他は教員が、協力要請や地域の要望によって以下のように参加している。活動として、「ほい大プログラム」へ作業療法の視点での援助、葛飾区役所福祉部自立活動支援センター専門相談、特別支援学級医療専門相談、専門研修等講師・練馬区障害児保育巡回指導などがある。

③審議会、委員会、国家試験委員等の実績

各議会、委員会等からの各教員が要請を受け参加している。

・全日本指定自動車教習所協会連合会、「高次脳機能障害を有する運転免許保有者の運転再開に関する調査研究委員会」委員、「高齢運転者支援士」試験作問委員、市川市障害支援区分認定審査会審査委員、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構評価員、横須賀市障害程度区分等判定審査会がある。

④職能団体委員等

・日本作業療法士協会制度対策部「運転と作業療法特設委員会」委員長、千葉県作業療法士会（アドバイザー委員、機関誌査読委員）、日本作業療法士協会制度対策部部長、日本作業療法士協会学術部部長、日本作業療法士協会代議員、千葉県作業療法士会副会長、千葉県作業療法士会事務局長、千葉県作業療法士会運転特設委員会担当理事、千葉県 POS 連盟理事、千葉県作業療法士会災害対策委員、千葉県 POS 連盟理事、千葉 POS 災害対策委員会委員、千葉県作業療法士会代議員、千葉県作業療法士会理事、千葉県作業療法士会学術部発達障害委員会委員、千葉県作業療法士会学術部査読委員、千葉県作業療法士会 MTDL 担当理事、千葉県作業療法士会千葉県生活行為向上マネジメント委員会委員長、千葉県作業療法士会ブロック活動部部長、千葉県作業療法士会千葉中央ブロック担当理事。

⑤学会、学術団体への貢献

下記の学会・学術団体への貢献があった。

・日本作業療法士協会学会演題査読委員、第 52 回日本作業療法学会特別講演座長、日本発達系作業療法学会大会長、運転と作業療法研究会代表、就労支援フォーラム NIPPON2017 運営委員、日本リハビリテーション医学会学術集会プログラム委員演題査読員、日本神経心理学会理事・編集委員、日本高次脳機能障害学会評議員・編集委員、日本神経学会査読委員、第 41 回日本高次脳障害学会学術総会プログラム委員、第 41 回日本神経心理学会総会プログラム委員、日本義肢装具学会用語委員、日本癌治療学会査読委員、千葉県作業療法士会災害対策研修会運営スタッフ、千葉県がんのリハビリテーション研修会運営スタッフ、千葉県作業療法学会運営スタッフおよび口述座長、千葉県 POS 連盟災害対策研修会運営スタッフ、千葉県作業療法士会学術誌査読委員がある。

⑥講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等

下記の演会／研修会の講師・研究指導をおこなった。

・日本作業療法士協会 MTDL 全国会議、千葉県作業療法士会現職者共通研修現職者研修 1, 2, 事例研究 2, 事例研究 3, 千葉県作業療法士会生活行為向上マネジメント事例検討会、千葉県作業療法士会生活行為向上マネジメント基礎研修会、千葉県回復期連携の会研修会、秋田県作業療法士会学術部研修会自動車運転支援総論、東京都高次脳機能障害者相談支援研修会、高次脳機能障害と自動車運転のリハビリ講習会、福島県作業療法士会自動車運転再開支援研修会、学術部研修会山梨県作業療法士会自動車運転に対する研修会、障害者教習指導員研修会、全日本指定教習所協会連合会高次脳機能障害者の特性と指導法について、高齢運転者支援士研修、高次脳機能障害者の特性と指導法の研修会、練馬区立関町第三保育園園内研修会、東京都王子第二特別支援学校夏季研修会、市原市教育センター幼児教育研修会、学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会、発達障害支援人材育成研修会、学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会がある。

5) 地域住民への歯科診療の提供

本学には学生実習施設としての機能を兼ね備えた歯科診療室が設置されており、歯科衛生学科の教員（歯科医師・歯科衛生士）と嘱託歯科衛生士等が協働して地域住民を対象に歯科診療を提供している。県内を中心に患者を広く受け入れており、30 年度の延患者数は 2,860 名であった。また、「千葉市口腔がん検診事業」として千葉市住民を対象に 23 件の個別検診を行った。当診療室は保険医療機関として歯科外来診療環境体制加算等の施設基準を満たし、患者にとって安心な歯科医療環境の提供、厚生労働大臣が指定する疾患患者に対する必要な医療管理を行う体制を整えている。歯科診療を担当する歯科医師・歯科衛生士の専門資格取得状況は、（公社）日本口腔外科学会口腔外科専門医 1 名、（公社）日本口腔外科学会口腔外科指導医 1 名、がん患者歯科医療連携登録医 1 名、日本糖尿病協会歯科医師登録医 1 名、日本歯科放射線学会歯科放射線准認定医 1 名、千葉市口腔がん検診検診医 1 名、千葉県歯科医師会認定口腔がん検診医 1 名、日本歯科保存学会歯科保存治療専門医 1 名、日本歯科色彩学会認定医 1 名、日本歯科審美学会認定医 1 名、美容口腔管理学会指導医 (Diplomate) 1 名、日本口腔衛生学会認定医 1 名、日本歯周病学会認定歯科衛生士 1 名、日本歯科衛生士会認定歯科衛生士 (摂食・嚥下リハビリテーション) 1 名、日本歯科衛生士会認定歯科衛生士 (在宅療養指導・口腔保健管理) 2 名、日本咀嚼学会健康咀嚼指導士 2 名となっている。

6) 国際交流の推進状況

- ・千葉県と姉妹州である米国 Wisconsin 州の大学およびすでに交流協定を締結済みの韓国 Inje University (仁済大学校) との交流推進を目指していたが、日程調整・半島情勢の緊張等により、いずれの方面も国際交流の進展は得られなかった。
- ・本学学生 1 名より文部科学省官民協働海外留学支援制度「トビタテ! 留学 JAPAN 日本代表プログラム」への応募希望の申し入れがあった。本学学生の海外留学を支援すると同時に、海外渡航中の危機管理（連絡）体制を構築すべく、国際交流委員会と事務局で検討に入った。

4. 評価（成果および改善すべき事項）

「県民の健康づくり」として、公開講座の企画・運営については概ね満足の結果が得られた。本学の教員が講師を担った講習会は全学で 100 を超えた。歯科診療室は 2018 年度の延患者数は 2,860 名であり、例年と同様の貢献ができた。「県・地域の施策の点検・評価、見直し、提案」として地域ケア会議の構成メンバー、団体のアドバイザー、医療施設の専門相談員など、地域および施設の運営に関わっている教員が多かった。また、「専門職を対象とした生涯教育の企画、実施公開講座の企画・運営」について、各職能団体の新人研修や現職者研修、専任教員研修に関わる教員が多かった。個々の教員としての活動であり、多職種連携を目指す大学としての動きには発展できていない。卒業生を対象とした取り組みは計画・実施できなかった。

5. 次年度の方策

- ・「健康づくり・病気予防への提案（県・地域の施策の点検・評価、見直し、提案）」は、個々の教員の取り組みを全学的にまず状況を把握し、大学としての取り組みに発展できるシステム構築を図る。
- ・健康福祉部との意見交換会をはじめ千葉県との情報交換をさらに発展させ、より具体的にシンクタンク機能を発揮すべく、学内の体制を整える。
- ・卒業生の初任者・卒後研修を雇用者と協働で企画、実施（地方創成）本学主催の卒後研修・生涯教育について、全学的・横断的な「学術集会」開催に向けて検討する。
- ・国際交流の進展を図る。学生の短期留学支援や語学研修の充実をカリキュラム化していく。

Ⅷ 教育研究等環境

1. 年度当初の重点課題

- ・教育設備の段階的更新・整備を学内の合意に基づき着実に実施する。

2. 施設・設備の整備状況

(新規購入備品)

幕張キャンパス

- 教育棟 A105 講義室 液晶テレビ及びテレビスタンド 各2台
- A109 講義室 液晶テレビ及びテレビスタンド 各2台
- A414 講義室 椅子 11脚
- B111 講義室 机60台, 椅子120脚
- 歯科診療室 AED 1台
- 学生ホール棟 第2講義室 プロジェクター及びスクリーン 各1台
- 事務棟 保健室 担架2台

仁戸名キャンパス

- 東校舎棟 物理療法室 プロジェクター 1台
- 作業療法室 プロジェクター 1台
- 第2講義室 プロジェクター 1台
- 第5講義室 プロジェクター 1台

(後援会寄付備品)

幕張キャンパス

- 教育棟 A106 講義室 机21台, 椅子63脚
- B102 講義室 椅子42脚

仁戸名キャンパス

- 東校舎棟 第1講義室 椅子50脚
- 第2講義室 椅子52脚
- 第5講義室 椅子51脚

3. 図書館の状況

1) 利用者数

- 幕張 65,118人
- 仁戸名 6,189人

2) 資料収集

(1) 蔵書数

- 幕張 図書 73,964冊 雑誌 1,407タイトル
- 仁戸名 図書 29,666冊 雑誌 766タイトル

(2) 視聴覚資料数

- 幕張 CD 36点 DVD 409点 スライド 7点
- 仁戸名 CD 10点 DVD 226点

3) 開館時間および開館日数

開館時間

- 【授業期間中開館時間】(幕張) 月・金曜日 8:45~21:00, 火~木曜日 8:45~20:00, 土曜日 9:00~17:00
- (仁戸名) 月・金曜日 9:15~21:00, 火~木曜日 9:15~20:00, 土曜日 9:00~17:00

- 【授業のない期間】(幕張・仁戸名とも) 月~金曜日 : 9:00~17:00 (但し仁戸名のみ夏休み中も土曜日開館)

開館日数 (年間延べ数)

- 幕張 254日
- 仁戸名 275日

4) 利用状況

- 貸出冊数 幕張 8,766冊
- 仁戸名 2,280冊
- 参考業務件数 幕張 3,076件
- 仁戸名 164件
- 複写 幕張 662件 6,357枚
- 仁戸名 63件 1,088枚

5) 施設整備およびサービス向上に向けた取り組み

図書館ガイダンスの実施（計 13 回）

文献検索ガイダンスの実施（計 10 回）

文献検索セミナーの実施（計 4 回開催（うち外部講師の招聘 3 回）、参加者のべ人数 107 名）

図書館だより「ぼ〜れぼ〜れ」の発行 年 2 回（4 月、10 月）

図書館利用に関する学生アンケートの実施

4. 研究倫理を遵守するための措置

- ・一般財団法人 公正研究推進協会が有料化されたため、無料で行える研究倫理 e ラーニングである日本学術振興会 e ラーニングコース[eL Core]・日本医師会治験促進センター・国立がん研究センターICR 臨床研究入門事務局を学内教員に案内している。
- ・4 月 6 日新任教員を対象として、研究倫理・コンプライアンス研修会「本学の研究倫理審査体制」を実施した。
- ・9 月 7 日コンプライアンス教育研修会として「物品購入依頼研修」を実施した。
- ・2019 年 2 月 6 日 科学研究費助成事業に係る内部監査を実施した。

5. 評価（成果および改善すべき事項）

- ・開学以来の課題であった、教室内の旧式の机・椅子が順次更新されつつある。
- ・開学時に整備したプロジェクターも、順次更新することとなった。

6. 次年度の方策

平成 30 年度に引き続き、学生の教育環境改善のため、順次整備を進めていく。

Ⅸ 研究活動報告

1. 看護学科

- (1) 著書：和文共著 14 件，編集 3 件，その他 1 件，総数 18 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 4 件，和文原著 39 件，その他 9 件，総数 52 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 10 件，全国学会 43 件，地方学会 5 件，その他 4 件，総数 62 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：シンポジスト 2 件であった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 56 件(内科研費 56 件)であった。学内共同は 18 件，学長裁量は 6 件であった。
- (6) 賞・特許：平成 30 年度千葉県公衆衛生学会優秀演題，第 37 回千葉県看護研究学会特別賞厚生労働大臣表彰の 2 件であった。

2. 栄養学科

- (1) 著書：共著 13 件，編集 1 件，その他 3 件，総数 17 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 4 件，和文原著 20 件，その他 5，総数 29 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 2 件，全国学会 30 件，地方学会 7 件，研修・講習会 2 件，総数 47 件であった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：招待講演 4 件，シンポジウム 1 件，総数 5 件であった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 9 件（うち科研費 5 件），学内共同は 19 件，学長裁量は 5 件であった。
- (6) 賞・特許：1 件。

3. 歯科衛生学科

- (1) 著書：共著 7 件，総数 7 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 5 件，和文原著 3 件，その他 12 件，総数 20 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 6 件，全国学会 25 件，総数 31 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：総数 3 件。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 6 件（科研費 6 件）であった。学内共同研究は 6 件であった。

4. リハビリテーション学科理学療法学専攻

- (1) 著書：0 件。
- (2) 学術論文：英文原著 4 件，和文原著 5 件，その他 1 件。総数 0 件。
- (3) 発表：国際学会 0 件，全国学会 8 件，地方学会 10 件，総数 18 件。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：0 件。
- (5) 研究資金獲得状況：科研費 3 件，学内研究 3 件，総数 6 件。
- (6) 賞・特許：1 件。

5. リハビリテーション学科作業療法学専攻

- (1) 著書：共著 1 件総数 1 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 4 件。和文原著 6 件。その他 18 件。総数 28 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 1 件。全国学会 15 件。地方学会 2 件。18 総数件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：
 - ・「高齢者が住み慣れた地域で生活するために必要な運動療法とは」シンポジウム座長運動療法学会学術集会。
 - ・教育講演 6「骨転移患者の生活機能」日本がんサポーターケア学会学術集会

- ・教育講演「がん緩和ケア」日本癌学会学術総会.
 - ・パネルディスカッション「高次脳機能障害と運転について」日本交通心理士会.
 - ・第3回, 教育講演「日本作業療法士協会の「運転に支障のある病気」に対する取り組み」, 日本安全運転医療研究会.
 - ・ランチョンセミナー「自動車運転と多職種連携」日本リハビリテーション連携科学学会.
 - ・大会企画シンポジウム 知っておきたい!!子ども・学校を支える多職種の活用～日本発達障害ネットワーク多職種連携委員会から～(シンポジスト), 国際学校心理学会 (ISPA) 東京大会・日本学校心理学会大会.
- (5) 研究資金獲得状況:
- 外部資金として受託した研究が4件(内科研費4件)であった. 学内共同は3件であった.

X 内部質保証のための取り組み

1. 年度当初の課題

2015年に受審した大学基準協会による機関別認証評価において以下のような改善勧告を受けた。内部質保証体制の確立が本学における喫緊の課題であり、将来構想検討委員会のもと管理・運営WGを設置し、WGを中心に課題の明確化、組織体制の改革等に取り組んだ。

□改善勧告

内部質保証の中心的な役割を担う自己点検・評価委員会と2つの部会の連携・役割分担、また「大学運営会議」等の他の組織との役割分担が明確ではなく、責任主体と実態に乖離がみられるなど、内部質保証システムが十分に構築されていない。また、全学的な自己点検・評価も今回の大学評価を申請するまで実施しておらず、諸活動の定期的な検証も不十分なので、大学として責任ある内部質保証を実現するよう、是正されたい。

2. 評価（成果及び改善すべき事項）

自己点検・評価実施推進部会により重点施策の実施状況調査が行われた。内部質保証体制を確立するための取り組みは（管理・運営の5）、6）、7））が該当する。それぞれの取り組みについて改善計画、年度末進行状況、次年度への課題を列挙した。

5) 業務の責任主体の明確化(重要事項に関する組織的な審議・決定プロセスの明確化、自己点検・評価委員会と二つの部会との連携・役割分担、運営会議等との役割分担が不明確、責任主体と実体との乖離)(総務企画委員会、自己点検評価委員会、将来構想検討委員会)

改善計画:教育の質保証を実現するために、管理運営部門と教育研究部門を立ち上げて運営会議、教授会、各委員会、部会の役割分担・責任体制を明確にし、自己点検・評価委員会と関係する部会との連携・役割分担を強化して内部質保証システムを構築した。

年度末進行状況:自己点検・評価に関する各部会の役割分担を明確にするとともに、部会で作成・検討した自己点検・評価案を、最終的に評価委員会が責任主体として審議する体制を確立したところであり、内部質保証システムの構築を図ることができた。

次年度への課題:組織改変を達成して内部質保証システムを構築して改善勧告の達成を実証する。IR専門部会で教学に関するデータを集計・分析し、その結果を踏まえて自己点検・評価実施推進部会が各学科、専攻等の学修成果を点検・評価する。

6) 予算請求、予算編成後の配分に関し、大学全体としての組織的な審議・決定プロセスの構築(総務企画委員会、将来構想検討委員会)

改善計画:2018(平成30)年度(2019(令和元)年度予算要求時)から、各学科及び委員会において提出された予算要望を、大学運営会議において集約・検討し、学長が承認した上で、大学の予算案として県に要求するというプロセスを整えとともに、学内研究費についても、総務・企画委員会において概算額や配分内訳等を審議し、予算案とする仕組みを整える。また、予算査定後の執行計画についても、大学運営会議での審議を踏まえて、学長が決定する仕組みに改める。

年度末進行状況：2018（平成 30）年度（2019（令和元）年度予算要求時）から、各学科及び委員会において提出された予算要望を、大学運営会議において集約・検討し、学長が承認した上で、大学の予算案として県に要求した。

次年度への課題：「3. 予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みを確立」する。また分析・検証を行い、その結果に基づき予算要求プロセスを修正する。また、この予算要求プロセスは、主に備品購入（教育用備品及び全学整備のための備品）と修繕費に関するものであるため、それ以外の教育研究にかかわる予算についての組織的な審議・決定プロセスを明確にしていく必要がある。併せて、個人研究費の執行についての検討していく必要がある。

7) 全学的な自己点検・評価と諸活動の定期的な検証を実施する体制の構築(総務企画委員会、自己点検評価委員会、将来構想検討委員会)

改善計画：全学的な自己点検・評価、改善をについて PDCA サイクルを稼働させて継続的に実行する体制を構築した。

- ・ IR 専門部会における学内情報の集約・分析
- ・ 自己点検・評価委員会（実施推進部会）における評価・提言
- ・ 当該委員会、学科等における改善・計画・実施

年度末進行状況：IR 専門部会を立ち上げたが所掌事項等も策定されておらず学内情報の集約・分析は十分に行われていない。自己点検評価・実施推進部会における評価・提言は昨年度から開始され、評価を踏まえた当該委員会、学科等における業務の改善・計画・実施のサイクルは稼働している。

次年度への課題：IR 専門部会、自己点検評価・実施推進部会の活動により諸活動の定期的な検証を実施し、内部質保証システムの実現を求める改善勧告の達成を実証する。

3. 次年度の方策

- ・ 上記重点施策の達成状況を中間期、年度末に自己点検・評価実施推進部会が中心となって検証し (C)、その結果を基に PDCA サイクルを稼働させて内部質保証・改善する。
- ・ 平成 28 年度に設立された IR 専門部会の活動により教学データを集計・解析し、評価に必要な情報を共有できるようにする。

第2部

教員の教育研究活動記録

学長

学長 田邊 政裕 博士 (医学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成30年度は、本学における教育、研究、管理・運営、社会貢献等に関する重点施策、特に認証評価で指摘された努力課題、改善勧告に焦点をあててその達成を目指すと共に平成31年度以降の中長期ビジョンの策定に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・管理栄養士導入教育.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・田邊政裕：アウトカム基盤型教育の新たな展開—マスタリー・ラーニングとシミュレーション教育— 医学・医療におけるシミュレータの進歩と普及 8 医学のあゆみ 268 (4) : 292-296, 2019.
- ・田邊政裕：日本医学教育学会医学教育賞 牛場賞を受賞して ゐのはな同窓会報 180号 (5), 2019.

4 学術集会での招待講演 (教育講演や基調講演) やシンポジウム等 (学術集会名，テーマ，開催日，場所等)

- ・田邊政裕：医学教育のキャリア形成とアウトカム基盤型教育，受賞者講演，第50回日本医学教育学会大会，東京，8/3，2018.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績 (活動団体名称，委員名称，活動期間)

- ・医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会 委員 2014年9月1日～.
- ・日本医学教育認証評価機構 委員 2014年4月1日～.
- ・公益財団法人医学教育振興財団 評議員 2016年6月15日～.

4 職能団体委員等 (職能団体名称，委員名称，活動期間)

- ・社団法人千葉県身体障害者福祉事業団 評議員 2015年4月1日～.
- ・健康ちば地域・職域連携推進協議会 委員 2015年4月1日～.
- ・NPO法人千葉医師研修支援ネットワーク 常任理事 2008年2月12日～.

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児外科学会．日本外科学会．日本医学教育学会．日本 VR 医学会．
- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名．役職．活動期間）

- ・日本医学教育学会 名誉会員 2016 年 7 月～．
- ・日本小児外科学会 名誉会員 2015 年 5 月～．
- ・日本 VR 医学会 監事．
- ・千葉県公衆衛生協会 運営委員 2017年4月～．

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称．主催 団体名称．講演テーマ等．対象．開催日．時場所）

- ・田邊政裕 教育講演 専門職のキャリア形成を考える - 個人的な体験から - （第 57 回千葉県公衆衛生学会，2019 年 1 月 29 日，千葉）．

7 その他

- ・日本医学教育賞，牛場賞受賞（2018 年 8 月 3 日）日本医学教育学会．

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称．活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・評議会．大学運営会議．自己点検・評価委員会．キャンパス・ハラスメント防止対策委員会．将来構想検討委員会．入試委員会．教員再任審査委員会．衛生委員会．防災対策委員会．

VI 評価（成果および改善すべき事項）

重点施策は自己点検・評価実施推進部会によって達成状況の評価が実施された．認証評価（大学基準協会）で指摘された課題についても同様に評価され，改善項目は平成 31 年度以降の達成目標として位置づけられた．

VII 次年度の目標

重点政策の未達成政策を平成 31 年度達成目標とし教職員との協働により達成する．

看護学科

教授 兼 学科長 石井 邦子 博士 (看護学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、特に教育活動では、新々カリへの移行に伴い、これまでの教育評価を行い、改善策を明確にする。研究活動では、産後ケアに関する研究を計画通りに遂行し、いち早く社会に還元していく。大学管理運営では、看護学科長および学内の役割を確実に遂行する。社会貢献では、文部科学省および看護系団体に与えられた役割を確実に遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・看護学入門.
 - ・看護ふれあい体験学習.
 - ・育成支援看護概論.
 - ・母性看護学方法論Ⅰ.
 - ・母性看護学方法論Ⅱ.
 - ・母性看護学実習.
 - ・助産学概論.
 - ・助産診断・技術学Ⅰ(実践基礎).
 - ・助産診断・技術学Ⅱ(ライフサイクル各期).
 - ・助産診断・技術学Ⅲ(分娩期).
 - ・助産診断・技術学Ⅳ(ハイリスク分娩).
 - ・助産学実習Ⅰ(産婦ケア体験).
 - ・助産学実習Ⅱ(継続支援).
 - ・助産学実習Ⅲ(分娩期ケア).
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・特定行為実践特論 (放送大学大学院)

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。)

- ・森恵美, 鈴木俊治, 大月恵理子, 石井邦子, 他：助産師基礎教育テキスト (2018年版) 第4巻 妊娠期の診断とケア 第5章妊娠経過に対応したケア, 第7章妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア 1. 初産婦とその家族の親準備へのケア, 2019, 日本看護協会出版会.
- ・横尾京子, 石井邦子, 川城由紀子, 他：助産学講座第5版8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期, 2019, 医学書院.
- ・鈴木幸子, 石井邦子：分娩介助トレーニングに使える胎児心音付き CTG 波形 (DVD), 2019, メディカ出版

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・川城由紀子, 石井邦子, 鳥田美紀代, 他: 看護職のセカンドキャリアに向けた要望とキャリア形成支援の検討, 千葉県立保健医療大学紀要, 10(1), 27-34, 2019.
- ・森美紀, 鈴木幸子, 石井邦子, 山本英子, 青柳優子, 北川良子, 川城由紀子, 東原亜希子, 植竹貴子: 分娩介助実習前の学生の気づきを促すための模擬産婦に対するフィードバック研修の試み, 保健医療福祉科学, 8, 75-82, 2018.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・森美紀, 鈴木幸子, 石井邦子, 青柳優子, 山本英子, 北川良子, 川城由紀子, 東原亜希子, 植竹貴子, 妻倉恵: 分娩介助実習における模擬産婦による双方向性フィードバックが学生の気づきを促す効果, 第20回日本母性看護学会学術集会, 6月24日, 埼玉.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 産後ケアシステムにおける看護専門職と育児支援人材のコラボレーションモデルの開発, 研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 模擬産婦と分娩シーンシナリオ (CTG 含む) を活用した分娩介助実習の効果, 研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 更年期女性の QOL 向上のための日常生活に関する研究—酸化ストレスを指標にして—, 研究分担者.
- ・千葉県立保健医療大学 共同研究費 「分娩期における助産師の内診診断技術発達過程の構造化」 研究代表者: 石井邦子 共同研究者: 川城由紀子, 北川良子, 川村紀子, 杉本亜矢子)

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・文部科学省. 大学設置・学校法人審議会(大学設置分科会)特別委員. 2018. 4~2019. 3.
- ・文部科学省. 職業実践力育成プログラム (BP) 認定審査委員会委員. 2018. 4~2019. 3.
- ・平成30年度実習指導者講習会プロポーザル受託者選考会議, 委員. 2018. 4~2019. 3.

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・日本看護系大学協議会. 理事. 2018. 4~2019. 3.
- ・日本看護系大学協議会. 高等教育行政対策委員会委員. 2018. 4~2019. 3.
- ・千葉県ナースセンター運営委員会. 委員. 2018. 4~2019. 3.
- ・日本看護学教育評価機構. 理事. 2019. 2~2019. 3.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性看護学会. 日本看護科学学会. 日本助産学会. 日本母性衛生学会. 日本生殖看護学会. 千葉看護学会. 千葉県母性衛生学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本母性看護学会. 理事, 編集委員長. 2018. 4~2019. 3.
- ・日本看護科学学会. 代議員. 査読委員. 2018. 4~2019. 3.
- ・日本助産学会. 代議員. 査読委員. 2018. 4~2019. 3.
- ・日本母性衛生学会. 査読委員. 2018. 4~2019. 3.
- ・千葉看護学会. 理事. 2018. 9~2019. 3.
- ・千葉県母性衛生学会. 理事. 2018. 4~2019. 3.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・平成30年度歯科衛生士専任教員講習会 I 講師。学習方法・学習評価—保健医療専門職教育の基礎となる理論と理論に基づいた教育方法—。歯科衛生性教育機関教員対象。2018年8月。神奈川歯科大学。
- ・平成30年度公立大学協会看護保健医療部会全体討議講師。「臨地実習の課題解決に向けて—看護系大学学士課程の臨地実習とその基準作成に関する調査研究を踏まえて。公立大学看護・保健医療系教員2018年8月。大分県立看護科学大学。

7 その他

- ・公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金運営委員。2018.4～2019.3。
- ・公益信託 中西睦子看護学先端的研究基金運営委員。2018.4～2019.3。
- ・放送大学客員教授。2018.4～2019.3。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称。活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議。教授会。将来構想検討委員会。入試委員会。自己点検・評価委員会。防災対策委員会。
- ・開学10周年記念事業実行委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称。活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会。看護学科運営会議。看護学科人事評価部会

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学
(<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>)。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、助産課程開講科目について、学生の目標達成状況、学生の授業評価、臨地実習指導者の評価を基に科目の構成と内容の見直しを行い、学習課題の精選と学生の主体的学習を促進するための改善点を明確にした。教員欠員により、各教員の負担は増大したが、メールやポートフォリオにより情報を共有し、実習指導助手を部分的に任用することで、教育の質を落とすことなく目標達成ができた。研究活動では、2年目となる研究代表者を務める科研はやや遅れ気味で成果公表には至らなかった。最終年度を迎える科研（助産師教育に関する研究、研究分担者）は計画通りに研究を遂行し、研究成果をDVD教材化まで発展させることができた。教室メンバーで行った共同研究費による研究も計画通りに遂行した。大学管理運営では、学科長として学科内各委員長への支援や指示を適宜行い、滞りなく学科運営をおこなった。学科独自の社会貢献事業2件の立ち上げを提案し、実行した。次期学科長と共に、次年度の学科内組織改正に向けて準備を始めた。社会貢献では、大学設置・学校法人審議会特別委員、BP認定審査委員、日本看護系大学協議会理事、日本母性看護学会編集担当理事、その他看護系団体の任務を滞りなく遂行した。当初予定していなかった日本看護学教育評価機構理事、千葉県医療整備課委託事業の選考委員を引き受け、任務を遂行した。

VII 次年度の目標

教育活動では、母性看護学科目の評価、見直しを行う、特に母性看護学実習に地域包括ケアの視点導入を検討する。助産課程では、学習課題の精選と学生の主体的学習の促進を行い、学生到達度の向上をめざす。新任教員への支援を十分に行い、教育の質を担保する。研究活動では、最終年度となる研究代表者を確実に実施する。大学管理運営では、新組織における学部長の役割を模索しながら、滞りなく学部運営が進むように、学長、総括委員長、事務局と連携する。社会貢献では、文部科学省および看護系団体に与えられた役割を確実に遂行する。

教授 佐藤 まゆみ 博士 (看護学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動、社会貢献、管理運営業務については2018年度も引き続き積極的に取り組んでいきたい。研究面については、自身が代表をつとめる科学研究費研究の遅れを取り戻し成果をあげるとともに、引き続きこれまでの研究成果の公表に取り組んでいきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・救命・救急の理論と実際.
 - ・看護学入門.
 - ・看護ふれあい体験学習.
 - ・成人看護学概論.
 - ・成人看護学方法論Ⅰ.
 - ・成人看護学方法論Ⅱ.
 - ・がん看護学.
 - ・ターミナルケア論.
 - ・成人看護学実習(急性期).
 - ・成人看護学実習(慢性期).
 - ・総合実習.
 - ・看護管理学.
 - ・看護管理学実習.
 - ・看護研究.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・成人看護学 (放送大学)

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。)

- ・佐藤まゆみ：第Ⅱ章手術前期の看護，第Ⅴ章退院に向けた指導・支援。林直子，佐藤まゆみ（編），看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護Ⅰ-概論・周手術期看護（改訂第3版），2019，南江堂。
- ・佐藤まゆみ：第Ⅰ章救急医療の現状 1. 救急医療の歴史と動向，2. 救急医療体制，3. プレホスピタルケア，第Ⅳ章救急看護の実際 2D. 救急外来受診後に帰宅する患者への教育的支援。佐藤まゆみ，林直子（編），看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護Ⅱ-救急看護・クリティカルケア（改訂第3版），2019，南江堂。
- ・佐藤まゆみ：第Ⅳ章成人期にある人を看護するための基本的な考え方 2A. ストレス・コーピングを支える，第Ⅵ章成人看護を充実させる実践的環境 4A. 専門看護師。林直子，鈴木久美，酒井郁子，梅田恵（編），看護学テキストNiCE 成人看護学概論（改訂第3版），2019，南江堂。
- ・佐藤まゆみ：第2章手術を受ける患者の治療過程と生活過程での援助，第6章消化・吸収機能障害及び栄養代謝機能障害のある人への援助。林直子，佐藤まゆみ（編），成人看護学，2018，放送大学教育振興会。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・田口智恵美，佐藤まゆみ，三枝香代子：緊急入室準備をする ICU 熟練看護師の臨床判断. 千葉県立保健医療大学紀要，10 (1)，19-25，2019.
- ・小澤桂子，森文子，遠藤久美，佐藤まゆみ，高山京子，川地香奈子，佐藤禮子：がん化学療法における貧血アセスメントツールの開発. 千葉県立保健医療大学紀要，10 (1)，35-42，2019.
- ・高山京子，佐藤禮子，森文子，小澤桂子，佐藤まゆみ，遠藤久美：がん化学療法患者のセルフケアにおける貧血アセスメントルーツを活用した看護ケアの有用性. 千葉県立保健医療大学紀要，10 (1)，81-88，2019.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究(B)，外来通院がん患者の主体性を活かして行う実践のための外来看護師育成プログラムの洗練，研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究(C)，ICU 看護師の臨床判断能力を育成するシミュレーション教育方法の実施と評価，研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究(C)，骨転移に放射線治療を受けるがん患者の至適生活を支援する看護プログラムの洗練，研究分担者.
- ・共同研究，終末期ケアに関わる歯科衛生士の体験に関する研究，研究分担者
- ・学長裁量研究，千葉県の地域包括ケアを支える看護職者の研修ニーズに関する二次分析：中小規模病院，介護保険施設，訪問看護ステーションの特徴，研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・東京通信大学. 人を対象とする研究倫理委員会委員. 2018年6月～現在に至る.

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会. 日本がん看護学会. 日本クリティカルケア看護学会. 日本救急看護学会. 日本看護学教育学会. 日本看護管理学会. 千葉看護学会.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本がん看護学会. 理事. 2010年2月～2017年2月，2019年2月～現在に至る.
- ・日本がん看護学会. 編集委員会委員長. 2019年2月～現在に至る.
- ・日本がん看護学会. 表彰委員会委員. 2019年2月～現在に至る.
- ・日本がん看護学会. 倫理委員会委員. 2017年4月～2019年2月.
- ・日本がん看護学会. 専任査読者. 2004年4月～2019年2月.
- ・日本看護科学学会. 代議員. 2011年4月～2019年2月.
- ・日本看護科学学会. 和文誌専任査読者. 2009年4月～現在に至る.
- ・日本看護学教育学会. 専任査読者. 2009年4月～現在に至る.
- ・千葉看護学会. 専任査読者. 2012年4月～現在に至る.
- ・第33回日本がん看護学会学術集会. 企画委員. 2018年1月～2019年3月.
- ・第33回日本がん看護学会学術集会. 査読委員. 2018年8月～2018年9月.
- ・第33回日本がん看護学会学術集会. 特別講演2座長. 2019年2月.
- ・第38回日本看護科学学会学術集会. 査読委員. 2018年6月～2018年7月.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・千葉県がんセンター. 研究指導. 看護師. 年5回. 千葉県がんセンター.
- ・千葉県循環器病センター. 研究指導. 看護師. 年8回. 千葉県循環器病センター.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会、総務・企画委員会、将来構想検討委員会、FD委員会、自己点検・評価委員会、管理運営ワーキンググループ。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会、看護学科運営会議、看護学科総務・企画委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面、社会貢献面、管理運営面については、十分な成果をあげることができた。研究面では、研究資金を獲得している5つの研究とも順調に進めることができたが、自身が代表をつとめる科学研究費研究は、2017年度の遅れを取り戻すまでには至らなかった。

教授 兼 学生部長 西野 郁子 博士 (看護学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育においては前年度の振り返りから領域の教員間で連携してより効果的な講義・演習を実施していきたい。研究活動については、共同研究者および筆頭研究者として継続したテーマについて、発展していきたい。大学の運営面では、学生部長として学生委員会・進路支援委員会等を運営しながら、教職員の協力を得て学生支援の充実に取り組んでいきたい。社会貢献の機会があれば、貢献できるように努力していきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・看護学入門.
 - ・看護ふれあい体験学習.
 - ・育成支援看護概論.
 - ・小児看護学方法論Ⅰ.
 - ・小児看護学方法論Ⅱ.
 - ・小児看護学実習.
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・文部科学省科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金 (基盤研究 (C)), 小学校入学に向けた幼児期からの慢性疾患患児への支援プログラムの開発, 研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金 (基盤研究 (C)), 健康障害をもつ子どもときょうだいがいる家庭の子育て力支援ガイドラインの開発, 研究分担者.
- ・2018年度千葉県立保健医療大学学内共同研究費 (一般), 保育所看護職が認識している「気になる子」への保健活動の実態, 共同研究者.
- ・2018年度千葉県立保健医療大学学内共同研究費 (一般), 中小規模医療施設における看護研究指導者の充実にに向けた研修プログラムの開発, 共同研究者.
- ・2018年度千葉県立保健医療大学学長裁量研究費, 千葉県の地域包括ケアを支える看護職者の研修ニーズに関する二次分析: 中小規模病院, 介護保険施設, 訪問看護ステーションの特徴, 共同研究者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
 - ・千葉県こども病院でのボランティア活動「入院している子どものきょうだいの遊び活動」の推進のための協働・調

整. 2018年4月～2019年3月.

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

・千葉県健康福祉部疾病対策課, 千葉県移行期医療支援連絡協議会委員, 2018年4月～2019年3月.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本小児看護学会, 日本小児保健協会, 日本看護科学学会, 日本新生児看護学会, 千葉看護学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

・日本小児看護学会, 日本小児看護学会誌, 査読委員, 2018年4月～2019年3月.

・千葉看護学会, 千葉看護学会会誌, 査読委員, 2018年4月～2019年3月.

・日本小児看護学会, 日本小児看護学会第29回学術集会, 査読委員, 2019年3月.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

・看護研究の研修会の講師, 看護研究のコツがてんこ盛り! コツコツ学ぼうセミナー, 千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科主催, 「研究論文をまとめる時・発表する時のコツ」について講義し, グループワークのファシリテートを担当した. 千葉県内の看護師20名, 2019年3月14日, 千葉県立保健医療大学.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

・大学運営会議, 教授会, 自己点検・評価委員会, 認証評価部会, 将来構想検討委員会, 学生委員会 (学生部長・委員長), 進路支援委員会 (学生部長・委員長), キャンパス・ハラスメント防止対策委員会, 防災対策委員会, FD委員会

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

・看護学科運営会議, 看護学科教授会, 看護学科学生・進路支援委員会, 看護学科「看護研究」作業グループ会議.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育においては, 領域内の教員間で連携して効果的な講義・演習を実施できた. 筆頭研究者としての研究活動については, スケジュールが遅れてはいるが調査を実施した. 学内共同研究については研究に参加し成果の公表は次年度以降である. 大学の運営面では学生部長として学生委員会・進路支援委員会等を運営し, 教職員の協力を得て学生支援に取り組むことができた. また, 学生会や後援会との連携も取れた. 社会貢献として学内で開催した研修会の企画・運営に携わり貢献できた.

VII 次年度の目標

教育においては前年度の振り返りから領域の教員間で連携してより効果的な講義・演習を実施していきたい. 研究活動については, 筆頭研究者および共同研究者として役割を果たし成果を挙げていきたい. 大学の運営面では, 学生部長として学生委員会・進路支援委員会等を運営しながら, 教職員の協力を得て学生支援に取り組んでいきたい. また, 各委員の役割を明確にして学生支援の充実を図りたい. 社会貢献の機会があれば, 貢献できるように努力していきたい.

教授 佐藤 紀子 博士（看護学）

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、新々カリキュラムの移行に向けて現行を見直し、改善に向けた検討を領域内で進める。研究活動では、エンパワメントに着目した介護予防実践を発展させる研究計画を考案する。管理運営では、2020年度からの入試改革に向けて、情報収集・検討を重ねAPにそった選抜方法を明確にする。社会貢献では、文科省や学会等から与えられた役割を確実に遂行するとともに、県立大としての貢献の在り方を模索しつつ研修講師や自治体の審議会委員等を積極的に引き受けていく。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール.
 - ・看護学入門.
 - ・看護ふれあい体験学習.
 - ・地域看護学概論.
 - ・地域看護学方法論Ⅰ.
 - ・地域看護学方法論Ⅲ.
 - ・地域看護学実習.
 - ・災害看護学.
 - ・総合実習（地域看護学）.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所.）

- ・佐藤紀子：第1章 1 母子保健福祉活動，最新公衆衛生看護学第2版2018年版各論1（宮崎美砂子他編集），2-49，2019年1月，日本看護協会出版会.
- ・佐藤紀子：第1章 6 大学における地域看護学・公衆衛生看護学教育をとりまく状況，ワークブック 地域/公衆衛生看護活動事例演習（牛尾裕子，佐藤紀子，田村須賀子編集），7-9，2019年1月，クオリティケア.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・佐藤紀子，雨宮有子，細谷紀子，飯野理恵，丸谷美紀，井出成美：高齢者のエンパワメントに着目した介護予防支援ガイドの作成，千葉看護学会会誌，24(1)，1-11，2018年9月.
- ・佐藤紀子，雨宮有子，細谷紀子，石川志麻：新人保健師を対象としたリフレクションに基づく個別支援実践能力向上プログラムの効果，千葉県立保健医療大学紀要，10巻1号，43-50，2019年3月.
- ・石丸美奈，鈴木悟，鶴岡章子，鈴木美和，飯野理恵，宮崎美砂子，杉田由加里，雨宮有子，佐藤紀子，安藤智子，原田静香，鈴木明子：看護系大学間連携による保健師の業務研究サポートモデルの構築-千葉県内8校の連携による取り組み-，千葉大学大学院看護学研究科紀要，第40号，19-26，2018.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・雨宮有子, 佐藤紀子, 細谷紀子, 石川志麻: 保健師のリーダーシップ発揮に関する文献レビュー, 日本地域看護学会第21回学術集会, 2018年11月11~12日, 岐阜市.
- ・飯野理恵, 宮崎美砂子, 佐藤紀子他5名: 予防活動の持続・発展のための地域看護実践ガイドを活用した実践セミナーの実施と評価, 日本地域看護学会第21回学術集会, 2018年11月11~12日, 岐阜市.
- ・佐藤紀子, 牛尾裕子他2名: 学士課程において保健師の地区活動をどのように教授するか-学内演習における実践事例の用い方と学びのパフォーマンス評価-(ワークショップ), 日本地域看護学会第21回学術集会, 2018年11月11~12日, 岐阜市.
- ・雨宮有子, 佐藤紀子, 杉本知子, 細谷紀子, 飯野理恵他4名: 高齢者のエンパワメントに着目した介護予防従事者向け研修会の学習効果-支援指針の自己評価の分析-, 日本看護科学学会第38回学術集会, 2018年12月15~16日, 松山市.
- ・佐藤紀子, 雨宮有子, 細谷紀子, 杉本知子, 飯野理恵他4名: 高齢者のエンパワメントに着目した介護予防従事者向け研修会の学習効果-自記式質問紙の記載内容の分析-, 日本看護科学学会第38回学術集会, 2018年12月15~16日, 松山市.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費助成事業(基盤研究(C))2015-18, 災害時の共助を意図した住民主体の健康な地域づくりを推進する行政保健師の活動指針, 研究分担者.
- ・科学研究費助成事業(基盤研究(C))2016-19, 保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・文部科学省. 大学設置・学校法人審議会(大学設置分科会)専門委員. 2017年11月~2018年10月.
- ・千葉県現任教職推進会議, 委員長, 2012年4月~現在.
- ・柏市保健衛生審議会, 副委員長, 2009年4月~現在.
- ・柏市保健衛生審議会母子保健専門分科会, 委員長, 2009年4月~2020年7月現在.
- ・柏市保健衛生審議会健康増進専門分科会, 委員, 2009年4月~2019年3月.

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県看護協会 千葉県看護教員養成講習会運営会議, 委員, 2017年4月~2020年3月.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会. 千葉看護学会. 日本公衆衛生学会. 日本看護科学学会. 文化看護学会. 日本家族看護学会. 日本公衆衛生看護学会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本地域看護学会, 代議員, 2011年4月~現在.
- ・日本地域看護学会, 教育委員, 2012年4月~現在.
- ・日本看護科学学会, 代議員, 2011年4月~現在.
- ・千葉看護学会, 専任査読者, 2005年4月~2021年3月.
- ・日本地域看護学会, 専任査読者, 2010年4月~2019年6月.
- ・日本公衆衛生看護学会, 専任査読者, 2015年4月~2020年5月.
- ・千葉県公衆衛生学会, 2018年度(第57回)座長, 2019年1月29日.

6 講演会(公開講座を含む)/研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・2018年度中堅前期保健師研修会①講師. 健康福祉部健康づくり支援課. 中堅保健師に求められる役割. 県内健康福祉セ

- ンターおよび市町村等に勤務しておおむね5～10年目の保健師。2018年7月18日。千葉県教育会館。
- ・2018年度中堅後期保健師研修会講師。健康福祉部健康づくり支援課。専門職の成長、組織の成長を促すマネジメントとリーダーシップ。実務経験おおむね15年前後の保健師。2018年7月25日。千葉県庁南庁舎。
 - ・2018年度千葉県保健師現任教育推進のための研修会講師。千葉県健康福祉部健康づくり支援課。保健師に求められる能力（自治体保健師の標準的なキャリアラダー）。県内市町村および健康福祉センターの統括的な役割を担う保健師（現任教育責任者含む）と研修担当者。2018年8月1日。千葉県庁南庁舎
 - ・2018年度第3回保健活動業務研修会講師。柏市。地域診断について。柏市保健師。2018年10月30日。柏市保健所。
 - ・2018年度中堅前期保健師研修会②講師。健康福祉部健康づくり支援課。保健活動の評価の考え方と方法。県内健康福祉センターおよび市町村等に勤務しておおむね5～10年目の保健師。2019年1月23日。千葉県教育会館。
 - ・2018年度中堅前期保健師研修会③講師。健康福祉部健康づくり支援課。評価を踏まえた事業計画案の作成。県内健康福祉センターおよび市町村等に勤務しておおむね5～10年目の保健師。2019年1月24日。千葉県教育会館。
 - ・2018年度千葉県保健活動業務研究発表会講師。健康福祉部健康づくり支援課。総合講評。千葉県内保健師。2019年3月5日。千葉県教育会館。
 - ・2018年度印旛健康福祉センター管内中堅期保健師研修会講師。千葉県印旛健康福祉センター。ソーシャルキャピタルを活用した保健活動の実践。印旛健康福祉センターおよび管内市町村に所属する中堅期保健師。2019年3月8日。印旛合同庁舎。
 - ・2018年度保健師活動に必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得をめざしたワークショップ。千葉県立保健医療大学看護学科健康支援看護領域。千葉県内および近郊自治体の新規採用後3年以内の保健師。2018年10月27日・12月22日・2019年度2月16日。千葉県立保健医療大学。
 - ・看護研究のコツがてんこ盛り！コツコツ学ぼうセミナー。千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科。テーマを設定するときのコツ。県内中小規模医療施設の中堅看護師。2019年3月14日。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称。活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会。入試委員会。入試実施部会（部会長）。学術推進企画委員会紀要編集部。教員再任資格審査委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称。活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会。看護学科入試検討委員会（副委員長）。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

後期から教員欠員となったが、実習指導助手の確保および教員間の協力体制を整え、教育の質を落とすことなく目標を達成することができた。保健師の国家試験対策としては、講義や実習時に国家試験問題の例示や保健師資格を持つ意義について伝え、学習意欲を高める取り組みを行ったが、十分な成果を上げることができなかった。研究活動では、これまでの研究を発展させる計画を申請し科研費に採択された。大学管理運営では、入試実施部会長として入試問題の質向上の取り組みや2020年度からの入試選抜に向けた準備を進めた。また、次期学科長として、次年度の学科内組織改正に向けて検討を始めた。社会貢献では、文部科学省や学会、看護協会等から与えられた役割を確実に遂行することができた。また、千葉県や県内市町村から依頼の研修講師や審議会委員等を精力的に引き受けた。

VII 次年度の目標

教育活動では、新々カリキュラムの地域看護学科目が効果的に実施できるよう、現行の内容を見直し検討する。保健師の国家試験対策については、不合格となる原因も探りながら取り組みを強化する。また、新任教員へのサポート体制を整備し、教育の質向上を目指す。研究活動では、研究代表者となった新たな研究に着手するとともに、これまでの研究成果を論文化する。領域で行う共同研究についても確実に実施する。大学管理運営では、新設の入試改革検討委員会の委員長として本学の入試課題を分析し、2020年度からの入試選抜が滞りなく実施できるよう準備を進める。また、学科長として学科運営が円滑に推進するようリーダーシップを発揮する。

教授 小川 真 博士 (医学)

対象期間：2018年4月1日～2019年1月23日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、臨床医学の最新の動向をふまえて教育内容の充実と刷新を図る。特に臨床薬理知識の基礎および情報収集法教育の充実を目標とする。また、放送大学にて認定看護師育成に引き続き参画する。研究活動では引き続き慢性腎臓病の治療・管理について研究を継続するとともに、糖尿病性腎症の進展阻止を目標とする千葉県の取り組みへの参加、市民への啓蒙活動にも努めたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・人体の構造と機能Ⅲ.
 - ・病態学Ⅰ (内科系疾病論).
 - ・病態学Ⅲ (高齢者疾病論).
 - ・臨床検査実習.
 - ・内科学概論.
 - ・高齢者医療論.
 - ・内科学総論.
 - ・内科学各論.
 - ・老年科学.
- 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)
 - ・腎臓内科学 (千葉大学医学研究院)
 - ・疾病学 (千葉大学薬学研究院)
 - ・臨床病態生理学特論 (放送大学)

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・小川真: 看護系大学学士課程における薬理学教育の現状と展望, 千葉県立保健医療大学紀要, 10(1), p3~9, 2019.
- ・植田麻実, 島田美恵子, 小川真他: 初年次教育における課題に関する教員の意識調査, 千葉県立保健医療大学紀要, 10(1), p61~71, 2019.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2018年度千葉県保健医療大学学長裁量研究, 大学生が行う地域のための健康づくり活動の実施と評価, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県難病審査 (腎臓病)
- ・千葉市更生医療審査 (慢性じん臓病)

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本内科学会, 日本腎臓学会, 日本老年学会, 千葉医学会,

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会, 図書・情報委員会, 紀要編集部会, 共通教育運営会議, 学生委員会, 動物実験研究倫理審査部会, 教員資格審査委員会,

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科教授会, 看護学科運営委員会, 看護学科学生・進路支援支援委員会, 2年生担任リーダー,

教授 河部 房子 博士 (看護学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

引き続き、看護専門職者としての基本的な思考・判断能力、実践能力を育成する効果的な授業の展開に向け、教育内容の精選と展開について、領域内の教員間で共有しながら、教員間の連携体制を強化する。授業リフレクションを通して、授業改善をはかりつつ、各教員の教育力向上を支援する。研究活動では、前年度の研究成果を元にさらに発展させる。また、既に終了し未投稿となっている研究成果の論文化に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・看護ふれあい体験学習.
- ・看護学入門.
- ・看護技術論 I (生活援助技術).
- ・看護技術論 II (共通基本技術).
- ・看護技術論 III (フィジカルアセスメント).
- ・看護技術論 IV (検査治療技術).
- ・看護技術論 V (看護過程展開技術).
- ・基礎看護学実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・今井宏美, 木村亜由美, 麻賀多美代, 椿祥子, 麻生智子, 河部房子, 三澤哲夫：現実適合性の高い口腔ケア用モバイルシミュレータを用いた部分学習が全体学習に及ぼす影響, 日本人間工学学会, 2018年6月, 仙台.
- ・T. Yamamoto, Y. Wazumi, S. Saito, F. Kawabe, S.C. Chien, H. Toda, H. Yamagishi, T. Maeda, C. Matsuda, Y. Kanai : The Background and Theorization Process of the Japanese Nursing Theorist- Usui Hiroko' s "Scientific Nursing Theory" in Japanese as [KAGAKUTEKI KANNGORONN], NETNEP2018-7th International Nurse Education Conference, May, 2018. Banff, CANADA.
- ・Hironi Imai, Tamiyo Asaga, Tetsuo Misawa, Ayumi Kimura, Sachiko Tsubaki, Tomoko Aso, Fusako Kawabe : The Effects of Brushing Practice Using a TBP-Module with Good Real-Life Adaptability, Proceedings of the 20th Congress of the International Ergonomics Association (IEA 2018), p298-304, August, 2018.
- ・今井宏美, 椿祥子, 河部房子, 麻賀多美代, 仲吉昭一：産学連携プロジェクト ー自己学習型, 口腔ケアシミュレータの開発ー, 第24回千葉看護学会学術集会, 2018年9月, 千葉.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発, 研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 質の高い口腔ケア技術獲得に資する現実適合性の高いモバイルシミュレータの開発と検証, 研究分担者.

- ・科学研究費補助金基盤研究 (B), 看護職の生涯にわたるキャリア発達を支援する体系的研修プログラムの構築, 研究分担者.
- ・学内共同研究, 千葉県内の病院における看護職員確保の困難さに関する実態調査, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本看護管理学会, 日本看護歴史学会, 千葉看護学会, 日本看護学会, ナイチンゲール研究学会, 日本良導絡自律神経学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉看護学会, 専任査読者, 2013年4月1日～現在に至る.
- ・千葉看護学会, 編集委員, 2015年4月1日～現在に至る.
- ・千葉看護学会第24回学術集会, 企画委員, 2018年2月6日～11月30日
- ・千葉看護学会第24回学術集会, 口演発表座長, 2018年9月8日.
- ・日本看護学教育学会, 専任査読者, 2018年4月1日～現在に至る.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 場所)

- ・2018年度 看護学教育指導者研修講師, 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター主催, 自組織の現状をふまえた指導過程のリフレクション・臨地実習場面の教材化, 臨地実習指導看護師, 2018年8月23日～24日, 千葉大学.
- ・2018年度 教育担当者研修会, 新人看護師の基礎教育の状況, 教育担当看護職者, 2018年9月3日, 千葉県ナースセンター.
- ・2018年度 千葉県看護協会船橋地区部会 第2回研修会講師, 共に育つコーチング, 看護師・保健師・大学教員, 2019年2月20日, 千葉徳州会病院.
- ・東京歯科大学市川総合病院, 研究指導, 年2回, 看護師, 東京歯科大学市川総合病院.
- ・看護研究のコツがてんこ盛り! コツコツ学ぼうセミナー, 千葉県立保健医療大学主催, 研究計画を立てる時のコツ, 看護師, 2019年3月14日, 千葉県立保健医療大学.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

教授会, 教務委員会 (委員長), 新々カリキュラム作成部会 (部会長), FD委員会, 将来構想検討委員会, 特色科目委員会, 自己点検・評価委員会, IR部会, 教員資格審査委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

看護学科教授会, 看護学科教務委員会, 看護学科運営会議.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動としては, 当事者参加型の授業を増やしたり, 看護技術演習にアクティブラーニングシステムを導入するなどの授業改善を行った. 授業リフレクションを通して, 教員間で各授業の教育内容や実際の指導のあり方について共有することは継続して行っている. 研究活動では, 科学研究費補助金を獲得し, 研究に着手した. 既に終了した研究の論文化にも取り組み, 現在投稿中である. 大学の管理運営では, 教務委員長としてカリキュラム改正に向けた検討を着実に進め, 新々カリキュラム導入に向けて役割を果たした.

VII 次年度の目標

引き続き、看護専門職者としての基本的な思考・判断能力、実践能力を育成する効果的な授業の展開に向け、教育内容の精選と展開について、領域内の教員間で共有しながら、教員間の連携体制を強化する。特に次年度はカリキュラムが改正され、新旧カリキュラムが同時進行となるため、新々カリキュラムの教育内容を教員間で確認しつつ教育活動を展開する。研究活動では、科研費の採択を受け開始した研究成果の学会発表、論文投稿に取り組む。

教授 神田 みなみ 修士 (文学), Master of Arts (TESOL)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度の教育活動では、新々カリキュラムの英語科目改善に向けた検討を進める。また2年目となる「体験ゼミナール」の順調な運営に努める。研究活動としては、英語多読の教育・研究テーマを発展させることに努める。大学の運営として、委員会活動に貢献していきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール
- ・英語 I (基礎講読).
- ・英語 II (基礎英会話).
- ・英語 III (講読・記述).
- ・英語 V (保健医療英語) 看護学科.
- ・英語 V (保健医療英語) 歯科衛生学科.
- ・英語 VI (応用英語).

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・神田みなみ：英語多読授業でノンフィクションも読みませんか？(読める長文、楽しい多読—物語の力を授業に 第18回), 新英語教育, Vol. 589, pp. 40-41, 2018.
- ・神田みなみ：快読快聴ライブラリ解説 Stephen Hawking, 多聴多読マガジン, Vol. 70, p. 77, 2018.
- ・神田みなみ：快読快聴ライブラリ解説 Cyber Security Experts, 多聴多読マガジン, Vol. 73, p. 65, 2019.
- ・井上裕光, 神田みなみ, 植田麻実：ホームページ上の大学情報発信を英語でも行う方法の開発(平成29年度学長裁量研究抄録), 千葉県立保健医療大学紀要, Vol. 10(1), p. 128, 2019.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・Kanda, M.：Extensive Reading Materials for Nursing Students, JANET (Japan Association for Nursing English Teaching), 2018年6月23日, 福井市地域プラザ.
- ・神田みなみ：ノンフィクションの英語多読—専門英語(ESP)教育に向けて, 国際異文化学会第20回年次大会, 2018年11月24日, 首都大学東京秋葉原キャンパス.
- ・神田みなみ, 植田麻実：本学学生を対象とした英語 VELC Test の検証—熟達度診断およびプレイスメントテストとしてのパイロットスタディ(第9回学内共同研究発表会), 千葉県立保健医療大学紀要, Vol. 10(1), p. 120, 2019.
- ・植田麻実, 神田みなみ：医療英語 ESP (English for Specific Purposes)—学習者の視点からのニーズ・アナリシス(第9回学内共同研究発表会), 千葉県立保健医療大学紀要, Vol. 10(1), p. 110, 2019.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2018-2020年度科学研究費補助金基盤研究(C), 保健医療系 ESP 英語多読プログラムの構築と検証, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本多読学会、日本英文学会、大学英語教育学会(JACET)、全国語学教育学会(JALT)、American Association of Applied Linguistics (AAAL:アメリカ応用言語学会)、TESOL International Association (TESOL: 米国・第二言語としての英語教育学会)、International Association of Teachers of English as a Foreign Language (IATEFL: 英国・外国語としての英語教育学会)、映画英語教育学会、日英・英語教育学会、外国語教育メディア学会、Japan Association for Nursing English Teaching (JANET: 看護英語教育学会)。

2) 学会、学術団体への貢献(学会・学術団体名、役職、活動期間)

- ・日本多読学会、事務局長、2018年4月～2019年3月。
- ・日本多読学会、学会誌編集委員会、2018年10月～2019年3月。
- ・国際異文化学会、理事、2018年4月～2019年3月。

7 その他

- ・TOEIC 試験対策講座、外部講師による TOEIC スコアアップのための対策講座の企画開催(後援会補助)、2018年8月23日、千葉県立保健医療大学。
- ・TOEIC IP 試験の企画・実施等(後援会補助)、2018年9月29日、千葉県立保健医療大学。
- ・TOEFL ITP 試験の企画、千葉県立保健医療大学。
- ・神田外語大学・千葉県立保健医療大学「初期医療通訳ボランティア研修」作業部会。

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会、共通教育運営会議、教務委員会、入試評価部会、特色科目委員会、教員資格審査委員会、国際交流委員会、IR部会、体験ゼミナール作業部会、新々カリキュラム作成作業部会。

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議、看護学科教授会、看護学科入試検討委員会、看護学科学生・進路支援委員会、看護学科1年担任リーダー、看護学科人事評価部会。

VI 評価(成果および改善すべき事項)

「体験ゼミナール」は概ね順調な科目運営を行い、報告書を作成・配布することができた。本学の英語カリキュラム充実をめざし、新新カリキュラムに上級生が履修できる選択科目「上級英語」2科目の新設を実現した。図書館の英語図書は補充を特に保健医療英語関係で行った。研究に関しては、科研費研究の研究成果報告書を作成し、新規研究課題が採択された。英語多読の推進に関する原稿を英語教師対象と一般英語学習者対象の雑誌に掲載することができた。

VII 次年度の目標

2019年度の研究活動としては、保健医療英語分野の英語多読の教育・研究テーマに取り組み、成果を本学の教育に活用する。大学の運営面では、教務委員長として教職員の協力を得て、新新カリキュラムのスムーズな移行・導入と次年度オリンピック開催年への準備等を進める。

教授 杉本 知子 博士（看護学）

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、以下を具体的な目標をして掲げた。

- ①研究成果をまとめ、速やかに公表する
- ②社会貢献活動に積極的に参加する
- ③実施した講義に対し、学生から「分かりやすかった」という評価を得ることができる

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール.
- ・看護学入門.
- ・看護ふれあい体験学習.
- ・療養支援看護概論.
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
- ・高齢者看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師

- ・認知症看護援助方法論Ⅱ（生活・療養環境づくり）. 聖路加国際大学教育センター認定看護師教育課程認知症看護コース
- ・認知症看護援助方法論Ⅲ（ケアマネジメント）. 聖路加国際大学教育センター認定看護師教育課程認知症看護コース
- ・チーム医療. 一般社団法人日本精神科看護協会, 東京研修会場・京都研修センター認定看護師教育課程

III 研究記録

2 学術論文・その他

- ・杉本知子, 森一恵:【根拠がわかる治療とケアのベストプラクティス】(第Ⅳ章)がん患者へのケアとエビデンス 世代によるかかわりの違いとエビデンス 高齢者へのかかわり. がん看護《隔月刊》 根拠がわかる治療とケアのベストプラクティス, 24巻, 2号. p211-214, 2019年.

3 発表

- ・Tomoko Sugimoto, Chikako Takayanagi, Mikiyo Torita, Kazue Mori, Kyoko Saeki : Learning needs of nurses who support the discharge of elderly cancer patients, Aging & Society 8th Interdisciplinary Conference, 2018年9月18日～19日, Tokyo.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者）

- ・2016-18年度科学研究費補助金基盤研究(C), がん高齢者の地域生活への移行と継続を支援する看護師のスキルアップ教

育枠組みの構築，研究代表者.

- ・2016-19 年度科学研究費補助金基盤研究(C)，高齢がん患者と家族の療養移行期に関する意思決定支援の評価，研究分担者.
- ・2018-21 年度科学研究費補助金基盤研究(C)，認知症カフェの質保障と安定した運営に向けた評価指標の開発，研究分担者.
- ・2018 年度学内共同研究（一般），中小規模医療施設における看護研究指導者の充実にに向けた研修プログラムの開発，共同研究者.
- ・2018 年度学長裁量研究，高齢者ケア施設に従事する外国人労働者の定着に向けた支援の実態，研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等

1) 千葉県内

- ・スマイル・キャンサーウォークちばにおける運営サポート等（スマイル・キャンサーウォークちば，2018 年 9 月 21 日，若葉 3 丁目公園）
- ・ペイタウンかふえアドバイザー，2018 年 4 月～2019 年 3 月.

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績

- ・東京都台東区介護認定審査会，合議体長，2018 年 4 月～2019 年 3 月迄.

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会，日本老年看護学会，聖路加看護学会，日本在宅ケア学会.

2) 学会，学術団体への貢献

- ・日本老年看護学会，「老年看護学」査読委員，2018 年 4 月～2019 年 3 月迄.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等

- ・千葉県看護協会，平成 30 年度生涯教育研修，高齢者に起こりやすい機能低下と生活を支える看護，千葉県内の看護職，2019 年 2 月 13 日，千葉県看護会館.

7 その他

- ・コソコソ学ぼうセミナー/運営スタッフ（千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科），千葉県内の中小規模病院に勤務する看護師，2019 年 3 月 14 日，千葉県立保健医療大学教育研究 B 棟 321 号室.

V 管理・運営記録

1 全学委員会

- ・教授会，進路支援委員会，キャンパス・ハラスメント防止対策委員会，自己点検・評価実施推進部会.

2 学科／専攻内委員会

- ・学生・進路支援委員会，社会貢献委員会.

VI 評価

研究成果の速やかな公表を年度当初の目標として掲げていたが，調査対象者の確保等に時間を要してしまい，目標を達成することができなかった。また，実施した講義に対しては，「分かりやすかった」等のコメントがリアクションペーパー内に記載されていたものの，行った講義が知識の定着化において「効果的であった」とは言い切れない状況も垣間見られた。

一方、スマイル・キャンサーウォークちばへの参加をはじめ、社会貢献活動には積極的に参加することができおり、この点に関する年度当初の目標はおおむね達成できたのではないかと考える。

VII 次年度の目標

2019年度は、大学の管理運営業務（キャンパス・ハラスメント防止対策委員会委員長）を滞りなく遂行していくことを目標としたい。特に、キャンパス・ハラスメントに関する研修会を開催するなど、学内における啓蒙活動に取り組みたい。

教授 片平 伸子 博士 (保健学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は着任初年度であったため、本学の教育活動や大学運営の方針等を理解し、在宅看護学領域を中心とした教育、委員会等で与えられた役割を関係する教職員に相談しながら遂行すること、着任前からの研究成果をまとめ、公表することを中心に活動を行う。社会貢献については本学公開講座の講師をつとめ、今後求められる、実現可能な社会貢献の在り方を模索していく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・看護学入門.
- ・看護ふれあい体験学習.
- ・療養支援看護概論.
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
- ・ターミナルケア論.
- ・リスクマネジメント論.
- ・在宅看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年. 本人下線)

- ・片平伸子，丸尾智実，小川妙子：看護小規模多機能型居宅介護サービスの強みと課題—事例報告の分析から—，日本プライマリ・ケア連合学会誌，42，1，32-39，2019.
- ・片平伸子，塚崎恵子，京田薫：看護師の認識する小規模多機能型居宅介護における活動の必要度と実施状況，千葉県立保健医療大学紀要，10，1，11-17，2019.
- ・榊原一恵，片平伸子：家族による在宅での介護継続の要因に関する文献調査，日本在宅ケア学会誌，22，1，114-122，2018.
- ・片平伸子，塚崎恵子：小規模多機能型居宅介護を利用した高齢者の終末期における看護師の活動の特徴，日本プライマリ・ケア連合学会誌，41，2，45-52，2018.

3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等. 本人下線)

- ・片平伸子，丸尾智実，小川妙子：看護小規模多機能型居宅介護における看護の利点・課題と克服のための工夫，日本看護科学学会 (第38回日本看護科学学会学術集会)，2018年12月15日，愛媛。

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C)，看護小規模多機能型居宅介護事業の特性を踏まえた効果的な看護提供，研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本在宅ケア学会、日本プライマリ・ケア連合学会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・2018 年度千葉県立保健医療大学公開講座、千葉県立保健医療大学、家族のための介護入門ーしんどくならないための少しのテクニックー、市民、2018 年 10 月 21 日、千葉県立保健医療大学。
- ・看護研究のコツがてんこ盛り！コツコツ学ぼうセミナー、千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科、研究上の倫理的問題を確認する時のコツ、県内中小規模医療施設の中堅看護師、2019 年 3 月 14 日、千葉県立保健医療大学

7 その他

- ・高校訪問 千葉県立君津高等学校、模擬授業、2018 年 11 月 29 日。
- ・高校訪問 銚子市立銚子高等学校、模擬授業、2018 年 9 月 20 日。
- ・神田外語大学・千葉県立保健医療大学「初期医療通訳ボランティア研修」作業部会

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会、国際交流委員会、自己点検・評価委員会、自己点検・評価実施推進部会、キャンパス・ハラスメント相談員、教員資格審査委員会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科教授会、看護学科教務委員会、看護学科総務・企画委員会、担任（看護学科 2 年生）

VI 評価（成果および改善すべき事項）

大学・学科の理念を意識し、学生のレディネスを確認しながら授業に取り組み、概ね順調に科目の運営ができたが、今後在宅看護学領域の学習の充実はさらに必要と考える。学科および全学の委員会では1年を通して本学での活動を学びながら委員としての役割を遂行できた。社会貢献については公開講座、研究セミナーにおいて好評をいただくことができた。研究に関してはこれまでの研究成果を4本の論文として公表することができ、また新たな調査のデータ収集を進めることができた。

VII 次年度の目標

次年度より新々カリキュラムが実施され、旧カリキュラムと新カリキュラムが並行することとなる。関連する教職員と相談しながら教授内容の充実が図れるように科目運営を行ってゆく。大学運営ではリーダーとしての役割も一部担い、委員会等の運営に努める。研究に関しては次年度は新たな研究の計画、データ収集を中心に行う。社会貢献に関しては神田外語大学と交際の初期医療通訳ボランティア研修の実施、評価を中心に行っていく。

准教授 浅井 美千代 博士 (看護学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

研究活動では、前年度の研究成果の精度を高め、看護関連学会での発表及び学会誌への投稿を行う。教育活動では、学生にとって理解しやすい授業内容となるよう、また実習指導では学生の個別性に即した学習支援ができるよう工夫する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・成人看護学概論.
 - ・成人看護学方法論Ⅱ.
 - ・成人看護学実習(慢性期).
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.
 - ・看護ふれあい体験学習.

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・浅井美千代, 青木きよ子, 高谷真由美, 長瀬雅子：関節リウマチ患者のセルフマネジメント尺度の信頼性・妥当性の検討, 第38回日本看護科学学会学術集会 (愛媛), 2018年12月.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2014～2018年度科学研究費補助金基盤研究 (C)「ICU看護師の臨床判断能力を育成するシミュレーション教育方法の実施と評価」研究分担者.
- ・2015～2018年度科学研究費補助金基盤研究 (C)「関節リウマチ患者の関節負荷防止のためのセルフケア技術獲得を促進する看護モデル開発」研究代表者.
- ・2018年度学内共同研究費「中小規模医療施設における看護研究指導者の充実に向けた研修プログラムの開発」研究代表者.
- ・2018年度学長裁量研究費「千葉県の地域包括ケアを支える看護職者の研修ニーズに関する二次分析：中小規模病院, 介護保険施設, 訪問看護ステーションの特徴」研究分担者.

7 その他

- ・高校訪問. 銚子市立銚子高等学校, 模擬授業. 6月13日.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護研究学会. 日本看護技術学会. 日本看護教育学会. 日本がん看護学会. 日本介護福祉学会.

日本老年行動科学学会、日本看護科学学会、千葉看護学会、日本リハビリテーション看護学会、
日本慢性看護学会、北日本看護学会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・院内事例検討。千葉県救急医療センター主催。事例検討指導。2018年5月30日・7月25日・9月11日・12月26日・2月26日。千葉県救急医療センター。
- ・院内看護研究。東京歯科大学市川総合病院主催。看護研究指導。2018年8月21日・12月27日・1月10日。
- ・研究会企画・運営「看護研究のコツがてんこ盛り！コツコツ学ぼうセミナー」。千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科主催。2019年3月14日。千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ネットワーク委員会、体験ゼミナール作業部会、開学10周年記念事業実行委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科社会貢献委員会、総合実習作業部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

今年度は、学科の社会貢献委員長として、県内看護職のスキルアップに向け、学科主催の研修会を企画し実施することができた。また、学長裁量研究費を受け、千葉県内の看護職の研修ニーズ調査結果の二次分析を行い、施設外研修を受ける際に重視することや施設外の研修に参加しづらい理由を明らかにすることができた。自己の研究活動では、目標としていた研究成果の論文化ができなかったことが課題で、次年度取り組みたい。

VII 次年度の目標

研究活動では、これまでの研究成果について紀要や学会誌への投稿を行う。教育活動では、学生にとって理解しやすい授業内容となるよう工夫する。社会貢献活動として、臨床看護師の研究活動支援を積極的に行う。

准教授 雨宮 有子 博士 (スポーツ健康科学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、教育に関しては、これまでの取組を継続し地区活動計画立案に関する講義・演習の内容を精練し、それに連動させた実習展開を意図し、教育効果を上げる。保健師に関心を持つ学生を増やすとともに保健師国家試験合格者を改善する。研究に関しては、代表者を担う研究の順調な推進・研究成果の論文文化に重点を置く。社会貢献に関しては、県内保健師の現任教育の向上に貢献する。管理・運営に関しては、明瞭な予算管理システムを整えていく。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・看護学入門.
 - ・地域看護学概論.
 - ・地域看護学方法論Ⅱ.
 - ・地域看護学方法論Ⅲ.
 - ・地域看護学実習.
 - ・地域看護学総合実習.
 - ・看護研究
 - ・看護学統合.
 - ・千葉県の健康づくり.
 - ・専門職間連携活動論.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所.)

- ・2019年版 保健師国家試験問題集，成人保健活動・生活習慣病対策・高齢者保健活動，2018，医学書院，東京.

2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・石丸美奈，鈴木悟，鶴岡章子，鈴木美和，飯野理恵，宮崎美砂子，杉田由加里，雨宮有子，佐藤紀子，安藤智子，原田静香，鈴木明子：看護系大学間連携による保健師の業務研究サポートモデルの構築—千葉県内8校の連携による取り組み—，千葉大学大学院看護学研究科紀要，第40号，19-26，2018.
- ・佐藤紀子，雨宮有子，細谷紀子，宮澤早織，飯野理恵，丸谷美紀，井出成美：高齢者のエンパワメントに着目した介護予防支援ガイドの作成，千葉看護学会会誌，第24巻，1号，1-11，2018.
- ・丸谷美紀，雨宮有子，細谷紀子，大澤真奈美：地域の文化に即した生活習慣病予防のためのポピュレーションアプローチ事業の展開方法—運動普及事業に着目して，文化看護学会誌，第10巻，1号，16-24，2018.
- ・佐藤紀子，雨宮有子，細谷紀子，石川志麻：新人保健師を対象としたリフレクションに基づく個別支援実践能力向上プログラムの効果，千葉県立保健医療大学紀要，第10巻，1号，43-50，2019.

3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等，本人下線)

- ・雨宮有子，佐藤紀子，細谷紀子，石川志麻：保健師のリーダーシップ発揮に関する文献レビュー，日本地域看護学会 第21回学術集会，2019年8月11～12日，岐阜.

- ・雨宮有子, 山口和枝, 庄司美佐子, 金澤恭子: 理想的な訪問看護を実践するための共育システムの開発—異所属合同の訪問看護経験共有ミーティング試案—, 第8回日本在宅看護学会学術集会, 2018年12月8-9日, 静岡.
- ・佐藤紀子, 雨宮有子, 細谷紀子, 杉本知子, 飯野理恵, 時田礼子, 石川志麻, 井出成美, 谷本真理子: 高齢者のエンパワメントを促す介護予防従事者向け教育プログラムの開発と効果の検証～自記式質問紙の分析～, 第38回日本看護科学学会学術集会, 2018年12月15-16日, 愛媛.
- ・雨宮有子, 佐藤紀子, 細谷紀子, 杉本知子, 飯野理恵, 時田礼子, 石川志麻, 井出成美, 谷本真理子: 高齢者のエンパワメントを促す介護予防従事者向け教育プログラムの開発と効果の検証 - 支援指針の自己評価の分析, 第38回日本看護科学学会学術集会, 2018年12月15-16日, 愛媛.
- ・島田美恵子, 岡本太郎, 雨宮有子, 大川由一, 麻賀多美代, 竹内弥彦, 雄賀多聡, 中島一郎, 川村悠, 多田大和, 岩井多佳子, 星崎徹, 中村寿美代: 地域住民による自助・互助活動への集団別支援について, 第57回千葉県公衆衛生学会, 2019年1月29日, 千葉.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究C) H28-31, 保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発, 研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)) H27-30, 災害時の共助を意図した住民主体の健康な地域づくりを推進する行政保健師の活動指針, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)) H27-30, 地域包括的視点に基づく看護管理方法論の探求, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)) H30-32, 在宅療養の場における倫理的課題への対処方法の解明と支援プログラムの開発, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・野田地域・職域連携推進協議会. 野田健康づくり協議会部会 助言者. 2018年4月～2020年3月.
- ・野田地域・職域連携推進協議会. 野田健康づくり協議会 助言者. 2018年4月～2020年3月.

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県看護教会 保健師職能委員会. 副委員長. 2017年6月20日～2019年6月.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会. 日本公衆衛生看護学会. 日本公衆衛生学会. 日本難病看護学会. 日本家族看護学会. 日本在宅看護学会. 日本在宅ケア学会. 日本看護管理学会. 日本看護科学学会. 文化看護学会. 千葉看護学会. 日本保健医療福祉連携教育学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉看護学会. 専任査読者. 2018年4月1日～2021年3月31日.
- ・日本家族看護学会 専任査読者. 2016年8月1日～2019年7月31日.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・2018年度市町村管理者能力育成研修. 千葉県健康福祉部. 根拠に基づく事業・施策の展開. 市町村に勤務する保健師で管理者あるいは時期管理者として役割・機能を果たす者. 2018年10月30-31日. 千葉県庁南庁舎.
- ・2018年度千葉県特定健診・特定保健指導 経験者研修. 千葉県健康福祉部. 標準的な健診・保健指導プログラム. 特定保健指導従事経験年数3年以上の従事者 (県内市町村健康保険等の医療保険者および保健衛生部門ならびに医療保険者からの特定健診・特定保健指導事業の受託実績がある民間事業者等の保健師, 管理栄養士等). 2018年9月11日. 千葉県教育会館.

- ・2018年度第1回松戸健康福祉センター管内保健活動業務研究検討会。松戸健康福祉センター。保健活動業務研究の計画検討。管内全保健師。2018年9月7日PM。松戸健康福祉センター。
- ・2018年度第2回松戸健康福祉センター管内保健活動業務研究検討会。松戸健康福祉センター。保健活動業務研究の結果・考察検討。管内全保健師。2018年11月22日。松戸健康福祉センター。
- ・2018年度第2回松戸健康福祉センター管内保健師等業務連絡研修会。松戸健康福祉センター。保健師業務の基礎を学ぶ。管内の新任期保健師。2018年9月7日AM。松戸健康福祉センター。
- ・2018年度第3回松戸健康福祉センター管内保健師等業務連絡研修会。松戸健康福祉センター。中堅保健師に求められる能力を学ぶ―ファシリテーターの役割を学ぶ―。管内の中堅期保健師。2018年10月17日。松戸健康福祉センター。
- ・流山市東部地域ケア会議。流山市東部地域包括支援センター。地区診断。流山市東部地区ケアマネジャー・民生委員・保健センター保健師・介護支援課保健師等。2018年6月30日。特別養護老人ホームあざみ苑。
- ・2018年度第3回市川健康福祉センター管内保健師業務連絡研究会。市川健康福祉センター。業務研究を事業に活用しよう。管内全保健師。2018年11月1日。市川市保健センター。
- ・2018年度保健活動業務研究サポート。市川健康福祉センター。市川健康福祉センター保健師。2018年5月～2019年1月。
- ・2018年度第1回野田健康福祉センター管内保健師等業務連絡研究会。野田健康福祉センター。業務評価によりキャリアラダーを上げていこう。管内全保健師。2018年5月11日。野田市保健センター。
- ・2018年度第3回野田健康福祉センター管内保健師等業務連絡研究会。野田健康福祉センター。業務評価によりキャリアラダーを上げていこう（実践編）。管内全保健師。2019年2月8日。野田市保健センター。
- ・2018年度保健活動業務研究サポート。野田健康福祉センター。野田健康福祉センター保健師。2018年9月～2019年1月。
- ・2018年度保健活動業務研究サポート。野田市保健センター。野田市保健師。2018年9月～2019年1月。
- ・2018年度第1回習志野保健所管内統括（管理的）保健師連絡会議。習志野健康福祉センター。統括（管理的）保健師の役割と課題および現任教育の取組と課題。管内の統括（管理的）役割にある保健師。2018年5月18日。習志野健康福祉センター。
- ・2018年度第2回習志野保健所管内統括（管理的）保健師連絡会議。習志野健康福祉センター。現任教育の取組―どのようなOJT・OffJTが求められているか―。管内の統括（管理的）役割にある保健師。2019年1月22日AM。習志野健康福祉センター。
- ・2018年度第1回習志野健康福祉センター管内保健師等業務連絡研究会。習志野健康福祉センター。分散配置保健師が見て感じたことを他部門や他職種協働に活かそう。管内の分散配置されている保健師。2018年8月20日AM。習志野健康福祉センター。
- ・2018年度第2回習志野健康福祉センター管内保健師等業務連絡研究会。習志野健康福祉センター。短縮業務の中で保健師スキルを向上しよう。管内の育休明けまたは時間短縮勤務している保健師。2018年8月20日PM。習志野健康福祉センター。
- ・2018年度第3回習志野健康福祉センター管内保健師等業務連絡研究会。習志野健康福祉センター。業務の気にかかることについてリフレクションしよう。管内中堅期保健師。2019年1月22日PM。習志野健康福祉センター。
- ・2018年度保健活動業務研究サポート。習志野健康福祉センター。習志野健康福祉センター保健師。2018年6月～2019年1月。
- ・2018年度習志野健康福祉センター管内看護管理者研修会。習志野健康福祉センター。地域包括ケアの構築における看護管理者に期待される役割。管内病院・施設・訪問看護ステーションの管理者。各市の統括保健師および地域包括ケア（医療介護連携）担当保健師。2019年3月20日。習志野健康福祉センター。
- ・2018年度第3回海匝健康福祉センター管内保健師等業務連絡研究会。海匝健康福祉センター。千葉県保健活動業務研究に関する助言・指導。管内全保健師。2018年10月15日。海匝健康福祉センター。
- ・2018年度第1回夷隅健康福祉センター保健師業務研究学習会。夷隅健康福祉センター。保健師の資質向上につながる業務研究。管内全保健師。2018年6月11日。夷隅野健康福祉センター。
- ・2018年度保健活動業務研究サポート。夷隅健康福祉センター。夷隅健康福祉センター保健師。2018年5月～2019年2月。
- ・2018年度第4回夷隅健康福祉センター管内保健師等業務連絡研究会。夷隅健康福祉センター。研究を實踐に、實踐を研究に結び付ける保健活動―自治体保健師のキャリアラダー形成に求められる能力とは―。管内全保健師。2019年3月14日。夷隅健康福祉センター。
- ・2018年度印旛健康福祉センター管内保健師活動業務研究検討会。印旛健康福祉センター。千葉県保健活動業務研究に関する助言・指導。管内全保健師。2018年11月21日。印旛健康福祉センター。

- ・2018年度山武健康福祉センター管内母子保健連絡会議. 山武健康福祉センター. 外国人妊産婦の困難事例に関する検討. 管内全保健師および産科医療機関の助産師・保健師・看護師・社会福祉士等. 2018年11月26日AM. 山武健康福祉センター.
- ・2018年度山武健康福祉センター保健師連絡会. 山武健康福祉センター. 自治体保健師の標準的なキャリアラダー. 2018年11月26日PM. 山武健康福祉センター.
- ・2018年度保健活動業務研究サポート. 鎌ヶ谷市. 鎌ヶ谷市健康増進課保健師. 2018年8月～2019年1月.
- ・2018年度保健活動業務研究サポート. 市原市. 市原市保健師. 2018年6月～2019年1月.
- ・2018年度保健師活動に必要な実践能力を高めるリフレクション力の習得をめざしたワークショップ. 千葉県立保健医療大学看護学科健康支援看護領域. 就職後3年以内の保健師. 2018年10月27日・12月22日・2019年度2月16日. 千葉県立保健医療大学.

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・特色科目委員会. 学長候補者学内意向調査委員会.
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・看護学科総務・企画委員会. 看護学科3年生（編入）担任.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育では、地区活動計画立案に関する講義から実習を連動させ教授できた。研究では、研究代表者となっている研究の進捗が遅れている。社会貢献では、県内自治体保健師を対象とした業務研究サポート事業を立ち上げ、県内保健師教育機関の中で最多実績を上げた。2中央研修・8保健所管内・3自治体等で保健師現任教育を実施した。所属領域主催で新人保健師研修を継続実施した。管理・運営では、看護学科への集中配当予算案作成・実習用携帯電話機の更新予算確保を実施できた。

VII 次年度の目標

教育に関しては、特に、保健師活動の核となる地区活動計画立案・家庭訪問に関する教育方法を精練し教育効果を上げる。そして保健師に関心を持つ学生を増やす。研究に関しては、特に研究代表者を担う研究の順調な推進・研究成果の論文化に重点を置く。社会貢献においては、特に県内保健師の現任教育およびその体制整備を継続して支援する。管理・運営に関しては、大学の理念やディプロマ・ポリシーに基づき、特色科目の一貫した実施を目指す。

准教授 三枝 香代子 修士（教育学）

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、理解しやすい授業内容となるよう工夫し、臨床実習指導では、臨床指導者と協働して学生の理解が深まるように学習支援ができるよう工夫する。研究活動では、前年度のデータを分析し発表及び学会誌への投稿を行う。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・救命・救急の理論と実際.
 - ・成人看護学概論.
 - ・成人看護学方法論Ⅰ.
 - ・成人看護学方法論Ⅱ.
 - ・ターミナルケア論.
 - ・成人看護学実習(急性期).
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・看護ふれあい体験学習.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・田口智恵美，佐藤まゆみ，三枝香代子：緊急入室する ICU 熟練看護師の臨床判断，千葉県立保健医療大学紀要，第 10 巻，第 1 号，19-25，2019.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・三枝香代子：三次救急医療施設に搬送された外傷患者の急性期における体験，日本救急看護学会雑誌，20 巻 3 号 P320，2018 年. 10 月.（和歌山）
- ・三井敦子，樋口恵美，東香織，三枝香代子：救急搬送された患者の内縁関係にある家族への支援，日本救急看護学会雑誌，20 巻 3 号 P272，2018 年. 10 月.（和歌山）

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・2014～2018 年度科学研究費補助金基盤研究（C）「ICU 看護師の臨床判断能力を育成するシミュレーション教育方法の実施と評価」研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・多数傷病者発生合同災害訓練，2018 年 10 月 27 日. 千葉市立海浜病院及び千葉県救急医療センター.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本看護教育学会、日本看護科学学会、千葉看護学会、日本クリティカルケア看護学会、日本救急看護学会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・院内事例検討、千葉県救急医療センター主催、事例検討指導、2018年5月30日・7月25日・9月11日・12月26日・2月26日、千葉県救急医療センター。

7 その他

- ・神田外語大学・千葉県立保健医療大学「初期医療通訳ボランティア研修」作業部会
- ・高校訪問、木更津総合高等学校、模擬授業 4月11日、千葉県立市川東高校、模擬授業 11月8日。
- ・キャンパス見学、千葉県立おおたかの森高等学校、11月6日。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試実施部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科入試検討委員会、看護研究作業部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

担当の講義科目については、授業資料を見直し学生が理解しやすいように改善を行った。臨地実習指導については、指導者と協働しながら学生の個性に合わせた指導ができた。研究活動については、データの分析を終え学会発表をすることができた。学科の入試検討委員会については、オープンキャンパス、特別選抜入試、一般入試の委員長としての役割を果たすことができた。

VII 次年度の目標

教育活動では、学生に理解しやすい授業内容となるよう工夫する。研究活動では、昨年度学会発表した研究を学会誌へ投稿する。社会貢献活動として、臨床看護師の研究活動支援を積極的に行う。

准教授 細谷 紀子 修士 (看護学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育については、保健師国家試験に対する早期からの学習の意識づけを図り学生が効果的に学習できるようにする。研究については、代表者を担う課題について引き続き計画的に遂行させ着実に成果を発表していく。分担者を務める研究課題についても精力的に取り組む。社会貢献については、県内の保健師資質向上や保健活動の改善のために役割を果たせるよう努める。大学の管理運営については、全学学生委員および看護学科学生・進路支援委員長として責任をもって役割を遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・地域看護学概論.
- ・地域看護学方法論Ⅱ.
- ・地域看護学方法論Ⅲ.
- ・地域看護学実習.
- ・災害看護学.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・吉岡京子, 塩見美紗, 片山貴文, 細谷紀子 : 保健医療福祉専門職のための事業化・施策化のすすめ方, 2018, クオリアケア, 東京.

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・細谷紀子, 石丸美奈, 宮崎美砂子 : 災害時に支えとなり得る地域との繋がりを築いていくための支援の検討 (第1報) — 発達障害児の親の自然災害への備えの実情 —, 千葉看護学会誌, 第24巻, 2号, pp31-41, 2019.
- ・細谷紀子, 石丸美奈, 宮崎美砂子 : 災害時に支えとなり得る地域との繋がりを築いていくための支援の検討 (第2報) — 発達障害児の親の地域社会生活におけるレジリエンス —, 千葉看護学会誌, 第24巻, 2号, pp43-53, 2019.
- ・Kyoko Yoshioka-Maeda, Takafumi Katayama, Misa Shiomi and Noriko Hosoya : Educational program for middle-level public health nurses to develop new health services regarding community health needs: protocol for a randomized controlled trial, BMC Nursing, 17:18, <https://doi.org/10.1186/s12912-018-0287-x>, 2018.
- ・Kyoko Yoshioka-Maeda, Takafumi Katayama, Misa Shiomi and Noriko Hosoya : Effectiveness of an educational program for mid-level Japanese public health nurses to improve program planning competencies: A preliminary randomized control trial, Public Health Nursing, <https://doi.org/10.1111/phn.12580>, 2019.
- ・佐藤紀子, 雨宮有子, 細谷紀子, 飯野理恵, 丸谷美紀, 井出成美 : 高齢者のエンパワメントに着目した介護予防支援ガイドの作成, 千葉看護学会誌, 第24巻, 1号, pp1-11, 2018.
- ・丸谷美紀, 雨宮有子, 細谷紀子, 大澤真奈美 : 地域の文化に即した生活習慣病予防のためのポピュレーションアプローチ事業の展開方法 — 運動普及事業に着目して, 文化看護学会誌, 第10巻, 1号, pp16-24, 2018.

- ・佐藤紀子, 雨宮有子, 細谷紀子, 石川志麻: 新人保健師を対象としたリフレクションに基づく個別支援実践能力向上プログラムの効果, 千葉県立保健医療大学紀要, 第10巻, 1号, pp43-50, 2019.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・細谷紀子, 石丸美奈, 宮崎美砂子: 発達障害児の親の災害時に想定している困難と災害への備えの実情 ―地域住民との繋がりに着目して―, 日本地域看護学会第21回学術集会, 2018年8月11日~12日, 岐阜県岐阜市.
- ・雨宮有子, 佐藤紀子, 細谷紀子, 石川志麻: 保健師のリーダーシップ発揮に関する文献レビュー, 日本地域看護学会第21回学術集会, 2018年8月11日~12日, 岐阜県岐阜市.
- ・吉岡京子, 塩見美紗, 片山貴文, 細谷紀子, 黒田真理子: 地域ニーズに基づく施策化のための保健師教育プログラムの開発: パイロットスタディ, 第77回日本公衆衛生学会総会, 2018年10月24日~26日, 福島県郡山市.
- ・細谷紀子, 石丸美奈, 宮崎美砂子: 発達障害児の親の災害への備えに向けた地域社会生活におけるレジリエンスの解明, 第38回日本看護科学学会学術集会, 2018年12月15日~16日, 愛媛県松山市.
- ・佐藤紀子, 雨宮有子, 細谷紀子, 杉本知子, 飯野理恵, 時田礼子, 石川志麻, 井出成美, 谷本真理子: 高齢者のエンパワメントに着目した介護予防従事者向け研修会の学習効果~自記式質問紙の記載内容の分析~, 第38回日本看護科学学会学術集会, 2018年12月15日~16日, 愛媛県松山市.
- ・雨宮有子, 佐藤紀子, 杉本知子, 細谷紀子, 飯野理恵, 時田礼子, 石川志麻, 井出成美, 谷本真理子: 高齢者のエンパワメントに着目した介護予防従事者向け研修会の学習効果 - 支援指針の自己評価の分析, 第38回日本看護科学学会学術集会, 2018年12月15日~16日, 愛媛県松山市.
- ・木村貴子, 佐野さおり, 日高理恵, 中居香奈絵, 辻川千穂, 中村早織, 高橋久典, 中山久美子, 池上宏, 細谷紀子: 地域で継続的に行うラジオ体操グループへの参加による効果, 第57回千葉県公衆衛生学会, 2019年1月29日, 千葉県千葉市.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2015~18年度科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)), 災害時の共助を意図した住民主体の健康な地域づくりを推進する行政保健師の活動指針, 研究代表者.
- ・2016~18年度科学研究費助成事業 (基盤研究 (B)), 地域ニーズに基づく施策化を展開するための中堅保健師向け教育プログラムの開発, 分担研究者.
- ・2016~19年度文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究 (C)), 保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発, 分担研究者.

6 受賞・特許

- ・2018年度千葉県公衆衛生学会 優秀演題

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県保健師現任教育検討会. 有識者. 2018年5月~2019年3月.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会. 千葉看護学会. 日本公衆衛生学会. 日本看護科学学会. 文化看護学会. 日本公衆衛生看護学会. 日本ルーラルナーシング学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉看護学会. 査読委員. 2015年4月より現在に至る.
- ・第21回日本地域看護学会学術集会. 査読委員. 2018年4月.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象)

開催日・時場所)

- ・業務研究に関する指導. 千葉市若葉保健福祉センター. 地域で継続的に行うラジオ体操グループ参加による効果に関する研究の進め方やまとめ等の指導・助言. 千葉市若葉区健康課職員. 2018年5月～2019年1月. 千葉市若葉保健福祉センター.
- ・業務研究に関する指導. 千葉市美浜保健福祉センター. 産後ケア事業の利用実態と効果的な活用方法に関する研究の進め方やまとめ等の指導・助言. 千葉市美浜区健康課職員. 2018年7月～2017年11月. 千葉市美浜保健福祉センター.
- ・2018年度第4回山武保健所管内保健師業務連絡研究会. 山武健康福祉センター. 講演「業務研究の意義と取り組むためのポイント」および保健活動研究発表の助言・指導. 山武健康福祉センター保健師及び管内市町の保健師. 2018年11月7日. 千葉県山武健康福祉センター.
- ・2018年度中堅前期保健師研修会. 香取健康福祉センター. 講演「施策全体を捉えた保健活動の評価に向けて-地域に責任をもつ中堅保健師の役割-」およびグループワーク指導. 海匠・香取・山武健康福祉センター管内の市町・保健所に勤務する採用概ね4～15年目の保健師. 2019年1月24日. 千葉県香取健康福祉センター.
- ・2018年度香取健康福祉センター所内保健師研究会. 香取健康福祉センター. 公衆衛生看護学実習指導案の検討及び保健事業評価. 香取健康福祉センター保健師, 看護師. 2019年3月20日. 千葉県香取健康福祉センター.
- ・保健師活動に必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得をめざしたワークショップ. 千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科健康支援看護領域. 新人保健師が保健師活動に必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得をめざすワークショップ. 千葉県内2016・17・18年度新規採用保健師. 2018年10月27日, 12月22日, 2019年2月16日. 千葉県立保健医療大学.

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会 (委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)
 - ・学生委員会.
- 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)
 - ・看護学科学生・進路支援委員会. 看護学科看護研究作業部会. 看護学科総合実習作業部会.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育については, 講義・演習・実習を通して国試対策への意識づけを強化した. 研究については, 論文7編の採択と学会発表により成果を公表したとともに, 研究成果をまとめた書籍を出版した. また, 2018年度千葉県公衆衛生学会 優秀演題に選出された. 社会貢献については検討会委員や研究指導により県内保健師活動の質向上に役割を果たした. 大学の管理運営については, 看護学科学生・進路支援委員長として指導方針の整備や教員間の調整等により効果的な運営に努めた.

VII 次年度の目標

教育については, 引き続き保健師国家試験に対する早期からの学習の意識づけを図るとともに実践の魅力を伝えられるように努める. 研究については, 代表者を含む4つの研究テーマについて精力的に取り組む. 社会貢献については, 県内の保健師資質向上や保健活動の改善のために役割を果たせるよう努める. 大学の管理運営については, 全学総務企画委員および看護学科総務・企画委員長として責任をもって役割を遂行する.

准教授 植村 由美子 博士 (看護学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動については、学生の思考力、判断力、実践力を育成し、看護職者として成長できるよう、授業等を見直す。研究活動については、前年度に収集したデータをまとめる。大学の管理運営については、責任感を持って職務を遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・看護技術論Ⅰ (日常生活援助技術).
 - ・看護技術論Ⅱ (共通技術).
 - ・看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術).
 - ・看護技術論Ⅳ (検査治療技術).
 - ・看護技術論Ⅴ (看護過程展開技術).
 - ・基礎看護学実習.
 - ・看護学統合.
 - ・看護研究.
 - ・看護倫理.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・植村由美子：【実習場面における効果的な学生指導・対応方法】 実習指導場面で看護教員が体験する倫理的ジレンマと対応，看護人材育成，15 (4)，64-69.

3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等，本人下線)

- ・植村由美子，大島弓子：指導場面における看護職の倫理的課題と含まれる倫理原則，日本看護学教育学会，2018年8月，横浜.

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会，日本看護教育学学会，日本看護倫理学会，ホリスティックナーシング研究会.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・研究等倫理委員会，学長候補者学内意向調査委員会.

2 学科／専攻内委員会 (委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科学生・進路支援委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

授業においては、コアカリキュラム、国家試験の出題傾向等を踏まえ、授業資料を作成するようにした。講義・演習の終了後に学生が記載するレスポンスシートのコメントを踏まえ、学生が学習意欲が継続できるような授業構成を考え、実践するよう努めた。

研究活動は、滞っているので次年度の課題とする。

VII 次年度の目標

教育活動については、学生の思考力、判断力、実践力を育成し、看護職者として成長できるよう、授業等を見直す。研究活動については、これまでに収集したデータをまとめる。大学の管理運営については、責任感を持って職務を遂行する。

准教授 川城 由紀子 博士 (医学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、教育活動では、学生が主体的に学習することを目指した授業展開を工夫する。研究活動では、現在進行中の研究の計画的な遂行と調査が終了している研究の成果を公表する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名).
 - ・母性看護学方法論Ⅰ.
 - ・母性看護学方法論Ⅱ.
 - ・母性看護学実習.
 - ・助産学概論.
 - ・助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎).
 - ・助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期).
 - ・助産診断・技術学Ⅲ (分娩期).
 - ・助産診断・技術学Ⅳ (ハイリスク分娩).
 - ・助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験).
 - ・助産学実習Ⅱ (継続支援).
 - ・助産学実習Ⅲ (分娩期ケア).
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年. 本人下線)

- ・川城由紀子，石井邦子，鳥田美紀代，大滝千智，川村紀子：看護職のセカンドキャリアに向けた要望とキャリア形成支援の検討，千葉県立保健医療大学紀要，10巻，1号，27-34，2019.
- ・森美紀，鈴木幸子，石井邦子，山本英子，青柳優子，北川良子，川城由紀子，東原亜希子，植竹貴子：分娩介助実習前の学生の気づきを促すための模擬産婦に対するフィードバック研修の試み，保健医療福祉科学，8巻，75-82，2018.

3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等. 本人下線)

- ・森美紀，鈴木幸子，石井邦子，青柳優子，山本英子，北川良子，川城由紀子，東原亜希子，植竹貴子，妻倉恵：分娩介助演習における模擬産婦による双方向性フィードバックが学生の気づきを促す効果，第20回日本母性看護学会学術集会，2018年6月24日，埼玉.
- ・宮真由美，久保幸代，大澤豊子，根岸暢子，田中ひろ子，溝口美穂，小野真由美，川城由紀子：アドバンス助産師育成の支援状況，第37回千葉県看護研究学会，2019年2月27日，千葉.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名，研究テーマ，研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究(C)，更年期女性のQOL向上のための日常生活に関する研究—酸化ストレスを指標にして—，研究代表者.

- ・科学研究費補助金基盤研究(C),産後ケアシステムにおける看護専門職と育成支援人材のコラボレーションモデルの開発,研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究(C),模擬産婦と分娩シーンシナリオ(CTG含む)を活用した分娩介助演習の効果,連携協力者.
- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費,助産師の内診による診断技術発達過程の構造化,研究分担者.

6 受賞・特許

- ・第37回千葉県看護研究学会特別賞.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等(職能団体名称,委員名称,活動期間)

- ・千葉県看護協会,助産師職能委員,2018年6月～現在に至る.

5 学会,学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会,日本看護研究学会,日本母性看護学会,日本母性衛生学会,日本内分泌学会,日本衛生学会.

2) 学会,学術団体への貢献(学会・学術団体名,役職,活動期間)

- ・日本母性看護学会,専任査読委員,2014年4月～現在に至る.
- ・千葉看護学会,査読委員,2018年10月～現在に至る.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称,活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・自己点検・評価実施推進部会,学術推進企画委員会.

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称,活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議,看護学科倫理審査委員会,看護学科総務・企画委員会,看護学科1年生担任.

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演,ラジオ出演等>

- ・ホームページ:千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学.(<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm>)

VI 評価(成果および改善すべき事項)

研究活動では,筆頭および共著者として論文にて研究成果を公表することができた.他の遂行中の研究に加え新たな共同研究を進めることができたため,目標は達成できたと評価する.教育活動では,学生の理解度を確認し発問や考えを聞きながら演習や実習での教育を行うことができたことから,目標は達成したと評価する.大学の管理運営では,看護学科倫理審査委員長として役割を遂行し,倫理審査の指摘内容の取りまとめを行い研究倫理の教育向上に努めたことから目標達成とする.社会貢献では,千葉県看護協会助産師職能委員として職能集会を開催し参加者から好評を得たことから,目標以上の成果とする.

VII 次年度の目標

教育活動では,特に母性看護学実習において,周産期の対象が地域での生活者であることを意識した学びができるよう実習目標・実習内容を見直し,教育に当たる.また,実習内容の変更に対して,実習施設との調整・連携を図り実習環境を整える.研究活動では,前年度に引き続き研究成果の公表に力を入れる.管理運営では,入試実施委員としてオープンキャンパスや入試が円滑に進むよう努める.社会貢献では,千葉県看護協会助産師職能委員として県内助産師の研修ニーズに合わせた講習会の企画運営を行う.

准教授 西村 宣子 修士 (看護学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

着任1年目、領域内や学科内の教員と積極的にコミュニケーションを図り、担当する授業や実習、委員会活動が滞りなく進行できる。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・看護管理学.
- ・看護キャリア発達論.
- ・看護倫理.
- ・リスクマネジメント論.
- ・看護学入門.
- ・リーダーシップ論.
- ・看護管理学実習.
- ・基礎看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・専門職間の連携活動論.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等(職能団体名称、委員名称、活動期間)

- ・公益社団法人 日本看護協会 認定看護管理者認定実行委員会 委員 (2018年4月～2019年3月)

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護管理学会、日本看護教育学会、日本災害医学会.

6 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所)

- ・東京歯科大学市川総合病院、研究指導、2018年7月～2019年3月7回(2部署)、看護師、東京歯科大学市川総合病院.
- ・東京歯科大学市川総合病院、急変時対抗看護師育成コース研修、倫理的視点を踏まえた患者中心の看護実践を目指して、2018年8月6日.
- ・2018年度 教育担当者研修会、新人看護職員の到達目標の設定と実際、2018年9月4日、千葉県ナースセンター.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

・ネットワーク委員会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・看護学科教務委員会（実習検討部会）. 看護学科総務・企画委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

今年度は、看護学科の先生方の協力を頂きながら、担当する科目の講義・演習の組み立て、準備などを行うことができた。特に看護管理学、看護管理実習では、学生が看護管理実践を理解できるよう丁寧に導くことに努めた。しかし、学生の看護研究指導には難航し、先生方にご指導いただきながら、最終的には担当した3名の学生自身が納得し、達成感のある研究になったと評価することができた。次年度は、今年度の反省を生かし、学生一人ひとりに合わせて計画的に研究指導に取り組みたいと考えている。大学における運営活動においては、ご指導ご協力頂きながら委員会などに関わることができた。自分の研究活動としては、2019年3月4日付けで倫理審査の承認を得たところである。また、初めて科研の申請に挑戦し、学内共同研究申請に向け準備しているところである。

VII 次年度の目標

次年度は、担当する科目に対してより質の高い講義・実習になるよう、到達目標や授業内容を検討しながら、準備を行っていく。また、大学運営においては、本学の特徴を踏まえながら教職員と連携し、責務を果たせるようにする。

今年度課題となった学生の研究指導に対しては、学生とコミュニケーションを図りながら学生一人ひとりに合わせて計画的に研究指導に取り組む。自分の研究活動と共同研究についても、計画的に研究成果をまとめ、さらに、研究資金の獲得をめざしたい。

准教授 北川 良子 博士 (看護学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、特に研究活動を充実させ、現在行っている研究の遂行に努める。また学会発表にとどまっている研究の論文執筆に取り組む。教育活動においては、内容をアップデートしさらなる改善に努める。看護学科教務委員会委員長を拝命したため、円滑な委員会運営に努める。また全学教務委員会において看護学科の新々カリ作成の役割を果たす。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・母性看護学方法論Ⅰ.
 - ・母性看護学方法論Ⅱ.
 - ・母性看護学実習.
 - ・助産学概論.
 - ・助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎).
 - ・助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期).
 - ・助産診断・技術学Ⅲ (分娩期).
 - ・助産診断・技術学Ⅳ (ハイリスク分娩).
 - ・助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験).
 - ・助産学実習Ⅱ (継続支援).
 - ・助産学実習Ⅲ (分娩期ケア).
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・森美紀, 鈴木幸子, 石井邦子, 山本英子, 青柳優子, 北川良子, 川城由紀子, 東原亜希子, 植竹貴子: 分娩介助実習前の学生の気づきを促すための模擬産婦に対するフィードバック研修の試み, 保健医療福祉科学, 8, 75-82, 2018.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・森美紀, 鈴木幸子, 石井邦子, 青柳優子, 山本英子, 北川良子, 川城由紀子, 東原亜希子, 植竹貴子, 妻倉恵: 分娩介助演習における模擬産婦による双方向性フィードバックが学生の気づきを促す効果, 第20回日本母性看護学会学術集会, 6月24日, 埼玉.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C) 「CLoCMiP レベルⅢ認証前の若手助産師キャリア支援プログラムの開発と検証」研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C) 「産後ケアシステムにおける看護専門職と育児支援人材のコラボレーションモデルの開発」研究分担者.

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C) 「模擬産婦と分娩シーンシナリオ (CTG 含む) を活用した分娩介助演習の効果」 連携協力者.
- ・千葉県立保健医療大学 共同研究費 「分娩期における助産師の内診診断技術発達過程の構造化」 研究代表者: 石井邦子 共同研究者: 川城由紀子, 北川良子, 川村紀子, 杉本亜矢子)

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等. 活動期間. 場所等)

- ・千葉県看護協会, 看護教員養成講習会, 6~7月

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性衛生学会. 日本母性看護学会. 日本助産学会. 日本看護科学学会. 千葉看護学会. 千葉県母性衛生学会. 日本助産師会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名. 役職. 活動期間)

- ・日本母性看護学会. 査読委員. 2017年4月~現在に至る.
- ・千葉看護学会. 査読委員. 2017年8月~現在に至る

7 その他

- ・幕張メッセ, 大学説明会, 7月
- ・高校訪問, 千葉県立八千代高等学校 7月
- ・高校訪問, 千葉県立船橋東高等学校 11月

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教務委員会/新々カリキュラム WG

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科教務委員会
- ・看護学科運営会議

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・ホームページ: 千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学 (<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>)

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動は, 講義演習において前年度の教育内容, レスポンスペーパーの内容, 授業評価アンケートの内容を再検討し, 効果的な学習となるよう改善できた. 実習において, 学内で学習した内容を踏まえ, かつ個々の学生のレディネスに応じた実習支援に取り組み, 担当した学生は全員実習目標を達成することができた. また助産学実習の主担当として新規実習施設の開拓し, 施設担当者として臨地実習指導者と連携しながら実習目標達成となる実習ができた. 研究活動において科学研究費を獲得したが, 教員の欠員や実習施設の新規開拓等, 教育に多くの時間を費やしたため, 十分な研究活動を行うことができなかった. 委員会活動においては, 看護学科教務委員長として学科内のリーダーシップを発揮し, メンバーの先生方と共に順調に委員会運営を行うことができた. 新カリキュラム作成においては多様な意見を取り入れ, WGのメンバーと共に完成させることができた.

VII 次年度の目標

研究活動を充実させ、現在行っている研究の遂行に努める。また学会発表にとどまっている研究の論文執筆に取り組む。教育活動においては、新たな実習施設を開拓することと、新々カリへの移行に伴い内容をアップデートしさらなる改善に努める。看護学科教務委員会委員長を拝命したため、円滑な委員会運営に努める。また2020年度は新々カリと現行カリが平行して教育が行われる中、東京オリンピック開催に伴う大幅な学年暦の変更が予定されている。このような状況において看護学科専門科目が滞りなく順調に開講され、適切に試験が行えるよう、調整作業を看護学科教務委員会内で行っていく。

講師 植田 麻実 Ph. D. (第二言語習得)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

看護学科の教員として学科において与えられた職務を果たしつつ、共通教育運営会議の教員として、すべての学科の学生を対象とする英語科目や体験ゼミなどを通し積極的に本学の学生のために貢献する事。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・英語II (基礎英会話).
 - ・英語III (講読・記述).
 - ・英語IV (英会話).
 - ・英語V (保健医療英語) 看護学科.
 - ・英語V (保健医療英語) 栄養学科.
- 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名. 大学名)
 - ・(日本語. 防衛大学校).

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・Arai, Harumi, Hisamatsu, Misako., & Ueda, Mami. : A study of schizophrenic patients suffering from cancer at mental hospitals in Prefecture A. *International Journal of Mental Health and Psychiatry*. 4 (2). (1-4), 2018.
- ・Sugino, Toshiko, Abe, Emika, & Ueda, Mami: Teacher belief in college English classes in Japan: How to and how much to reflect it. *Proceedings and abstracts of the 28th Japan-US. Teacher Education Consortium 30, Poster Presentation 19*. 2018.
- ・Ueda, Mami, Sugino, Toshiko, & Abe, Emika:, *Selected Papers from the Twenty-seventh International Symposium on English Teaching*, (301-313), 2018.
- ・荒井春生, 久松美佐子, 植田麻実, 斎藤康司, 小佐野智子. がんを合併した統合失調症患者への在宅医療支援体制への取り組み—A 県内5施設における訪問看護の現状, 精神科看護, 46(3), 57-71, 2018.
- ・植田麻実, 島田美恵子, 井上裕光, 越川求, 神田みなみ, 小川真, 長谷川卓志, 東本恭幸, 榎本輝樹, 雄賀多聡, 高橋伸佳, 豊島裕子: 初年次教育における課題に関する教員の意識調査, 千葉県立保健医療大学紀要, 10(1), 61-71, 2019.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・荒井春生, 久松美佐子, 植田麻実: がんを合併した統合失調症患者を取り巻く看護師と精神保健福祉士の連携の現状, 第23回日本緩和医療学会, 2018年6月15日, 神戸コンベンションセンター.
- ・Sugino, Toshiko, Abe, Emika, & Ueda Mami: Teacher belief in college English classes in Japan: How to and how much to reflect it. The 30th Japan-U.S. Teacher Education Consortium. 仏教大学.
- ・Ueda, Mami, Sugino Toshiko, Abe, Emika: What a learner should bear in mind if English becomes the lingua franca. The 27th International Symposium on English Teaching (ETA-ROC), 2018年11月10日, Taiwan, Taipei, Chien Tan Overseas Youth Activity Center.

・Abe, Emika, Sugino, Toshiko, & Ueda, Mami: How to utilize information from the internet effectively through EFL group work, 54th RELC International conference and 5th Asia-Pacific LSP and Professional Communication Association Conference, Singapore, 2018年3月12日, Singapore, Regional Language Center.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者）

・2018年度学内共同研究費, English for Specific Purposes (ESP)とやさしい日本語でのインストラクションに関する看護学生のニーズ分析のための文献レビュー, 植田麻実/ 荒井春生, 久松美佐子, 杉野俊子, 阿部恵美佳.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称, 活動期間, 場所等）

2) 千葉県外

・ミュゼ・スワロー, 2012～現在. 仮設住宅, 老人ホーム等への歌と楽器演奏による訪問 (2018年9月23日東京都新宿区けやき園 (特養) にて活動).

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本実用英語学会. The Japan Association for Language Teaching (JALT). 日本緩和医療学会. JACET 言語政策研究会.

2) 学会, 学術団体への貢献（学会・学術団体名, 役職, 活動期間）

・The Japan Association for Language Teaching. 日本語投稿論文・副編集長. 2019年現在.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・図書・情報委員会, 学術推進企画委員会, 共通教育運営会議.

2 学科/専攻内委員会（委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・看護学科教務委員会, 看護学科入試検討委員会, 担任 (1年生)

VI 評価（成果および改善すべき事項）

共通教育運営会議での初年次教育に関する教員アンケートは, 結果を紀要に資料として掲載する事ができ, 初年次教育における本校の課題および, 教員が個々に挙げた改善策なども広く共有していくための契機となったと考える. 学科内の業務に関して理解不足の点もあり今後改善すべきと考えている.

VII 次年度の目標

所属委員会が変わり, 学生・進路支援委員会に所属する事となったため不明な点があれば早急に明らかにし, 業務を行っていく.

講師 成 玉恵 修士（政治学）

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、教育に関して、引き続き講義・演習・実習の質の向上をはかり充実した内容にする。特に、在宅看護の需要が高まっていることから、実践的な内容を取り入れた学習を検討する。研究に関しては、予定されている学会発表2件を滞りなく行う。また、調査・研究を進め、論文投稿に取り組む、以上を目標とした。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
 - ・在宅看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.
 - ・看護研究.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・成玉恵，杉本知子，高柳千賀子，鳥田美紀代，上野佳代：ノロウイルスによる胃腸炎の集団発生予防に関する感染管理の現状，第23回日本在宅ケア学会学術集会，2018年7月，大阪.
- ・成玉恵：看護職が管理介入した地域活動の社会的価値に関する研究—ロジックモデルを用いた活動内容の可視化の取り組み—，日本地域看護学会 第21回学術集会，2018年8月，岐阜.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究費，地域包括ケアシステムにおける多様な看護の地域貢献活動に関する研究—ロジックモデルを用いた活動の構造—，研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・墨田区，介護保険事業運営協議会委員，2018年4月～2021年3月.

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本在宅ケア学会，日本地域看護学会，日本行政学会，日本感染看護学会，日本公衆衛生看護学会，日本保健医療社会学会，日本看護学教育学会

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・(社)千葉県地方自治研究センター. 第3回ちば地域政策研究会. 「在宅医療・看護の実践を踏まえた事例報告と問題提起」. 2018年5月. 千葉県教育会館.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・IPE 部会, 予備選挙管理委員会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会, 3年生担任, 国家試験担当, 看護学科入試検討委員会, 総合実習作業部会. 選挙管理委員 (学科長).

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育に関しては, 昨年に引き続き, 講義・演習・実習の質の向上をはかり, 系統的に実施できた. 講義では, 実践経験を踏まえた内容を多く取り入れ, 学生からの評価を得た. 研究に関しては, 予定されていた学会発表を2件行い, 経験・学びとなった. 論文執筆に取り組んだが, 時間がかかり投稿はできなかった. 社会貢献としては, 今年度から3か年, 墨田区の介護保険運営協議会の委員となり, 作業部会2つの副部会長を担うこととなった.

VII 次年度の目標

教育に関しては, 引き続き講義・演習・実習の質の向上をはかる. また, 適宜, 実習内容やカリキュラムの変更に合わせ充実した教育内容に改定していく. 研究に関しては, 研究資金の獲得に努力し学会発表や論文投稿を行う. 社会貢献に関しては, 墨田区の介護保険事業運営協議会の委員が2年目となるため, 副部会長としての役割を充実する.

講師 石川 紀子 博士（看護学）

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、領域の教員間で連携を図りながら、講義・演習を行うと共に、臨床側と連携を図りながら実習運営に努める。研究活動では、研究代表者として取り組んでいる研究の最終年度にあたるため、計画に沿って必要な活動を推進していく。大学運営では、学科内で与えられた役割を確実に遂行していく。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール.
 - ・小児看護学方法論Ⅰ.
 - ・小児看護学方法論Ⅱ.
 - ・小児看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護研究
 - ・看護学統合.

III 研究記録

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））、健康障害をもつ子どもときょうだいがいる家庭の子育て力支援ガイドラインの開発、研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））、小学校入学に向けた幼児期からの慢性疾患患児への支援プログラムの開発、研究分担者.
- ・学内共同研究（一般）、保育所看護職が認識している「気になる子」への保健活動の実態、共同研究者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・千葉県子ども病院でのボランティア活動「入院している子どものきょうだいとの遊び活動」の推進のための協働と調整. 2018年4月～2019年3月.

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・公益財団法人千葉県看護協会. 千葉地区部会幹事. 2018年5月～2019年3月

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本小児看護学会、日本小児保健協会、日本家族看護学会、日本小児がん看護学会、日本看護科学学会、千葉看護学会.

- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
- ・日本小児看護学会, 日本小児看護学会誌, 査読委員, 2017年4月～2018年3月.

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)
 - ・図書・情報委員会, 自己点検・評価委員会報告書作成等部会.
- 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)
 - ・看護学科教務委員会, 看護学科「総合実習」作業グループ会議, 看護学科運営会議.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動では, 前年度の学生からのアンケート調査から改善すべき点を意識して, 講義や演習を実施することができた. また実習では臨床側と密にコミュニケーションを図ることで, 安全に進めることができた. 研究活動では, 研究代表者として取り組んでいる課題について, 研究計画に則り対象者への介入・評価を行うことができた. 大学運営では, 委員会活動では, 与えられた役割や業務を滞りなく進めていくことができた. 社会貢献では, 職能団体から与えられた役割を遂行することができた.

VII 次年度の目標

教育活動では, 今年度得られ振り返りを基に, 講義・演習・実習を進めていく. 研究活動では, 今年度で終了した研究課題で得られた知見について公表を進めていくと共に, 新たな研究課題の検討・実施を進めていく. 社会貢献では, 地域のニーズに応える活動を継続すると共に, 職能団体での役割においては専門職の学習ニーズに応える研修プログラムの企画・実施に取り組んでいく.

講師 今井 宏美 修士 (保健学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は引き続き、モバイルシミュレータの開発研究を遂行し、その成果をまとめ、論文投稿を行っていく。教育活動においては、領域内教員との連携を図りながら共働していくことで、教授内容の質を保証していく。併せて、全学および学科内委員会等における役割を遂行していく。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・看護技術論Ⅰ(生活援助技術).
 - ・看護技術論Ⅱ(共通基本技術).
 - ・看護技術論Ⅲ(フィジカルアセスメント).
 - ・看護技術論Ⅳ(検査治療技術).
 - ・看護技術論Ⅴ(看護過程展開技術).
 - ・基礎看護学実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.
 - ・感染看護学.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。)

- ・看護師国家試験問題集：2018，医学書院，東京.
- ・茂野香おる，有田清子，榎本麻里，今井宏美，坂下貴子，高橋裕子，屋宜譜美子ほか：系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③，2019. 1，医学書院，東京.

3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等。本人下線)

- ・今井宏美，木村亜由美，麻賀多美代，椿祥子，麻生智子，河部房子，三澤哲夫：現実適合性の高い口腔ケア用モバイルシミュレータを用いた部分学習が全体学習に及ぼす影響，日本人間工学学会，2018年6月，仙台.
- ・Hiromi Imai，Tamiyo Asaga，Tetsuo Misawa，Ayumi Kimura，Sachiko Tsubaki，Tomoko Aso，Fusako Kawabe：The Effects of Brushing Practice Using a TBP-Module with Good Real-Life Adaptability，Proceedings of the 20th Congress of the International Ergonomics Association (IEA 2018)，p298-304，August，2018.
- ・今井宏美，椿祥子，河部房子，麻賀多美代，仲吉昭一：産学連携プロジェクトー自己学習型，口腔ケアシミュレータの開発ー，第24回千葉看護学会学術集会，2018年9月，千葉.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名，研究テーマ，研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C)，質の高い口腔ケア技術獲得に資する現実適合性の高いモバイルシミュレータの開発と検証，研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C)，看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会, 日本環境感染学会, 日本看護教育学会, 日本看護技術学会, 日本看護科学学会, お茶の水看護学研究会, 口腔保健協会学会, 口腔衛生学会, 日本歯科医学教育学会, 日本歯科衛生教育学会, 千葉看護学会.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所）

- ・2018年度看護研究研究指導, 千葉市海浜病院, 2018年4月～2019年3月.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会, 看護学科総務・企画委員会, 看護学科運営会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究においてはこれまでの成果を国内学会・国際学会にて発表した。教育活動では領域内で意思疎通をできるだけ図るよう努力し、授業を展開した。また、学生に対しては専門職としての自己の態度の振り返りを促し、自己分析の向上を図りつつ、看護技術修得へ向けての意欲向上を図った。また、早い段階で学生が看護の対象となる患者をイメージできるようその機会を設けた。全学の教務委員会では新々カリキュラム申請のための準備および授業負担を担い役割を遂行した。

VII 次年度の目標

2019年度は引き続き、モバイルシミュレータの開発研究を遂行し、その成果をまとめ、論文投稿を行っていく。教育活動においては、新々カリキュラムと現行カリキュラムの併用年度となるが、各学年に応じた教授内容の質を保証していく。併せて、全学および学科内委員会等における役割を遂行していく。

講師 富樫 恵美子 修士（スポーツ健康科学）

対象期間：2018年10月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度の10月に着任と年度途中ではあったが、領域における教育活動や学科内での委員会活動に積極的に参加し役割を果たしていく。千葉県立保健医療大学の組織の一員として品位を保ち学生に接する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・リーダーシップ論.
 - ・看護倫理.
 - ・総合実習.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護管理学会，日本医療マネジメント学会，人類動態学会

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科／学生・進路支援委員会，入試検討委員会

VI 評価（成果および改善すべき事項）

領域における授業や実習，学科における委員会活動など教員の一人として役割を果たせるよう組織の理解や実際の活動内容を把握し，実践することに注力した。学生の学ぶ意欲や希望にそった行動を心掛けた。それらを基に次年度に向けて振り返りを行った段階であり，まだ成果と表現するには至っていない。

VII 次年度の目標

領域の授業及び実習において，シラバスに掲げた到達目標に向けて質が高くなるよう工夫し，相互作用での学びを体験できるよう関わっていく。また，学内共同研究に取り組み研究成果としてまとめ発表の準備を行う。学内の委員会活動においてはその役割を果たしていく。

講師 田口 智恵美 博士 (看護学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、より実践的な内容を学生が理解できるよう授業を工夫し、大学運営では、新々カリキュラムを2020年度から開始できるように委員会活動での役割を果たし、研究活動では、研究成果を論文にまとめて公表することであった。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・救命・救急の理論と実際.
 - ・成人看護学方法論 I.
 - ・成人看護学実習 (急性期).
 - ・総合実習 (成人看護学領域).
 - ・看護学統合.
 - ・看護研究.
 - ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・田口智恵美, 佐藤まゆみ, 三枝香代子: 緊急入室する ICU 熟練看護師の臨床判断, 千葉県立保健医療大学紀要, 第 10 巻, 第 1 号, 19-25, 2019.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金 (基盤研究 (C)), ICU 看護師の臨床判断能力を育成・開発するためのシュミレーション教育方法開発, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会, 日本クリティカルケア看護学会, 日本循環器看護学会, 日本看護学教育学会, 千葉看護学会.
- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
 - ・日本看護科学学会, 和文編集委員会専任査読委員, 2018年9月～現在.
 - ・日本クリティカルケア看護学会, 倫理委員会委員, 2016年5月～現在.
 - ・日本クリティカルケア看護学会, 査読委員, 2004年～現在.
 - ・日本循環器看護学会, 査読委員, 2013年2月～現在.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・看護研究指導. 2病棟 各4回 (8月8日・10月4日・12月7日・1月25日) 東京歯科大学市川総合病院.
- ・講演会「研究計画書の書き方」「プレゼンテーションの方法」. 2回 (7月24日・11月6日) 千葉県循環器病センター.
- ・事例検討指導および発表会講評. 年5回 (5月17日・7月25日・9月11日・12月26日・2月20日) 千葉県救急医療センター.

7 その他

- ・神田外語大学・千葉県立保健医療大学「初期医療通訳ボランティア研修」作業部会
- ・高校訪問. 千葉県立八千代東高等学校, 大学説明. 6月21日.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教務委員会. 教務委員会新々カリキュラム検討部会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議. 教務委員会. 教務委員会カリキュラム検討部会. 医療・生活支援領域会議.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動では, 専門領域のICU看護の理解が深まるよう関連授業を1コマ増やした. 大学運営では, 新々カリキュラムの作成と次年度実施に向け尽力した. 社会貢献では, 実習協力施設や県立病院の看護師が看護研究を進めるための支援をした. 看護系学会で委員会委員や査読委員として貢献できた. 研究活動では研究成果の公表をした.

VII 次年度の目標

教育活動では, 新たに担当する授業を滞りなく実施する. 大学運営では, 国家試験受験や卒業式が滞りなく実施されるよう学生支援を行う. 社会貢献では, 千葉県内看護師への研究指導や学会から依頼された活動を引き続き行う. 研究活動では, 重症患者へのケアを行う看護師の優れた実践の可視化に努める.

講師 加藤 隆子 博士（看護学）

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、教授欠員ではあるが、新しく着任した助教とともに領域の運営を着実に進める。具体的には担当科目、実習などは科目責任者と相談のもと、教育の質が維持できるよう計画、実施していく。委員会活動においては、責任を果たす場面が多くなるため、報告相談を密にしながら役割を果たすこと。また、研究においては設定した研究課題が次年度の外部資金獲得につながるよう計画的に進めていくことを目標とする。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・精神看護学方法論.
 - ・精神看護学実習.
 - ・看護研究.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.
 - ・こころの健康と看護.
 - ・心の健康.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・加藤隆子：自傷行為を繰り返す解離・転換症状のある患者の感情活用，日本保健医療行動科学学会，33，1，39-47，2018.
- ・渡辺尚子，中村博文，加藤隆子，阿部準子：新卒看護師が捉える精神科入院患者の退院支援について，日本精神保健看護学会誌，27，2，46-52，2018.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・加藤隆子，渡辺尚子，中村博文，小山均：精神科受療行動からみた青年期にある患者のメンタルヘルスに関する探索的研究，第25回日本精神科看護専門学術集会，2018年10月26日～27日，高松.
- ・渡辺尚子，中村博文，加藤隆子，阿部準子：精神看護学実習における病棟の違いと学生が捉える社会復帰に関するイメージ，第38回日本看護科学学会学術集会，2018年12月15日～16日，松山.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・2018年度学内共同研究，トラウマにより生きにくさを抱えている人を支援する援助者の構えと教育支援ニーズ，研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会. 日本精神保健看護学会. 日本保健医療行動科学学会.

- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
- ・日本精神保健看護学会第28回学術集会, 運営委員, 2018年6月23日～24日

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・一般社団法人日本精神科看護協会 精神科認定看護師養成研修会, チーム医療 チームアプローチ論, 精神科認定看護師資格取得を目指す者, 2018年7月, 東京.
- ・一般社団法人日本精神科看護協会 精神科認定看護師養成研修会, チーム医療 チームアプローチ論, 精神科認定看護師資格取得を目指す者, 2018年7月, 京都.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・社会貢献委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科教務委員会, 看護学科総務・企画委員会.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教授欠員であったが非常勤講師や新任の助教と連携し, 講義・演習の質を確保することができた. 実習においては, 各施設の指導者, 助教と協働し, 実習内容の改善に努めた. 委員会活動では主体的に活動し, 業務内容を見直し改善した. 研究において, 外部資金の獲得には至らなかったため, 研究を積み重ね研究結果を公表していくことが課題である.

VII 次年度の目標

新任の教授を迎え, 新しい体制となったため領域の運営が円滑に行くよう, 教育活動の質が向上するように教員間で連携を図りながら率先して役割を果たしたい. 教育活動では講義や演習, 実習内容を見直し, 学生が主体的に考えられるような内容や教材を工夫したい. 具体的には, 学修課題を検討し, 学生自身がどのような看護を行いたいと考えられるような内容にする. 研究活動については, 研究のフィールドを広げ, データ収集し学会発表, 論文投稿の準備を進める.

講師 高山 京子 博士 (看護学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、担当する講義・実習科目について、より学生の理解が深まるような教授方法を検討・工夫する。大学の管理運営は、所属する委員会において積極的にできることを実施し円滑に事業がすすむよう努める。研究活動は、まだ投稿できていない論文を仕上げ、学術雑誌に投稿し、さらに継続研究に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・成人看護学方法論Ⅰ.
 - ・成人看護学方法論Ⅱ.
 - ・がん看護学.
 - ・成人看護学実習 (慢性期).
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.
 - ・看護ふれあい体験学習.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・臨床薬理学 (聖隷クリストファー大学大学院).

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。)

- ・高山京子：3. 肺がん，鈴木久美他編集，看護学テキストNice 成人看護学 慢性期看護改訂第3版，233-239，2019年，南江堂，東京。

2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・高山京子，佐藤禮子，森文子，小澤桂子，佐藤まゆみ，遠藤久美：がん化学療法患者のセルフケアにおける貧血アセスメントツールを活用した看護ケアの有用性，千葉県立保健医療大学紀要，第10巻，第1号，81-88，2019。
- ・小澤桂子，森文子，遠藤久美，佐藤まゆみ，高山京子，川地香奈子，佐藤禮子：がん化学療法における貧血アセスメントツールの開発，千葉県立保健医療大学紀要，第10巻，第1号，35-42，2019。

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名、研究テーマ、研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C)，骨転移に放射線治療を受けるがん患者の至適生活を支援する看護プログラムの洗練，研究代表者。
- ・科学研究費補助金基盤研究 (B)，外来通院がん患者の主体性を活かして行う実践のための外来看護師育成プログラムの洗練，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・スマイル・キャンサーウォーク千葉2018の運営サポート, 2018年9月29日, 千葉市美浜区若葉3丁目公園.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本がん看護学会, 日本看護科学学会, 日本看護管理学会, 千葉看護学会, せいれい看護学会, 日本臨床腫瘍学会, 日本がんサポーターブケア学会.

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本がん看護学会, 編集委員会委員, 2017年4月～2019年3月.
- ・千葉看護学会, 広報委員, 2018年4月1日～現在に至る.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉県がんセンターでの講義, 「看護研究における倫理的配慮について」, 看護師, 8月3日, 千葉県がんセンター.
- ・千葉県がんセンターの看護研究指導, 看護師, 年4回, 千葉県がんセンター.
- ・東京歯科大学市川総合病院の看護研究指導, 看護師, 年3回, 東京歯科大学市川総合病院.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生・進路支援委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

担当する講義科目については、昨年度学生のレスポンスシート内容を踏まえて資料や説明の改善を行い、学生の学びの記述から概ね理解を得られた内容であったと考えられる。また、本年度は大学外の活動についても積極的にを行い、与えられた役割を果たすことができた。研究活動については、新規の研究課題への取りかかりが遅れたため、予定の活動まで至らなかった。

VII 次年度の目標

担当する講義・実習科目について、より学生の理解が深まるような教授方法を検討・工夫する。大学の管理運営は、所属する委員会において積極的にできることを実施し円滑に事業がすすむよう努める。新規研究課題については、計画的に進められるように取り組んでいく。

講師 川村 紀子 修士 (保健学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

学生の学習効果が向上するよう指導内容を工夫・検討し、学生指導の質を高める。保健医療に貢献できる研究活動への幅を広げながら、立案した研究計画に基づき実施を進める。大学運営における円滑な委員会運営となるよう業務を遂行し、社会貢献活動に積極的に参加する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産診断・技術学Ⅰ.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験).
- ・助産学実習Ⅱ (継続支援).
- ・助産学実習Ⅲ (分娩期ケア).
- ・総合実習.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

1 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・川村紀子：周産期看護におけるインシデント・アクシデントレポートに関する実態と安全管理上の課題, 第49回日本看護学会論文集 看護管理, 47-50, 2019.
- ・川城由紀子, 石井邦子, 鳥田美紀代, 竹内久美子, 大滝千智, 川村紀子：看護職のセカンドキャリアに向けた要望とキャリア形成支援の検討, 千葉県立保健医療大学紀要, 10(1), 27-34, 2019.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・川村紀子：周産期看護におけるインシデント・アクシデントレポートの活用上の課題, 第49回日本看護学会論文集-看護管理-学術集会, 2018年8月9日10日, 仙台.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2018～20年度 科学研究費補助金基盤研究 (C), 助産師の分娩期の危険予知能力を高めるためのトレーニング教材の開発, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本母性看護学会、日本助産学会、日本看護科学学会、日本母性衛生学会、千葉看護学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

・日本母性看護学会誌、編集幹事、2015年7月24日～現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・予備選挙管理委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・看護学科運営会議、看護学科学学生・進路支援委員会。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学

(<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>)。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育について、学生の学習効果が向上するように講義・演習・実習における指導方法及び指導内を見直し実施した。また一貫性のある内容により理解が深まるように工夫した。また学習状況に応じた個別的な指導を行った。研究活動は、限られた時間の中で、計画的に研究活動を進め、様々な活動に参加し研究を進めることができた。大学の管理運営について、業務を遂行するために教職員方に助言を受けながら役割責任を担い運営を円滑にすることができた。社会貢献活動に積極的に参加し、関係者に協力・助言を受けながら役割遂行を担うことができた。

VII 次年度の目標

教育について、学生の教育目標を達成できるように、講義・演習・実習における学習効果を再検討し、その効果の実現を図る。また、学生個々のレジネスを把握し、その指導内容を工夫する。研究活動は、保健医療に貢献できる充実した研究内容を目指し、研究計画の実施及びその成果をまとめる。大学の管理運営について、円滑な委員会運営となるよう業務を遂行する。社会貢献活動に積極的に参加し役割を遂行する。

講師 佐伯 恭子 修士 (人間科学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は講師となるため、担当する講義が増え、大学運営にかかわる機会も増えると考えられる。研究活動については研究成果を学術論文として公表することを、社会貢献については継続した活動に取り組むだけでなく活動を広げる足掛かりを作っていくことを目指して、教育活動や大学運営活動における責任も果たせるよう、時間配分を考えながら計画的に取り組んでいきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・高齢者・在学看護学方法論Ⅰ.
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
 - ・高齢者看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.
 - ・ターミナルケア論.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・佐伯恭子, 諏訪さゆり：日本において認知症の人を対象に実施された介入研究の倫理的配慮の現状—原著論文に認められた倫理的配慮の分析から—, 千葉大学大学院看護学研究科紀要, 41号, 13-23, 2019.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・Tomoko Sugimoto, Chikako Takayanagi, Mikiyo Torita, Kazue Mori, Kyoko Saeki : Learning needs of nurses who support the discharge of elderly cancer patients, Aging & Society 8th Interdisciplinary Conference, 2018年9月18-19日, Tokyo.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学長裁量研究費, 認知症の人を対象とした看護・介護・リハビリテーション領域の研究における倫理的配慮に関する現状と課題, 研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), がん高齢者の地域生活への移行と継続を支援する看護師のスキルアップ教育枠組みの構築, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本生命倫理学会. 日本医学哲学・倫理学会. 日本看護科学学会. 日本看護倫理学会. 日本老年看護学会.

千葉看護学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本看護倫理学会, 監事, 2015年6月～2018年5月迄.
- ・日本看護倫理学会, 評議員, 2012年5月～現在に至る.
- ・日本看護倫理学会第11回年次大会, 座長, 2018年5月27日.
- ・日本看護倫理学会誌, 査読者, 2018年度.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・チーム医療 (東京, 京都), 演習補助, 一般社団法人日本精神科看護協会, チームアプローチ論2, 精神科認定看護師資格取得を目指す者, 2018年7月10日 (東京), 2018年7月24日 (京都).

7 その他

- ・高校訪問, 千葉県立成田北高等学校, 6月.
- ・高校訪問, 市立船橋高等学校, 11月.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学術推進企画委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議, 看護学科教務委員会, 看護学科2年生担任, 総合実習作業部会.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動では, 講義や演習には新しい知見を盛り込んだり視聴覚教材を活用したりすることで, 担当時間数が増えたが質を保つことができた. 研究活動では, 研究成果を論文投稿で発表することができた. 社会貢献では, 所属学会のものが多くを占め, 地域への貢献が少なかった. 大学運営では, 担当した業務を責任をもって遂行することができた.

VII 次年度の目標

教育活動については, 学生の理解や関心がより高まるような講義, 演習, 実習となるよう工夫していく. 研究活動については, 研究費の獲得や研究成果の発表を目指す. 社会貢献については, 教育研究活動と関連したものに積極的に取り組むことで地域での貢献につなげていく. 大学運営および委員会活動については, 与えられた役割の責務を果たせるように周囲と協力して取り組む.

講師 杉本 健太郎 博士 (看護学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育については、担当する教授内容についてアクティブ・ラーニングを取り入れ、学生が実際の保健師活動をイメージしながら地域看護学を学べるよう支援する。研究については、代表者・分担者を務める研究課題いずれも調査・分析を計画的に実施するとともに、成果を学術誌にて公表し、得られた知見を還元していく。社会貢献及び大学の管理運営についても、責任を持って役割を遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・地域看護学概論.
 - ・地域看護学方法論Ⅱ.
 - ・地域看護学方法論Ⅲ.
 - ・地域看護学実習.
 - ・総合実習 (地域看護学).
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・杉本健太郎，柏木聖代，齋藤訓子：新規開設した訪問看護事業所における地域に対する取り組みの実態とその関連要因，日本在宅看護学会誌，7巻，1号，196-205，2018.
- ・杉本健太郎，柏木聖代：介護老人保健施設における看護，日本臨床，76巻（増刊号7），722-725，2018.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者)

- ・科学研究費助成事業 (若手研究 (B)) 2016-2019，サービス付き高齢者向け住宅における看取りの質評価指標の開発，研究代表者.
- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (B)) 2018-2021，地域包括ケアシステムに貢献できる看護職コンピテンシー育成プログラムの開発，研究分担者.
- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) 2015-2018，災害時の共助を意図した住民主体の健康な地域づくりを推進する行政保健師の活動指針，研究分担者.
- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) 2016-2019，保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発，研究分担者.
- ・科学研究費助成事業 (挑戦的研究 (萌芽)) 2017-2019，高齢者介護家族を含めたマルチプルケア (多重介護) の実態と概念化，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本看護科学学会、日本在宅看護学会、日本在宅ケア学会、日本運動器看護学会、日本看護管理学会、日本健康医学会、日本高齢者ケアリング学研究会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本在宅看護学会、編集委員、査読委員、2018年9月17日～現在

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・業務研究に関する指導、千葉県香取健康福祉センター。「社会福祉施設における効果的な感染症研修会のあり方」に関する研究の進め方やまとめ等の指導・助言、千葉県香取健康福祉センター職員、2018年8月～2019年3月、千葉県香取健康福祉センター。
- ・業務研究に関する指導、千葉県君津健康福祉センター。「小学校にエイズ予防対策事業を導入するための効果的な介入方法と保健所保健師の役割」に関する研究の進め方やまとめ等の指導・助言、千葉県君津健康福祉センター職員、2018年8月～2019年3月、千葉県君津健康福祉センター。
- ・保健師活動の必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得をめざしたワークショップ、千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科健康支援看護領域、千葉県内2016・2017・2018年度新規採用保健師、2018年10月27日、12月22日、2018年2月16日、千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・研究等倫理委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会、看護学科担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育に関しては、成人・高齢者分野における保健師活動に関する授業の際、生活習慣病指導や介護予防に関するケアマネジメント等について事例を提示し、当該事例への対応を学生とともに検討する等、学習効果を高める取り組みを行った。一方で、演習について、課題ごとの時間配分など、より効果的・効率的な運営に向けた改善点も見出された。研究については、取り組んでいる研究課題について調査・分析を進め、成果をまとめた論文が1件学術誌に掲載された。社会貢献については、県内の保健師への研究指導・研修講師を務めた。大学の管理・運営については、所属する委員会における担当業務の円滑な遂行に努めた。

VII 次年度の目標

教育に関しては、より保健師国家試験の試験範囲・出題傾向とリンクさせた授業内容を意識して行い、学生が早期から国家試験対策を意識できるよう支援していく。また、今年度見出された課題（演習の効果的・効率的運営）の改善に向けて取り組んでいく。研究については、次年度最終年度を迎える、自身が研究代表を担う課題について引き続き計画的に実施し、研究成果を地域に還元していく。また、これまでに得られた研究知見から見出された新たな研究課題にも取り組んでいく。社会貢献については、県内の保健福祉サービスの質の向上に向けてより一層役割を果たせるよう努める。大学の運営管理については、次年度担当する業務について、責任を持って役割を遂行する。

助教 宮澤 早織 修士（看護学）

対象期間：2018年4月1日～2018年9月30日まで

I 年度当初の目標

2018年9月末で退職予定のため、特になし。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本アルコール関連問題学会

VI 評価（成果および改善すべき事項）

2018年9月末で退職のため、特になし。

助教 大内 美穂子 修士（看護学）

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、研究活動を充実し、成果を得られるような年度とする。新しいテーマに取り組んでいるので、まずは倫理審査を通して、データ収集していく。教育に関しては科目責任者の指導を得ながら、講義にも新しい知識を取り入れて講義の技術を向上させていく。実習施設と協働しながら社会貢献できるような取り組みをする。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・成人看護学方法論Ⅰ.
- ・成人看護学方法論Ⅱ.
- ・がん看護学.
- ・成人看護学実習（急性期）.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・看護ふれあい体験学習.

III 研究記録

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）、骨転移に放射線治療を受けるがん患者の至適生活を支援する看護プログラムの洗練、研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究（B）、外来通院がん患者の主体性を活かして行う実践のための外来看護師育成プログラムの洗練、研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究（C）、ICU看護師の臨床判断能力を育成するシミュレーション教育方法の実施と評価、研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・多数傷病者発生合同災害訓練、2018年10月27日、千葉市立海浜病院及び千葉県救急医療センター.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本がん看護学会、日本看護科学学会、日本看護管理学会、千葉看護学会、日本遠隔医療学会、日本看護学教育学会.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉県がんセンターの看護研究指導、看護師、年4回、千葉県がんセンター.

V 管理・運営記録

- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・看護学科学生・進路支援委員会・看護学科倫理審査委員会

VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究活動は、充実した研究活動には至らなかった。研究分担者としての研究が多く、自己の研究への取り組みが不十分であったため、来年度は研究にもっと時間をとれるように改善が必要である。講義科目については、学生の評価より、おおむね理解が得られたと評価する。今後は、レスポンスシート意見を反映させ、講義内容の改善を図る必要がある。大学運営では、所属した委員会において、リーダーを補助する形でメンバーとして貢献できた。

VII 次年度の目標

講義・実習科目は、学生の興味を深められるように教授方法を検討していく。医療の進歩に伴い、最新の知識を学生にも教授できるように積極的に自ら学習に取り組む。研究は、共同研究者として役割を果たしながら研究能力を向上し、自分の研究を遂行できるように取り組む。

助教 上野 佳代 修士（老年学）

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、特に、教育活動において、高齢者看護学実習の指導では、既習の高齢者領域の講義や、学内演習と臨地実習を有機的に結び付けられるように指導を行い、学生が、高齢者の理解や看護より深められるような工夫をする。担当する演習講義の説明内容の精選に努める。大学における運営活動においては、積極的に責務に取り組む。社会活動、研究活動においては、継続的に行い、成果を発表・投稿をめざす。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
 - ・高齢者看護学実習.
 - ・総合実習（高齢者）.
 - ・体験ゼミ.
 - ・看護学統合.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）
 - ・老年看護学概論～地域包括ケア拠点まちの暮らしの保健室の実態の紹介～（東京情報大学 看護学部）

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・上野佳代，菊池和美，澤岡詩野，長田久雄，中村桃美：高齢者はその居場所にどのような意味を持っているのか～まちの暮らしの保健室における保健医療福祉専門職へのインタビュー調査から～，老年社会科学 40 巻 2 号，P. 208, 2018
- ・杉本知子，高柳千賀子，鳥田美紀代，成玉恵，上野佳代，佐伯恭子：ノロウイルス感染症のアウトブレイクの予防に取り組む看護職員が直面している困難：高齢者介護施設における実態調査から，千葉県立保健医療大学紀要 9 巻 1 号 P. 78, 2018
- ・成玉恵，杉本知子，高柳千賀子，鳥田美紀代，上野佳代：ノロウイルスによる胃腸炎の集団発生予防に関する感染管理の現状，第 23 回日本在宅ケア学会学術集会，2018

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・2018 年度学長裁量研究，高齢者ケア施設に従事する外国人労働者の定着に向けた支援の実態，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・栄養学科渡邊智子教授を筆頭とした千葉県の高齢者のための健康づくりプログラム（ほい大健康プログラム）に参画し，看護師として来訪者の健康チェック及び健康相談を行った.

2) 千葉県外

- ・まちの暮らしの保健室において、ボランティア看護職として月に1回土曜日に健康に関する講義、企業連携をした健康に関する講義を企画運営、健康相談。荻窪暮らしの保健室(東京都杉並区)

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本老年看護学会、日本老年社会学会、日本応用老年学会、日本看護科学学会、日本看護診断学会、日本感染看護学会

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・板橋中央総合病院 看護師への看護研究指導、2018年全6回(東京都板橋区)
- ・我孫子ロイヤルケアセンター。介護福祉士、社会福祉士、音楽療法士への看護研究指導、2018年全1回(千葉県我孫子市)
- ・神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 非常勤講師(グループワークアドバイザー)。「看護教育課程演習(各看護別)」。教員・教育担当者養成課程 看護コースの学生、2018年 全4回(横浜市旭区)

7 その他

- ・コソコソ学ぼうセミナー 運営スタッフ(千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科)。千葉県内の中小規模病院に勤務する看護師、2019年3月14日。千葉県立保健医療大学教育棟B棟321号室。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科教務委員会、看護学科総務・企画委員会、看護学科2年担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、高齢者看護学実習における学内演習講義及び、看護学方法論Ⅱの講義について根拠づけを大切に説明を行い、学生が臨地実習に活かせるように努めた。加えて、高齢者における看護の興味関心や研究関心につなげるようにしたところ一定の成果を得た。研究活動では、看護系と多領域における学際的な学会において、ポスター発表や、シンポジウムへの参加し、最新の看護事情を把握することで、学生指導に活かすことができた。昨年課題であった研究においては成果発表の投稿はできておらず課題である。研究資金の獲得については、科研費獲得のためのエントリーに留まった。引き続き計画的な研究の遂行と研究資金獲得への努力が必要である。

VII 次年度の目標

教育活動では、引き続き、高齢者看護学実習、総合実習において、学生がより高齢者の看護を深めるために学習効果のある指導方法の工夫を行う。実習施設との連絡調整を密に行い指導環境を整え実習指導に臨む。加えて新たに加わる方法論Ⅰの授業内容の検討と精選に努める。更に、大学における運営（委員会）活動においては教職員と連絡調整を十分行いながら積極的に責務を果たせるように務める。今年度課題となった研究活動については、成果を投稿できるように務め、研究資金の獲得をめざしたい。

助教 鈴木 恵子 修士 (看護学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、特に教育活動においては基礎看護領域での各授業構成の理解をもとに、講義環境の調整、演習環境の調整、学生指導における自身の役割遂行に努め、実施、評価することができる。研究活動においては学内共同研究の準備、実施、報告を目指す。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・看護学入門.
 - ・看護技術論Ⅰ (生活援助技術).
 - ・看護技術論Ⅱ (看護共通技術).
 - ・看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術).
 - ・看護技術論Ⅳ (検査治療技術).
 - ・看護技術論Ⅴ (看護過程展開技術).
 - ・体験ゼミナール.
 - ・基礎看護学実習.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・鈴木恵子，水野正之，小澤三枝子：再就業看護師の「再就業前の予想と現実との負の不一致」と「再就業の満足感」の関連，日本看護研究学会雑誌，41巻，4号，753-762，2018.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者)

- ・学内共同研究，千葉県内の病院における看護職員確保の困難に関する実態調査，研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称，活動期間，場所等)

- 1) 千葉県内
 - ・ほい大健康プログラム.
- 2) 千葉県外
 - ・NPO 法人環境汚染等から呼吸器病患者を守る会. 2018年4月～12月. 高輪区民センター.

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護研究学会. 日本母性衛生学会.

V 管理・運営記録

- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・看護学科学生・進路支援委員会

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動においては、基礎看護領域での各授業の構成を理解し、演習等を担当した。授業者の意図と実際の学生の反応の乖離については、上席教員の対応と自身が担当する学生の状況が一致するかを考えながら調整に努めたがあとから指摘、指導を受けることがあった。学内共同研究は計画より実施時期がやや遅れたが、期待値より多くの調査票の回答を得て、県内病院の看護職確保の困難の実態を推測できるものとなった。

VII 次年度の目標

次年度は退職し本学に所属していないが、研究分担者が本学に所属しているため毎年8月に開催される学内共同研究発表会に出席し、研究成果を報告する予定である。

助教 中山 静和 修士（看護学）

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、小児看護学実習における教育活動において、学生個々の学習状況や理解度を把握し、学習目標の達成に向けた指導内容を検討する。大学運営では、委員会において前年度の経験を生かしながら、業務が円滑に進むよう取り組む。研究については、競争的資金を獲得し、計画的に実施していくことが目標である。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・小児看護方法論Ⅰ.
 - ・小児看護方法論Ⅱ.
 - ・小児看護学実習.
 - ・総合実習(小児看護学領域).
 - ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・及川郁子，川口千鶴，中山静和，鈴木千琴：保育所看護職の学習プログラム開発に向けた基礎的研究(1)，東京家政大学生活科学研究報告 第41集，9-13，2018.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・鈴木千琴，中山静和，川口千鶴，及川郁子：保育施設で働く看護職の保健活動実施状況と学習機会の実態，第24回日本保育保健学会，2018年10月13日，新潟県新潟市 新潟コンベンションセンター.
- ・中山静和，鈴木千琴，川口千鶴，及川郁子：保育所看護職が目指していること—アンケート調査自由記述のテキスト分析から—，第30回全国保育園保健研究大会，2019年2月16日，東京都世田谷区 日本大学 三軒茶屋校.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・2018年度 学内共同研究(一般)，保育所看護職が認識している「気になる子」への保健活動の実態，研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），小学校入学に向けた幼児期からの慢性疾患患児への支援プログラムの開発，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本小児看護学会，日本小児保健協会，日本新生児看護学会，日本看護科学学会，日本保育保健協議会，全国保育園保健師看護師連絡会

V 管理・運営記録

- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・看護学科運営会議、看護学科入試検討委員会、看護学科総務・企画委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、小児看護学方法論Ⅰの講義において臨地実習を見据えた内容を盛り込み、学生が臨地実習で活かせるように努めた。臨地実習では、学生の理解度に合わせた説明を行い、講義・演習での既習内容を想起させることで学習が深めるよう努めた。委員会では、与えられた業務を遂行することが出来た。研究活動では、学内共同研究費を獲得し、研究計画に基づいて研究活動を進めることが出来た。また、これまでの研究活動での成果を論文および学会発表にて発表することが出来た。

VII 次年度の目標

講義・演習・臨地実習では、学生の学習が深まるよう指導内容を検討・工夫していく。委員会活動においては、他の委員に報告・相談を密に行いながら役割が果たせるよう努力する。また、研究活動においては、計画的に進め、成果を公表できるようにしたい。

助教 堀川 英起 修士（看護学）

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、着任初年度であるためまずは、精神看護学領域の科目（精神看護学方法論、精神看護学実習、総合実習、看護研究）において、領域内教員および実習病院スタッフと連携することを通して、学生の学びが最大限になる環境づくりを目指す。また、看護学科の委員会活動を通して、組織運営について理解しながら役割を遂行したい。研究活動においては、学会への口頭報告を行ったうえで、そこでの質疑応答をいかして論文投稿につなげたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・精神看護学方法論.
 - ・精神看護学実習.
 - ・看護研究.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.
 - ・体験ゼミナール.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

・堀川英起：慢性うつ患者の〈自己管理〉の物語—患者の「説明モデル」に着目して，社会志林64(2)，p123-141，2018.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

・堀川英起：慢性うつ患者の「ヘルス・ケア・システム」の物語—患者の〈自己管理〉とは何か，日本保健医療社会学会，2018年5月，北海道北広島市.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本精神保健看護学会. 日本保健医療社会学会.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

・看護学科学生進路支援委員会. 看護学科入試検討委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

本年度は、精神看護学領域の教授が欠員であったことから、学生が精神看護学に関する科目に関して十分な学習機会を得られることを最優先して領域内教員や病院スタッフと連携をしてきたが、学生に不利益のない学習環境を提供できたと考え

る。また、委員会活動については、1年間の活動を通して本学の特徴や組織運営の理解を深めることができた。研究活動については、本年度当初の目標（学会での口頭報告と論文の投稿申請）は達成した。

VII 次年度の目標

次年度は、新たに着任する教授を、講師とともに支えながら領域の運営を進めていきたい。また、委員会活動においては、本年度の経験を活かして、本学の特徴を踏まえながら主体的に行動する。研究においては、学会誌に論文投稿することを目標としながら、それだけですませずその過程で得られた知見を、教育活動にもつなげるように意識していきたい。

助教 椿 祥子 修士 (看護学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、科研費を取得している重症心身障がい児の家族へのインタビュー調査を実施し、データの整理をして分析を進めることが課題である。教育活動では、担当する講義・演習では、教育目標に沿って学生が理解しやすい授業が行えるよう準備を行うことが課題である。また、担当以外の講義・演習に関しても、授業者の意図を積極的に把握して、学生が効果的な学習ができるよう準備や実習室環境の整備することが課題である。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・看護技術論Ⅰ (生活援助技術).
 - ・看護技術論Ⅱ (看護共通技術).
 - ・看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術).
 - ・看護技術論Ⅳ (検査治療技術).
 - ・看護技術論Ⅴ (看護過程展開技術).
 - ・基礎看護学実習.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・今井宏美, 木村亜由美, 麻賀多美代, 椿祥子, 麻生智子, 河部房子, 三澤哲夫: 現実適合性の高い口腔ケア用モバイルシミュレータを用いた部分学習が全体学習に及ぼす影響, 日本人間工学学会, 2018年6月, 仙台.
- ・Hironi Imai, Tamiyo Asaga, Tetsuo Misawa, Ayumi Kimura, Sachiko Tsubaki, Tomoko Aso, Fusako Kawabe: The Effects of Brushing Practice Using a TBP-Module with Good Real-Life Adaptability, Proceedings of the 20th Congress of the International Ergonomics Association (IEA 2018), p298-304, August, 2018.
- ・今井宏美, 椿祥子, 河部房子, 麻賀多美代, 仲吉昭一: 産学連携プロジェクト ―自己学習型, 口腔ケアシミュレータの開発―, 第24回千葉看護学会学術集会, 2018年9月, 千葉.

4 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金若手研究 (B), 乳幼児期の重症心身障がい児の家族のヘルスリテラシーの様相の解明, 研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 質の高い口腔ケア技術獲得に資する現実適合性の高いモバイルシミュレータの開発と検証, 研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

日本小児保健協会, 日本看護科学学会, 日本看護教育学会, ナイチンゲール学会, 千葉看護学会, 文化看護学会.

V 管理・運営記録

- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・看護学科教務委員会. 看護学科倫理審査委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究活動では、科研費を取得し、研究代表者として重症心身障がい児の家族へのインタビュー調査を実施した。また、研究分担者として取り組んでいる研究について、共著として学会発表をした。教育活動では、看護技術論Ⅲと看護技術論Ⅳでそれぞれ講義・演習を担当し、図や写真を用いて学生が理解しやすいように工夫した。担当以外の授業についても他教員とのコミュニケーションを取りながら準備を行なうとともに、自己学習も効果的に行えるよう活動した。また、委員会活動では、年度当初の役割を遂行できた。

VII 次年度の目標

科研費を取得している研究において、インタビュー調査した内容をデータ化し、学会発表と論文投稿することが目標である。教育活動では、他教員とコミュニケーションを取りながら、教育目標に沿った授業が行えるよう、担当の講義・演習については学生が理解しやすい内容にしていくとともに、学生が効果的な自己学習ができるよう全ての授業や演習の準備を行い、実習室環境の整備を継続していく。

助教 相馬 由紀子 修士 (学校教育学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、教育活動において、講義や演習の準備・補助を行いながら、領域で行われている教育内容を理解し、学生への指導へ生かしていく。実習では、領域内教員の指示を仰ぎながら、学生が高齢者への看護を理解するよう努める。また、大学の運営活動においては、本学の特徴や組織運営を理解し、委員会などの大学運営に関わっていく。研究活動においては、積極的に取り組み、成果につなげる。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
 - ・高齢者看護学実習.
 - ・総合実習 (高齢者).
 - ・体験ゼミナール.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

- 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)
 - ・2018年度学長裁量研究, 高齢者ケア施設に従事する外国人労働者の定着に向けた支援の実態, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
 - ・スマイル・キャンサーウォークちばにおける運営サポート等 (スマイル・キャンサーウォークちば, 2018年9月21日, 若葉3丁目公園)

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本老年看護学会, 日本看護学教育学会.

7 その他

- ・コソコソ学ぼうセミナー/運営スタッフ (千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科), 千葉県内の中小規模病院に勤務する看護師, 2019年3月14日, 千葉県立保健医療大学教育棟B棟321号室.

V 管理・運営記録

- 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科学生・進路支援委員会. 看護学科進路支援部会. 看護学科1年担任.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

本年度は、領域内教員の指導を仰ぎながら、講義・演習の組み立て、準備、補助などを行うことができた。実習では、領域内教員や指導者及びスタッフとの連携をとおして、学生が高齢者への看護を理解するよう導くことができた。大学における運営活動においては、本学の特徴や組織運営の理解を深め、委員会などに関わることができた。研究に関しては、取り組んだ研究の成果発表していくことが課題である。

VII 次年度の目標

次年度は、主体的に考え、質の高い講義・演習となるよう準備や補助を行っていく。実習においては、学生が高齢者への看護の学びを深められるよう指導方法を工夫する。また、大学運営においては、本学の特徴を踏まえながら教職員と連携し、責務を果たせるようにする。研究活動では、研究成果を発表できるよう努める。

助教 坂本 明子 修士（看護学）

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は領域の先生方から講義や研究方法について学び、学生の学習効果が向上するよう、講義の技術を向上を目指して自己研鑽をつむこと。自分の研究能力の向上を図るとともに2年目となる科研研究の遂行を授業や実習との両立をはかり計画通り進めていく。未だ公表できていない成果があるので学術論文として公表することを目標とした。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール。
 - ・成人看護学方法論Ⅰ。
 - ・成人看護学方法論Ⅱ。
 - ・成人看護学実習（慢性期）。
 - ・総合実習。
 - ・看護学統合。

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等。本人下線）

- ・美見有香，下河邊仁子，長谷部聖恵，伊勢彩，坂本明子:産後ケア入院に携わる助産師が抱えている障壁と問い，第36回千葉県母性衛生学会学術集会，2018年5月26日，千葉大学大学院看護学研究科

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金若手研究(B)，「心不全終末期患者へのエンドオブライフケア：ケア移行の判断基準およびケア内容の究明」，研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会，日本循環器看護学会，日本慢性看護学会，日本老年看護学会，千葉看護学会，看護質的統合法研究会，日本アロマコーディネーター協会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・2018年度看護研究研究指導，東京歯科大学市川総合病院。2018年7月～2019年3月。東京歯科大学市川総合病院。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議，看護学科教務委員会，看護学科入試検討委員会，看護学科医療生活支援領域会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

2018年度は科目責任者の助言の下、心機能障害（心不全）をかかえた患者の看護について講義を行った。心不全の病態・症状・予防のためのセルフケア方法・患者のセルフマネジメントを支える看護について、伝えたい内容を視覚で理解できるように図や写真などの活用を図った。また自身が経験した患者への援助例や療養法の実際について、具体を挙げながら説明していくことで学生がイメージしにくい部分を伝えられた。研究活動については、科研研究のデータ収集を実施した。目標対象者数に達するまでデータ収集を継続しながら、同時進行で施設ごとの個別分析をすすめ2019年10月の循環器看護学会での発表を予定している。

VII 次年度の目標

2019年度も引き続き領域の先生方から講義や研究方法について学び、学生の学習効果が向上するよう講義技術の向上を目指して自己研鑽をつむこと。研究会等に積極的に参加して自分の研究能力の向上を図るとともに、最終年度となる科研研究の分析の完成および学術論文として公表できるよう授業や実習との両立をはかり進めていく。未だ公表できていない成果があるので、学術論文として公表する。

助教 杉本 亜矢子 修士 (看護学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

母性看護学実習・助産学実習で担当する施設において、学生の実習が円滑にすすむよう粘り強く調整を行うとともに、学内演習の企画や実習室の整備など学生の学習効果が高まるよう学内の環境を調整する。個々の学生のレディネスを把握し、学習目標到達度があがるように指導を行う。また、学生のもつ看護観を引出しながら学生が考える看護ケア・助産ケアが実践できるように支援する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・母性看護学方法論Ⅰ.
 - ・母性看護学実習.
 - ・助産診断・技術学Ⅰ.
 - ・助産診断・技術学Ⅱ.
 - ・助産診断・技術学Ⅲ.
 - ・助産診断・技術学Ⅳ.
 - ・助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験).
 - ・助産学実習Ⅱ (継続支援).
 - ・助産学実習Ⅲ (分娩期ケア).
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所.)

- ・杉本亜矢子：系統別看護師国家試験問題集 第107回看護師国家試験 解答と解説2019年版，2019，医学書院，東京.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者)

- ・千葉県立保健医療大学 共同研究費 「分娩期における助産師の内診診断技術発達過程の構造化」 研究代表者：石井邦子 共同研究者：川城由紀子，北川良子，川村紀子，杉本亜矢子

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・千葉県母性衛生学会.
- 2) 学会，学術団体への貢献 (学会・学術団体名，役職，活動期間)
 - ・千葉県母性衛生学会. 会計幹事. 2018年5月～

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・報告書作成等部会。
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・看護学科教務委員会、看護学科運営会議。
- 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞
 - ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学
(<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>)。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

助産学実習において、2名の学生を担当し実習内容の調整や、助産計画に対して指導を行った。また、上席教員から助言を得ながら、各学生のレディネスを意識して指導方法を工夫し、実習期間を通して学生が成長した点については肯定的にフィードバックを行うことで学習意欲を継続できるように努めた。実習目標や課題についての学生の考えを引出ながら関わることで、助産実習終了時には学生2名の目標到達度が向上した。母性看護学実習においては、初めて男子学生を担当し、上席教員に報告・相談しながら学習支援ができた。

研究活動において、上席教員の共同研究に参加しインタビューでのデータ収集や、データ収集後の分析を指導の下実施した。

VII 次年度の目標

共同研究者として、学内共同研究について引き続き分析を率先して実施することで質的分析の進め方について学ぶ。教育活動においては、母性看護学および助産学実習において担当する学生の学習目標の到達状況だけでなく精神面においても前向きに実習が継続できるように実習指導者との調整を実施する。

助教 木村 亜由美 修士 (看護学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、研究に関しては修士課程での研究成果を論文として学会に投稿することが課題である。教育に関しては、領域の先生方の指導をいただきながら、講義や演習の準備を行い、学生に効果的な指導ができるようにしていくことが課題である。また、委員会活動を通じて大学運営へ関わっていくことが課題である。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・看護技術論Ⅰ (生活援助技術).
 - ・看護技術論Ⅱ (看護共通技術).
 - ・看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術).
 - ・看護技術論Ⅳ (検査治療技術).
 - ・看護技術論Ⅴ (看護過程展開技術).
 - ・基礎看護学実習.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・小高(木村) 亜由美, 高橋勇太, 松田友美, 石田陽子: 抗がん剤による静脈炎に対する電法の作用に関する実験的研究, 日本看護技術学会誌, 17巻, 33～42, 2018.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究(C)，看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発，研究分担者
- ・学内共同研究，注射針先端の変形損傷に関する検討，研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護技術学会. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会 (委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科入試検討委員会，看護学科学生・支援委員会

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

研究活動に関しては、修士課程での研究の成果を論文として投稿し、原著論文として掲載された。教育に関しては、領域の先生方の指導のもと、講義・演習の準備などを行ったが、効果的な指導を行うという点で不十分であったと感じる。基礎看護学実習では、先生方に援助をいただきながら、2クールの実習を事故なく終了できた。大学の運営に関しては、入試検討委員会ではオープンキャンパスの運営を通じて、本校の紹介をすることができた。また、学生・進路支援委員会では、1年生の担任を担い、学生の要望や相談を聞き、アドバイスをすることができた。

VII 次年度の目標

2019年度は、育児休業を取得させていただくため、自宅で行える研究活動などを行っていく。

栄養学科

教授 兼 学科長 渡邊 智子 博士 (医学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2016年度の総括を踏まえ、教育、研究、大学の運営、学科の運営、社会貢献などにベストを尽くし、昨年度と同様にそれぞれに関わる方々と連携・共働し努力したい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・千葉県健康づくり (特別講義 I).
- ・体験ゼミナール.
- ・食育論 I.
- ・食育論 II.
- ・食事設計と栄養.
- ・調理実習.
- ・食事設計と調理実習.
- ・調理科学実験.
- ・食生活教育論.
- ・学校栄養教育論.
- ・教職実践演習.
- ・卒業論文.
- ・総合演習.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・新潟大学医歯学総合研究科口腔健康学講座 (大学院生 (博士課程栄養分野) 4名の博士論文のための研究指導)
- ・食育論 (東京歯科短期大学)

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。)

- ・一般社団法人日本調理科学会編集、香西みどり、石井克枝、渡邊智子他：伝え継ぐ日本の家庭料理 小麦・いも・豆のおかず (担当：千葉県、新潟県)，2018年，農村漁村文化協会，東京。
- ・和食文化国民会議監修、江原絢子、大久保洋子、的場輝佳、渡邊智子他：和食手帳，2018年，思文閣出版，京都府。
- ・医歯薬出版編、渡邊智子他：日本食品成分表 2019 七訂 栄養計算ソフト・電子版付 (担当：日本食品標準成分表 2015年版 (七訂) 知っておきたい基礎知識)，2019年，医歯薬出版，東京。
- ・女子栄養大出版編、渡邊智子他：七訂食品成分表 2019 本編編 (担当：食品成分表をどう使う?)，2019年2月，女子栄養大学出版部，東京。
- ・文部科学省科学技術・学術審議会資源調査分科会 (安井明美、渡邊智子、鈴木亜夕帆他) 編：日本食品標準成分表 2015年版 (七訂) 追補 2018年，2018年，全国官報販売協同組合，東京。
- ・渡邊智子，鈴木亜夕帆：ちば型食生活食事実践ガイドブック本編 2018年版，2019年，千葉県。
- ・渡邊智子，鈴木亜夕帆：ちば型食生活食事実践ガイドブック資料編 2018年版，2019年，千葉県。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・渡邊智子，太田孝弘：日本食品標準成分表の動向-追補 2016 年及び追補 2017 年-，日本調理科学会誌 Vol. 51 No. 5 P.303-305，2018 年.
- ・渡邊智子：総説 日本食品標準成分表 2015 年版（七訂）追補 2016 年及び追補 2017 年の留意点と課題，栄養学雑誌 77 巻 1 号 p.4-12，2019 年.
- ・渡邊智子：『日本食品標準成分表』の活用でもっと深まる食品と調理のキノ知識 第 1 回「米」，臨床栄養 133 巻 5 号 P.736-744，2018 年.
- ・渡邊智子：『日本食品標準成分表』の活用でもっと深まる食品と調理のキノ知識 第 2 回「パン」，臨床栄養 133 巻 6 号 P.892-900，2018 年.
- ・渡邊智子：『日本食品標準成分表』の活用でもっと深まる食品と調理のキノ知識 第 3 回「めん」，臨床栄養 133 巻 7 号 P.1020-1027，2018 年.
- ・渡邊智子：『日本食品標準成分表』の活用でもっと深まる食品と調理のキノ知識 第 4 回「小麦粉と小麦製品」，臨床栄養 134 巻 1 号 P.118-127，2019 年.
- ・渡邊智子：『日本食品標準成分表』の活用でもっと深まる食品と調理のキノ知識 第 5 回「砂糖および甘味類」，臨床栄養 134 巻 2 号 P.262-272，2019 年.
- ・渡邊智子：『日本食品標準成分表』の活用でもっと深まる食品と調理のキノ知識 第 6 回「いも及びでん粉類」，臨床栄養 134 巻 3 号 P.398-408，2019 年.
- ・渡邊智子：給食の時間に行う実践的な食育，全日教連教育新聞第 578 号，2018 年.
- ・渡邊智子：給食の科学的根拠と食育，全日教連教育新聞第 579 号，2018 年.
- ・渡邊智子：食文化と食育全日教連教育新聞第 580 号，2018 年.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・峰村貴央，上野敦子，鈴木亜夕帆，山田正子，恒岡奈都，渡邊智子：1 日本で常用されているだしの現状について～自衛隊の和風だしの摂取～，日本栄養改善学会（第 65 回日本栄養改善学会学術総会）2018 年 9 月 4 日，新潟県.
- ・峰村貴央，鈴木亜夕帆，渡邊智子，梶谷節子，中路和子，柳沢幸江，今井悦子，石井克枝，大竹由美：特別企画 1「次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理」千葉県家庭料理 主菜と地域特性の関連，日本調理科学会平成 30 年度大会，2018 年 8 月 31 日，兵庫県.
- ・渡邊智子，梶谷節子，中路和子，柳沢幸江，今井悦子，石井克枝，大竹由美，峰村貴央，鈴木亜夕帆：特別企画 1「次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理」千葉県家庭料理 主菜の特徴 豊かな自然との関わり，日本調理科学会平成 30 年度大会，2018 年 8 月 30，31 日，兵庫県.
- ・伊藤直子，玉木有子，佐藤恵美子，山口智子，伊藤知子，太田優子，立山千草，小谷スミ子，長谷川千賀子，松田トミ子，山田チヨ，渡邊智子：特別企画 1「次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理」新潟県家庭料理 主菜の特徴 主菜にみる食文化，日本調理科学会平成 30 年度大会，2018 年 8 月 30，31 日，兵庫県.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・日本アミノ酸学会第 5 回官学連携シンポジウム，日本食品標準成分表 2015 年版（七訂）におけるたんぱく質及びアミノ酸（講演およびシンポジスト），2018 年 6 月 18 日，東京大学農学部弥生講堂.
- ・日本給食経営管理学会第 25 回研修会，給食の栄養成分表示と食品成分表の活用（講演），2018 年 8 月 19 日，龍谷大学瀬田学舎.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究費，千葉県の高齢者ための健康づくりプログラム（ほい大健康プログラム）の開発と評価に関する研究，研究代表者.
- ・学内共同研究費，実摂取食塩量の把握と栄養計算方法の確立 ～煮物等の調理後の食材と煮汁に含まれる食塩量の現状～，研究分担者.
- ・学長裁量研究費，大学生が行う地域のための健康づくり活動の実施と評価Ⅱ，研究代表者.
- ・日本調理科学会特別研究費，次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理」千葉県，研究代表者.
- ・日本調理科学会特別研究費，次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理」新潟県，研究分担者.

- ・文部科学省資源室 日本食品標準成分表 2015 年版（七訂）関連資料等整理事業（日本食品標準成分表掲載の液状食品に係る調査および昆布だしのヨウ素量）研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称. 活動期間. 場所等）

1) 千葉県内

- ・ちば食育応援隊として食育・健康づくり活動（千葉市幕張ベイタウン祭り，幕張ベイタウン夏祭り 2018，きやっせ物産展，ほい大ごはんカフェ）での「学生サークルちば食育応援隊」の活動の支援).
- ・食育・健康づくり活動（千葉市食育情報誌 Vol. 4 掲載のちば食育応援隊による料理開発，小学校での親子料理教室の支援).
- ・ちば食育研究会（ちば食育応援隊：千葉県ちば食育ボランティア登録団体）代表. 地域の食育活動の実践，2006 年～現在，千葉市.
- ・NPO 法人千葉自然学校 理事. 2009 年～現在，千葉市.
- ・千葉県立衛生短大栄養学科卒業生有志のネットワーク（約 200 名）構築・運営，栄養情報求人情報を提供，2006 年～現在.
- ・ほい大健康プログラムチームとして UR と連携して UR 団地の健康づくりの推進.

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等. 活動期間. 場所等）

- ・文部科学省インターンシップ学生（本学栄養学科学生）への支援

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称. 委員名称. 活動期間）

- ・文部科学省. 科学技術・学術審議会資源調査分科会（食品成分委員会）臨時委員. 2015 年～現在.
- ・文部科学省. 科学技術・学術政策局 食品成分委員会主査代理 2013 年～現在.
- ・千葉県食育推進県民協議会委員. 2008 年～現在.
- ・平成 29 年度千葉県調理師試験委員. 2016 年～現在.
- ・千葉市食育推進協議会委員. 2008 年～現在.
- ・市川市教育振興委員会議委員. 2009 年～現在.
- ・柏市保健衛生審議会特別委員（母子保健専門分科会）委員 2015 年～現在.

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

日本栄養改善学会. 日本栄養・食糧学会. 日本食生活学会. 日本家政学会. 日本家政学会食文化研究部会. 日本調理科学会. 日本口腔衛生学会. 日本災害食学会. 日本食品科学工学会. 日本公衆衛生学会. 日本民族衛生学会. 日本きのこ学会. 日本体力医学会. 日本食育学会. 儀礼文化学会. 和食文化国民会議. 更年期と加齢のヘルスケア学会. 千葉県学校保健学会. 新潟歯学会. 新潟食品技術研究会

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名. 役職. 活動期間）

- ・千葉県学校保健学会. 理事長. 2017 年～現在.
- ・日本栄養改善学会. 評議員. 2003 年～現在.
- ・日本調理科学会. 関東支部会役員. 2015 年～現在.
- ・日本調理科学会. 『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』研究委員会委員（千葉県責任者）. 2013 年 4 月～現在.
- ・日本調理科学会. 『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』研究委員会委員（新潟県委員）. 2013 年 4 月～現在.
- ・和食文化国民会議. 調査・研究部会幹事. 2015 年～現在.
- ・千葉県学校保健学会. 第 22 回千葉県学校保健学会実行委員会委員. 2017 年 6 月～2017 年 12 月.
- ・平成 29 年度千葉県栄養改善学会 栄養・給食管理会場 座長 2018 年 2 月 3 日.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・平成30年度主任保育士研修，食育と保育所の役割，千葉県自治研修センター，主任保育士等，2018年6月19日，千葉県自治研修センター
- ・平成30年度主任保育士研修，食育と保育所の役割，千葉県自治研修センター，主任保育士等，2018年11月20日，千葉県自治研修センター
- ・船橋市学校栄養士会研修会，船橋市および船橋市学校栄養士会，栄養管理における塩分量と献立作成時の減塩の工夫，栄養教諭，学校栄養職員（栄養士，管理栄養士），2018年8月22日，船橋市役所大会議室
- ・平成30年度栄養教諭5年経験者研修第2回校外研修会，千葉県教育庁教育委員会，今度の栄養教諭・学校栄養職員員の役割について，栄養教諭，栄養職員，2018年9月14日，千葉県総合教育センター
- ・平成30年度第5期「いちほら市民大学」専門講座，市原市教育委員会，グー・パー食生活を実践しよう，いちほら市民大学講座受講生，2018年10月16日，市原市保健センター
- ・東葛北部在宅栄養士会研修会，東葛北部在宅栄養士会，楽しく食べて元気に暮らそう～食べ方をもう一度考えてみませんか～，栄養士，2018年7月7日，アミュゼ柏
- ・健康づくり栄養講座，千葉県栄養士会，～健康づくりは栄養・運動・休養～「楽しく実践！グー・パー食生活」，千葉県民，2018年8月5日，千葉県立保健医療大学
- ・千葉県立保健医療大学公開講座，千葉県立保健医療大学，おいしく食べて元気に暮らすために，千葉県民，2018年10月7日，千葉県立保健医療大学
- ・食育指導推進全体連絡協議会，千葉県教育委員会，今後の食育の推進について，千葉県内の地域における食育指導推進委員（栄養教諭，学校栄養職員）・各教育事務所指導主事等栄養教諭，2018年2月6日，千葉県総合教育センター

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議，教授会，管理運営ワーキンググループ，入試委員会，入試作業部会，自己点検・評価委員会，キャンパス・ハラスメント委員会，将来構想検討委員会，教員資格審査委員会，健康診断時の食事調査，推薦入学試験業務，センター入学試験業務

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科会議座長，栄養学科教授会座長，オープンキャンパス業務，大学説明会業務，国家試験対策委員会，自己点検・評価に関する面接・評価

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・文部科学省 日本食品標準成分表の取り組み
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu3/shiryo/attach/1287215.htm
- ・千葉県 ちば型食生活食事実践ガイドブック <http://www.pref.chiba.lg.jp/annou/shokuiku/guide-book>
- ・千葉県 親子で楽しむ！はじめてドキドキおさかなレシピ合併号
<http://www.pref.chiba.lg.jp/suisan/sakana/hajimetedokidokiosakanaresipi>
- ・千葉県 介護予防リーフレットについて（栄養関係）
<https://www.pref.chiba.lg.jp/koufuku/kaigoyobou/kaigoyobou.html>
- ・社団法人日本青果物輸入安全推進協会 果物と栄養教育 <http://www.fruit-safety.com/education/>
- ・（独）農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所
http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/vegetea/pamph/010749.html
- ・千葉県 高等学校における食育の推進
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/anzen/kyuushoku/syokunikansurusidou/kokorleaflet.html>

VI 評価（成果および改善すべき事項）

学科長として、円滑な学科運営を行うように努めました。教育、研究、大学の運営、社会貢献などに、それぞれに関わる方々と連携し共働し精一杯、工夫し努力しある程度の目標達成ができました。

今年度、厚生局の管理栄養士課程に関する指導調査、食品衛生監理者・監視員養成施設の認可、栄養教諭課程の再課程認定、2019年3月末の4名の退職者の補充など、イレギュラーな重大事項がありました。これらについても学科教員や事務局と協力し対応しました。食品衛生監理者・監視員については、学長、事務局、健康福祉部、衛生研究所、千葉大からもご支援いただきました。その結果、教員の補充をのぞき、目的を達成できました。教員は、次年度は6月採用の教員が2名、1名は欠員であるため、学生にも教員にも多少の負担を強いることとなります。今後は、できるだけこのようなことが無いように、工夫して頂ければと考えます（私は3月末で退職するため、次年度の学科教員にお願いします、）。

また、URとの連携協定が凍結し、昨年度から全学で行っている「まい大健康プログラム」が継続実施できたことは有意義であり大きな学びとなりました。国家試験受験が全員合格ではなかったため、次年度は栄養学科として対応を検討し工夫していただければと思います。

VII 次年度の目標

今年度の総括を踏まえ、新しい職場で、教員、事務局等と協力・連携し教育、研究、大学の運営、社会貢献などにベストを尽くしたいと思います。

教授 長谷川 卓志 博士 (医学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育に関しては、コミュニケーション能力の向上を基礎に他職種との協働・連携において、リーダーシップを発揮できるよう平素からの機会を捉え研鑽に努める。各科目では国家試験を念頭に、豊富な事例とわかりやすい講義に努め、教材等への改善を行う。研究では、公衆衛生の観点から、倫理性に重点を置きつつ、地域包括的活動を理解し解析する最新の手法を導入する。さらに県内保健所等との共同研究・連携を進める。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・健康論.
 - ・公衆衛生 I.
 - ・公衆衛生 II.
 - ・疫学統計 I.
 - ・疫学統計 II.
 - ・保健医療福祉論 II.
 - ・公衆栄養学.
 - ・総合演習.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・長谷川卓志, 藤川真理子：本邦の健康増進における保健所の役割について,
社会医学研究 36, 91-95, 2019
- ・長谷川卓志, 藤川真理子：地域保健法と保健所のあゆみ
社会人文学会雑誌 15, 69-75, 2018

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・東本恭幸, 長谷川卓志, 平尾由美子, 岡田亜紀子
在宅医療における食事栄養管理のニーズ調査
26回千葉NST ネットワーク研究会, 2018

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本老年医学会 日本高血圧学会 日本糖尿病学会 日本公衆衛生学会 日本社会医学会,
日本社会人文学会 日本栄養改善学会 日本健康教育学会.
- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
 - ・日本老年医学会代議員.

- ・日本社会人文学会大会委員.
- ・日本老年医学会査読委員.
- ・日本社会医学会査読委員.

7 その他

- ・ 県内保健所への技術支援

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・教授会 教員資格審査委員会 共通教育運営会議 図書・情報委員会 入試委員会
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・栄養学科教授会 栄養学科運営会議 入試委員
- 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等＞
 - ・オープンキャンパス相談員 大学説明会

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育では、授業評価の結果等一定の評価が見られた。教材の改善も見られた。さらに国家試験の結果も目標に沿うものであった。研究においても当初の目標に到達する発表等成果を得た。

VII 次年度の目標

教育：国家試験の合格率は安定した成果が出ている。今後はさらに発展的な学習内容を加えて、実践的な能力を養うべく教材の内容を強化する。研究：新しい公衆衛生，統計手法を用い地域研究等すすめる。

教授 豊島 裕子 博士 (医学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

研究者として、業績を残すように頑張りたいと考えている。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・応用栄養学Ⅰ.
 - ・応用栄養学Ⅱ.
 - ・応用栄養学Ⅲ.
 - ・運動生理学総論.
 - ・応用栄養学実習.
 - ・総合演習 (ストレスと自律神経).

VII 次年度の目標

2019年3月末退職。

教授 東本 恭幸 博士 (医学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育ではさらに双方向授業を工夫して、学生が主体的に知識や技術を修得し今後の応用力の基盤となるような指導を心がける。研究では今年度の学内共同研究の発表と論文文化を進め、在宅医療における栄養管理のテーマをさらに掘り下げて外部資金を獲得できるような研究に発展させる。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・解剖学総論.
- ・生理学総論.
- ・解剖学実験.
- ・生理学実験.
- ・疾病論.
- ・人体の構造と機能Ⅰ.
- ・人体の構造と機能Ⅱ.
- ・リスクマネジメント論.
- ・総合演習.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・卒業研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・臨床病態生理学特論 (放送大学大学院).
- ・病態生理学 (北陸学園).
- ・解剖生理学実習 (北陸学園).

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・東本恭幸, 長谷川卓志, 平尾由美子, 岡田亜紀子: 在宅医療における食事・栄養管理のニーズについて～千葉県内の訪問看護事業所へのアンケート調査から. 第26回千葉県NSTネットワーク, 2018年5月26日, 千葉市.
- ・平尾由美子, 東本恭幸, 長谷川卓志, 岡田亜紀子: 訪問看護師が療養者から受ける栄養相談の内容分析. 第23回日本在宅ケア学会学術集会, 2018年7月15日, 大阪市.
- ・岡田亜紀子, 東本恭幸, 長谷川卓志, 平尾由美子: 在宅医療に関わる管理栄養士の現状に関する調査. 第29回日本在宅医療学会学術集会, 2018年11月3日, 横浜市.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・千葉県立保健医療大学共同研究, 居宅患者の栄養管理向上に向けた管理栄養士と介護支援専門員との連携に関する研究, 研究代表者.
- ・千葉県立保健医療大学共同研究, 千葉県の高齢者ための健康づくりプログラム (ほい大健康プログラム) の開発と評価

に関する研究, 研究分担者.

- ・千葉県立保健医療大学共同研究, 低糖質食と脂肪酸組成の異なる油脂がラットの不安行動に及ぼす影響, 研究分担者.
- ・千葉県立保健医療大学共同研究, 高齢女性における塩味の認知閾値と血圧および食・生活習慣に関する研究, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児外科学会, 日本外科学会, 日本外科代謝栄養学会, 日本静脈経腸栄養学会, 千葉県NST ネットワーク, 日本病態生理学会, 日本在宅静脈経腸栄養研究会, 日本サルコペニア・フレイル学会, 日本老年医学会, 千葉県医師会, 千葉県庁医師会, 千葉医学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本静脈経腸栄養学会, 学術評議員, 2014年2月～現在に至る
- ・千葉県NST ネットワーク, 世話人, 2015年5月～現在に至る

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・千葉県こども病院 NST 勉強会, 千葉県こども病院, 小児炎症性腸疾患の栄養管理, 医師・看護師・メディカルスタッフ, 2018年10月22日, 千葉県こども病院.

7 その他

- ・ほい大健康プログラム, 2018年6月9日, 高洲第1団地および高洲第2団地.
- ・ほい大健康プログラム, 2018年6月30日, あやめ台団地および千草台団地.
- ・ほい大健康プログラム, 2019年2月21日, 千草台団地およびあやめ台団地.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会, 総務・企画委員会, 共通教育運営会議, 入試評価部会, 予備選挙管理委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・栄養学科教授会, 栄養学科運営会議.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育では担当科目が3科目増加し, 各々の科目の学修目標を達成できるよう配布資料や授業展開の工夫を心がけた. 実験科目では反転授業を導入し, 学生の主体的な学びを促進する成果が得られた. 卒業研究では4名の学生を受け持ち, 各自の出身地において, 在宅栄養管理における管理栄養士業務の必要性に関する調査研究をまとめてもらった. また, 特定看護研修に係る放送大学大学院科目担当も継続中である. 研究面では, 代表者をつとめる学内研究から得られた成果を共同研究者と分担して3つの学術集会で発表し, そのうち2つを1つにまとめて論文を作成することができた (投稿中). またその研究をもとにした新たな学内共同が採択されたが, 外部資金獲得には至らなかった. 研究社会貢献では, 高齢化の進む大型団地での健康づくりプログラムにおいて, 学生を指導しながら参加者の健康チェックを行うとともに, 参加者からの個別医療相談への対応も行った.

VII 次年度の目標

教育面ではさらに学生の主体的な学びを促し、修得した知識や技術を基盤に様々な課題に柔軟に対応できる力を醸成していきたい。研究面では在宅医療における栄養管理のテーマを掘り下げさらに発展させていきたい。社会貢献、管理運営面においても引き続き積極的に取り組んでいく。

教授 細山田 康恵 博士 (医学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育では、わかりやすい授業をこころがけたい。研究面では、学内・学外で共同して進められるように工夫していきたい。社会貢献では、ほい大健康プログラムに参加し、地域の高齢者の方の生活の向上につなげるようにしたい。大学運営では、担当している委員会や部会で積極的に活動するように努める。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・生化学総論.
- ・生化学.
- ・栄養生化学.
- ・臨床検査学.
- ・生化学実験.
- ・解剖学総論.
- ・解剖学実験.
- ・臨床検査実習.
- ・卒業研究.
- ・総合演習.
- ・体験ゼミナール.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・細山田康恵，山田正子：脂肪酸組成の異なる油脂を摂取したラットの肝臓組織における脂肪滴の分布，日本補完代替医療学会誌，15巻2号，79-84，2018.
- ・細山田康恵，山田正子：高脂肪食とアルコール摂取ラットにおける脂肪蓄積量に及ぼすカプサイシンの効果，日本補完代替医療学会誌，16巻1号，27-32，2019.

3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等，本人下線)

- ・細山田康恵，金澤匠，山田正子：魚油摂取が糖尿病モデルラットの肝オートファジーと肝臓組織に及ぼす影響，日本脂質栄養学会 第27回大会，2018年8月31日，サンラポーむらくも (島根県松江市) .
- ・細山田康恵，山田正子：OLFET ラットの脂肪蓄積量に及ぼすカプサイシンの影響，第65回日本栄養改善学会学術総会，2018年9月5日，朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター.
- ・樋口誉誌子，遠藤美智子，細山田康恵，三澤朱実，山田正子：市販冷凍ほうれん草のシュウ酸含有量，第14回日本給食経営管理学会学術総会，2018年11月24日，女子栄養大学.
- ・山田正子，細山田康恵：大量調理施設衛生管理マニュアルの加熱条件による野菜のビタミンC含有量の変化，第14回日本給食経営管理学会学術総会，2018年11月25日，女子栄養大学.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名，研究テーマ，研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究費，低糖質食と脂肪酸組成の異なる油脂がラットの不安行動に及ぼす影響，研究代表者。
- ・学内共同研究費，高齢女性における塩味の認知閾値と血圧および食・生活習慣に関する研究，研究分担者。
- ・学内共同研究費，千葉県の高齢者ための健康づくりプログラム（ほい大健康プログラム）の開発と評価に関する研究，研究分担者。
- ・学長裁量研究費，大学生が行う地域のための健康づくり活動の実施と評価Ⅱ，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・ほい大健康プログラム，2018年6月9日，高洲第一団地・第二団地
- ・ほい大健康プログラム，2018年9月24日，高洲第一団地・第二団地
- ・ほい大健康プログラム，2018年10月28日，高洲第一団地・第二団地
- ・ほい大健康プログラム，2018年12月2日，千草台団地・あやめ台団地
- ・ほい大健康プログラム，2019年2月21日，千草台団地・あやめ台団地

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養食糧学会，日本栄養改善学会，日本脂質栄養学会，日本解剖学会，日本生化学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本栄養改善学会，評議員，2003年4月から現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会，研究等倫理委員会，学術推進企画委員会，教員資格審査委員会，進路支援委員会，開学10周年記念事業実行委員会，教員再任審査専門部会，入試評価部会，動物実験研究倫理審査部会，紀要編集部会，学内共同研究審査部会，認証評価部会，予備選挙管理委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営会議，栄養学科教授会，4年担任，国試対策委員。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育では，作成した資料を活用しながら，授業内容の理解を深めることができた。また，研究では，学内共同研究の成果を学会発表し，論文に掲載することができた。今後，学外の共同研究を遂行するにあたり，時間の確保ができるように改善していきたい。大学運営に関しては，各委員会委員としての業務や紀要編集部会長として，責任を果たすことができた。社会貢献は，URと連携し，高齢者の方の生活向上に役立つほい大健康プログラムを継続していけるように検討していきたい。

VII 次年度の目標

栄養学科長として，学科の円滑な運営ができるように責任を果たしていきたい。教育においては基礎を定着させ，応用力へつなげるような講義をこころがけ，研究においては学長裁量研究や学内共同研究を学科教員と協力して進めていけるように工夫したい。また，大学運営では担当している委員会や部会において，積極的に取り組めるように努めていきたい。社会貢献では，UR団地にお住まいの高齢者の方の生活の向上につながるようなプログラムを実施し，地域に貢献したい。

教授 井上 裕光 修士（教育学）

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、新学習指導要領を視野に入れ、また、高大連携を意図して、提供する教育の質をさらに向上させる。また、現行課程の入学生の対応のため、予習・復習による習熟度別学習体制（統計学）を含め、初学者教育の充実を図る。さらに、今後の学修に対応できるよう、統計学・実践統計学の科目変更の準備を行う。

できるだけ研究するだけの時間を確保する。

可能な限り官能評価の普及活動を行う。

学内情報システム更改に備えて、仕様を作成する。また、セキュリティの一層の向上を図り、情報漏洩などの事故を未然に防ぐための情報提供を行う。2020年1月にWindows7の延長サポートが切れ、同時に現行サーバーOSも寿命となる年度であり、危険性がますます高まることに備える。学生のみならず教員への啓発活動を十分に行う。学内学生用端末・ゼミ用PCを安全に運用する。

大学ホームページ刷新後の維持管理、およびSNS発信のために、対応できる体制を作る。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール。
- ・統計学。
- ・情報リテラシーⅠ。
- ・情報リテラシーⅡ。
- ・情報倫理。
- ・教育の方法と技術。
- ・事前指導。
- ・総合演習。

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・実践統計学（日本女子大学）

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。）

- ・井上裕光：保健情報統計学（第7章 情報の保護と倫理）、2018、医歯薬出版、東京。

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・井上裕光：第2章 授業者の矜持—教育実践臨床研究がめざすもの—、藤沢市教育文化センター 教育実践臨床研究「授業をこの手に取り戻す」—教師の矜持—、25-30、2018。

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・山本ちか、氏家達夫、二宮克美、五十嵐敦、井上裕光：中学生の社会的行動についての研究（114）—2年間で一貫して全体的自己価値が低かった中学生の行動上の特徴—、日本教育心理学会第60回総会、2018-9、慶応義塾大学。

- ・ Naotsune Hosono, Hironitsu Inoue, Yutaka Tomita : SOS Handbook Based on Universal Design A Communication Method for Deaf and Foreigners, ICCHP 2018 : International Conference on Computer Helping People with Special Needs, 2018-7, Linz, Austria.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・ ISO/TC34 国内審議会団体事務局 (FAMIC 国際課), ISO/TC34/SC12 国内対策委員, 2004～現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本心理学会, 日本教育心理学会, 日本人間工学会, 日本教育工学会, 日本発達心理学会, 日本パーソナリティ学会, 日本家政学会, 日本家庭科教育学会, 日本教師学学会, 日本官能評価学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・ 日本官能評価学会, 常任理事 (企画・編集), 1996～現在に至る.
- ・ 日本官能評価学会, 査読, 2017-2018.
- ・ 日本発達心理学会, 査読, 2018
- ・ 日本官能評価学会, 常任編集委員.
- ・ (一財) 日本科学技術連盟, 官能評価セミナー委員長.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・ 教授会, 入試評価部会 (部会長), 入試実施部会, 自己点検・評価委員会, 入試委員会, 図書・情報委員会 (情報部会長), ネットワーク委員会 (委員長), 学生委員会, 共通教育運営会議, 認証評価部会, 自己点検・評価実施推進部会, 将来構想検討委員会, FD 委員会, IR 部会.
- ・ 学内情報システムガイダンス・学生支援課サポート, 学内情報システム・企画運営課サポート, 学内ネットワーク運営保守, 教員サポート, 学生サポート, JMP 講習会, 情報ネットワーク・ゼミ用 PC 更改, レセコン設置サポート.
- ・ 次期システム更改のための要求仕様作成

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育の質の向上については, 自習用教材の追加, エクセルファイルの配布等予定通りに行うことができた. なお, 初学者教育対策として, 情報リテラシー用のレポート作成の手引き「レポートを書く」を講義の中で活用した. 来年度はこの内容を新しいシステムにあわせて変更する. 科目の充実については, 統計学Ⅱ (実践統計学) を 2020 年度から開講する.

研究する時間はほとんど確保できなかった. システム更改が流れ, リース延長の準備が必要になったためである.

官能評価の普及活動については, 普及活動用の資料を見直し, さらに間口を広げることを試みた.

新年度学生向けの情報オリエンテーションを機会に, 在校生向けに今年度気をつけるべきセキュリティについて示すことができた. 有害無線 LAN・身代金ウイルス (ランサムウェア) 対策へ学内への情報提供を続け, 学生と教員への啓発活動を十分に行った. 学内学生用端末・ゼミ用 PC を安全に運用することはとりあえず実行できた.

大学ホームページを新しく作り変えたが, まだデータ追加の仕組みが中途半端である (研究用広報の取りかかりができない). この公開後の HP を運営する母体となる「広報委員会」の設置が決まったが, 実務面での取り組みが進んでいない.

学内情報ネットワークシステムの更改に向けて, 準備を進めてきたが, 更改予算が獲得できず, 年度内の入札が実現できなかった. 11 月からは, (JIS に定めた部品提供の製造後 6 年を超えてしまう) 不可能に近い 5 年経過後のリース延長を実現させるために, 老朽化部分の評価・再リース可能範囲の確認を現行の担当業者と繰り返し打ち合わせ, とくに故障時の対応とその予測に時間をかけた. そして, できるだけ現行リース (2018 年度末) までの期間で改修可能な範囲を整備し, その上で, 再リースの契約とその前提となる交換部品の見積もりとを使って, 費用概算とスケジュール案を作成した. 同時に, 再リース終了時点を定めたときに, システム更改がどのように可能かについて, スケジュール作成と物品リスト作成を開始

した。

VII 次年度の目標

2019 年度は、教育の質をさらに向上させる。また、自習用教材をもっと充実させ、エクセルファイル・JMP ファイルでも用意する。今後の新学習指導要領を視野に入れ、現行課程の入学生の対応と習熟度別学習体制（統計学Ⅰ・実践統計学）を含め、初学者教育の充実を図る。さらに、今後の学修に対応できるよう、統計学・実践統計学の科目設定を行う。

できるだけ研究するだけの時間を確保する。

可能な限り官能評価の普及活動を行う。

リース延長に伴う、現行システム老朽化に備えて、各システムの点検を行う。また、事務局の人事異動に伴った教務システムの安定運用についてアドバイスする。ネットワーク管理者が一人になってしまったために、できるだけ業務内容と範囲を伝えて、事務局へ協力を仰ぐ。

情報漏洩などの事故を未然に防ぐ体制づくりとして、学籍番号に暗号を付与したアカウント・教員氏名に暗号を付与したアカウントを導入したが、さらにアカウント流出事故について防止策を検討する。

すでに2018年10月に販売終了となったWindows7搭載PCが入手できないため、研究用PCを購入する教員へのアドバイスをを行い、Windows7しか現行サーバーは対応できないことから、新システム移行時の段階的移行についてアナウンスする。

学内情報システム更改のために、情報システム課との協議・医療整備課・健康福祉部への申請など、現在のセキュリティレベルに合わせた、新システム導入を図る。同時に、新システム更改と並行して、学内の古いOS対策を進め、安全対策を周知する。学生のみならず教員への啓発活動を十分に行う。学内学生用端末・ゼミ用PCを安全に運用する。

新大学ホームページ運用のために、対応できる体制を作る。広報委員会を立ち上げ、諸規定を確認しながら、業務へ位置づけられるようにする。

レセコンが新しくなるため、新システムに合わせた仕様で導入を図る。

准教授 荒井 裕介 博士（農芸化学）

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、教育面では、担当する領域の基礎的な知識技術の習得ができるよう、講義・実習を実施する。研究面では昨年度まで取り組んだ共同研究の成果を論文としてまとめる。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・公衆栄養学Ⅰ.
 - ・公衆栄養学Ⅱ.
 - ・公衆栄養学実習.
 - ・公衆栄養臨地実習.
 - ・栄養管理臨地実習.
 - ・事前指導.
 - ・事後指導.
 - ・管理栄養士導入教育.
 - ・卒業研究.
 - ・千葉県の健康づくり.
 - ・総合演習.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）
 - ・公衆衛生学（金沢医科大学）.
 - ・公衆栄養学（大阪市立大学）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・森恵子，円谷由子，荒井裕介他：カレント公衆栄養学（第3版），2018年4月，建帛社，東京.
- ・高橋佳子，高松まり子，荒井裕介他：公衆栄養概論（エスカパーシク）（第7版），2018年4月，同文書院，東京.
- ・藤澤由美子，宮川淳美，荒井裕介他：栄養指導論（エスカパーシク）（第2版），2018年4月，同文書院，東京.
- ・荒井裕介，稲山貴代，今井具子他：管理栄養士課程におけるモデルコアカリキュラム準拠 公衆栄養学2019年版，2019年2月，医歯薬出版，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Nakamura M, Ojima T, Nagahata T, Kondo I, Ninomiya T, Yoshita K, Arai Y, Ohkubo T, Murakami K, Nishi N, Murakami Y, Takashima N, Okuda N, Kadota A, Miyagawa N, Kondo K, Okamura T, Ueshima H, Okayama A, Miura K; NIPPON DATA2010 Research Group: Having few remaining teeth is associated with a low nutrient intake and low serum albumin levels in middle-aged and older Japanese individuals findings from the NIPPON DATA2010, Environ Health Prev Med, 24, 1, 2019.
- ・荒井裕介，海老原泰代，岡田亜紀子，小山達也，石川みどり，横山徹爾，由田克士：千葉県民における習慣的栄養素撰

取量の分布推定の試み, 千葉県立保健医療大学紀要, 10, 1, 73-79, 2019.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・鎌ヶ谷市. 第2次鎌ヶ谷市食育推進計画の推進及び第3次鎌ヶ谷市食育推進計画策定準備に係る指導. 2019年2月～3月.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会, 日本公衆衛生学会, 日本高血圧学会, 日本疫学会,
- ・日本栄養士会, 神奈川県栄養士会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会, 評議員, 2006年11月～現在に至る.
- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会, 栄養学雑誌編集委員, 2015年11月～現在に至る.
- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会, 関東・甲信越支部幹事, 2018年2月～現在に至る.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・千葉県栄養士会公衆衛生事業部研修会, 千葉県栄養士会公衆衛生事業部, 実践事例報告のまとめ方①, 千葉県栄養士会公衆衛生事業部会員等, 2018年10月6日, 千葉県教育会館.
- ・第2回現場で活躍する管理栄養士・栄養士のための実践栄養学研究セミナー初めての論文執筆編, 日本栄養改善学会関東・甲信越支部, 論文投稿から掲載までの実際, 支部会会員等, 2018年12月22日, 女子栄養大学駒込キャンパス.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・研究等倫理委員会, 入試実施部会, 防災対策委員会, 予備選挙管理委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・新々カリキュラム検討チーム.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育面では学生が担当する領域の基礎的な知識技術の修得ができるよう, 講義・実習では各回ワークシートを作成した. 研究面では2017年度まで取り組んだ共同研究の成果を本学紀要に報告をした. 当初計画に即した成果を得ることができた.

VII 次年度の目標

教育面では, 担当する領域の基礎的な知識技術の習得ができるよう, 講義・実習を実施する. 研究面では共同研究で得たデータの解析をすすめて更なる論文文化に取り組む.

准教授 越川 求 博士 (教育学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動においては、栄養教諭養成課程の1年生から4年生まで全学年を担当するので、引き続き健やかな成長と学習目標が達成できるよう努力したい。研究活動においては、学会発表と科研（B）研究分担者、科研（C）研究協力者の二つの調査研究を進展させ、学術的な貢献を果たしたい。学科での教育活動及び学校運営・社会貢献・国際交流活動についても、責任を果たしていきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール.
 - ・教職論.
 - ・カリキュラム論.
 - ・道徳教育・特別活動論.
 - ・教育学概論.
 - ・教育制度論.
 - ・生徒指導論.
 - ・教職実践演習.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・越川求「戦後日本における教育研究所・教育研究システムに関する歴史的研究—教育研究と教員研修の関係性に着目して—」日本教育学会第77回大会, 2018年8月, 宮城教育大学.
- ・越川求「論文集『近現代日本教育会史研究』の検討-教育情報回路としての教育会の総合的研究第14回-」教育史学会第62回大会コロキウム, 2018年9月, 一ツ橋大学.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本教育学会. 日本教師教育学会. 教育史学会. 日本教育史学会. 日本社会教育学会.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・共通教育運営会議. 教務委員会. 学術推進企画委員会. 教職課程カリキュラム委員会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

大学の教育活動や研究、運営にも充実したとりくみが見えた。30年度においては、栄養教諭養成課程のカリキュラムの充実・改善をはかり、再課程認定の手続きをおこなった。体験ゼミナール・教職論・カリキュラム論・道徳教育・特別活動論・教育学概論・教育制度論・生徒指導論・教職実践演習とそれぞれの授業の改善をはかり効果をあげた。科研の研究分担者・研究協力者、教育調査の研究会に参加し、調査や報告を論文作成等を行った。学会発表を8月・9月に行い、学術的な貢献ができた。学級担任としての教育活動や教務委員会・学術推進企画委員会での協議、入試等の学校管理運営活動についても貢献していった。

VII 次年度の目標

2019年3月31日をもって、定年退職

准教授 谷内 洋子 博士 (学術)

対象期間 : 2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、画一的な指導ではなく、学生各個人の資質や学年ごとの特性を理解した上での指導を行うとともに、学生の取り組みを見守り、時に経緯やプロセスを含めて、結果に至るまでの過程について、主体的な取り組みができるような授業運営を目指す。研究活動については、現在取り組んでいる研究課題の成果を学会発表および論文執筆を通して、社会に還元・貢献する。また、現職の管理栄養士向けの研修会講師の依頼も増えてきたことから、専門職としての責任の下、今後も研修会や市民シンポジウムなどを通じて啓蒙活動を行い、望ましく実践可能な食生活の在り方の発信、健康寿命の延伸を通じて、国民（県民）の生活の質向上や医療費抑制に貢献することを目標とする。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・臨床栄養学Ⅰ.
- ・臨床栄養学Ⅱ.
- ・総合演習.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・臨床栄養学実習.
- ・栄養ケアマネジメント論実習.
- ・栄養ケアマネジメント論演習.
- ・事前・事後指導 (臨地実習).
- ・臨床栄養臨地実習.
- ・栄養管理臨地実習.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・千葉県健康づくり.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・臨床栄養学実践演習。(日本女子大学)
- ・血液・内分泌・代謝内科学分野。新潟大学大学院医歯学総合研究科研究員

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線 : 著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・谷内洋子, 野崎あけみ他: 糖尿病食事療法 パーフェクト指導BOOK, 2018年, メディカ出版, 東京.
- ・谷内洋子: 日本人若年女性における やせ過ぎ, 2018年, 千葉県栄養士会雑誌.
- ・谷内洋子: リウマチと食事療法-栄養学的アプローチ-, 2018年, リウマチ友の会 会報.
- ・谷内洋子, 長浜幸子他: コンパクト 臨床栄養学, 朝倉書店, 東京.

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・Kodama S, Yachi Y, Fujihara K, Ishiguro H, Horikawa C, Ohara N, Tanaka S, Shimano H, Kato K, Hanyu O, Sone H.: Quantitative Relationship Between Cumulative Risk Alleles Based on Genome-Wide Association Studies and Type

2 Diabetes Mellitus: A Systematic Review and Meta-analysis. J Epidemiol. 5;28(1):3-18, 2018. (査読あり)

- ・谷内洋子, 曾根博仁 : 日本人若年女性・妊婦におけるやせ過ぎとその弊害. New Diet Therapy. 34; 27-32, 2018. (査読あり)

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・飯島春香, 田中康弘, 津野和, 小松弥生, 安見真奈, 田島諒子, 広瀬歩美, 曾根博仁, 谷内洋子. : 妊娠初期の栄養摂取状況と低出生体重児出産リスクとの関連の検討, 第40回日本臨床栄養学会・第39回日本臨床栄養協会総会・第16回大連合大会, 2018年10月7日, 虎ノ門ヒルズフォーラム, 日本臨床栄養学会奨励賞受賞.
- ・Kodama S, Yachi Y, Fujihara K, Horikawa C, Ishizawa M, Matsunaga S, Tanaka S, Sone H. : Education for family members is effective for improved glycemia control of patients with type 2 rather than type 1 diabetes mellitus-A meta-analysis. American Diabetes Association, 78th Scientific Sessions, June 22-26, 2018, Orlando, Florida.

4 学術集会での招待講演 (教育講演や基調講演) やシンポジウム等 (学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・谷内洋子 : 日本リウマチ友の会千葉支部 40周年記念大会, リウマチと食事療法-栄養学的アプローチ-, 2018年5月13日, ペリエホール, ペリエ千葉
- ・谷内洋子 : 第40回日本臨床栄養学会・第39回日本臨床栄養協会総会・第16回大連合大会, 日本人の食生活と生活習慣病. 日本人若年女性におけるやせ過ぎとその弊害, 2018年10月7日, 虎ノ門ヒルズフォーラム.
- ・谷内洋子 : 特定非営利活動法人日本栄養改善学会 関東・甲信越支部, 第2回 現場で活動する管理栄養士・栄養士のための『実践栄養学研究セミナー』, 2018年10月20日, 女子栄養大学駒込キャンパス.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2018年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) (若手研究 (B)), 日本人妊婦における栄養摂取量および身体活動量が母児の健康に及ぼす影響の検証, 研究代表者.
- ・2018年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) (基盤研究 (B)), 地域の全世代保健/医療ビッグデータの統合解析による健康寿命延伸エビデンスの創成, 研究分担者

6 受賞・特許

- ・千葉県栄養士会 会長表彰受賞

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

2) 千葉県外

- ・“産後クラブ (3カ月健診) 食育講座”, 2018年4月~平成31年3月, 東京都世田谷区田中ビル.
- ・食事・栄養相談, 2018年4月~平成31年3月, 東京都大田区.

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・日本糖尿病・妊娠学会 糖尿病と妊娠にかかわる科学的根拠に基づく医療の推進プロジェクト ワーキングメンバー, 2018年4月~平成31年3月

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・特定非営利活動法人 日本栄養改善学会 関東・甲信越支部, 実践栄養学研究セミナーチューター, 2018年4月~2019年3月
- ・公益社団法人 千葉県栄養士会, 研究教育事業務 副部長, 2018年5月~2019年3月
- ・第35回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会 プログラム企画委員, 2018年12月~2019年3月

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会、日本臨床栄養学会、日本病態栄養学会、日本成人病（生活習慣病）学会、日本栄養・食糧学会、日本糖尿病・妊娠学会、DOHaD 研究会、日本疫学会、日本栄養士会、千葉県栄養士会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本栄養・食糧学会 参与，2018年4月～2019年3月
- ・日本栄養改善学会 評議員，2018年4月～2019年3月
- ・日本病態栄養学会 評議員，2018年4月～2019年3月
- ・日本糖尿病妊娠学会 評議員，2018年4月～2019年3月
- ・千葉県栄養士会 理事，2018年5月～2019年3月

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・谷内洋子：2018年度千葉県特定健診・特定保健指導初任者研修，食生活に関する保健指導について，保健師，看護師，管理栄養士他，2018年6月27日，千葉県文化会館。
- ・谷内洋子：2018年度 千葉県栄養士会生涯教育研修会，栄養アセスメント，管理栄養士，栄養士他，2018年7月22日，千葉市文化センター。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・図書・情報委員会、国際交流委員会、カリキュラムプランニング勉強会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・卒業研究委員

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・久ヶ原スイミングクラブ

<http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20180419.html> <http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20180524.html>

<http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20180913.html> <http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20181127.html>

<http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20190221.html>

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教科書レベルの基本的な知識に加え，最新の研究成果や臨床現場での取り組みについて，各学年の授業内で紹介し，知識と実践を結びつけて理解が深まるよう工夫することができた。また，グループワーク演習を通して，自ら考え，人前で発表する力と，周囲と協調する力を養えるように工夫をした。管理栄養士国家試験を見据え，頻出問題や重要なキーワードを重点的に説明するなど，国試対策に関する内容も盛り込んだ。今後とも，高度な専門的知識を基に，保健医療現場でリーダーシップを発揮し得る人材育成を念頭に学生指導に取り組みたい。

VII 次年度の目標

画一的な指導ではなく，学生個人個人の資質や学年ごとの特性を理解した上での指導を行うとともに，学生らの取り組みを見守り，時に経緯やプロセスを含めて，結果に至るまでの過程について，主体的な取り組みを評価し，見守ることの意義にも留意して取り組みたい。今後も，学生の個性を考慮した細やかな指導を行い，このように考え行動することが正しい，と一方的に教えるのではなく，課題を見出し，自ら考え実践し解決できる能力を持った人材の育成に取り組みたい。

また，現職の管理栄養士向けの研修会講師やシンポジストの依頼も増えてきたことから，これらの活動を通じて啓蒙活動

を行うとともに、自身の研究活動の円滑な推進に取り組み、日本人の日常生活にすぐに適用可能な科学的エビデンスの確立を通じて、国民（県民）の生活の質向上や医療費抑制に貢献したい。

准教授 河野 公子 修士 (家政学)

対象期間：2018年8月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、特に教育者として研鑽を積むことと、病院管理栄養士の経験を生かした社会貢献について、工夫と努力をしたいと思います。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・給食経営活動論Ⅰ.
- ・給食経営管理論Ⅱ.
- ・給食経営管理実習.
- ・給食経営管理臨地実習.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・事前指導(臨地実習).
- ・事後指導(臨地実習).
- ・専門職間の連携活動論.
- ・総合演習.
- ・発達歯科衛生学Ⅱ.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・いのちと生活Ⅰ 栄養学(講義 千葉科学大学)
- ・栄養学(講義 千葉栄養専門学校)

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称、活動期間、場所等)

1) 千葉県内

- ・ほい大健康プログラム(2018年9月24日・12月2日・12月9日・2019年2月21日)
- ・オーラルフレイル健康プログラム(2018年12月15日・2019年3月2日)
- ・ほい大ごはんカフェ(2018年10月8日・2019年1月21日)

5 学会・学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・給食経営管理学会 ・日本栄養士会 ・千葉県栄養士会

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所)

- ・千葉県栄養士会生涯教育研修会 講師 千葉県栄養士会 「栄養ケアプロセス・栄養ケアマネジメント」
2018年7月22日 9:00～12:30 千葉県教育会館
- ・ライフプラン講習会 講師 総務部総務ワークステーション地方職員共済組合 「楽しく食べて健康になろう」

2018年10月16日 10:30～12:00 ホテルプラザ菜の花

- ・調理・用務員研修会 講師 佐倉市健康子ども部子育て支援課 「大量調理に役立つ調理科学について」2019年1月11日 14:30～16:30 佐倉市役所

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・学生委員会、初期医療通訳ボランティア育成、学長候補者学内意向調査委員会、
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・栄養学科運営会議

VI 評価（成果および改善すべき事項）

8月からの着任ということで、不慣れで時間がかかった。授業と担当業務以外に社会支援活動の実績ができてよかった。

VII 次年度の目標

業務に慣れ、効率的な時間の調整を行い、学生の育成のために更なる努力をしていきたい。また、千葉県内の学外活動を充実させたい。

講師 金澤 匠 博士（農学）

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、研究費を獲得し、研究の推進及び研究成果の公表（学会発表や学術論文投稿）を引き続き目指す。また、授業や実習の内容の見直しを行い、更なる工夫や充実を図る。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール.
 - ・化学.
 - ・栄養学Ⅰ（基礎）.
 - ・栄養学Ⅱ（応用）.
 - ・食品学各論.
 - ・食品学実験.
 - ・食品加工学.
 - ・基礎栄養学.
 - ・基礎栄養学実習.
 - ・卒業研究.
 - ・総合演習.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）
 - ・いのちと生活Ⅰ（栄養学）（千葉科学大学）

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・渡邊早苗 他編集（金澤匠 他25名による分担執筆）：健康と医療福祉のための栄養学，2018，医歯薬出版.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・金澤匠，福士幸治，知地英征：ビート種子由来フェノール性アミド化合物は3T3-L1脂肪細胞における脂肪蓄積を抑制する，日本食品科学工学会誌，65巻，11号，p529-533，2018

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・細山田康恵，金澤匠，山田正子：魚油摂取が糖尿病モデルラットの肝オートファジーと肝臓組織に及ぼす影響，日本脂質栄養学会，2018年8月31日～9月1日，島根県松江市，サンラポーむらくも

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究（若手），カロテノイドは生体内でのオートファジー調節因子となりうるか？. 研究代表者
- ・学内共同研究（萌芽），低糖質食と脂肪酸組成の異なる油脂がラットの不安行動に及ぼす影響. 研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本農芸化学会、日本生化学会、日本栄養・食糧学会、日本栄養改善学会、日本食品科学工学会

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

・日本栄養改善学会、評議員、2016年11月1日～現在に至る

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・教務委員会、特色科目委員会、動物実験研究倫理審査部会

VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究に関しては、学内共同研究費を獲得し、食品成分の一つであるカロテノイドの生体内オートファジーへの作用についての研究を新たに立ち上げることが出来た。その結果については2019年度中に学会発表する予定である。また、研究論文については、日本食品科学工学会誌へ論文を掲載するでき、研究については概ね目標を達成できた。講義や実験・実習については、学生の理解度が向上するようスライドやプリントの内容、実験の内容について工夫を心掛け実践できた。

今後も研究及び教育の内容が充実するよう進めていきたい。

VII 次年度の目標

2019年度は、研究費の獲得による研究の推進及びその研究成果の公表（学会発表や学術論文投稿）を引き続き目指す。また教育の面では、授業や実習の内容に関して工夫をすることで更なる内容の充実を図る。

講師 海老原 泰代 博士（生活環境学）

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、特に学生の教育において、模擬体験や学外での活動の機会を広げることで、教育効果の向上をはかり、より積極的な教育活動に励みたい。また研究面においても、学内外の関係者との連携を深めることで、千葉県健康課題に取り組みたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・管理栄養士導入教育.
 - ・栄養教育論Ⅰ.
 - ・栄養教育論Ⅱ.
 - ・栄養教育手法論.
 - ・栄養教育論実習.
 - ・栄養教諭教育実習 事前・事後指導.
 - ・栄養教諭教育実習.
 - ・卒業研究.
 - ・総合演習.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）
 - ・栄養学. 千葉市青葉看護専門学校.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・荒井裕介, 海老原泰代, 岡田亜紀子, 小山達也, 石川みどり, 横山徹爾, 由田克士: 千葉県民における習慣的栄養素摂取量の分布推定の試み, 千葉県立保健医療大学紀要, 第10巻, 1号, 73-79, 2019.
- ・海老原泰代, 加藤理津子, 千歳はるか: 公益財団法人 日本健康アカデミー, 2018年度健康知識・教育に係る公募助成, 児童へのがん予防を含む生活習慣病予防教育における教育方法の検討中間報告書. 2019年3月.

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・海老原泰代, 岡田亜紀子: 特定健診・特定保健指導における, ライフスタイル教育プログラム開発に関する質的統合法を用いた検討, 第27回日本健康教育学会, 2018年7月7日～8日, 姫路市民会館.
- ・海老原泰代, 岡田亜紀子, 渡邊智子: 糖尿病発症予防を目的とした, ライフスタイル教育プログラムの開発と職域対象者の現状, 第39回日本肥満学会, 2018年10月7日～8日, 神戸国際会議場.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・公益社団法人 米穀安定供給確保支援機構, 平成30年度ごはんの適量を学ぶ「3・1・2弁当箱法」体験セミナー事業, 事業主担当者.

- ・学内共同研究，糖尿病発症予防を目的としたライフスタイル教育プログラムの評価，研究代表者。
- ・公益財団法人 日本健康アカデミー，2018年度健康知識・教育に係る公募助成，児童へのがん予防を含む生活習慣病予防教育における教育方法の検討，研究代表者。

6 受賞・特許

- ・千葉県栄養士会会長表彰，千葉県栄養士会。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・UR 1まい大健康プログラム（千葉県立保健医療大学が行う地域のための健康づくりプログラムの実践と評価Ⅰ），2017年9月1日～2018年3月31日。
- ・食生活向上お手伝い会，2018年7月23日～7月27日，千葉県館山市。

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県栄養士会，研究教育部会役員，2016年4月1日～現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本公衆衛生学会，日本健康教育学会，日本臨床栄養協会，日本肥満学会，NPO 法人西東京臨床糖尿病研究会，日本糖尿病学会，千葉県学校保健学会，日本栄養改善学会。
- ・日本栄養士会，千葉県栄養士会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・千葉県学校保健学会，理事，2017年4月1日～現在に至る。
- ・日本栄養改善学会，評議員，2018年11月1日～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・2018年度千葉県特定健診・特定保健指導 経験者研修，千葉県健康福祉部健康づくり支援課地域健康づくり班，「食生活に関する保健指導 初回面接・困難事例」，特定保健担当者，2018年11月9日，千葉商工会議所。
- ・2018年度千葉県教育研究会学校給食部会第4地区（千葉市地区）「学校給食研究協議会」，千葉市小中学校長運営協議会健康安全委員会他，「食の環境づくりを考える」，学校栄養職員，給食指導主任，学級担任他，2018年11月28日，千葉市教育会館。

7 その他

- ・第2次鎌ケ谷市食育推進計画の推進及び第3次鎌ケ谷市食育推進計画策定準備に係る指導，鎌ケ谷市健康福祉部健康増進課，鎌ケ谷市食育担当者，2019年2月15日，3月14日，鎌ケ谷市総合福祉保健センター。
- ・「児童生徒への生活習慣病予防教育（がんを含む）における教育方法の検討」結果報告会，館山市教育委員会，館山市養護教諭，2019年3月6日，館山市菜の花ホール。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ネットワーク委員会，キャンパス・ハラスメント防止対策委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

・栄養学科運営会議、管理栄養士国家試験対策委員、栄養教諭教職課程運営委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

担当科目の栄養教育論の授業として「3・1・2弁当箱法」の体験学習を取り入れることができた。外部資金に応募・獲得したことで学生の体験学習の機会を広げ、教育効果の向上をはかることができた。また研究面においても、館山市など県内の関係者と協力し、お互いの連携を深めることで千葉県健康課題に取り組むことができた。

VII 次年度の目標

2019年度は、学生教育の面では担当する科目の中で、体験学習や模擬授業を取り入れることで学生の教育効果の向上をはかりたい。また研究においては学内外の関係者との連携を深め、引き続き千葉県健康課題に取り組む。さらに、これまで蓄積された成果を報告していきたい。

助教 阿曾 菜美 博士 (人間環境学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、ワークライフバランスを意識しながら、研究・教育およびその他の活動に力を入れていきたい。特に研究活動では、新たな研究テーマでのデータ収集を開始するとともに、これまで得られた研究成果の論文化を行うことを目標とする。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・生理学実験.
 - ・生化学実験.
 - ・応用栄養学実習.

- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・栄養学. 千葉市青葉看護専門学校

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・ Nami Aso-Someya, Kimiya Narikiyo, Akira Masuda, Shuji Aou: The functional link between tail-pinch-induced food intake and emotionality and its possible role in stress coping in rats, *Journal of Physiological Sciences*, 68(6) 799-805, 2018.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名、研究テーマ、研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究費、高齢女性における塩味の認知閾値と血圧および食・生活習慣に関する研究、研究代表者
- ・学内共同研究費、低糖質食と脂肪酸組成の異なる油脂がラットの不安行動に及ぼす影響、研究分担者
- ・学内共同研究費、千葉県の高齢者ための健康づくりプログラム (ほい大健康プログラム) の開発と評価に関する研究、研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称、活動期間、場所等)

- 1) 千葉県内
 - ・ほい大健康プログラム. 2018年6月9日. 高洲第1団地.
 - ・ほい大健康プログラム. 2018年6月30日. 千草台団地, あやめ台団地.
 - ・ほい大健康プログラム. 2018年9月24日. 高洲第一, 第二団地.

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本生理学会. 日本体力医学会. The American Physiological Society.

- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
・生理学女性研究者の会, 事務局編集委員, 2018年4月～2018年9月

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)
・学生委員会
- 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)
・栄養学科運営会議, 4年生副担任, 管理栄養士国家試験対策委員,

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

2018年度前半は妊娠中であったため, 身体的に無理のない範囲で活動を行った. 遠方での学会発表等, 予定を中止せざるを得ない活動もあったが, 学外での教育活動や新たなフィールドでのデータ収集等, これまでにない取り組みにも挑戦することができた. また, 産前産後および育児休業にあたり, それぞれの業務について丁寧な引き継ぎを行うよう心掛けた.

VII 次年度の目標

2019年度前半は育児休業の予定である. 復帰後は, 後期に担当する実験実習の補助を中心に, 教育活動を行う. 研究活動については, これまで行った研究についての論文執筆および投稿を目標とする. その他の活動についても, 限られた時間を有効に使いながら, 学科, 大学, そして地域に貢献していきたい.

助教 田村 友峰子 修士（生命科学）

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

年内に学会発表を行い、論文の投稿を目指す。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・食品加工実習.
 - ・食品衛生学実験.
 - ・給食経営管理実習.
 - ・総合演習.
 - ・給食経営管理臨地実習.
 - ・事前指導.
 - ・事後指導.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・田村友峰子，豊島裕子：管理栄養士養成課程学生実習における「健康経営」に関する卒前教育，第14回日本給食経営管理学会学術総会，2018. 11. 25，坂戸.
- ・豊島裕子，田村友峰子：内臓脂肪量と動脈硬化，自律神経機能の関連，第22回日本病態栄養学会年次学術集会，2019. 1. 12，横浜.
- ・三宅理江子，田村友峰子，豊島裕子：千葉市住民における内臓脂肪と動脈硬化の関連，第57回千葉県公衆衛生学会，2019. 1. 29，千葉.
- ・豊島裕子，三宅理江子，田村友峰子：A市住民における内臓脂肪面積と動脈硬化度の関連，第89回日本衛生学会学術総会，2019. 2. 3，名古屋.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本栄養士会，日本栄養改善学会，日本給食経営管理学会，千葉県学校保健学会.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・社会貢献委員会，専門職間の連携活動論作業部会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営会議、栄養学科3年生副担任.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

非常勤の実験・実習科目を補助することが多く、事前準備と打合せを行いながら進めることができた。臨地実習では8月まで常勤での担当教員が不在であったため、実習先との実習内容の打ち合わせや日程調整、学生指導、実習中の対応を科目責任者と同等の責任感を持ちながら取り組んできた。次年度も学生のためにより良い教育の提供ができるようにしたい。研究面では、学会報告はできたものの論文投稿までには至らなかったため、もっと時間を有効に使えるようにしたい。

VII 次年度の目標

教育と研究の両立とともに、社会貢献の機会を作る。

助教 三宅 理江子 博士 (生活科学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、教育活動を優先的に行いながら、全学委員会活動や社会貢献に携わる機会をつくるように努める。研究活動はこれまでの成果の発表と次年度以降の研究計画の立案を行う。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・臨床栄養学実習.
 - ・栄養ケアマネジメント論実習.
 - ・栄養ケアマネジメント論演習.
 - ・事前指導.
 - ・事後指導.
 - ・臨床栄養臨地実習.
 - ・臨床検査実習.
- 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)
 - ・栄養学 (共立女子大学).
 - ・臨床栄養代謝学Ⅱ (神奈川県立衛生看護専門学校).

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・Nobuko Hongu, Mieko Shimada, Rieko Miyake, Yusuke Nakajima, Ichirou Nakajima, Yutaka Yoshitake : Promoting Stair Climbing as an Exercise Routine among Healthy Older Adults Attending a Community-Based Physical Activity Program, Sports, 7, 23; doi:10.3390/sports70100232019, 2019.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・三宅理江子, 島田美恵子: 地域在住自立高齢者の栄養状態と食品摂取の多様性の関連, 第65回日本栄養改善学会学術総会, 2018年9月4日, 新潟県.
- ・島田美恵子, 三宅理江子, 児玉直子: 地域健康教室に参加する高齢者における Body Mass Index の加齢変化について, 第65回日本栄養改善学会学術総会, 2018年9月4日, 新潟県.
- ・三宅理江子, 田村友峰子, 豊島裕子: 千葉市住民における内臓脂肪と動脈硬化の関連, 2018年度(第57回)千葉県公衆衛生学会, 2019年1月29日, 千葉県.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2018年度学内共同研究, 地域在住高齢者の自助・互助活動を支援する手法の開発, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・一般社団法人 日本体力医学会、公益社団法人 日本栄養・食糧学会、特定非営利活動法人 日本栄養改善学会、日本公衆衛生学会、一般社団法人 日本静脈経腸栄養学会、一般社団法人 在宅栄養管理学会、一般社団法人 日本病態栄養学会。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営会議、1年生副担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

今年度は教育活動を優先的に行ったため、全学委員会活動や社会貢献を行う機会がなかった。研究活動においては、学会発表を行うことはできたが論文掲載には至らなかった。

VII 次年度の目標

2019年3月末をもって退職

助教 岡田 亜紀子 修士（学術）

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、県民の方々、学生への貢献はもちろんのこと、教育活動関連科目に関連する分野の原著論文を1報作成できるよう、時間管理、業務の効率化に努める。研究代表者として、研究資金を獲得する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・公衆栄養学実習.
 - ・公衆栄養臨地実習.
 - ・事前指導.
 - ・事後指導.
 - ・栄養教育論実習.
 - ・栄養教諭教育実習.
 - ・栄養教諭教育実習 事前・事後指導.
 - ・体験ゼミナール.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・荒井裕介，海老原泰代，岡田亜紀子，小山達也，石川みどり，横山徹爾，由田克士：千葉県における習慣的栄養素摂取量の分布推定の試み，千葉県立保健医療大学紀要，10(1)，73-79，2018。（査読）
- ・海老原泰代，岡田亜紀子：小児生活習慣病予防検診結果からみた学童の肥満と小児生活習慣病の現状，千葉県学校保健研究，9(1)，18～24，2018。（査読）

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場，所等，本人下線）

- ・東本恭幸，長谷川卓志，平尾由美子，岡田亜紀子：在宅医療における食事・栄養管理のニーズについて～千葉県内訪問看護事業所へのアンケート調査から～，第26回千葉県NSTネットワーク，2018年5月，千葉市。
- ・海老原泰代，岡田亜紀子，渡邊智子，渡辺満利子：特定保健指導における，ライフスタイル教育プログラム開発に関する質的統合法を用いた検討，第27回日本健康教育学会，2018年7月，姫路市。
- ・東本恭幸，長谷川卓志，平尾由美子，岡田亜紀子：在宅医療における管理栄養士業務のニーズに関する研究，千葉県立保健医療大学第9回共同研究発表会，2018年8月，千葉市。
- ・島田美恵子，岡村太郎，松尾真輔，雄賀多聡，竹内弥彦，岡田亜紀子，雨宮有子麻賀多美代，大川由一，中島一郎：千葉県立保健医療大学地域貢献についての研究—千葉市内地区別比較からみえるもの—，千葉県立保健医療大学第9回共同研究発表会，2018年8月，千葉市。
- ・海老原泰代，岡田亜紀子，渡邊智子：糖尿病予防を目的としたライフスタイル教育プログラムの開発と職域対象者の現状，第39回日本肥満学会，2018年10月，神戸市。
- ・岡田亜紀子，東本恭幸，長谷川卓志，平尾由美子：在宅医療に関わる管理栄養士の現状に関する調査，第29回日本在宅医療学会学術集会，2018年11月，横浜市。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究（若手），千葉県の栄養教諭・学校栄養職員の現状および学校内での協力体制に関する調査，研究代表者。
- ・学内共同研究（一般），糖尿病発症予防を目的としたライフスタイル教育プログラムの評価，分担研究者。
- ・学内共同研究（学長裁量），学生が行う地域のための健康づくり活動の実施と評価Ⅰ，分担研究者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・ほい大健康プログラム，2018年4月～2019年3月。千葉市内UR団地6カ所。

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県白井市。地域ケア会議助言者（管理栄養士）。2018年6月～2019年3月。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会、クリニカルパス学会、日本臨床栄養協会、千葉県学校保健学会、日本在宅栄養管理学会。
- ・公衆衛生学会、日本在宅医療学会、日本栄養士会、千葉県栄養士会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉県学校保健学会、評議員、ニューズレター編集委員、2017年4月1日～2019年3月。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・いきいき夢情報教室 栄養学講座。白井市高齢者福祉課。第1回健康長寿のためのシンプル栄養学～バランスのよい食事について～。2018年7月24日。桜台センター，白井市保健福祉センター。
- ・いきいき夢情報教室 栄養学講座。白井市高齢者福祉課。第2回健康長寿のためのシンプル栄養学～食事の負担を減らすコツと気にかけてほしい栄養素～。2018年8月28日。桜台センター，白井市保健福祉センター。
- ・大人のための大人のための食育講座。幸手市立図書館。今日から適塩，野菜生活！上手な血圧とのつきあい方。2018年9月30日。幸手市立図書館視聴覚室。
- ・大人のための食育講座。幸手市立図書館。いまの体力と健康を守るために。2018年10月14日。幸手市立図書館視聴覚室。
- ・成田市生涯大学院教養講座。成田市教育委員会生涯学習課。楽しむ食生活のすすめ。2019年2月4日・6日。成田市生涯大学校。
- ・白井市お元気見守りパートナー勉強会。白井市地域包括支援センター。高齢期をいきいき過ごすための食事・栄養。2019年3月5日。白井市保健福祉センター。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・管理栄養士国家試験対策委員。栄養学科2年生副担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、学びの環境をよりよいものにするため、科目担当ならびに関係する教員と学生の様子をできるだけ観察し、授業内で使用するワークシート等の整備や改良をおこなった。研究活動では、研究代表者として学内共同研究費を獲得した一方で、原著論文が作成できず目標の半分が達成出来なかったことが悔やまれる。大学の運営、社会貢献活動では、大学、

県職員の一員として、貢献先の依頼に応えられるよう努力した。

VII 次年度の目標

県民の方々、学生への貢献はもちろんのこと、教育活動関連科目に関連する分野の原著論文を1報作成できるよう、時間管理、業務の効率化に努める。学位取得に向け、研究活動に励む。

助教 峰村 貴央 修士（食品栄養学）

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、着任初年度であるため、学内の状況を把握することを最優先としつつ、計画的に教育研究を進めていく。教育活動では、学生の学習状況や態度を注視し、円滑な授業展開や支援ができるようにする。研究活動では、見聞を広げるために、新たな課題に挑戦することを目標とする。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・食品学実験.
 - ・食品化学実験.
 - ・調理科学実験.
 - ・調理実習.
 - ・食事設計と調理実習.
 - ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・小松本里菜，今野里咲，峰村貴央，西念幸江，三舟隆之：古代における「豉」の復元，東京医療保健大学紀要，13，1，3-13，2018.
- ・小嶋莉乃，小牧佳代，峰村貴央，五百蔵良，三舟隆之：『延喜式』に見える古代の酢の製法，東京医療保健大学紀要，13，1，25-34，2018.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・峰村貴央，鈴木亜夕帆，渡邊智子，梶谷節子，中路和子，柳沢幸江，今井悦子，石井克枝，大竹由美：千葉県のご家庭料理 主菜と地域特性の関連，日本調理科学会，2018.8.30-31，武庫川女子大学.
- ・渡邊智子，梶谷節子，中路和子，柳沢幸江，今井悦子，石井克枝，大竹由美，峰村貴央，鈴木亜夕帆：千葉県のご家庭料理 主菜の特徴：-豊かな自然との関わり-，日本調理科学会，2018.8.30-31，武庫川女子大学.
- ・峰村貴央，上野敦子，鈴木亜夕帆，山田正子，恒岡奈都，渡邊智子：日本で常用されているだしの現状について～自衛隊の和風だしの摂取～，日本栄養改善学会，2018.9.3-5，朱鷺メッセ.
- ・鈴木礼子，高堀 真紀子，長谷川友梨，小西敏郎，峰村貴央：乳がん予防情報の認知度調査 ～食育推進全国大会（岡山）～，日本栄養改善学会，2018.9.3-5，朱鷺メッセ.
- ・井口芽実，竹原美美，館岡麻由，峰村貴央，小西敏郎，鈴木礼子：大学生を対象とした食・栄養・味覚調査について，日本公衆衛生学会，2018.10.24-26，ビックパレットふくしま.
- ・峰村貴央，鈴木亜夕帆，金澤匠，河野公子，田村友峰子，大原奈都，梶谷節子，渡邊智子：精度の高い栄養価計算に関する研究 - 計算食塩量と分析食塩量の相違 - ，日本給食経営管理学会学，2018.11.24-25，女子栄養大学.
- ・鈴木礼子，寺内恵美子，柴田夏美，峰村貴央，吉村香子，小西敏郎：AYA世代およびがん予防情報についての認知度調査，AYA世代の第一回学術集会，2019.2.11，名古屋医療センター.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金 基盤研究B, 古代食の総合的復元による食生活と疾病の関係解明, 研究分担者.
- ・2018 年度千葉県立保健医療大学 学内共同研究, 実摂取食塩量の把握と栄養計算方法の確立～煮物等の調理後の食材と煮汁に含まれる食塩量の現状～, 研究代表者.
- ・2018 年度千葉県立保健医療大学 学長裁量研究, 千葉県立保健医療大学が行う地域のための健康づくりプログラムの実践と評価 I, 研究分担者.
- ・2018 年度千葉県立保健医療大学 学長裁量研究, 本学学生のための喫食を伴う食育プログラムの実施と評価ーほい大ごはんカフェの地域への発展と他学科連携の試みー, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・ちば食育応援隊として食育・健康づくり活動（千葉市幕張ベイタウン祭り，学園祭でのほい大カフェ，茂野製麺での「SOBAMARO メニューコンテスト」の活動の支援，UR 都市機構と連携したこども食堂）.
- ・ほい大健康プログラム，2018 年 6 月～2 月，千葉市内の UR 団地.
- ・歯科健康プログラム，2018 年 12 月 15 日，2019 年 3 月 5 日，千葉市内の UR 団地.

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本調理科学会，日本食品科学工学会，日本応用糖質科学会，日本栄養改善学会，日本給食経営管理学会，千葉県学校保健学会.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本調理科学会，『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』研究委員会委員（千葉県）. 2018 年 4 月～現在.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・動物実験部会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営委員，4 年生副担任（10 月から）.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では，栄養学科運営委員として教職員と情報共有しながら，滞りなく学科運営ができるように支援することができた。学生の学習支援を適宜行うことができた。

研究活動では，自分と異なる専門分野の教員と共に研究を進めることで，視野が広くなり，新しい知識を得ることができた。それにより，科研費研究，学内共同研究を計画的に進めることができた。しかし，論文投稿はすることができなかった。

VII 次年度の目標

教育活動では，引き続き学生の学習支援に努める。研究活動では，研究成果の論文化に取り組む。

齒科衛生學科

教授 兼 学科長 大川 由一 博士 (歯学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動では新たに臨地実習3科目を担当することになったため、臨地実習施設との連携を深め、学生実習が充実したものとなるよう努める。研究活動については、少ないエフォートながら他の学内外の研究者と共同研究に取り組み、成果を残すことを目標とする。社会貢献活動および学内の管理運営においても精力的に対応していきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・口腔衛生学.
 - ・地域歯科衛生学.
 - ・歯科衛生統計学.
 - ・演習V (地域歯科衛生).
 - ・総合演習.
 - ・歯科診療室基礎実習.
 - ・歯科診療所実習.
 - ・発達歯科衛生実習 I (小児).
 - ・歯科診療室総合実習.
 - ・歯科診療室総合実習.
- 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)
 - ・歯科医療管理学, 東京歯科大学.
 - ・衛生学公衆衛生学, アポロ歯科衛生士専門学校.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線: 著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・歯科衛生士国試問題研究会編, 大川由一, 他: よくデル! 歯科衛生士国試の必須知識 (社会歯科), 2018, 医歯薬出版, 東京.
- ・全国歯科衛生士教育協議会監修, 大川由一, 他: 最新歯科衛生士教本「保健生態学」第3版, 2018, 医歯薬出版, 東京.
- ・全国歯科衛生士教育協議会監修, 大川由一, 他: 最新歯科衛生士教本用語集 ポケット版, 2018, 医歯薬出版, 東京.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・吉田 隆, 有泉祐吾, 大川由一, 柳澤伸彰, 古澤成博: 高等学校教員の医療職に対するイメージと進学先決定の際の重要事項について, 第59回日本歯科医療管理学会総会・学術大会, 2018年7月22日, 新潟.
- ・吉田 隆, 有泉祐吾, 大川由一, 柳澤伸彰, 古澤成博: 専門職養成教育の課題 特に高等学科校進路指導における歯科医療職に対する現状と課題について, 第37回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 2018年7月28日, 郡山.
- ・坂本彩耶, 麻生智子, 大川由一, 金子 潤: フッ化物配合歯磨剤とフッ化物洗口液の併用による唾液中フッ素濃度保持について, 日本歯科衛生学会第13回学術大会, 2018年9月16日, 福岡.
- ・日下和代, 大川由一, 鈴鹿祐子, 三和真人, 雄賀多 聡: 言語聴覚士における口腔ケアの実態調査, 第18回千葉県歯科

医学大会, 2018年11月11日, 千葉.

- ・麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 大川由一: 片麻痺を有する者における口腔マッサージの効果, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1-2日, 新潟.
- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 河野 舞, 荒川 真, 金子 潤, 大川由一: 歯科診療室臨床実習における新たな評価法に関する研究—学生の自己評価と教育強化の活用—, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1-2日, 新潟.
- ・島田美恵子, 岡村太郎, 雨宮有子, 大川由一, 麻賀多美代, 竹内弥彦, 雄賀多聡, 中島一郎, 川村 悠, 多田大和, 岩井多佳子, 星崎 徹, 中村寿美代: 地域住民による自助・互助活動への集団別支援について, 2018年度(第57回)千葉県公衆衛生学会, 2019年1月29日, 千葉.

4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・日本歯科衛生学会 第13回学術大会・研究討論会, 2018年9月17日, 福岡.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践と評価—誤嚥による肺炎予防のために—, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・オーラルフレイル予防プログラム, 2018年10月～現在に至る. UR花見川団地・さつきが丘団地.
- ・打瀬中学校の職場体験学習, 2018年11月15-16日, 千葉県立保健医療大学.

2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・歯科診療, 2009年4月～現在に至る. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県歯科衛生士育成協議会, 役員, 2015年4月1日～2019年3月31日.
- ・(一社)全国歯科衛生士教育協議会, 理事, 2014年4月1日～現在に至る.
- ・(一社)全国歯科衛生士教育協議会, 教育委員会理事, 2014年4月1日～現在に至る.
- ・(一社)全国歯科衛生士教育協議会, 教育問題検討委員会委員, 2014年4月1日～現在に至る.
- ・(一社)全国歯科衛生士教育協議会, 認定委員会委員, 2014年4月1日～現在に至る.
- ・全国大学歯科衛生士教育協議会, 理事, 2015年4月1日～2019年3月31日.
- ・全国大学歯科衛生士教育協議会, 教育・研究員会委員, 2015年4月1日～2019年3月31日.
- ・全国大学歯科衛生士教育協議会, 編集委員, 2016年4月1日～2019年3月31日.
- ・国公立大学法人等歯科医療従事者養成機関担当者会議担当者, 2014年4月1日～2019年3月31日.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本口腔衛生学会, 日本公衆衛生学会, 国際歯科研究学会(IADR), 国際歯科研究学会日本部会(JADR), 日本老年歯科医学会, 日本歯科医療管理学会, 日本歯科医学教育学会, 社会歯科学会, 日本歯科衛生学会, 日本歯科衛生教育学会, 日本口腔ケア学会, 東京歯科大学学会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本歯科衛生教育学会, 評議員, 2013年4月1日～現在に至る.
- ・日本歯科衛生学会, 顧問, 2015年7月1日～現在に至る.
- ・日本歯科衛生学会, 外部査読委員, 2013年5月1日～現在に至る.

- ・日本歯科衛生教育学会. 編集委員会査読委員. 2013年4月1日～現在に至る.
- ・日本口腔衛生学会. 歯科衛生士委員会委員. 2017年5月31日～現在に至る.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称. 主催 団体名称. 講演テーマ等. 対象. 開催日. 時場所）

- ・2018年度東京歯科大学大学院講義. 臨床・基礎研究に必要な統計解析の基本について. 大学院生. 2018年9月6～7日. 東京歯科大学.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議. 教授会. 自己点検・評価委員会. 将来構想検討委員会. 入試委員会. 防災対策委員会（自衛消防隊長）. 総務・企画委員会. 図書・情報委員会. 管理運営ワーキンググループ. 教員資格審査委員会(歯科・助教) 2018. 4. 19～. 教員資格審査委員会(一般教養・准教授) 2018. 5. 18～. 教員資格審査委員会(公衆衛生看護・助教) 2018. 6. 27～. 教員資格審査委員会(栄養・教授) 2018. 10. 15～. 教員資格審査委員会(栄養・教授) 2019. 2. 26～.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科長（2015年4月1日～2019年3月31日）. 歯科診療室長（2015年4月1日～現在に至る）.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、新たに担当した臨地実習3科目において臨地実習施設と連携をとりながら実習を終了し、学生の授業評価において比較的高い評価が得られた。研究活動では、歯科衛生士向け教科書等の執筆を行うとともに、これまでの研究成果を論文にまとめ海外学術雑誌に投稿した。社会貢献活動では学会や学術団体等の各事業の担当者として一定の役割を果たした。

VII 次年度の目標

教育活動では学生がより主体的に学べるように授業内容を工夫する。研究活動については学内外の研究者と共同研究に取り組み、その成果を学術雑誌に公表することを目標とする。

教授 酒巻 裕之 博士 (歯学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、特に教育面では、学生が予習・復習を行うように授業を進める。臨床実習では、技能評価を行う必要があると考えられ、OSCE によるパフォーマンス評価を構築して検討する。学生の歯科診療室における臨床実習に貢献する。大学の管理・運営について、入試実施副部長として、入学試験が円滑にできるよう所掌事項を遂行する。教務委員として、新々カリキュラムの検討を行う。社会貢献について、歯科診療室での歯科診療と千葉市口腔がん検診（個別検診）において、地域住民に貢献する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・口腔病理学.
- ・歯科感染予防学.
- ・顎口腔外科学.
- ・顎口腔機能論.
- ・歯科衛生基礎演習.
- ・発達歯科衛生学 I (小児).
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・臨床実習Ⅲ (病院実習).
- ・歯科診療室総合実習.
- ・卒業研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・口腔・顎顔面領域の疾患-②. 口腔外科学 (診療の基本-②). 日本大学松戸歯学部 兼任講師.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所.)

- ・雨宮俊彦, 新井嘉則, 荒木和之, 奥村泰彦, 小倉一朗, 小田昌史, 柿本直也, 金田 隆, 金久弥生, 川島雄介, 倉林 亨, 酒巻裕之, 櫻井 孝, 笹井正思, 佐藤有華, 三分一恵里, 志摩朋香, 田中達朗, 徳永悟士, 原 慶宜, 原田卓哉, 本田和也, 箕輪和行, 村上秀明, 森本泰宏：科衛生士講座 歯科放射線学, 2019, 永末書店, 京都.
- ・全国歯科衛生士教育協議会監修, 酒巻裕之, 他：最新歯科衛生士教本用語集 ポケット版, 2018, 医歯薬出版, 東京.
- ・幾本英之, 池邊哲郎, 井上勝元, 内山健志, 大木逸郎, 大関 悟, 奥 結香, 片倉 朗, 金子忠良, 川口浩司, 小宮正道, 近藤壽郎, 坂下 英, 坂下英明, 酒巻裕之, 里村一人, 重松久夫, 柴原孝彦, 須賀賢一郎, 鈴木正二, 園山智生, 平良芙蓉子, 高野伸夫, 高野正行, 瀧澤将太, 筑井 徹, 中山英二, 濱田良樹, 平木昭光, 福田正勝, 矢島保朝, 山田浩之, 湯浅賢治, 米原啓之：カラーアトラス サクシント口腔外科学 第4版, 2019, 学建書院, 東京.

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・Kazuhiro Hasegawa, Hiroyuki Sakamaki, Masahiro Higuchi, Masaaki Suemitsu, Chieko Taguchi, Ko Ito, Miyuki Morikawa, Tadahiko Utsunomiya, Toshirou Kondoh, Kayo Kuyama : Histomorphometric Evaluation of Intraepithelial Papillary Capillaries in Oral Lichen Planus: A Histopathological Study, Journal of Dermatology Research and Therapy,

4, 1-10, 2018.

- ・酒巻裕之：クイズで考える！ 口腔粘膜 口腔粘膜の診かたは？—口腔粘膜の診査方法について—, デンタルハイジーン, 30, 1, 1-11, 2019.
- ・酒巻裕之：クイズで考える！ 口腔粘膜 正常口腔粘膜と、治療を要しない口腔粘膜の異常は？, デンタルハイジーン, 30, 2, 123-126, 2019.
- ・酒巻裕之：クイズで考える！ 口腔粘膜 悪性腫瘍はどれでしょう？, デンタルハイジーン, 30, 3, 235-238, 2019.

3 発表（発表者：発表タイトル, 主催学会（学会名称）, 開催日, 場所等. 本人下線）

- ・久保田順子, 森川美雪, 末光正昌, 宇都宮忠彦, 瀬戸宏之, 鈴木友子, 遠藤弘康, 酒巻裕之, 伊藤孝訓, 久山佳代：義歯装着高齢者の口腔内環境に関する検討—殊に真菌の臨床病理学的・診断学的検討—, 第28回日本口腔内科学会 第31回日本口腔診断学会・合同学術大会, 2018年9月14日, 横浜.
- ・鈴鹿祐子, 山中紗都, 麻賀多美代, 麻生智子, 酒巻裕之：臨床実習時における学生のインシデント状況と個人特性に関する検討, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1-2日, 新潟.
- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 河野 舞, 荒川 真, 金子 潤, 大川由一：歯科診療室臨床実習における新たな評価法に関する研究—学生の自己評価と教員評価の活用—, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1-2日, 新潟.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等）

- ・第5回日本医療安全学会総会, 基調講演座長・口腔健康管理（口腔ケア）と医療安全, パネルディスカッション・歯科から多職種へ伝えたい口腔健康管理（口腔ケア）と医療安全, 2019年2月9日, 東京.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名, 研究テーマ, 研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）, 地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践と評価—誤嚥による肺炎予防のために—, 研究分担者.
- ・学内共同研究費, アウトカム基盤型教育による歯科衛生教育での救急処置に関する教育法の検討, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称. 活動期間. 場所等）

1) 千葉県内

- ・オーラルフレイル予防プログラム, 2018年10月～現在に至る. UR花見川団地・さつきが丘団地.
- ・打瀬中学校の職場体験学習, 2018年11月15-16日. 千葉県立保健医療大学.

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等. 活動期間. 場所等）

- ・歯科診療, 2009年4月～現在に至る. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.
- ・日本口腔外科学会専門医（第770号）, 1996年10月1日～現在に至る.
- ・日本口腔外科学会指導医（第664号）, 2001年10月1日～現在に至る.
- ・日本糖尿病協会歯科医師登録医, 2013年9月1日～現在に至る. 糖尿病患者の歯科診療に当たる.
- ・がん患者歯科医療連携登録医, 2013年10月3日～現在に至る. 2015年2月16日全国に名簿が公表される.
- ・日本歯科放射線学会歯科放射線准認定医（第783号）, 2018年4月1日～現在に至る.
- ・千葉市口腔がん検診 検診医, 2018年7月1日～12月22日 検診数23件. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.
- ・千葉県歯科医師会認定口腔がん検診医（第2018-262号）, 2018年3月18日～現在に至る.
- ・日本大学松戸歯学部附属病院 診療指導, 2009年4月1日～現在に至る.
- ・総合病院国保旭中央病院 手術指導, 2011年4月1日～現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, Asian Association of Oral and Maxillofacial

Surgeons. 日本口腔外科学会. 日本口腔科学会. 日本口腔内科学会. 日本歯科医学教育学会. 日本歯科衛生学会. 日本歯科衛生教育学会. 日本口腔診断学会. 日本臨床口腔病理学会. 日本臨床細胞診学会. 日本有病者歯科医学会. 日本老年歯科医学会. 日本小児歯科学会. 日本大学口腔科学会. 日本看護技術学会. 日本医療安全学会. 日本口腔ケア学会. 日本公衆衛生学会. 日本顎顔面インプラント学会. 日本医学教育学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名. 役職. 活動期間)

- ・日本大学口腔科学会. 評議員. 2007年4月1日～現在に至る.
- ・日本口腔科学会. 評議員. 2009年4月1日～現在に至る.
- ・日本口腔内科学会. 評議員. 2009年6月1日～現在に至る.
- ・日本口腔外科学会. 代議員. 2012年9月2日～現在に至る.
- ・日本医療安全学会. 代議員. 2014年4月1日～現在に至る. 理事. 2018年3月21日～現在に至る.
- ・日本医療安全学会. 広報委員. 2016年4月1日～現在に至る.
- ・日本歯科衛生学会雑誌. 外部査読員. 2013年4月1日～現在に至る.
- ・Journal of Oral Maxillofacial Surgery, Medicine and Pathology. 査読者. 2013年4月1日～現在に至る.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会. 教務委員会. 入試実施部会 (副部会長).

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・歯科衛生学科会議. 歯科診療室会議. 教務委員会. 入試実施部会.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

2018年度は, 特に教育面では, 学生が予習・復習を行うように授業を進める. 臨床実習では, 技能評価を行う必要があると考えられ, OSCE によるパフォーマンス評価を構築して検討し, 共同で実施する処置について意義が確認された. 大学の管理・運営について, 入試実施副部会長として, 入学試験が円滑に進むように遂行することができた. 教務委員として, 新々カリキュラムの検討を行った. 社会貢献について, 歯科診療室での歯科診療と千葉市口腔がん検診 (個別検診) において, 地域住民に貢献した.

VII 次年度の目標

2019年度は, 特に教育面では, 学生が予習・復習を行うように, 授業開始時にはミニテスト, 授業終了時には振り返りを行うよう進める. 臨床実習では, 医療や介護を必要とする対象者とした口腔健康管理に関するシミュレーション教育について検討する. 大学の管理・運営について, 入試実施委員会委員長として, 入試実施体制の改編, 入学試験が円滑に進むように遂行する. 教務委員会委員として, 委員会所掌を遂行する. 社会貢献について, 歯科診療室での歯科診療と千葉市口腔がん検診 (個別検診) において, 地域住民に貢献する.

教授 麻賀 多美代 修士 (学術)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育については、学生の理解度・技術の習熟度を高められるよう教育方法の工夫や修正を行う。新たな科研費研究に取組み、研究計画通りに研究が遂行できるように努める。大学運営、社会貢献については、引き続き積極的に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・歯科衛生学概論.
 - ・歯科衛生基礎演習.
 - ・発達歯科衛生学Ⅱ (成人・高齢者).
 - ・顎口腔機能リハビリテーション論.
 - ・演習Ⅲ (口腔機能リハビリテーション).
 - ・歯科診療室基礎実習.
 - ・総合演習.
 - ・歯科診療室総合実習.
 - ・継続・個別支援実習.
 - ・発達歯科衛生実習Ⅱ (成人・高齢者).
 - ・看護技術論Ⅱ (生活援助技術).
 - ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 山中紗都: 筆記具・スケーラーにおける把持・動作に関する研究, 千葉県立保健医療大学紀要, 10, 1, 115, 2019.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・麻賀多美代, 麻生智子, 三澤哲夫: 筆記具の把持動作のトレーニングがスケーラーの把持動作に及ぼす影響, 日本人間工学会第59回大会, 2018年6月3日, 仙台.
- ・今井宏美, 木村亜由美, 麻賀多美代, 椿 祥子, 麻生智子, 河部房子, 三澤哲夫: 現実適合性の高い口腔ケア用モバイルシミュレータを用いた部分学習が全体学習に及ぼす影響, 日本人間工学会第59回大会, 2018年6月3日, 仙台.
- ・Hiromi Imai, Tamiyo Asaga, Tetsuo Misawa, Ayumi Kimura, Sachiko Tsubaki, Tomoko Aso, Fusako Kawabe: The Effects of Brushing Practice Using aTBP-Module with Good Real-Life Adaptability, Proceedings of the 20th Congress of the International Ergonomics Association (IEA 2018), 2018年8月29日, Italy Florence.
- ・Tamiyo Asaga, Tomoko Aso, Tetsuo Misawa: Muscle-Training Effect Associated with Scaler Operation, Proceedings of the 20th Congress of the International Ergonomics Association (IEA 2018), 2018年8月29日, Italy Florence.
- ・麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 大川由一: 片麻痺を有する者における口腔マッサージの効果, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1日-2日, 新潟.
- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 河野 舞, 荒川 真, 金子 潤, 大川由一: 歯科診療室臨床実習における新たな評価法に関する研究—学生の自己評価と教育強化の活用—, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018

年12月1-2日, 新潟.

- ・鈴鹿祐子, 山中紗都, 麻賀多美代, 麻生智子, 酒巻裕之: 臨床実習時における学生のインシデント状況と個人特性に関する検討, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1日-2日, 新潟.
- ・麻生智子, 麻賀多美代, 鈴鹿祐子, 山中紗都: 歯周病予防処置実習におけるポートフォリオの導入, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1日-2日, 新潟.
- ・島田美恵子, 岡村太郎, 雨宮有子, 大川由一, 麻賀多美代, 竹内弥彦, 雄賀多聡, 中島一郎, 川村 悠, 多田大和, 岩井多佳子, 星崎 徹, 中村寿美代: 地域住民による自助・互助活動への集団別支援について, 2018年度(第57回)千葉県公衆衛生学会, 2019年1月29日, 千葉.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践と評価一誤嚥による肺炎予防のために-, 研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 質の高い口腔ケア技術獲得に資する現実適合性の高いモバイルシミュレータの開発と検証, 研究分担者.
- ・学内共同研究, アウトカム基盤型教育による歯科衛生教育での救急処置に関する教育法の検討, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・障害者の口腔衛生指導, 2018年4月~2019年3月の第3木曜日午前, 千葉県リハビリテーションセンター更生園.
- ・ほい大健康プログラム, 2018年6月30日, 9月24日, 12月8日, UR千草台団地・あやめ台団地・高洲団地.
- ・オーラルフレイル予防プログラム, 2018年10月~現在に至る(月1回), UR花見川団地・さつきが丘団地.
- ・打瀬中学校の職場体験学習, 2018年11月15-16日, 千葉県立保健医療大学.

2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施, 2018年4月~現在に至る, 千葉県立保健医療大学歯科診療室.
- ・白井市地域ケア会議, 2018年6月, 2019年2月, 白井市地域包括支援センター.

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・日本歯科医療振興財団, 歯科衛生士試験委員会幹事委員, 2017年7月~現在に至る.
- ・千葉県歯科衛生士育成協議会, 運営委員, 2017年4月~2018年3月.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科衛生士会, 千葉県歯科衛生士会, 日本歯周病学会, 日本口腔ケア学会, 日本咀嚼学会, 日本歯科衛生学会, 日本歯科衛生教育学会, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 日本歯科医学教育学会, 日本口腔衛生学会, 日本口腔内科学会, 日本口腔外科学会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本人間工学会第59回大会, 座長, 2018年6月3日.

6 講演会(公開講座を含む)/研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・千葉市シニアリーダー連絡会 出前講座, オーラルフレイル予防と口からはじめる認知症予防, 千葉市シニアリーダー, 2018年6月21日, 中央保健福祉センター.
- ・高校生への歯科衛生士の仕事と学校について 説明会の講師, 千葉県歯科衛生士育成協議会, 高校生, 養成校での教育内容, 2018年7月7日, 千葉県立保健医療大学.

- ・日歯認定歯科助手講習会講師. 千葉県歯科医師会. 高齢者の対応. 歯科助手. 2018年9月30日. 千葉県立保健医療大学.
- ・更生施設入所者健康教育の講師. 千葉県リハビリテーションセンター更生園. 歯は健康の原点. 更生園入所者. 2018年9月27日. 10月4日. 千葉県リハビリテーションセンター更生園.

7 その他

- ・大学説明会. 2018年4月20日(高田馬場). 6月19日(柏クレストホテル). 9月21日(君津高校).
- ・模擬授業(お口の健康について). 2018年11月13日(佐原白楊高校).
- ・2018年度国公立大学法人等歯科医療従事者養成機関担当者会議. 2018年11月9日. 徳島大学.
- ・日本歯科衛生学会雑誌(第13巻1号)の査読. 2018年7月
- ・千葉県立保健医療大学紀要(第10巻)の査読. 2018年10月.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会. 学生委員会. 進路支援委員会. 入試実施部会. 中期目標・計画検討作業部会. 教員資格審査委員会. 教員再任審査作業部会. 予備選挙管理委員会.

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・歯科衛生学科会議. 歯科診療室会議. 歯科衛生学科4年チューター.

VI 評価(成果および改善すべき事項)

教育では、教育目標を達成できるように指導内容を工夫し学生の学習意欲や学習効果が向上するよう取り組んだ。研究については科研費が採択され、UR 協力の下、地域在住の高齢者を対象にオーラルフレイルを予防するためのプログラムを実施することができている。社会貢献として口腔健康管理が必要な障害者に対して今後も継続して支援を行っていきたいと考える。

VII 次年度の目標

教育においては、教育目標を達成できるよう、より充実した講義、実習になるように工夫し、学生が主体的に取り組めるよう指導を行う。研究については地域包括ケアに関連した研究に取り組み、研究成果を発信できるよう努める。積極的に大学の管理・運営や社会貢献活動に参加する。

教授 島田 美恵子 博士 (体育学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

- ① 2017年度までに蓄積したデータを論文発表する (100歳高齢者 サービスラーニング 活動量計 BMI 地域貢献).
- ② 研究代表者, 共同研究者として, 質の高い研究にするための協働の在り方を模索する. ③学生が自分のデータを適切に評価でき, 活用して学習し, 行動変容できるような授業内容を組み立てる.

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・千葉県の健康づくり.
 - ・健康スポーツ科学.
 - ・生涯身体運動科学.
 - ・健康と運動.
 - ・生理学実験.
 - ・卒業研究

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・植田麻実, 島田美恵子, 井上裕光, 他: 初年次教育における課題に関する教員の意識調査, 千葉県立保健医療大学紀要, 61-71, 2019.
- ・Hongu N, Shimada M, Miyake R, Nakajima Y, Nakajima I, Yoshitake Y: Promoting Stair Climbing as an Exercise Routine among Healthy Older Adults Attending a Community-Based Physical Activity Program, Sports (Basel), 7, 1, 2019.
- ・Nishimuta M, Kodama N, Yoshitake Y, Shimada M, Serizawa N: Dietary Salt (Sodium Chloride) Requirement and Adverse Effects of Salt Restriction in Humans. J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo), 64, 2, 83-89. 2018.
- ・Yamamoto N, Miyazaki H, Shimada M, Nakagawa N, Sawada S, Nishimuta M, Yoshitake Y: Daily step count and all-cause mortality in a sample of Japanese elderly people: a cohort study. BMC Public Health, 18, 1, 540, 2018.
- ・Serizawa N, Nishimuta M, Kodama N, Shimada M, Yoshitake Y, Hongu N, Ota M, Yano T: Salt Restriction Affects The Excretions of Minerals (Na, K, Ca, Mg, P and Zn) in the Second Voided Fasting Early Morning Urine. J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo), 65, 2, 142-147, 2019.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・Shimada M, Going S, Hongu N, et al. : Leg Extensor Power And Healthy Aging Are Associated In Older Adults: 10-year Follow-up Study, Medicine & Science in Sports & Exercise 50, May 2018.
- ・Kimura Y, Ohki K, Hisatomi M, Shimada M, Hongu N: Correlation between One-leg Standing Time and Trail Making Test in Japanese Older Adults, Medicine & Science in Sports & Exercise 50, May 2018.
- ・Serizawa N, Nishimuta M, Kodama N, Shimada M, Hongu N: Dietary Sodium Restriction Changed Calcitonin, T3, T4, and Urinary Mineral Excretion in Healthy Women, Medicine & Science in Sports & Exercise 50, May 2018.
- ・島田美恵子, 三宅理江子, 中島一郎: 朝食・被服重量が体重・BMI に及ぼす誤差. 千葉県体育学会大会. 2018年5月12

日, 千葉.

- ・島田美恵子, 本宮暢子, 吉武 裕: 後期高齢者の体力測定受診と生命予後の関係, 第73回日本体力医学会大会, 2018年9月7-9日, 福井.
- ・西牟田守, 児玉直子, 芹澤菜保, 島田美恵子, 吉武 裕: 血清のKおよびZn濃度はNaの出納とは負, Feの出納とは正の相関を示す, 第73回日本体力医学会大会, 2018年9月7-9日, 福井.
- ・島田美恵子, 三宅理江子, 児玉直子: 地域健康教室に参加する高齢者におけるBody Mass Indexの加齢変化について, 第65回日本栄養改善学会学術大会. 2018年9月3-5日, 新潟.
- ・三宅理江子, 島田美恵子: 地域在住自立高齢者の栄養状態と食品摂取の多様性の関連, 第65回日本栄養改善学会学術大会. 2018年9月3-5日, 新潟.
- ・川村 悠, 多田大和, 山下剛司, 島田美恵子, 竹内弥彦, 岡村太郎, 雄賀多聡: 地域の通いの場を立ち上げ, 運営するシニアリーダー(介護予防推進ボランティア)の実態調査. 第5回日本予防理学療法学会学術大会, 2018年10月20-21日, 福岡.
- ・多田大和, 川村 悠, 山下剛司, 島田美恵子, 竹内弥彦, 岡村太郎, 雄賀多聡: 地域住民主体の体操教室運営(シニアリーダー体操)における活動の阻害因子について-自記式質問紙調査による検討, 第5回日本予防理学療法学会学術大会, 2018年10月20-21日, 福岡.
- ・島田美恵子, 岡村太郎, 雨宮有子, 大川由一, 麻賀多美代, 竹内弥彦, 雄賀多聡, 中島一郎, 川村 悠, 多田大和, 岩井多佳子, 星崎 徹, 中村寿美代: 地域住民による自助・互助活動への集団別支援について, 2018年度(第57回)千葉県公衆衛生学会, 2019年1月29日, 千葉.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 疾患活動性が低いリウマチ患者への機器を活用した自己管理における意思決定支援の手法, 研究代表者.
- ・学内共同研究, 地域在住高齢者の自助・互助活動を支援する手法の開発, 研究分担者.
- ・学内共同研究, 若年者における不良姿勢が交感関係に及ぼす影響, 研究分担者.
- ・学内共同研究, 千葉県立保健医療大学が行う地域のための健康づくり-ほい大健康プログラム-集合住宅在住の高齢者に対する転倒予防の調査, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
 - ・パラスポーツ講座シッティングバレーボール講習会企画運営・開催. 2019年2月. 千葉県立保健医療大学.
 - ・オーラルフレイル予防プログラム. 2018年10月~現在に至る. UR花見川団地・さつきが丘団地.
- 2) 千葉県外
 - ・オリンピックボランティア説明会出席. 東京.

2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・流山市南部地域包括支援センター 体力測定と講演. 2018年6月7日~2019年01月(4回). 流山ケアセンター
- ・中国帰国家族の会 体力測定と運動指導. 2019年3月. 高洲コミュニティセンター.
- ・口腔と全身の健康状態に関する90歳調査 体力測定. 2018年6月. 新潟.

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・健康福祉部健康福祉政策課のヒアリング. 第三次千葉県地域福祉支援計画の見直し.
- ・東京都健康長寿医療センター研究事業委員会委員受諾. 通所サービス利用者等の口腔の健康管理及び栄養管理の充実に関する調査研究事業.

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体

・日本体力医学会. 日本体育学会. 日本測定評価学会. 日本バイオメカニクス学会. 日本栄養改善学会. 日本栄養・食糧学会.
日本口腔衛生学会. 日本公衆衛生学会. 大学体育連合. 日本疫学会. American College of Sports Medicine.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

・PLOS ONE. 査読. 2018年9月.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・柏市シルバー大学院 生涯課程E組「痛みと上手に付き合う方法」. 2018年6月19日. 柏市中央公民館.
- ・柏市シルバー大学院 研究課程1年「健康寿命と運動」. 2018年9月13日. 柏商工会議所.
- ・柏市シルバー大学院 研究課程2年35期「健康寿命と運動」. 2019年9月11日. 柏市教育福祉会館.
- ・柏市シルバー大学院 生涯課程A組「健康寿命と運動 動いてわかる私のからだ」. 2019年11月8日. 野村証券柏支店.
- ・柏市シルバー大学院 生涯課程D組「日常生活での体力づくり」. 2019年2月18日. 麗澤大学生涯学習センター.
- ・ほい大健康プログラム. 2018年9月20日. 10月29日. 12月2日. 2019年2月21日. UR千草台団地・あやめ台団地・高洲団地.
- ・オーラルフレイル予防プログラム. 2018年10月～現在に至る. UR花見川団地・さつきが丘団地.

7 その他

- ・放送大学倫理審査外部委員.
- ・専門職大学院 開設準備.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会. 総務・企画委員会. 特色科目委員会. 将来構想検討委員会. 研究等倫理委員会. 教員資格審査委員会. 共通教育運営会議副議長. 管理運営ワーキンググループ.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・歯科衛生学科会議. 歯科衛生学科1年生チューター.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

①蓄積したデータの論文化は進まなかった. まとめたデータを学会発表することに留まっているが, 外部研究資金獲得のための申請書作成に活用した. ②研究代表者, 共同研究者としての協働の在り方は, 例年よりも数多く, 研究チームの共同研究者がデータを活用して学会発表・論文発表してくれたことを自己評価したい. ③「学生が行動変容できるような授業内容を組み立て」は, 自分が期待していたほどは, 授業評価による学生の満足度が高くなかった. 学生の知的興味をかきたてる取り組みにさらなる工夫が必要と認識した.

VII 次年度の目標

①2011年度から蓄積している千葉県で実施している縦断調査およびこれまでの新潟調査・岩手調査について, 体力の加齢変化を論文として1編は発表する. ②共通教育運営会議長として, 学生が自ら学ぶ姿勢を育成・支援する手法と評価について検討する. ③社会貢献委員会委員長として, 本学教員の社会貢献を千葉県にPRする手段を模索し実践する. ④体調管理.

教授 石川 裕子 博士 (歯学)

対象期間：2018年9月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、9月1日着任ということで、教育については、歯科衛生学科の他の教員と連携をとりながら授業・実習を進めていくことに努める。研究については、科研費の題目について実験を進め、追加データおよび分析を行い、論文作成に着手できるようにする。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・千葉県健康づくり.
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・演習IV 保健指導・カウンセリング.
 - ・病院実習.
 - ・歯科診療室総合実習.
 - ・継続・個別支援実習.

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・石川裕子, 依田浩子, 斎藤浩太郎, 中富満城, 大島勇人: マウス切歯・臼歯の静的幹細胞維持に関わる Shh シグナルの役割, 第60回歯科基礎医学会学術大会, 2018年9月5-7日, 博多.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 歯の発生過程における Shh シグナルによる静的幹細胞維持機構の解明, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
 - ・オーラルフレイル予防プログラム, 2018年10月～現在に至る. UR 花見川団地・さつきが丘団地.

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・歯科診療補助の実施. 2018年9月～現在に至る. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・(一社) 全国歯科衛生士教育協議会. 教育委員, 2009年～現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本歯科衛生学会, 日本歯科衛生教育学会, 日本歯科基礎医学会, 日本歯科教育学会, 新潟歯学会.

- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
- ・日本歯科衛生教育学会, 副理事長・常任理事・理事, 2016年～現在に至る.
 - ・日本歯科衛生教育学会, 評議員, 2013年～現在に至る.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・全国歯科衛生士教育協議会主催 歯科衛生士専任教員講習会 I 講師, 歯科衛生学教育法, 2018年8月7-9日, 神奈川歯科大学.

7 その他

- ・千葉県立保健医療大学紀要 (第10巻) の査読, 2018年10月.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会, 教員資格審査委員会, 共同研究審査部会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・歯科衛生学科会議, 歯科診療室会議, 歯科衛生学科3年生副チューター.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

年度途中の9月1日着任であったが, 教育や実習については学生が理解しやすい授業や実習説明を心掛けた. 研究については, 実験を一部千葉で行うことができるように研究室を整え, 日程調整等を行うことで千葉と新潟大学での実験を行い, 研究データを得ることができた. 改善すべき事項としては, さらに時間を効率よく使用することで他の研究等を開始することができると思われる.

VII 次年度の目標

新たに担当することに決まっている授業について, 学生が自ら考えられるような授業を構築する. 研究については, 科研以外の研究に着手し, 他の活動にも積極的ににかかわる.

准教授 金子 潤 博士 (歯学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育面では、「専門職間の連携活動論」の科目責任者が2年目をむかえるため、昨年度以上に充実した演習となるよう準備・運営面で努力する。研究面では、学内共同研究の過去2年間で得た研究成果を論文にまとめ、投稿する。歯科診療に関しては、患者数を増やせるよう努めるとともに、歯周治療により踏み込めるよう心掛けたい。学術団体への貢献として、学会が発行を予定している専門書の分担執筆を着実に完成させる。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・歯科治療学Ⅰ (保存修復学・歯内療法学).
 - ・歯科診断学.
 - ・歯科診療室基礎実習.
 - ・歯科診療所実習.
 - ・発達歯科衛生実習Ⅱ (成人・高齢者).
 - ・歯科診療室総合実習.
 - ・卒業研究.

- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・歯科審美学. 北原学院歯科衛生専門学校.
 - ・歯科審美学. 仙台保健福祉専門学校.
 - ・歯科審美学. 日大松戸歯学部歯科衛生専門学校.

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・坂本彩耶, 麻生智子, 大川由一, 金子 潤: フッ化物配合歯磨剤とフッ化物洗口液の併用による唾液中フッ素濃度保持について. 第13回日本歯科衛生学会学術大会, 2018年9月16日, 福岡.
- ・西脇有紗, 金子 潤, 山中紗都, 佐々木理加: ホワイトニングにおける歯冠色のパーソナルカラーコーディネートに関する研究. 第29回日本歯科審美学会学術大会, 2018年9月29-30日, 川越.
- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 河野 舞, 荒川 真, 金子 潤, 大川由一: 歯科診療室臨床実習における新たな評価法に関する研究—学生の自己評価と教育強化の活用—, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1-2日, 新潟.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究費, 若年者における不良姿勢が咬合関係に及ぼす影響, 研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 味覚の感受性を利用した新たなカリエスリスク判定法の可能性, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・オーラルフレイル予防プログラム、2018年10月～現在に至る。UR花見川団地・さつきが丘団地。
- ・打瀬中学校の職場体験学習。2018年11月15-16日。千葉県立保健医療大学。

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・歯科診療。2013年8月1日～現在に至る。千葉県立保健医療大学歯科診療室。
- ・日本歯科保存学会歯科保存治療専門医。2004年7月1日～現在に至る。
- ・日本歯科審美学会認定医。2016年9月15日～現在に至る。
- ・日本歯科色彩学会認定医。2002年7月14日～現在に至る。
- ・美容口腔管理学会指導医 (Diplomate)。2005年10月23日～現在に至る。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科保存学会、日本歯科審美学会、日本歯科色彩学会、美容口腔管理学会、日本接着歯学会、日本歯内療法学会、日本歯科衛生学会、日本歯科衛生教育学会、日本アンチエイジング歯科学会、北海道歯学会、明倫短期大学学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本歯科審美学会、理事。「歯科審美」編集委員会委員、漂白治療の特商法適応に対するワーキンググループ委員。2012年4月1日～現在に至る。
- ・日本歯科色彩学会、常任理事、ニュースレター編集委員会委員長、「歯科の色彩」編集委員会委員。2004年4月1日～現在に至る。
- ・美容口腔管理学会、幹事。「The Journal of Cosmetic Oral Care」編集委員。2003年1月1日～現在に至る。
- ・日本歯科衛生学会、「日本歯科衛生学会雑誌」外部査読委員。2014年5月1日～現在に至る。
- ・”The Journal of Dental and Maxillofacial Research” Editorial Board, 2018年5月～現在に至る。
- ・”Dental Materials Journal” Reviewer, 2018年5月～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・第11回美容口腔管理学会認定講習会。歯科衛生士が主導するホワイトニングの手法。歯科医師・歯科衛生士。2018年8月26日。東京。
- ・Beaute 第1回ホワイトニングサミットーホワイトニングを文化にー。歯科ホワイトニングの基礎的知識ー過去から未来へー。歯科医師・歯科衛生士。2018年11月25日。大阪。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学術推進企画委員会、紀要編集部会、特色科目委員会、専門職間の連携活動論作業部会、自己点検・評価委員会、自己点検・評価実施推進部会、報告書作成等部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議、歯科診療室会議、歯科衛生学科2年生チューター。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・大学説明会（千葉県立流山おおたかの森高校）。2018年5月28日。（株）進路情報ネットワーク。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面では、特色科目「専門職間の連携活動論」の科目責任者として2年目を迎え、開講初日の特別講義に新たな講師を招聘することができ、科目の充実を図れたと考える。研究面では、過去の学内共同研究の成果を論文にまとめるところまでいけなかった。学会活動では、日本歯科審美学会の漂白治療の特商法適応に対するワーキンググループ委員として、治療指針の策定に関わることができた。また、日本歯科色彩学会のニュースレター編集委員長として、年間2本のニュースレターを編集・発行することができた。

VII 次年度の目標

教育面では、新々カリで新設の「歯科衛生体験演習Ⅱ」の科目責任者として、科目内容の詳細を検討してシラバスを完成する。研究面では、学内共同研究の過去2年間で得た研究成果を論文にまとめ、投稿する。歯科診療に関しては、患者数を増やすよう努めるとともに、治療経過の口腔内写真を資料として残すように心がける。学術団体への貢献として、現在3つの学会の学会誌編集に関わっており、充実した雑誌の発行を目指す。

准教授 荒川 真 博士 (歯学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、着任3年目となることから、教育、研究および診療の三面において、2017年度以上の成果を出していきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・歯科治療学II (歯周治療).
 - ・歯科材料学.
 - ・国際歯科衛生学.
 - ・歯科診療室基礎実習.
 - ・歯科診療室総合実習.
 - ・卒業研究.
 - ・継続・個別支援実習.
 - ・発達歯科衛生実習I (小児).
 - ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 河野 舞, 荒川 真, 金子 潤, 大川由一: 歯科診療室臨床実習における新たな評価法に関する研究—学生の自己評価と教育強化の活用—, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1-2日, 新潟.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・文部科学省研究費補助金基盤研究 (C), 味覚の感受性を利用した新たなカリエスリスク判定法の可能性, 研究代表者.
- ・学内共同研究, 若年者における不良姿勢が咬合関係に及ぼす影響, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
 - ・オーラルフレイル予防プログラム, 2018年10月～現在に至る. UR花見川団地・さつきが丘団地.
 - ・打瀬中学校の職場体験学習, 2018年11月15-16日. 千葉県立保健医療大学.

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・歯科診療, 2016年4月～現在に至る. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・全国大学歯科衛生士教育協議会, 理事・編集委員長, 2018年4月～2019年3月.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本歯科保存学会、日本歯周病学会、歯科理工学会、日本歯科医学教育学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

・Journal of Oral Biosciences、査読委員、2018年4月～2019年3月。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・ネットワーク委員会、国際交流委員会、衛生委員会、学長候補者学内意向調査委員会、開学10周年記念事業実行委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・歯科衛生学科会議、歯科診療室会議、歯科衛生学科3年生チューター。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

《ネットワーク委員会》

本学HP作成を行った。

年2回の学内PCメンテナンスの補助を行った。

《衛生委員会》

学内の定期的巡視を行った。

《国際交流委員会》

MATC (Madison Area Technical College) との交流協定を締結するべく、交渉を担当。

ウィスコンシン州訪日団の本学来訪時に歯科衛生学科代表として対応。

《歯科診療室》

本学歯科診療室にて夏休み期間中や学生実習が無い期間も基本的には週4日9:30から16:00の間診療を継続してきた。

VII 次年度の目標

引き続き各種業務を着実に継続、発展させたい。

准教授 河野 舞 博士 (歯学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

本年度の目標は、教育面において学生の自発的な学びを支援できるような授業を目指し、授業の改善に努めることである。研究活動では、現在までの研究データのとりまとめ論文投稿を行うことと、学外研究助成につなげるための新規研究にも取り組むことであり、大学運営に関しても引き続き委員会活動を理解し、役割を遂行することである。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・ 歯科治療学Ⅲ (歯科補綴学).
 - ・ チーム歯科医療論.
 - ・ 歯科衛生基礎演習.
 - ・ 演習 I (歯科材料・歯科診療補助).
 - ・ 歯科診療室基礎実習.
 - ・ 歯科診療室総合実習.
 - ・ 病院実習.
 - ・ 卒業研究.
 - ・ 専門職間の連携活動論.

- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・ 臨床実習 I・II. 北海道医療大学歯学部.

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・ H. Aita, S. Kemuriyama, H. Koshino, T. Ogawa, M. Kono: Ultraviolet Photofunctionalization of Titanium Maintains Long-lasting Superiority in Bone-implant Integration, 2018IADR/PER General Session & Exhibition, 2018年6月25-28日, London.
- ・ 河野 舞, 白井 要, 村田幸枝, 松岡紘史, 長澤敏行: 臨床実習における歯学生のメンタルヘルスの変化について, 第37回日本歯科医学教育学会学術大会, 2018年7月27-28日, 郡山.
- ・ 煙山修平, 河野 舞, 舞田健夫, 越野 寿, 會田英紀: 光機能化処理はビスフォスフォネート製剤による骨インプラント結合強度の低下を補償する, 2018年度日本補綴歯科学会東北・北海道支部総会・学術大会, 2018年10月13-14日, 札幌.
- ・ 酒巻裕之, 浅賀多美代, 鈴鹿祐子, 山中沙都, 河野 舞, 荒川 真, 金子 潤, 大川由一: 歯科診療室臨床実習における新たな評価法に関する研究-学生の自己評価と教員評価の活用-, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1-2日, 新潟.
- ・ 河野 舞, 白井 要, 村田幸枝, 長澤敏行: 臨床実習における歯学生のメンタルヘルスと遂行状況の関係, 北海道医療大学歯学会第36回学術大会, 2018年3月10日, 札幌.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・ 文部科学省研究費補助金基盤研究 (C), 光機能化テクノロジーの広範囲顎骨支持型顎顔面補綴装置への応用に関する基

礎的研究, 研究分担者.

- ・学内共同研究, 歯学医療系学生のメンタルヘルスに関する要因に対する疫学調査, 研究代表者.
- ・学内共同研究, 若年者における不良姿勢が咬合関係に及ぼす影響, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・オーラルフレイル予防プログラム, 2018年10月～現在に至る, UR花見川団地・さつきが丘団地.
- ・打瀬中学校の職場体験学習, 2018年11月15-16日, 千葉県立保健医療大学.

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・歯科診療, 2017年4月～現在に至る, 千葉県立保健医療大学歯科診療室.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本補綴歯科学会, 日本歯科医学教育学会, 日本口腔インプラント学会, 日本歯科理工学会, 日本歯科審美学会, 日本老年歯科医学会, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・千葉県立保健医療大学公開講座・咬むことと健康長寿, 一般住民, 2018年10月21日, 千葉県立保健医療大学.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学生委員会, ネットワーク委員会, 入試評価部会, 学術推進企画委員会, 紀要編集部会, 学内共同研究審査部会, 学長候補者学内意向調査委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・歯科衛生学科会議, 歯科診療室会議, 歯科衛生学科2年生副チューター.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育面については, 担当科目の位置づけを理解するとともに, 学生の自発的な行動を促すような資料を製作し授業の改善に努めた. 研究活動ではデータの収集に努めることができたが, 論文として公表するまでには至らず, 次年度以降の目標とする. また, 学外研究助成につなげるための新規研究課題を模索することはできたが, 予備研究中であり公表するまでには至らなかった. 社会貢献では歯科診療室における歯科診療を通じ, 地域住民の方々に貢献できたと考えている.

VII 次年度の目標

次年度以降も, 学生の学習意欲を喚起する授業を行うことと, 担当科目以外の年間授業計画の理解に努める. 研究活動では年度内に論文を投稿することを目標とし, 新規研究課題についても引き続き研究を進めることとする. また, 歯科診療室での歯科診療および大学運営に貢献できるよう引き続き努力する.

講師 麻生 智子 学士 (教養)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、特に担当科目の教育内容のさらなる充実を目標とした。講義科目では学生が予習、復習に積極的に取り組むように工夫し、演習・実習科目については、技術の習得と向上のために学生個々への指導を充実させる。症例報告では、卒業後の学会発表に活かすために昨年度と同様にポスター発表形式とし、写真データや検査結果を必ず入れて、初回時とリコール時の変化を発表することとする。研究でも実習の自己成長を記録するポートフォリオ導入の教育効果を学会発表する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・ 歯科疾患予防学.
 - ・ 歯科保健指導論.
 - ・ 歯科衛生基礎演習.
 - ・ 演習 I (歯科材料・歯科診療補助).
 - ・ 演習 II (歯科予防処置).
 - ・ 演習 IV (歯科保健指導・カウンセリング).
 - ・ 演習 V (地域歯科衛生).
 - ・ 総合演習.
 - ・ 継続・個別支援実習.
 - ・ 発達歯科衛生実習 I (小児).
 - ・ 地域歯科衛生実習.
 - ・ 卒業研究.
 - ・ 栄養ケアマネジメント論実習.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・ 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 山中紗都：筆記具・スケーラーにおける把持・動作に関する研究, 千葉県立保健医療大学紀要, 10, 1, 115, 2019.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・ Hiromi Imai, Tamiyo Asaga, Tetsuo Misawa, Ayumi Kimura, Sachiko Tsubaki, Tomoko Aso, Fusako Kawabe : The Effects of Brushing Practice Using aTBP-Module with Good Real-Life Adaptability, Proceedings of the 20th Congress of the International Ergonomics Association (IEA 2018), 2018年8月29日, Italy Florence.
- ・ Tamiyo Asaga, Tomoko Aso, Tetsuo Misawa : Muscle-Training Effect Associated with Scaler Operation, Proceedings of the 20th Congress of the International Ergonomics Association (IEA 2018), 2018年8月29日, Italy Florence.
- ・ 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 大川由一：片麻痺を有する者における口腔マッサージの効果, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1日-2日, 新潟.
- ・ 鈴鹿祐子, 山中紗都, 麻賀多美代, 麻生智子, 酒巻裕之：臨床実習時における学生のインシデント状況と個人特性に関する検討, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1日-2日, 新潟.
- ・ 麻生智子, 麻賀多美代, 鈴鹿祐子, 山中紗都：歯周病予防処置実習におけるポートフォリオの導入, 第9回日本歯科衛

生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1日-2日, 新潟.

- ・岡田 忍, 日下和代, 麻生智子, 石井邦子, 西尾淳子: 更年期女性における口腔保健行動と歯周病関連菌検出状況の関連, 日本看護科学学会第38回学術集会, 2018年12月16日, 松山.
- ・坂本彩耶, 麻生智子, 大川由一, 金子 潤: フッ化物配合歯磨剤とフッ化物洗口液の併用による唾液中フッ素濃度保持について. 第13回日本歯科衛生学会学術大会, 2018年9月16日, 福岡.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践と評価-誤嚥による肺炎予防のために-, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・ほい大健康プログラム, 2018年6月9日, 6月30日, 9月20日, 12月9日, 2019年2月21日, UR千草台団地・あやめ台団地・高洲第1団地・UR高洲第2団地.
- ・オーラルフレイル予防プログラム, 2018年10月～現在に至る, UR花見川団地・さつきが丘団地.
- ・打瀬中学校の職場体験学習, 2018年11月15-16日, 千葉県立保健医療大学.

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・歯科診療補助の実施, 2018年8-10月, 千葉県立保健医療大学歯科診療室.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯周病学会, 日本咀嚼学会, 日本歯科衛生学会, 日本歯科医学教育学会, 日本口腔内科学会, 日本口腔ケア学会, 日本歯科衛生教育学会, 日本口腔衛生学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本歯科衛生教育学会, 評議員, 2016年4月1日～2019年3月31日.
- ・日本歯科衛生教育協議会, 編集委員会 (事前抄録担当委員), 2016年4月1日～2019年3月31日.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・2018年度香取保健所管内食生活改善協議会第1回研修会, 香取保健所管内食生活改善協議会, 歯周病と健康～全身疾患との関係～, 食生活改善推進員対象, 2018年6月1日, 香取市佐原中央公民館大会議室.
- ・日歯認定歯科助手講習会, 千葉県歯科医師会主催「診療室管理・アシスタントワーク・患者対応」, 歯科助手, 2018年9月30日, 千葉県立保健医療大学.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教務委員会, キャンパス・ハラスメント相談員.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・歯科衛生学科会議, 歯科診療室会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

2016年から担当科目の学生の予習者を増加させるために予習シートを導入しているが、本年度も授業評価から74%の学生が予習に取り組んだことが確認できた。しかし復習者が前年度に比べて減少したことからさらなる工夫・改善が必要である。演習・実習科目についても見直しや修正を加えて教育効果が向上するために努力した。「継続・個別支援実習」では、前年度と同様に症例報告をポスター発表形式で実施し、活発な発表、質疑応答が学生主体で行われ、授業評価からも充実した学び得られたことが確認できた。研究では前年度に実施したポートフォリオの手法を取り入れた実習記録の教育的効果について学会発表を行った。また、他の研究でも研究分担者として研究を行った。委員会、部会、学科会議には、必ず出席し、積極的に大学・学科の業務を遂行した。時間的に難しい時期もあるが、歯科衛生士として臨床での患者との関わりは、学生への指導に生かすことができるのでできるだけもっと増やしていきたい。また、2017年度から本学が協定を結んでいるUR団地における「ほい大健康プログラム」（地域高齢者の健康づくりを目的とする）において口の健康プログラムを計8回実施した。歯科衛生学科学生だけでなく看護、栄養、理学療法、作業療法の学生と一緒に実施できたことは大変有意義であった。2018年11月からは研究、地域貢献のために歯科衛生学科教員、学生中心で「オーラルフレイル予防のための健康プログラム」がUR団地で始まり、プログラム実施に向けての準備や参加者への連絡、プログラムの実施などを担当している。地域高齢者と触れ合い、口を通じて健康を支援できることは大きな喜びである。次年度まで継続するので、安全に確実に実施していきたい。

VII 次年度の目標

次年度は、担当科目については、復習を促すような工夫を考え、講義内容、演習・実習内容を改善、充実させたいと考えている。研究では、実習記録の教育的効果について結果をまとめ、論文作成を行いたいと考えている。研究、ボランティア両方の側面を持つ「オーラルフレイル予防のための健康プログラム」についても、高齢者の口腔機能を維持、向上させるために2019年度も継続して実施されることから、研究分担者として準備、実施、結果の集計などを行う。

講師 榎本 輝樹 修士（理学・学術）

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

普及活動としての執筆のほか、講演会講師等の担当や学術論文の投稿などを行うことを目標としていた。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・情報リテラシーⅠ.
 - ・情報リテラシーⅡ.
 - ・体験ゼミナール.
 - ・千葉県の健康づくり.
 - ・環境変化と生態.
 - ・事前指導（栄養学科，1時限分演習を担当）.
 - ・卒業研究.
- 2) 他大学，大学院等の非常勤講師（科目名，大学名）
 - ・生物学，亀田医療大学.
 - ・情報科学，亀田医療大学.
 - ・人間環境科学，川崎看護専門学校.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・左巻健夫編著（分担著，榎本輝樹 他），身近にあふれる「微生物」が3時間でわかる本，2019，明日香出版社，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・榎本輝樹：海と私たちの生活—クジラをめぐる冒険—，理科の探検，2018年6月号，28-29，2018.
- ・榎本輝樹：メスは子育て，オスは狩りが哺乳類では当然なの？，理科の探検，2018年6月号，28-29，2018.
- ・榎本輝樹：すべての酵素はタンパク質でできているの？，理科の探検，2018年6月号，66-67，2018.
- ・榎本輝樹：タケ（竹）は草なの？それとも木なの？，理科の探検，2018年6月号，58-59，2018.
- ・榎本輝樹：海辺の穴を見てみよう，理科の探検，2018年8月号，84-85，2018.
- ・榎本輝樹：科学とオカルト—再興の歴史を探る—，理科の探検，2018年10月号，38-41，2018.
- ・榎本輝樹：海と私たちの生活—東京湾と向き合う—，理科の探検，2018年12月号，28-29，2018.
- ・榎本輝樹：いまだに残るホメオパシー，理科の探検，2019年4月号，66-69，2019.
- ・榎本輝樹：インチキとどう向き合うか？—「愚行権」と放蕩息子の帰還—，理科の探検，2019年4月号，106-109，2018.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・千葉市消防局応急手当インストラクター，2018年3月-2019年4月，千葉市.

2) 千葉県外

- ・雑誌「理科の探検」編集委員. 2018年3月-2019年4月.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本生態学科, 日本ベントス学会, 応用生態工学会, 日本教育工学会.

6 講演会(公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・フィールドミュージアム行徳野鳥観察舎友の会, カニの巣穴を見てみよう. 市民対象. 講師. 2018年9月23日. 行徳自然保護区.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・図書・情報委員会, ネットワーク委員会, 学術推進企画委員会, 自己点検・評価委員会, IR 部会, 共通教育運営会議.

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・歯科衛生学科会議.

VI 評価(成果および改善すべき事項)

科学教育の普及活動として, 引き続き雑誌「理科の探検」の編集委員を担当し, 複数回記事を執筆した. また, 千葉市消防局応急手当インストラクターとして地域の救急救命講習の実施に協力するほか, 県内自然保護団体の講座講師を担当するなどの社会貢献活動を行い, 分担執筆者として書籍執筆を行った. 学術的な論文および貢献の割合を増やしていきたいと考える.

VII 次年度の目標

所属大学の管理運営に協力するほか, 学術論文の投稿等, 博士号取得に向けて自己研鑽を行っていききたい.

講師 鈴鹿 祐子 修士 (学術)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、教育については、引き続き学生が理解しやすい授業、実習ができるよう心がける。研究については、他の業務との兼ね合いを調整し、時間を確保し、新しい課題に着手したい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・チーム歯科医療論.
- ・歯科感染予防学.
- ・発達歯科衛生学 I (小児).
- ・リスクマネジメント論.
- ・演習 I (歯科材料・歯科診療補助).
- ・演習 II (歯科予防処置).
- ・総合演習.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療室総合実習.
- ・継続・個別支援実習.
- ・歯科診療所実習.
- ・発達歯科衛生実習 I (小児).
- ・専門職間の連携活動論.
- ・卒業研究.

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・麻生智子, 麻賀多美代, 鈴鹿祐子, 山中紗都: 歯周病予防処置実習におけるポートフォリオの導入, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1-2日, 新潟.
- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 河野 舞, 荒川 真, 金子 潤, 大川由一: 歯科診療室臨床実習における新たな評価法に関する研究—学生の自己評価と教育強化の活用—, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1-2日, 新潟.
- ・鈴鹿祐子, 山中紗都, 麻賀多美代, 麻生智子, 酒巻裕之: 臨床実習時における学生のインシデント状況と個人特性に関する検討, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1日-2日, 新潟.
- ・麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 大川由一: 片麻痺を有する者における口腔マッサージの効果, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1-2日, 新潟.
- ・日下和代, 大川由一, 鈴鹿祐子, 三和真人, 雄賀多 聡: 言語聴覚士における口腔ケアの実態調査, 第18回千葉県歯科医学大会, 2018年11月11日, 千葉.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・ほい大健康プログラム, 2018年6月9日, 6月30日, 9月20日, 12月9日, 2019年2月21日, UR千草台団地・あやめ台団地・高洲第1団地・UR高洲第2団地.
- ・オーラルフレイル予防プログラム, 2018年10月～現在に至る, UR花見川団地・さつきが丘団地.
- ・打瀬中学校の職場体験学習, 2018年11月15-16日, 千葉県立保健医療大学.

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等, 活動期間, 場所等）

- ・歯科診療補助の実施, 千葉県立保健医療大学歯科診療室.
- ・ヘルシーカムカム2018, 2018年5月27日, 千葉そごう.
- ・歯みがき&でんたるカップミニサッカー大会, 2018年12月9日, 千葉ポートアリーナ.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本障害者歯科学会, ヘルスカウンセリング学会, 日本歯周病学会, 日本歯科衛生学会, 日本咀嚼学会, 日本歯科医学教育学会, 日本口腔内科学会, 日本歯科衛生教育学会, 日本口腔ケア学会.

2) 学会, 学術団体への貢献（学会・学術団体名, 役職, 活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会・評議員, 編集委員会事前抄録担当委員, 2018年4月～2019年3月.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・研究等倫理委員会, 図書・情報委員会, 予備選挙管理委員会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議, 歯科診療室会議.

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等＞

- ・歯科衛生士の業務及び教育についての説明会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育については, できるだけ学生が理解しやすいような授業を心掛けた. 研究は, 学会発表までで論文には至らなかった.

VII 次年度の目標

研究について, 教育, 臨床の業務とのバランスを調整し, 新しい課題についてスムーズに遂行できるように努力したい. また, 教育は引き続き学生が理解しやすい授業ができるように資料作り等, 工夫するように努めたい.

講師 山中 紗都 修士 (障害科学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、講師という職位になって自身が担当する授業も昨年度より増えたため、一層の教育・研究活動に邁進していきたいと考えるが、後期より産休および育児休業の取得予定のため、復帰後の業務が円滑に進むよう準備も怠らないように努めたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・演習 I (歯科材料・歯科診療補助).
 - ・歯科衛生アセスメント論.
 - ・演習IV (歯科保健指導・カウンセリング).
 - ・総合演習.
 - ・歯科診療室基礎実習.
 - ・歯科診療所実習.
 - ・継続・個別支援実習.
 - ・発達歯科衛生実習 I (小児).
 - ・歯科診療室総合実習.
 - ・卒業研究.

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 大川由一: 片麻痺を有する者における口腔マッサージの効果, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1-2日, 新潟.
- ・鈴鹿祐子, 山中紗都, 麻賀多美代, 麻生智子, 酒巻裕之: 臨床実習時における学生のインシデント状況と個人特性に関する検討, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1日-2日, 新潟.
- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 河野 舞, 荒川 真, 金子 潤, 大川由一: 歯科診療室臨床実習における新たな評価法に関する研究—学生の自己評価と教育強化の活用—, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1-2日, 新潟.
- ・麻生智子, 麻賀多美代, 鈴鹿祐子, 山中紗都: 歯周病予防処置実習におけるポートフォリオの導入, 第9回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2018年12月1日-2日, 新潟.
- ・西脇有紗, 金子 潤, 山中紗都, 佐々木理加: ホワイトニングにおける歯冠色のパーソナルカラーコーディネートに関する研究. 第29回日本歯科審美学会学術大会, 2018年9月29-30日, 川越.

4 学術集会での招待講演 (教育講演や基調講演) やシンポジウム等 (学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・第67回日本口腔衛生学会・総会, シンポジウム “すべてのがん患者さんが口腔の症状で困らないように - がん支持療法としての口腔ケア -”, 2018年5月, 札幌

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究, 終末期・ターミナルケアに関わる歯科衛生士の体験に関する質的研究, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

・歯科診療補助の実施、2013年10月～2018年9月、千葉県立保健医療大学歯科診療室。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本歯科衛生学会、日本歯科衛生教育学会、日本歯科医学教育学会、日本歯周病学会、日本有病者歯科医療学会、日本歯科審美学会。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・社会貢献委員会（2018年9月まで）、自己点検・評価委員会、報告書作成等部会（2018年9月まで）。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・歯科衛生学科会議（2018年9月まで）、歯科診療室会議（2018年9月まで）、
・歯科衛生学科3年生副チューター（2018年9月まで）。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

10月より産休および育児休業を取得し、2018年度は前期のみの活動となった。

初めて担当をした歯科診療室基礎実習では、同じく担当となる教員をはじめ、前年度に担当をされていた教員に助言を貰いながら実習に臨むことができたと考えるが、妊娠に伴う体調不良等でサポートしてもらった所も多かった。また、後期の担当科目については携わることができなかった。

研究においては、学内共同研究にて「終末期、ターミナルケアに関わる歯科衛生士の体験に関する質的研究」をテーマにしてデータの収集に努めた。

学内委員会についても、前期のみ務めとなった。

VII 次年度の目標

2019年度も引き続き育児休業取得予定である。復帰後の業務を念頭に置き、学科教員と情報を共有をしながら準備を進めたいと考える。

助教 木戸田 直実 修士（口腔科学）

対象期間：2018年9月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は後期からの着任であるため、教育に関しては、学生が円滑な実習が行えるよう支援し、歯科診療室を地域貢献の一助となるようにする。研究に関しては、着任前より取り組んでいたものを論文投稿する。また大学運営に関してもできる限り貢献することを目標とした。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・歯科診療室基礎実習.
 - ・歯科診療室総合実習.
 - ・歯科診療所実習.
 - ・発達歯科衛生実習Ⅱ（成人・高齢者）.
 - ・卒業研究.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・全国歯科衛生士教育協議会監修，木戸田直実，他：最新歯科衛生士教本用語集 ポケット版，2019，医歯薬出版，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・木戸田直実，相田 潤，三浦宏子，小坂 健：介護老人保健施設の管理職が口腔健康管理に関心の高い施設は，口腔衛生管理体制加算を導入しているのか？，老年歯科医学，33，3，335-343，2018.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・ほい大健康プログラム，2018年9月20日，UR 千草台団地・あやめ台団地.
 - ・オーラルフレイル予防プログラム，2018年10月～現在に至る，UR 花見川団地・さつきが丘団地.
 - ・打瀬中学校の職場体験学習，2018年11月15-16日，千葉県立保健医療大学.

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・歯科診療補助の実施，2018年9月～現在に至る，千葉県立保健医療大学歯科診療室.

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本歯科衛生学会，日本歯科衛生教育学会，老年歯科医学会，日本公衆衛生学会.

V 管理・運営記録

- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・ 歯科衛生学科会議. 歯科診療室会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

初年度であったため、教育では状況把握をすることが中心となっしまい、十分な成果をあげることができなかった。大学運営に関しても同様であった。社会貢献では歯科診療室での歯科診療、ほい大健康プログラムを通じ、地域住民に対して貢献ができたと考える。研究に関しては、論文発表をすることができた。

VII 次年度の目標

次年度は、学生が実習目標を達成できるよう、より質の高い実習となるように準備や指導を行う。また歯科診療室の円滑な運営を行い、学生教育や地域住民に対する社会貢献の場を提供できるよう、自らの役割を遂行する。

リハビリテーション学科
理学療法学専攻

教授 兼 健康科学部長 雄賀多 聡 博士 (医学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、学部長としての2年目であり、大学全体の管理・運営面、特に学内組織改編に注力し、年度内にまとめる。また、同時に教育研究活動のレベルを維持する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・リハビリテーション概論.
- ・人体の構造 I (骨・関節・筋).
- ・人体の構造実習.
- ・医学総論.
- ・整形外科学総論.
- ・整形外科学各論.
- ・理学療法測定学.
- ・臨床実習 II.
- ・臨床実習 III.
- ・臨床実習 IV.
- ・卒業研究.
- ・病態学 II.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・大谷拓哉, 三和真人, 雄賀多聡, 竹内弥彦, 高杉潤, 太田恵, 藤尾公哉: 起き上がり動作における関節運動の分析, 理学療法科学, 33, 4, 713-718, 2018.
- ・大谷拓哉, 三和真人, 雄賀多聡, 竹内弥彦, 高杉潤, 藤尾公哉: 体幹回旋を伴う床からの起き上がり動作における関節運動の分析, 千葉保医大紀要, 10, 1, 51-59, 2019.
- ・植田麻実, 島田美恵子, 井上裕光, 越川求, 神田みなみ, 小川真, 長谷川卓志, 東本恭幸, 榎本輝樹, 雄賀多聡, 高橋伸佳, 豊島裕子: 初年次教育における課題に関する教員の意識調査, 千葉保医大紀要, 10, 1, 61-71, 2019.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・大谷拓哉, 三和真人, 雄賀多聡, 竹内弥彦, 高杉潤, 藤尾公哉: ベッドからの起き上がり動作における若年健常者の身体運動パターンの分類, 第37回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 2018.9.29-30, 宇都宮.
- ・江戸優裕, 雄賀多聡, 藤尾公哉, 竹内弥彦, 高杉潤, 大谷拓哉, 三和真人: ロコモティブシンドロームの年代別該当率と関連因子～本学大学祭におけるロコモ度測定会の結果から～, 第24回千葉県理学療法士学会, 2019年3月17日, 千葉.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究, 地域在住高齢者の自助・互助活動を支援する手法の開発, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・ロコモ度測定会、2018年10月7-8日、本学第10回いずみ祭。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・千葉医学会、日本整形外科学会、東日本整形災害外科学会、関東整形災害外科学会、日本脊椎脊髄病学会、日本小児整形外科学会、日本職業・災害医学会、日本骨粗鬆症学会、日本腰痛学会、日本足の外科学会、日本抗加齢医学会、日本リハビリテーション医学会、日本運動器科学会、日本小児股関節研究会、千葉県ロコモティブシンドローム研究会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本職業・災害医学会 評議員、2018年4月～2019年3月。

7 その他（国際交流）

- ・米国ウィスコンシン州友好使節団（教育グループ）の本学訪問時、ミーティングの司会進行、2018年11月28日。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・評議会、大学運営会議、教授会、自己点検・評価委員会、キャンパス・ハラスメント防止対策委員会、将来構想検討委員会、管理運営ワーキンググループ、入試委員会、教員再任審査委員会、防災対策委員会、研究等倫理委員会、研究等倫理委員会動物部会、共通教育運営会議、特色科目委員会、FD委員会、国際交流委員会、教員資格審査委員会（栄養学科教授、精神看護学教授、理学療法学専攻准教授、公衆衛生看護助教、作業療法学専攻・共通教育教授、栄養学科准教授、成人看護教授、栄養学科講師、栄養学科教授）

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、理学療法学専攻会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

健康科学部長2年目として、全学的管理運営に注力した結果、2019年度より、学内の委員会構成等の組織が大きく改編されることとなった。本学的意思決定プロセスの明確化が期待される。

VII 次年度の目標

理学療法学専攻所属の一教授として、教育・研究の-effortを増やすが、管理運営部門の総括委員長としての全学的管理運営にも継続して注力する。

教授 兼 リハビリテーション学科理学療法専攻長 三和 真人 博士 (障害科学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、大学各委員会の参加は勿論、教授会での発展的な意見をのべることを心掛けたい。2016年度に「国際交流委員会」を立ち上げた責任上、今後の国際交流事業を進めることに協力したい。今年度から学術推進企画委員長に就任し、本学の学術推進事業である「イブニングセミナー」と「大学共同研究助成」を堅持したい。

残念ながら、小規模の大学であるが故か、国際学会等での発表や参加が少なく、海外での研究発表や参加が積極的に行われることを期待したかった。個人的には、研究データをまとめて学会発表等に結びつけてきたが、今年度は論文の掲載にまで至らず、努力不足を痛感している。なお一層、大学教職員として研究論文を作成していく予定である。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・理学療法概論.
- ・人体の機能実習.
- ・運動学実習.
- ・機能解剖学.
- ・理学療法臨床測定学.
- ・日常生活活動学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・物理療法学.
- ・理学療法研究方法論.
- ・運動器障害理学療法学特論.
- ・神経系障害理学療法学特論.
- ・老年期障害理学療法学.
- ・生体機能計測学.
- ・理学療法発展領域論.
- ・理学療法技術論.
- ・臨床実習Ⅰ (体験実習).
- ・臨床実習Ⅱ (評価実習).
- ・臨床実習Ⅲ (総合実習).
- ・臨床実習Ⅳ (総合実習).

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・大谷拓哉, 三和真人, 雄賀多聡, 竹内弥彦, 高杉潤, 太田恵, 藤尾公哉: 起き上がり動作における関節運動の分析, 理学療法科学, 33, 4, 713-718, 2018.
- ・大谷拓哉, 三和真人, 雄賀多聡, 竹内弥彦, 高杉潤, 藤尾公哉: 体幹回旋を伴う床からの起き上がり動作における関節運動の分析, 千葉県立保健医療大学紀要, 10, 1, 51-52, 2019.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・大谷拓哉, 三和真人, 雄賀多聡, 竹内弥彦, 高杉潤, 藤尾公哉: ベッドからの起き上がり動作における若年健常者の運動パターンの分類. 第37回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 2018年9月29-30日, 宇都宮.
- ・江戸優裕, 雄賀多聡, 藤尾公哉, 竹内弥彦, 高杉潤, 大谷拓哉, 三和真人: ロコモティブシンドロームの年代別該当率と関連因子〜本学大学祭におけるロコモ度測定会の結果から〜, 第24回千葉県理学療法士学会, 2019年3月17日, 千葉

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2018年度学内共同研究助成, 地域高齢者の転倒予測—転倒予測の(AIによる)汎用化へ—, 三和真人, 雄賀多 聡, 大谷拓哉, 小川真司, 高橋宣成, 眞壁 寿, 山口高志

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等. 活動期間. 場所等)

- ・社会福祉法人みやげ島あじさいの会. 施設利用者の理学療法評価とスタッフ教育指導. 2018年4月1日〜2019年3月31日. 三宅島

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称. 委員名称. 活動期間)

- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構. 評価認定委員会評価委員. 2018年4月1日〜2019年3月31日

4 職能団体委員等 (職能団体名称. 委員名称. 活動期間)

- ・一般社団法人千葉県理学療法士会. 理事. 2018年4月1日〜2019年3月31日
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会. 研究倫理委員会. 2018年7月1日〜2019年3月31日
- ・公益社団法人日本理学療法士協会. 2018年度代議員. 2018年4月1日〜2019年3月31日

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本リハビリテーション医学会. 日本理学療法士協会. 日本臨床神経生理学学会. 日本電気生理運動学学会. 日本運動療法学会. 日本体力医学会. 世界理学療法士学会. 世界電気生理運動学学会. 全国大学肺理学療法研究会. 全国大学理学療法教育学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名. 役職. 活動期間)

- ・日本理学療法士協会. 第1回日本基礎理学療法学会抄録査読委員. 2018年9月〜2019年3月31日
- ・日本リハビリテーション医学会. 第55回日本リハビリテーション医学会学術集会抄録査読委員. 2018年10月〜2019年3月31日

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称. 主催 団体名称. 講演テーマ等. 対象. 開催日. 時場所)

- ・新人教育プログラム研修会講師 (千葉県理学療法士会. 「理学療法と倫理」. 新人教育プログラム受講者. 2019年1月27日. 東都医療大学幕張キャンパス

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・大学運営会議. 教授会. FD委員会. 将来構想検討委員会. 自己点検・評価委員会. 入試委員会. 学術推進企画委員会. 国際交流委員会.
- ・新々カリキュラム検討部会.
- ・教員資格審査委員会 (歯科衛生学科 助教) 2018年1月〜2018年6月. 教員資格審査委員会 (看護学科 教授) 平成4月応募なし. 教員資格審査委員会 (看護学科 助教) 2018年6月応募なし. 教員資格審査委員会 (共通教育 准教授) 2018年5

月～10月. 教員資格審査委員会(看護学科 助教) 2018年6月～2018年12月. 教員資格審査委員会(栄養学科 准教授) 2018年9月～12月. 教員資格審査委員会(栄養学科 教授) 2018年11月応募なし. 教員資格審査委員会(栄養学科 教授) 2018年12月～2019年3月. 教員資格審査委員会(看護学科 准教授) 2019年1月～2019年3月. 教員資格審査委員会(栄養学科 助教) 2019年2月～2019年5月. 教員資格審査委員会(看護学科 助教) 2019年3月～2019年7月.

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・理学療法学専攻長. リハビリテーション学科会議. 理学療法学専攻会議.

VI 評価(成果および改善すべき事項)

今日までに積み残した課題は、本年度2名の新規教員を採用することができ、医系教員も含め8人体制になったと思った矢先に教員1名の退職があり、現在専門職6名、医系教員1名の7人体制で運営している現状がある。専攻の教員整備を早急に進めたい。小人数の中で互に協力しあって、本学の数多くある委員会や部会をいくつも掛け持ちしているものの限界があり、専攻としての組織劣化は免れない。早々に教員組織を整理し、本専攻の落ち着いた環境下で組織運営を行いたい。これは、専攻の各教員が、臨床研修ができない中、教育・研究に傾注できる環境を設けることが、専攻長としての使命であると考えている。

VII 次年度の目標

今年度から、研究データの積み残しを整理するように心掛けたい。空いた時間を有効に使い、研究論文を作成するこ目標にする。最低2本以上の原著論文、勿論医学系の雑誌に投稿し、掲載されるように努力する。

大学設置から今年度までに全く進まなかった大学院設置に取り組みたい。本専攻の教員募集の基準を高く設定し、いつでも教員の誰もが大学院教育指導ができる体制を早く整えているものの、討てど響かぬ大きな組織が存在している。唯時間が過ぎていくばかりでは、少ない専任教員が疲弊してしまい、国家試験の100%合格率の維持や7割、8割の千葉県内への学生の定着率を維持することは極めて困難となろう。優秀な教員の流出は避けようはないが、とにかく専任教員の流出を極力防ぐことを目標にしたい。

准教授 竹内 弥彦 博士 (工学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

ディプロマ・ポリシーを意識し、積み上げ式の学習効果が得られるよう、授業内容を工夫する。研究活動においては、社会へ有用な情報発信ができるよう科研費研究で得たデータを解析し、論文を執筆・投稿する。社会貢献活動においては、自身の専門性を県民に還元しつつ、職能団体の役員として県民の介護予防・健康増進に貢献できる専門職育成事業を推進する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・運動学Ⅰ.
- ・運動学Ⅱ.
- ・臨床運動学.
- ・運動学実習.
- ・機能解剖学.
- ・運動療法学.
- ・物理療法学演習.
- ・生体機能計測学
- ・老年期障害理学療法学.
- ・運動器障害理学療法学特論.
- ・理学療法研究方法論.
- ・理学療法概論.
- ・臨床実習Ⅰ(体験実習).
- ・臨床実習Ⅱ(評価実習).
- ・臨床実習Ⅲ(総合実習).
- ・臨床実習Ⅳ(総合実習).
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・Yuri Yoshida, Motohiro Matsukawa, Yahiko Takeuchi, Kaiwi Chung-Hoon: A New Role in Physical Therapy, Serving as Community Health Providers in a Super-Aged Society, GeriNotes, 25, 4, 25-27, 2018.
- ・大谷拓哉, 三和真人, 雄賀多聡, 竹内弥彦, 高杉潤, 太田恵, 藤尾公哉: 起き上がり動作における関節運動の分析, 理学療法科学, 33, 4, 713-718, 2018.

3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等，本人下線)

- ・川村悠, 多田大和, 山下剛司, 島田美恵子, 竹内弥彦, 岡村太郎, 雄賀多聡: 地域の通いの場を立ち上げ、運営するシニアリーダー (介護予防推進ボランティア) の実態調査, 第5回日本予防理学療法学会学術大会, 2018年10月20日, 福岡.
- ・多田大和, 川村悠, 山下剛司, 島田美恵子, 竹内弥彦, 岡村太郎, 雄賀多聡: 地域住民主体の体操教室運営 (シニアリーダー体操) における活動の阻害因子について-自記式質問紙長鎖による検討, 第5回日本予防理学療法学会学術大会,

2018年10月20日, 福岡.

- ・竹内弥彦, 藤尾公哉: 支持基底面の狭小条件下における高齢者の脊柱形態と頭部動揺との関連性, 日本生理人類学会第78回大会, 2018年10月27日, 東京.
- ・竹内弥彦, 藤尾公哉: 高齢者のステップ反応出現時における圧中心の逆応答距離と股関節モーメントとの関連性, 第23回日本基礎理学療法学会学術大会, 2018年12月15日, 京都.
- ・島田美恵子, 岡村太郎, 雨宮有子, 大川由一, 麻賀多美代, 竹内弥彦, 雄賀多聡・他: 地域住民による自助・互助活動への集団別支援について, 第57回千葉県公衆衛生学会, 2019年1月29日, 千葉.
- ・竹内弥彦, 藤尾公哉, 江戸優裕: 支持基底面の狭小条件下における高齢者の体節別質量中心動揺の特性, 第24回千葉県理学療法士学会, 2019年3月17日, 千葉.
- ・江戸優裕, 雄賀多聡, 藤尾公哉, 竹内弥彦, 高杉潤, 大谷拓哉, 三和真人: ロコモティブシンドロームの年代別該当率と関連因子〜本学大学祭におけるロコモ度測定会の結果から〜, 第24回千葉県理学療法士学会, 2019年3月17日, 千葉.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 補償的バランス反応における頭部制御能の加齢変化と脊柱形態・可動域との関連性, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県介護保険関係団体協議会. 幹事. 2014年4月〜現在.
- ・一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構. 評価員. 2016年2月〜現在.
- ・千葉市介護認定審査会. 予備委員. 2017年4月〜現在.

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・一般社団法人 千葉県理学療法士会. 理事. 2011年6月〜現在.
- ・一般社団法人 千葉県理学療法士会. 副会長. 2013年6月〜現在.
- ・公益社団法人 日本理学療法士協会. 代議員. 2014年6月〜現在.
- ・一般社団法人 千葉県理学療法士会. 学会検討委員会委員長. 2017年6月〜現在.
- ・一般社団法人 千葉県理学療法士会. 養成校ネットワーク連携部会 担当副会長. 2017年6月〜現在.
- ・一般社団法人 千葉県理学療法士会. 生涯学習システム 担当副会長. 2017年6月〜現在.
- ・公益社団法人 日本理学療法士協会. 介護予防・健康増進事業 都道府県コーディネーター. 2018年2月〜現在.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会, 臨床歩行分析研究会, 日本人間工学会, 日本生理人類学会, 理学療法科学学会, バイオメカニズム学会, International Association of Physiological Anthropology.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・バイオメカニズム学会. 学会誌編集委員. 2017年4月〜
- ・日本生理人類学会誌. 論文査読. 2018年7月
- ・人間工学. 論文査読. 2018年12月
- ・第5回日本予防理学療法学会学術大会. 演題抄録査読. 2018年4月
- ・第37回関東甲信越ブロック理学療法士学会. 演題抄録査読. 2018年5月
- ・第5回日本地域理学療法学会学術大会. 演題抄録査読. 2018年7月
- ・第23回日本基礎理学療法学会学術集会. 演題抄録査読. 2018年8月
- ・第7回日本支援工学理学療法学会学術集会. 演題抄録査読. 2018年8月
- ・第37回関東甲信越ブロック理学療法士学会. 一般演題座長. 2018年9月

・第5回日本地域理学療法学会学術大会。一般演題座長。 2018年12月

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉市緑区シニアリーダー連絡会。千葉市地域包括ケア推進課。ロコモティブシンドローム。千葉市民。2018年5月17日。千葉市緑区保健福祉センター
- ・千葉市若葉区シニアリーダー連絡会。千葉市地域包括ケア推進課。ロコモティブシンドローム。千葉市民。2018年5月25日。千葉市若葉区保健福祉センター
- ・第1回千葉県認知症対策推進セミナー。県高齢者福祉課。認知症予防運動～コグニサイズの実践～。保健医療従事者。2018年5月31日。千葉県教育会館
- ・いちほら市民大学専門講座。市原市教育委員会。認知機能の低下予防～コグニサイズを体験しよう～。市原市民。2018年8月24日。サンプラザ市原
- ・千葉県理学療法士新人教育プログラム。千葉県理学療法士会。協会組織と生涯学習システム。理学療法士。2018年9月2日。千葉県教育会館
- ・八千代市ふれあい大学校。八千代市長寿支援課。認知機能の低下予防～コグニサイズを体験しよう～。八千代市民。2018年10月26日。八千代市地域福祉センター
- ・健康体力づくり指導者研修会。県健康づくり支援課。足腰元気にロコモ対策。一般県民。2018年10月28日。千葉県総合スポーツセンター
- ・長生保健所管内食生活改善協議会中央研修会。長生保健所地域保健福祉課。認知機能の低下予防～コグニサイズを体験しよう～。一般県民。一ノ宮保健センター
- ・野田市民講演会。野田市保健福祉部。ロコモティブシンドローム～今日から始めるロコモ予防～。野田市民。2018年11月20日。野田市関宿中央公民館
- ・旭市介護予防講演会。旭市高齢者福祉課。運動による認知症予防～コグニサイズの紹介～。旭市民。2019年3月18日。旭市飯岡保健センター

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・総務・企画委員会、教務委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、理学療法学専攻会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

授業内容を工夫した効果については、学生による授業評価アンケートも参考にしながら、継続した検証を行う。研究活動については、筆頭著者として論文公表ができなかったことは反省したい。社会貢献活動においては、一般県民を対象とした「運動による認知症予防」や「ロコモティブシンドローム予防」をテーマに、本年度も継続した講演を実施することができた。

VII 次年度の目標

ディプロマ・ポリシーを意識し、積み上げ式の学習効果が得られるよう、授業内容の工夫を継続する。研究活動においては、社会へ有用な情報発信ができるよう科研費研究で得たデータを解析し、論文を執筆・投稿する。社会貢献活動においては、講演活動を軸に自身の専門性を県民に還元しつつ、職能団体の役員として県民の介護予防・健康増進に貢献できる専門職育成事業を推進する。

講師 高杉 潤 博士 (医学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、教育活動、研究活動、学術活動に従事し、学生の教育および後進の育成を図る。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・千葉県の健康づくり.
- ・理学療法測定学.
- ・理学療法臨床測定学.
- ・神経系障害評価学.
- ・神経系障害理学療法学.
- ・神経系障害理学療法学演習.
- ・神経系障害理学療法学特論.
- ・老年期障害理学療法学.
- ・運動療法学.
- ・臨床運動学.
- ・理学療法研究方法論.
- ・生体機能計測学.
- ・臨床実習 I (体験実習).
- ・臨床実習 II (評価実習).
- ・臨床実習 III (総合実習).
- ・臨床実習 IV (総合実習).
- ・卒業研究.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所.)

- ・高杉潤：高次脳機能障害，内山靖編，標準理学療法学—理学療法評価学 第3版一，2019，医学書院，東京.
- ・高杉潤：感覚障害，吉尾雅春・森岡周編，標準理学療法学—神経理学療法学 第2版一，2018，医学書院，東京.

2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・加藤将暉，高杉潤，市川雄大，山咲桂子，市川聖子，足立真理，後藤恭子，中村純子，大賀辰秀，井田雅祥：Opalski 症候群と ocular lateropulsion を併発した延髄外側梗塞例：長期経過で仕事復帰に至った症例，脳科学とリハビリテーション，18， 9-18，2018.

3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等，本人下線)

- ・高杉潤，武田湖太郎，杉山聡，加藤将暉，松澤大輔：鏡像の運動観察で運動を誘発する：健常人におけるミラーセラピーの基礎研究，第25回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会，2018年8月19日，千葉.
- ・加藤将暉，高杉潤，市川雄大，山咲桂子，市川聖子，足立真理，後藤恭子，大賀辰秀：重度の ocular lateropulsion が長期経過で改善し，仕事復帰に至った延髄外側梗塞例，第25回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会，2018年8

月 19 日, 千葉.

- ・杉山聡, 高杉潤: 病棟内でも道に迷う重度地理的障害を呈した両側後大脳動脈梗塞例, 第 25 回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2018 年 8 月 19 日, 千葉.
- ・飯川雄, 高杉潤: 注意障害を主症状とした左島皮質梗塞例, 第 25 回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2018 年 8 月 19 日, 千葉.
- ・江原真人, 高杉潤: 小脳の remote effect により pure ataxia を呈した内包後脚例, 第 25 回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2018 年 8 月 19 日, 千葉.
- ・奈村英之, 高杉潤: Ataxic hemiparesis を呈する脳幹梗塞例の長期経過, 第 25 回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2018 年 8 月 19 日, 千葉.
- ・大木裕子, 高杉潤, 杉山直美, 松本みなみ: 長期経過により性的逸脱行為の改善を認めた前頭葉眼窩部損傷例, 第 25 回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2018 年 8 月 19 日, 千葉.

6 受賞・特許

- ・学生研究賞 公益社団法人ライオン歯科研究所賞 2018 年 9 月 18 日
伊藤有花, 酒巻裕之, 高杉潤, 日下和代: (受賞演題) 「ガム咀嚼周期の違いが認知機能および前頭前野の神経活動に及ぼす効果について」

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県理学療法士会 理事, 千葉県理学療法士会 研究支援部部長, 日本理学療法士協会 代議員

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・脳機能とリハビリテーション研究会, ・北米神経科学会, ・日本神経科学会, ・日本臨床神経生理学会, ・日本神経心理学会, ・日本高次脳機能障害学会, ・日本理学療法士協会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・脳機能とリハビリテーション研究会, 会長
- ・脳機能とリハビリテーション研究会学術誌「脳科学とリハビリテーション」, 編集協力部員
- ・千葉県理学療法士会学術誌「理学療法の科学と研究」, 査読協力委員
- ・第 37 回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 演題査読
- ・脳科学とリハビリテーション, 投稿論文査読
- ・第 24 回千葉県理学療法士学会, 演題査読
- ・第 24 回千葉県理学療法士学会, 一般演題「神経疾患 I」座長
- ・第 25 回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 教育講演・座長

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・進路支援委員会, 報告書作成等部会, 研究等倫理委員会, 入試実施部会, 予備選挙管理委員会, 開学 10 周年記念事業実行委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議, 理学療法学専攻会議, 第 3 学年 (7 期生) 担任, 臨床実習 II・III・IV 統括セミナー, 症例報告会企画・運営担当, 臨床実習 OSCE, 実技チェックテスト担当.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

学生の教育活動に加え、第4学年の担任として、専攻内の管理・運営に注力した。また種々の委員会、部会に参画し、大学運営にも注力した。学術関連では、千葉県理学療法士会の学術局理事および機能とリハビリテーション研究会会長として、リハビリテーション関連職種、千葉県内の理学療法士の育成に従事した。

VII 次年度の目標

千葉県立保健医療大学での9年間の教員経験、学びを活かして、次の東都大学でも、研究、学術、教育活動を進めていく。

講師 大谷 拓哉 博士 (保健学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、2017年度に実施した研究成果を学会および学術雑誌上で広く公表する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・理学療法測定学.
- ・理学療法測定学演習.
- ・運動学実習.
- ・物理療法学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・理学療法臨床測定学.
- ・理学療法研究方法論.
- ・老年期障害理学療法学.
- ・神経系障害理学療法学.
- ・神経系障害理学療法学特論.
- ・機能解剖学.
- ・生体機能計測学.
- ・臨床実習Ⅰ.
- ・臨床実習Ⅱ.
- ・臨床実習Ⅲ.
- ・臨床実習Ⅳ.
- ・卒業研究.

III 研究記録

1 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・大谷拓哉, 三和真人, 雄賀多聡, 竹内弥彦, 高杉潤, 太田恵, 藤尾公哉：起き上がり動作における関節運動の分析, 理学療法科学, 33, 4, 713-718, 2018.
- ・大谷拓哉, 三和真人, 雄賀多聡, 竹内弥彦, 高杉潤, 藤尾公哉：体幹回旋を伴う床からの起き上がり動作における関節運動の分析, 千葉県立保健医療大学紀要, 10, 1, 51-59, 2018.

2 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・大谷拓哉, 三和真人, 雄賀多聡, 竹内弥彦, 高杉潤, 藤尾公哉：ベッドからの起き上がり動作における若年健常者の運動パターンの分類, 第37回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 2018年9月29-30日, 宇都宮.

3 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究, 若年健常者におけるベッドからの起き上がり動作時の関節運動分析, 研究代表者.
- ・学内共同研究, 地域高齢者の転倒予防へのシステム応用—転倒予測の汎用化—, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 職能団体委員等(職能団体名称、委員名称、活動期間)

・千葉県理学療法士会、学術局学術誌編集部長、2018年4月1日～2019年3月31日

2 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本理学療法士学会、日本基礎理学療法学会、コ・メディカル形態機能学会、理学療法科学学会、日本ヘルスプロモーション理学療法学会、

2) 学会、学術団体への貢献(学会・学術団体名、役職、活動期間)

- ・千葉県理学療法士会 学術誌「理学療法の科学と研究」、論文査読者、2018年10月1日～2018年10月31日
- ・第23回日本基礎理学療法学会学術大会、演題査読者(3題)、2018年7月27日～2018年8月1日
- ・第23回日本基礎理学療法学会学術大会 座長、2018年12月15日
- ・第24回千葉県理学療法士学会 座長、2019年3月17日

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

・学生委員会、ネットワーク委員会、学術推進企画委員会、国際交流委員会、自己点検・評価実施推進部会、IR部会、紀要編集部会、学内共同研究審査部会、

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

・臨床実習担当

VI 評価(成果および改善すべき事項)

前年度計測した起き上がり動作に関するデータをまとめ、学術誌上(理学療法科学、千葉県立保健医療大学紀要)で報告することができた。また、昨年度に引き続き、千葉県理学療法士会の学術誌編集部長として活動し、千葉県士会学術誌「理学療法の科学と研究」第10巻を発行することができた。

VII 次年度の目標

退職した職員の講義を引き継ぎ、学生の不利益とならぬよう、良質な講義を提供する。

助教 藤尾 公哉 博士 (学術)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2名の教員欠員を穴を埋めるべく、今年度以上に教育活動およびその他専攻内外の業務を担う。特に、助教業務は着任2年目にして単独で行うことが求められるため、事故のないように慎重に取り組む必要がある。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミ.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・運動学 I.
- ・機能解剖学.
- ・運動療法学.
- ・人体の機能実習.
- ・運動器障害理学療法学.
- ・運動学実習.
- ・理学療法測定学演習.
- ・老年期障害理学療法学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・生体機能計測学.
- ・理学療法研究方法論.
- ・神経系障害理学療法学演習
- ・理学療法発展領域論
- ・臨床実習 I (体験実習).
- ・臨床実習 II (評価実習).
- ・臨床実習 III (総合実習).
- ・臨床実習 IV (総合実習).
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・ Kimiya Fujio, Hiroki Obata, Noritaka Kawashima and Kimitaka Nakazawa: Presetting of the Corticospinal Excitability in the Tibialis Anterior Muscle in Relation to Prediction of the Magnitude and Direction of Postural Perturbations, *Frontiers in Human Neuroscience*, 13, 4, 2019.

3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等，本人下線)

- ・ 藤尾公哉，河島則天：足圧中心動揺に基づくヒト立位姿勢の分類，第24回千葉県理学療法士協会学術大会，2019年3月17日，千葉.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名，研究テーマ，研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金 若手研究(B), 二足立位を制御する予測の神経基盤, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県理学療法士会 学術局学術編集部 2018年4月1日～2019年3月31日
- ・2018年度第7回千葉県がんのリハビリテーション研修会実行委員 2018年4月1日～2019年3月31日

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本臨床神経生理学学会, 日本運動疫学学会, モーターコントロール研究会.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・図書・情報委員会, 社会貢献委員会, 入試評価部会, 専門職間の連携活動論作業部会, 体験ゼミ作業部会, 学長候補者学内意向調査委員会.

VI 評価(成果および改善すべき事項)

本年度より新規に担当した教科, 臨床実習関連業務, また, 前年度から引き続き担当した国家試験対策, 卒業論文編集業務について, 滞りなく完遂することができた. 研究活動については, 共同研究として約50名を対象とした1つの実験を完遂することができた. 自身の研究課題は, 前年度よりも繰り返し実験・解析に取り組むことができたものの, 計画よりも停滞傾向であるため今後の取り組みに改革が必要である.

VII 次年度の目標

2019年度は, 着任3年目を迎えるため, 教育活動については一層の質の向上を意識して取り組む. 具体的には, 講義内容の刷新と, 他学を含めた大学教員からの情報収集を行う. 研究活動については, 量的に取り組み時間が不足しがちであるため, より優先度を高くすることで対応する.

助教 江戸 優裕 博士 (保健医療学)

対象期間：2018年9月1日～2019年3月31日まで

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・機能解剖学.
 - ・日常生活活動学演習.
 - ・物理療法学.
 - ・物理療法学演習.
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・卒業研究.
- 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)
 - ・スポーツ学科コース対象講座 (文京学院大学女子 高等学校).

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・水田諒, 篠崎みのり, 蛭田綾, 山下信大, 江戸優裕, 具志堅敏: 体幹回旋に伴う胸郭の並進動態に肋間筋ストレッチが与える影響, 理学療法科学, 33, 5, 807-810, 2018.
- ・Masahiro Edo, Sumiko Yamamoto, Toshikazu Yonezawa: Factors that determine kinematic coupling behavior of calcaneal pronation/supination and shank rotation during weight bearing: An analysis based on foot bone alignment using radiographic images, Journal of Physical Therapy Science, 30, 10, 1215-1220, 2018.
- ・Masahiro Edo, Sumiko Yamamoto: Changes in kinematic chain dynamics between calcaneal pronation/supination and shank rotation during load bearing due to ankle position during plantar and dorsal flexion, Journal of Physical Therapy Science, 30, 12, 1479-1482, 2018.
- ・江戸優裕, 上條史子, 佐藤俊彦: 歩行時の膝関節ストレスに影響する足部・体幹運動の解明と慣性センサによる計測手法の構築, 文京学院大学総合研究所紀要, 9, 211-222, 2019.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・江戸優裕, 上條史子, 佐藤俊彦: 演算処理ソフト BodyBuilder を用いた関節角度計算における最適なプログラムの検討, 第37回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 2018年9月29日-30日, 栃木県総合文化センター.
- ・山下信大, 篠崎みのり, 水田諒, 蛭田綾, 江戸優裕, 具志堅敏: 体幹回旋に伴う胸郭の並進動態に肋間筋ストレッチが及ぼす影響, 第37回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 2018年9月29日-30日, 栃木県総合文化センター.
- ・谷畑和幸, 佐々木瞭, 小林ひかり, 廣澤暁, 江戸優裕: 肩関節複合体の運動と立位姿勢制御の関係: 投球動作コッキング期を想定した検討, 第6回日本運動器理学療法学会学術大会, 2018年12月15日-16日, 福岡国際会議場.
- ・江戸優裕, 上條史子, 佐藤俊彦: 歩行立脚期における Plug-in-Gait model とジャイロセンサによる体幹・下肢関節角度の計測値の類似度分析, 第23回日本基礎理学療法学会学術大会, 2018年12月15日-16日, 京都テルサ.
- ・木村友紀, 西澤岳, 瀧澤彩香, 松村勇人, 江戸優裕: 体幹肢位を変化させた座位における姿勢制御と呼吸機能の関連性, 第23回日本基礎理学療法学会学術大会, 2018年12月15日-16日, 京都テルサ.
- ・飯田開, 江戸優裕: 歩行時の足圧中心軌跡における左右差の検討: 足部機能との関連性, 第23回日本基礎理学療法学会学術大会, 2018年12月15日-16日, 京都テルサ.
- ・佐藤俊彦, 江戸優裕, 上條史子: 歩行時の足部動態解析: 慣性センサを用いた検討, 第23回日本基礎理学療法学会学術

大会, 2018年12月15日-16日, 京都テルサ.

- ・江戸優裕, 雄賀多聡, 藤尾公哉, 竹内弥彦, 高杉潤, 大谷拓哉, 三和真人: ロコモティブシンドロームの年代別該当率と関連因子: 本学大学祭におけるロコモ度測定会の結果から, 第24回千葉県理学療法士学会, 2019年3月17日, 千葉県立保健医療大学.
- ・竹内弥彦, 藤尾公哉, 江戸優裕: 支持基底面の狭小条件下における高齢者の体節別質量中心動揺の特性, 第24回千葉県理学療法士学会, 2019年3月17日, 千葉県立保健医療大学.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・日本学術振興会科学研究費若手研究 (B), 踵骨-下腿の運動連鎖が変形性膝関節症および外側ヒールウェッジ効果に与える影響, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・UR都市機構共催ほい大健康プログラム, 2018年12月2日, 千草台団地, あやめ台団地.
- ・UR都市機構共催ほい大健康プログラム, 2018年12月9日, 高洲第一団地, 高洲第二団地.
- ・ロコモ度測定会, 2018年10月7日~8日, 千葉県立保健医療大学.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会, バイオメカニクス学会, 日本臨床バイオメカニクス学会, International Society of Posture and Gait, International Society of Biomechanics, 理学療法科学学会, 臨床歩行分析研究会, 日本運動器理学療法学会, 日本基礎理学療法学会, 日本支援工学理学療法学会, 日本スポーツ理学療法学会, 日本予防理学療法学会, 日本理学療法教育学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・第24回千葉県理学療法士学会, 準備委員, 2019年2月~3月.
- ・第6回日本運動器理学療法学会学術大会, 演題査読者, 2019年7月.
- ・第23回日本基礎理学療法学会学術大会, 演題査読者, 2019年8月.
- ・埼玉県理学療法士会, 論文査読者, 2017年~現在.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・第2回新人研修会新人教育プログラム, 埼玉県理学療法士会, 生涯学習と理学療法の専門領域, 2018年10月14日, 文京学院大学.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・ネットワーク委員会, 開学10周年記念事業実行委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議, 理学療法専攻会議.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

年度の途中に着任したこともあり, 担当する授業や委員会は多くなかった. そのため, 年末から本格化する国家試験対策には積極的に関わることができ, 合格率100%の維持・達成に貢献できた. また, 学会・職能団体での役割や地域住民に対

する健康事業にも関わることで社会貢献できた。一方で、研究課題の進捗が遅延している点については、次年度の課題となった。

VII 次年度の目標

引き続き、大学および学科・専攻内の業務の理解に努め、年間の流れの把握する。担当する授業や委員会などの役割も増えるため、前任者や関係者と連携をとって円滑な業務遂行に努める。大学や職能団体から任せられた役割を果たすとともに、自身の研究にも注力する。

リハビリテーション学科
作業療法学専攻

教授 兼 リハビリテーション学科長 兼 作業療法学専攻長 岡村 太郎 博士 (医学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、学生の教育や指導に重点的に行い、臨床実習で問題のあった学生の指導を行う。国家試験対策の援助を行い、国家試験の全員合格と全員就職を目標とした。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・作業療法概論.
 - ・作業療法基礎理論. 補助
 - ・基礎作業学実習. 補助
 - ・作業療法管理学.
 - ・作業療法研究法.
 - ・社会的適応支援学
 - ・社会的適応支援評価学
 - ・作業療法セミナー .
 - ・臨床体験実習.
 - ・評価実習 I・II.
 - ・総合実習 I・II.
 - ・地域作業療法学実習.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・ Taro Okamura, Akiko Hayashi, Shinsuke Matsuo, Kunihiko Shinoda, Isamu Konishi, Haruna Makio and Miwa Tsuji: PREVENTION OF FALLS IN THE ELDERLY DEMENTIA TRIAL : A QUASI-EXPERIMENTAL STUDY, Journal of Human Ergology, Volume 47, Issue 1, PP 37-41, 2018. (Released: February 02, 2019)
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jhe/47/1/_contents/-char/en
- ・ 岡村 太郎：教育方法論ワークショップ「コンピテンシー」-3- 臨床経験に適合したOT コンピテンシー - アウトカム基盤型教育とミッション, コンピテンス, コンピテンシー, 作業療法教育研究, 18巻, 1号, pp12-13, 2018.
- ・ 岡村 太郎：『アウトカム基盤型教育とミッション・コンピテンス・コンピテンシー』への取り組み, 作業療法教育研究, 17巻, 2号, Page11-12, 2018.
- ・ 渡辺 陵介, 大野 勘太, 刑部 美里, 木田 聖吾, 岡村 太郎：日常生活の介助量を予測する評価法としての Allen 認知レベルスクリーン-5 の臨床有用性, 第52回日本作業療法学会抄録集, Page PJ-2F05, 2018.
- ・ 斎藤 梨菜, 岡村 太郎：急性期統合失調症患者と褥瘡の関連性について, 第52回日本作業療法学会抄録集, Page PG-2C01, 2018.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

・岡村 太郎：抄録原稿の要領について，第20回 千葉県作業療法士学会，2019年3月3日，国際医療福祉大学。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

・学長裁量，集合住宅在住の高齢者に対する居住構造・近隣等の環境因子への介入による転倒予防効果
-2018年度UR集合住宅在住高齢者の横断調査による転倒要因の研究と地域住民を育成するための指導者・介入準備，
岡村太郎/松尾真輔，島田美恵子，渡邊智子，雄賀多聡，杉本知子，竹内弥彦。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

・認知症の人と家族の会千葉県支部主催のアルツハイマー啓発活動，2018年9月21日，千葉駅前

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

・ほい大プログラムへ作業療法として参加，2018年度，千葉県内のUR団地

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本作業療法士協会，千葉県作業療法士会，日本公衆衛生学会，日本衛生学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

・一般社団法人作業療法士会，学術部査読委員，2018年度

・一般社団法人作業療法士会学会委員会，演題査読委員，2018年度

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

・一般社団法人千葉県作業療法士会現職共通研修会，事例研究2，事例研究3，2019年2月3日，千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

・大学運営会議，教授会，総務・企画委員会，図書・情報委員会，自己点検・評価委員会，認証評価部会（部会長），自己点検・評価実施推進部会（部会長），IR部会（部会長），教員資格審査委員会，ネットワーク委員会，教員再任資格審査委員会，将来構想検討委員会，入試委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

・リハビリテーション学科長，作業療法学専攻長，リハビリテーション学科会議，作業療法学専攻会議

VI 評価（成果および改善すべき事項）

作業療法学専攻長として，管理運営に関して，大学の認証評価で指摘された努力課題と改善勧告について対応方法とその実施に準備し，大学の重点施策を基に自己点検評価とし継続して実施できた。作業療法学専攻としてリハビリテーション教育評価機構の教育評価認定と世界作業療法連盟（WFOT）の認定評価を受け認定された。また，教育方面では，国家試験対策を1月より2月初旬まで実施したが不合格者があった。改善点として，国家試験対策について学習の伸び悩んでいる学生指導を早期・状況に合わせて個別に取り組む必要があった。

VII 次年度の目標

学校運営に関しては、自己点検・評価に関する内部質保証についての組織改編に参加ができた。国家試験の対策について実施できたが、徹底しているとは言えない。国家試験対策については課題を残す。研究分野においては、作業療法におけるURの「1まい大健康プログラム」の参加にし、地域貢献とともに作業療法の効果を示せるよう改善したい。

教授 高橋 伸佳 博士 (医学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、特に研究・発表に取り組むことを目標とした。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績
 - ・体験ゼミナール.
 - ・人体の構造 I (筋・骨・神経系の構造).
 - ・人体の構造実習.
 - ・神経内科学総論.
 - ・神経内科学各論.
 - ・臨床医学概論.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師
 - ・神経系の解剖・生理・病理 (国立障害者リハビリテーションセンター学院)

III 研究記録

1 著書

・高橋伸佳編著：脳神経内科学，理工図書，東京，2019.

3 発表

・溝淵敬子，高橋伸佳，畠山治子，旭俊臣：両側尾状核頭部出血により重度の記憶障害を呈した一例．第42回日本高次脳機能障害学会学術集会，2018年12月6日，神戸．

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本神経学会．日本高次脳機能障害学会．日本神経心理学会．日本認知症学会．日本リハビリテーション医学会．
- 2) 学会，学術団体への貢献
 - ・日本神経心理学会．理事．編集委員．
 - ・日本高次脳機能障害学会．評議員．編集委員．
 - ・日本神経学会．査読委員．
 - ・第41回日本高次脳障害学会学術総会．プログラム委員
 - ・第41回日本神経心理学会総会．プログラム委員

V 管理・運営記録

1 全学委員会

- ・教授会. 教務委員会. キャンパス・ハラスメント防止対策委員会. 共通教育運営会議. 教員資格審査委員会. 入試実施部会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

- ・教育, 研究, 社会貢献, 管理・運営のすべてについて, 比較的満足のいく結果であった.

准教授 安部 能成 博士 (保健学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、学生に対する教育・専門領域の研究・大学人としての社会貢献という3領域のバランスに配慮することを目標にして活動を行った。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・作業療法評価学概論.
- ・作業療法評価学II.
- ・作業運動学実習.
- ・作業療法治療学II.
- ・作業療法治療学II演習.
- ・社会的適応支援学演習.
- ・見学実習.
- ・評価実習I・II.
- ・総合実習I・II.
- ・卒業研究.

2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)

- ・スピリチュアルケア特論 (聖学院大学大学院/人間福祉学研究科非常勤講師)
- ・緩和リハビリテーション (千葉大学医学部附属病院地域医療連携部/地域医療インテンシブコース非常勤講師)

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・安部能成: 在宅でのロコモ対策における人間発達学, および運動学的分析, 在宅新療, vol. 3 no. 5, pp. 474-477, 2018.
- ・安部能成: 在宅におけるロコトレ効果の最大化, 在宅新療, vol. 3 no. 8, pp. 782-785, 2018.
- ・Kazunari Abe: Notes on Palliative Rehabilitation; what it is, and what it is not, Folia Palliatrix, (2018);4:6-10.
- ・安部能成: 在宅でのロコトレに対する心理的促進法, 在宅新療, vol. 3 no. 11, pp. 1084-1087, 2018.
- ・安部能成: がん患者の在宅生活を支えるロコモ対策, 在宅新療, vol. 4 no. 4, pp. 386-389, 2019.
- ・安部能成: がん患者の医学的リハビリテーションにおけるペインコントロール (Pain control), 日本運動器疼痛学会誌 (in press)

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・Kazunari Abe: The needs of rehabilitation staffs of rehabilitation workshop for the patients with advanced cancer, The 77th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, 2018年9月28日, 大阪市.
- ・安部能成: がん骨転移にコルセットは有用か? 第56回日本癌治療学会学術総会, 2018年10月19日, 横浜市.
- ・安部能成: エンド・オブ・ライフケア (人生の最終段階のケア) におけるリハビリテーションの意義, 第25回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in とちぎ, 2019年2月3日, 帯広市.

- 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名、テーマ、開催日、場所等）
- ・安部能成：「高齢者が住み慣れた地域で生活するために必要な運動療法とは」シンポジウム座長，第43回運動療法学会学術集会，2018年6月16日，金沢医科大学病院/北辰講堂，石川県川北郡内灘町。
 - ・安部能成：教育講演6「骨転移患者の生活機能」第3回日本がんサポーターティブケア学会学術集会，2018年9月1日，福岡市。
 - ・安部能成：第24回日本臨床死生学会学術集会・副学会長，2018年10月13-14日，千葉市。基調講演「リハビリテーション専門職による終末期患者に対するアプローチ」
 - ・安部能成：教育講演「がん緩和ケア」，第56回日本癌治療学会学術総会，2018年10月20日，横浜市。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・がんカフェ，2018年4月1日～2019年3月31日まで，千葉市中央区中央港
- 2) 千葉県外
 - ・がん緩和リハビリテーション，2018年6月1日，埼玉県草加市社会福祉協議会
 - ・在宅がん緩和リハビリテーション，2018年11月23日，小平市医師会

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県作業療法士会（アドバイザー委員，機関誌査読委員）

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本癌学会、日本癌治療学会、日本緩和医療学会、日本臨床死生学会、日本サイコオンコロジー学会、日本がんサポーターティブケア学会、日本死の臨床研究会、日本ホスピス・在宅ケア研究会、多施設緩和ケア研究会、日本ロコモケア研究会、日本在宅ホスピス協会、一般社団法人 全国在宅リハビリ支援推進機構、大学病院の緩和ケアを考える会、日本コクランセンター正会員、APHN (Asia Pacific Hospice Network) . EAPC (European Association for Palliative Care) .
- 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）
 - ・日本癌治療学会（代議員，ガイドライン策定委員会，選挙管理委員会，査読委員）
 - ・日本緩和医療学会（査読委員）
 - ・日本がんサポーターティブケア学会（評議員，骨と健康副部長）
 - ・日本死の臨床研究会（世話人，プログラム委員）
 - ・多施設緩和ケア研究会（世話人，司会者）
 - ・大学病院の緩和ケアを考える会（世話人，教育部会員）
 - ・日本在宅ホスピス協会（世話人，THP担当委員）

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会，社会貢献委員会，図書・情報委員会，予備選挙管理委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

学生に対する教育，専門領域の研究，大学人としての社会貢献とも，与えられた時間内での活動を行うのは限界になってきている。担当科目の講義・実習ではプレゼンテーションの手法を取り入れることにより一定の成果を得たが，情報量の減少という欠点が顕在化した。実習では実技指導に力点を置いたが，その評価に対する時間的制約という困難に遭遇した。研

究活動では論文数において最小限度の成果を得たが、その内容にはまだ改善の余地があると考えており、著書を出したいというのが次年度の課題である。社会貢献については目標を下回ったが、外部への貢献を増やすと内部での活動が減少するというジレンマがある。

VII 次年度の目標

今年度の成果を踏まえて、学生に対する教育においては、担当科目の講義形式、及び、実習形態について、一層の検討を加える。一定の成果を挙げつつあるプレゼンテーションについては、口頭や文章による方法の説明のみならず、実技・実演を含めることとする。研究領域において、単独研究には一定の成果を得てきたと考えられるので、今後は、内外を問わず共同研究への参加を心掛けていく。大学人としての社会貢献では、社会貢献委員会への積極性を向上させ、職能団体活動・学会活動ともに、与えられた時間内では限界に近くなってきていることに鑑み、その維持に心掛けることとする。

准教授 藤田 佳男 博士（リハビリテーション科学）

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

今後担当予定の科目について準備を行いつつ現存の授業や試験について、より臨症的な内容への変換を図る。
本来の研究活動および県内での地域貢献に力を注ぐ。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・千葉県の健康づくり.
- ・人体の機能実習.
- ・作業運動学 I.
- ・作業運動学実習.
- ・作業療法基礎理論.
- ・作業療法治療学 I.
- ・日常生活活動技術学.
- ・日常生活活動援助学.
- ・日常生活活動技術学演習.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習 I・II.
- ・総合実習 I・II.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所.）

- ・藤田 佳男，澤田 辰徳：作業療法とドライブマネジメント，2018. 文光堂，東京都.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年. 本人下線）

- ・藤田 佳男，三村 将：自動車運転再開支援，高次脳機能障害のリハビリテーションVer. 3, 296- 301, 2018 .
- ・藤田 佳男，三村 将：自動車運転再開とリハビリテーション，高齢者と認知症の自動車運転，118-129, 2018.
- ・三村 将，藤田 佳男：安全運転と認知機能，日本老年医学会雑誌 55 巻 2 号 191-196, 2018.
- ・山田 恭平，加藤 貴志，外川 佑，藤田 佳男，三村 将：脳卒中ドライバーのスクリーニング評価日本版(J-SDSA)の基準値に関する検討，高次脳機能研究 38 巻 2 号，239-246, 2018.
- ・藤田 佳男：作業療法士の自動車運転支援へのかかわり 初期から 2000 年代初頭までの歴史的考察を踏まえて，作業療法ジャーナル，52 巻 11 号 1114-1118, 2018.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会(学会名称)，開催日，場所等，本人下線）

- ・Tasuku Nagashima, Yoshio Fujita : Spreading local transportation through “BEE CARE’ S automobile driving support plan” ~From an occupational science point of view~. The 1st International/5th Japanese congress of Clinical Occupational Therapy, 2018-7-22, Fukuoka Japan.

- 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）
- ・日本交通心理士会第15回京都大会，パネルディスカッション「高次脳機能障害と運転について」，2018年10月27日，京都市。
 - ・第3回日本安全運転医療研究会，教育講演「日本作業療法士協会の「運転に支障のある病気」に対する取り組み」，2019年1月27日，東京都。
 - ・日本リハビリテーション連携科学学会第20回大会，ランチョンセミナー「自動車運転と多職種連携」，2019年3月16日，愛知県。
- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究C），高次脳機能・VR・実車評価の複合による認知機能障害者の多角的運転能力評価の開発，研究分担者
 - ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究C），高齢者の安全運転寿命を延ばすための講習方法の開発，研究代表者
 - ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究），高齢者の運転適性を評価および訓練する方法の開発，研究代表者

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・葛飾区役所福祉部自立活動支援センター専門相談（2018年4月～2019年3月）東京都葛飾区。

3 審議会，委員会，国家試験委員などの実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・全日本指定自動車教習所協会連合会，「高次脳機能障害を有する運転免許保有者の運転再開に関する調査研究委員会」委員，2017年4月から2019年3月まで
- ・全日本指定自動車教習所協会連合会，「高齢運転者支援士」試験作問委員，2018年4月から2019年3月まで

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本作業療法士協会制度対策部「運転と作業療法特設委員会」，委員長，2018年度～2020年度

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会，日本老年医学会，日本老年精神医学会，認知神経科学会，日本高次脳機能障害学会，自動車技術会，日本公衆衛生学会，日本リハビリテーション工学協会，運転と認知機能研究会，運転と作業療法研究会，日本安全運転・医療研究会，日本交通心理学会，日本認知心理学会，日本交通科学学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・運転と認知機能研究会 事務局長，2008年～
- ・運転と作業療法研究会 代表 2014年～
- ・日本安全運転・医療研究会 幹事，2016年～
- ・日本作業療法士協会 学会演題査読委員 2014年～
- ・第52回日本作業療法学会 特別講演座長 2018年
- ・第52回日本作業療法学会 一般演題座長 2018年

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日時，場所）

- ・秋田県作業療法士会学術部研修会，秋田県作業療法士会，自動車運転支援総論，県士会員，2018年7月28日，秋田県。
- ・適性相談専科，警察庁，高次脳機能障害と自動車等の運転の関係-作業療法士の立場から-，各都道府県警察適性検査担当警察官，2018年9月3日，東京都。
- ・2018年度第2回 東京都高次脳機能障害者相談支援研修会，東京都心身障害者センター，高次脳機能障害と自動車運転～現状と課題～，都内相談機関担当職員，2018年10月22日，東京都。

- ・2018 年度第 2 回茨城県リハビリ講習会，リハビリ講習会実行委員会，高次脳機能障害と自動車運転～その適性評価と取り巻く現状～，リハビリテーション専門職，2018 年 12 月 1 日，茨城県。
- ・2018 年度学術部研修会，福島県作業療法士会，自動車運転再開支援のリハビリテーションのポイント，県士会員，2018 年 12 月 9 日，福島県。
- ・2018 年度学術部研修会，山梨県作業療法士会，自動車運転に対する日本作業療法士協会の取り組みと今後の展望，県士会員，2019 年 2 月 19 日，山梨県。
- ・障害者教習指導員研修，全日本指定教習所協会連合会，高次脳機能障害者の特性と指導法，教習指導員，2018 年 10 月 5 日，東京都。
- ・高齢運転者支援士研修，全日本指定教習所協会連合会，高次脳機能障害者の特性と指導法，教習指導員，2018 年 10 月 25 日，東京都。

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・特色科目委員会，入試実施部会，研究等倫理審査委員会，学長候補者学内意向調査委員会。
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・リハビリテーション学科会議，作業療法学専攻会議

VI 評価（成果および改善すべき事項）

担当する授業は問題なく実施でき，新規開設科目の準備も進んだ。課題であった臨床実技能力の伝達についても，障害当事者と作業療法士による，実技試験および教育を開始し一定の成果を見た。今後も演習科目を中心に実践力の伝達に注力したい。

研究活動では今までの研究成果をまとめて編者，著者として著書を出版した。また，3 度目の科研費を獲得した。しかし，アウトプットの部分では学会発表および原著論文は執筆する時間がなく，実験も十分行えなかったためことが次年度の課題として残った。

VII 次年度の目標

教育活動に関しては，次年度以降の新規開設科目の準備を継続して行う。既存の科目については，より実践面を重視した内容への変換を図る。研究活動については，リハビリ以外の他分野に研究内容を広げ，より社会に実装できるように工夫を行う。成果のアウトプットに注力する。社会貢献活動については，県内機関と協力して高齢者・障害者の運転について啓発を行う。また，専門職に対して教育活動を行う。

准教授 有川 真弓 博士 (保健科学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度も引き続き、研究結果を原著論文として発表したい。また、社会貢献活動にも力を注いでいきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・作業運動分析学.
- ・人間発達学.
- ・基礎作業学・演習.
- ・基礎作業学実習.
- ・作業療法評価学IV.
- ・作業療法治療学IV.
- ・作業療法学IV演習.
- ・日常生活活動技術学演習.
- ・作業療法セミナー.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習 I.
- ・評価実習 II.
- ・総合実習 I.
- ・総合実習 II.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.
- ・専門職間の連携活動論.

2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)

- ・小児の理学療法. 昭和大学保健医療学部理学療法学科

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線: 著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・小西紀一, 小松則登, 藪押佐永巳, 加藤郁代, 有川真弓他: 子どもの能力から考える 発達障害領域の作業療法アプローチ 改訂第2版, 2018, メジカルビュー社, 東京.
- ・有川真弓, 鴨下賢一, 酒井康年, 嶋谷和之, 高島紀美子他: 作業療法マニュアル65 特別支援教育と作業療法, 2018, 日本作業療法士協会, 東京.

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・有川真弓: 発達に気になる子の不思議な行動を理解するヒント 大人も子どもも元気に暮らすために, 千葉県立保健医療大学公開講座報告書 2018年度, pp7-10, 2018.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・Mayumi Arikawa, Yoko Yamanishi, Yuko Ito, Megumi Akamatsu, Takashi Yamada, et al. :Effect of the sensory integration therapy for children with developmental disorders; using the Pediatric Volitional Questionnaire (PVQ), the 2018 World Federation of Occupational Therapists Congress, 2018. 5. 21-25, Cape Town(South Africa).
- ・Hirokazu Nishikata, Mayumi Arikawa, Yasutoshi Sakai, Reiko Mitsui, Rie Furuhashi :Clinical reasoning of an experienced occupational therapist using sensory integration:Analyzing an occupational therapy session with children with autistic spectrum disorder, the 2018 World Federation of Occupational Therapists Congress, 2018. 5. 21-25, Cape Town(South Africa).
- ・吉田雅紀, 酒井康年, 有川真弓, 吉岡和哉, 中路純子:特別支援教育における47都道府県作業療法士会の実践の現状 日本作業療法士協会主催 特別支援教育に関する情報交換会の報告から, 日本作業療法学会, 2018. 9. 7-9, 名古屋国際会議場.
- ・酒井康年, 有川真弓:特別支援教育における全国作業療法士会の関与実態に関しての現状報告—日本作業療法士協会実施 特別支援教育に関する情報交換会のまとめより—, 特殊教育学会第56回大会, 2018. 9. 22-23, 大阪国際会議場グランキューブ大阪.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等）

- ・第40回国際学校心理学会（ISPA）東京大会・日本学校心理士会2018年度大会・第20回日本学校心理学会大会, 大会企画シンポジウム 知っておきたい！！子ども・学校を支える多職種の活用～日本発達障害ネットワーク多職種連携委員会から～（シンポジスト）, 2018. 7. 27, 東京.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名, 研究テーマ, 研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究（一般）, 地域住民つながりの場チェックリストの作成に向けたパイロットスタディ, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称, 活動期間, 場所等）

1) 千葉県内

- ・船橋市立船橋特別支援学校自立活動支援, 2018年4月1日～2019年3月31日. 船橋市立船橋特別支援学校金堀校舎.

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等, 活動期間, 場所等）

- ・大田区西六郷小学校 特別支援学級医療専門相談. 2018年12月～2019年3月.
- ・足立区発達障害児支援事業 専門研修等講師. 2018年6月1日～2019年3月31日.
- ・練馬区障害児保育巡回指導. 2018年4月1日～2019年3月31日.

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績（活動団体名称, 委員名称, 活動期間）

- ・市川市障害支援区分認定審査会審査委員. 2018年4月1日～2019年3月31日.
- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構評価員. 2018年4月1日～2019年3月31日.

4 職能団体委員等（職能団体名称, 委員名称, 活動期間）

- ・日本作業療法士協会. 制度対策部部員. 2018年4月1日～2019年3月31日.
- ・日本作業療法士協会. 学術部部員. 2018年4月1日～2019年3月31日.
- ・日本作業療法士協会. 学会演題査読委員. 2018年4月1日～2019年3月31日.
- ・日本作業療法士協会. 代議員. 2018年4月1日～2019年3月31日.
- ・千葉県作業療法士会. 事務局長. 2018年4月1日～2019年3月31日.
- ・千葉県作業療法士会. 代議員. 2018年4月1日～2019年3月31日.
- ・千葉県作業療法士会. 理事. 2018年4月1日～2019年3月31日.
- ・千葉県作業療法士会. 学術部発達障害委員会委員. 2018年4月1日～2019年3月31日.
- ・千葉県作業療法士会. 学術部査読委員. 2018年4月1日～2019年3月31日.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会、千葉県作業療法士会、日本感覚統合学会、日本作業行動学会、日本LD学会、日本発達系作業療法学会、日本リハビリテーション連携科学学会、日本発達障害学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本感覚統合学会、効果研究委員、2018年4月1日～2019年3月31日。
- ・日本発達系作業療法学会、理事、2018年4月1日～2019年3月31日。
- ・JDD ネットワーク多職種連携委員会、副委員長、2018年4月1日～2019年3月31日。
- ・就労支援フォーラムNIPPON2017、運営委員、2018年4月1日～2019年3月31日。
- ・日本発達系作業療法学会、大会長、2018年4月1日～2019年3月31日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・練馬区立関町第三保育園園内研修（講師）、練馬区立関町第三保育園、体幹を意識したからだ作りについて、練馬区立に勤務する職員、2018年6月13日、練馬区立関町第三保育園。
- ・東京都王子第二特別支援学校夏季研修会（講師）、東京都王子第二特別支援学校、知的特別支援学校における感覚統合の基礎知識、東京都王子第二特別支援学校教職員、2018年7月26日、東京都王子第二特別支援学校。
- ・市原市教育センター幼児教育研修会（講師）、市原市教育センター、幼児教育、保育に関するポイント（気になる子への対応）、市内幼稚園教諭・保育施設職員、2018年8月20日、市原市教育会館。
- ・学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会（講師）、宮城県作業療法士会、学校における作業療法士による支援、事例を通じた学び、作業療法士、2018年8月18-19日、東北文化大学。
- ・発達障害支援人材育成研修会 2018（前期）（講師）、日本発達障害ネットワーク、就学前の発達障害支援のキホン～作業療法士の視点から、当事者、家族、支援者、専門家、大学の学生相談担当者、企業の人事担当者、発達障害について知りたい個人、学生等、2018年9月30日、千葉県立保健医療大学。
- ・公開講座、発達が気になる子の不思議な行動を理解するヒント—大人も子どもも元気に暮らすために—、一般住民、2018年10月7日、千葉県立保健医療大学。
- ・学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会（講師）、千葉県作業療法士会、総合的なアセスメント、作業療法士、2018年10月27-28日、千葉県立保健医療大学。
- ・NPO 法人ふるーるの支援者向け学習会（講師）、NPO 法人ふるーる、発達障害のあるお子さん（未就学）の感覚とあそびについて—保育園・幼稚園でできること—、支援者、2018年12月11日、船橋タワーホール。
- ・学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会（講師）、静岡県作業療法士会、総合的なアセスメント、作業療法士、2018年12月15-16日、ふしみやビル 404号室。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会、新々カリキュラム作成作業部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、作業療法学専攻会議

VI 評価（成果および改善すべき事項）

職能団体や学会での委員会活動、社会貢献活動に力を注ぎ、満足できる結果を残すことができた。全国学会の大会長として、学術大会を開催した。共著で書籍2冊を発刊した。

VII 次年度の目標

2019 年度は、研究結果を原著論文として発表したい。また、社会貢献活動にも力を注いでいきたい。

講師 吉野 智佳子 博士 (学術)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

新カリキュラムの不足点を掌握し、しっかり対応したい。就職相談は必要があれば相談に対応し、県内就職者数を確保していきたい。実習施設確保のための交渉を引き続き行い、臨床実習の準備を行っていく。研究活動をより精力的に行う。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・人体の構造実習.
- ・体験ゼミナール.
- ・作業運動学Ⅱ.
- ・作業運動学実習.
- ・作業療法治療学Ⅰ (神経・心肺機能系).
- ・作業療法学Ⅰ 演習 (神経・心肺機能系).
- ・日常生活活動援助学.
- ・日常生活活動援助学演習.
- ・作業療法セミナー.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ, Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ, Ⅱ.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・吉野智佳子, 下村義弘: 体験用前腕能動仮義手の操作練習過程における筋電図と筋音図の分析, 日本義肢装具学会誌, 34巻2号, 142-149, 2018.
- ・吉野智佳子, 有川真弓, 木之瀬隆: 体験用前腕能動仮義手製作を通しての満足度調査, 千葉県立保健医療大学紀要, 10巻1号, 89-96, 2019.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・吉野智佳子, 下村義弘: 体験用前腕能動仮義手の操作練習過程における筋電図と筋音図の分析, 第52回日本作業療法学会. 2018年9月7-9日, 名古屋.
- ・後藤遙, 松下彩奈, 高橋一樹, 吉野智佳子: 人間作業モデルを取り入れたアセスメントチャートの習慣化への取り組み—クライアント中心の関わりに向けて—, 第52回日本作業療法学会. 2018年9月7-9日, 名古屋.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2018年度学内共同研究, 手の把持把握と把持 (ピンチ) 力調整能に関する定量化指標の検討, 吉野智佳子/下村義弘.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・車いすラグビー公開交流会, 2018年5月20日, 車いすラグビー体験など学生参加調整.
- ・車いす講習会, 2018年7月11日, 千葉大学西千葉キャンパス総合学生支援センター2階「ふれあいの環」, 千葉大学公認学生ボランティアサークル チャレンジド・サポートのみり.

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・日本作業療法士協会, 教育部 部員 (養成教育委員会), 2009年～現在.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

日本作業療法士協会, 千葉県作業療法士会, 日本義肢装具学会, 脳機能とリハビリテーション研究会, 日本作業療法研究学会, 日本生理人類学会, 日本人間工学会, 日本臨床神経生理学学会, 日本シーティング・コンサルタント協会, 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 日本心臓リハビリテーション学会, 日本リハビリテーション医学会, 日本ハンドセラピイ学会.

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・Journal of Physiological Anthropology, Reviewer, 2018年.
- ・日本リハビリテーション医学会, 第56回日本リハビリテーション医学会学術集会プログラム委員 (演題査読), 2018年～2019年.
- ・日本作業療法士協会, 事例報告登録制度審査委員, 2010年9月～現在に至る.
- ・日本作業療法士協会, 学会演題審査委員, 2018年1月～現在に至る.
- ・千葉県作業療法士会, 学術誌査読委員, 2013年4月～現在に至る.
- ・日本作業療法士協会, 生涯教育制度推進委員 (千葉県作業療法士会), 2015年～2018年.
- ・日本作業療法研究学会, 理事, 2007年11月～現在に至る.
- ・日本義肢装具学会, 用語委員, 2014年10月～現在に至る.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉県作業療法士会 現職者研修会1 「作業療法生涯教育概論」 講師 2018年9月30日, 千葉.
- ・千葉県作業療法士会 現職者研修会2 「実践のための作業療法研究」 講師 2018年10月14日, 千葉.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・専門職間の連携活動論作業部会, 入試実施部会, 学術推進企画委員会, 入試評価部会, 開学10周年記念事業実行委員.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議, 作業療法学専攻会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

臨床実習の依頼と合わせて求人があれば学生に情報提供を行った。就職相談は身体障害領域において学生から依頼があれば対応した。学位取得については、専攻内のご協力により修了することができた。研究活動では、学会での発表や学術論文の投稿を進め、採択に至った。

VII 次年度の目標

臨床実習担当が変更となるため、実習施設確保のための交渉を行い、臨床実習の準備を行っていく。就職相談は必要があれば相談に応じ、県内就職者数を確保していきたい。今後は研究活動をより精力的に行う。学内共同研究を滞りなく進め、学会発表や学術論文の投稿を進めたい。

講師 佐藤 大介 博士 (医学)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、各担当科目の到達目標の達成状況を随時把握し、基本的臨床能力の習得に向けて授業内容の工夫を図る。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・作業療法評価学Ⅱ(精神・心理機能系).
- ・作業療法治療学Ⅲ(精神・心理機能系).
- ・作業療法学Ⅲ演習(精神・心理機能系).
- ・日常生活活動技術学演習.
- ・社会適応支援学演習.
- ・基礎作業学実習.
- ・作業療法セミナー.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.
- ・体験ゼミナール.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・Sato D, Shimizu E, et al., Randomised controlled trial on the effect of internet-delivered computerised cognitive-behavioural therapy on patients with insomnia who remain symptomatic following hypnotics, *BMJ open*, 2018
- ・Sato D, Shimizu E, et al., Treatment Preferences for Internet-Based Cognitive Behavioral Therapy for Insomnia in Japan, *JMIR formative Research*, 2019
- ・Sato D, Shimizu E, et al., Effectiveness of Internet-Delivered Computerized Cognitive Behavioral Therapy for Patients With Insomnia Who Remain Symptomatic Following Pharmacotherapy, *Journal of Medical Internet Research*, 2019

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・日本学術振興会科研費, 基盤研究, 不眠症に対する認知行動療法を用いた早期リハビリテーションプログラムの予防効果, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・横須賀市障害程度区分等判定審査会, 審査委員.

4 職能団体委員等(職能団体名称、委員名称、活動期間)

- ・日本作業療法士協会、代議員。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・千葉県作業療法士会、日本作業療法士協会。

2) 学会、学術団体への貢献(学会・学術団体名、役職、活動期間)

- ・千葉県作業療法士会学術誌、査読。

6 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所)

- ・千葉県作業療法士会 2018 年度第 1 回現職者共通研修、講師、2018 年 9 月 30 日、千葉。
- ・千葉県作業療法士会 2018 年度第 3 回現職者共通研修、座長、2019 年 2 月 3 日、千葉。

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学術推進企画委員会、進路支援委員会、ネットワーク委員会、国際交流委員会。

2 学科／専攻内委員会(委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議、作業療法学専攻会議。

VI 評価(成果および改善すべき事項)

教育活動として 4 年生担任及び進路支援、臨床実習の調整担当、精神障害領域の臨床実習指導と講義、研究活動として臨床共同研究の成果報告、社会貢献活動として職能団体及び学術団体の委員活動を行った。担当科目の到達目標の達成状況を随時把握し、理解度に応じた指導方法の改善を行う。

VII 次年度の目標

基本的臨床能力の習得を主眼におき、精神障害領域の講義形式の工夫を図る。

助教 松尾 真輔 修士 (学術)

対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日まで

I 年度当初の目標

2018年度は、臨床に主眼を置いた学生指導を实践すべく臨床実習前指導に重点を置き、学生が臨床に向けより良い理解につなげ、学生スキルの質を高めていくように取り組んでいく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・千葉県の健康づくり.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・基礎作業学実習.
- ・人体の機能実習.
- ・作業運動学実習.
- ・作業療法基礎理論.
- ・作業療法評価学 I (神経・心肺機能系).
- ・作業療法治療学IV (認知・知能機能系).
- ・作業療法学IV演習 (認知・知能機能系).
- ・日常生活活動援助学演習.
- ・地域作業療法学概論.
- ・作業療法セミナー.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習 I・II.
- ・総合実習 I・II.
- ・地域作業療法学実習
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・太田恵, 松尾真輔：理学療法士・作業療法士養成校学生に対する進路希望に関する調査-臨床実習前後における縦断研究-, リハビリテーション教育研究, 第25号, pp290-295, 2018. 10.
- ・Taro Okamura, Akiko Hayashi, Shinsuke Matsuo, Kunihiro Shinoda, Isamu Konishi, Haruna Makio and Miwa Tsuji: PREVENTION OF FALLS IN THE ELDERLY DEMENTIA TRIAL : A QUASI-EXPERIMENTAL STUDY, Journal of Human Ergology, Volume 47, Issue 1, PP 37-41, 2018. (Released: February 02, 2019).
- ・松尾真輔：千葉県内におけるMTDLP普及活動の現状と今後の課題, 千葉作業療法, 第8巻1号, pp3-6, 2019. 3
- ・浦部多雅代, 浦部智章, 神崎哲郎, 能瀬真美子, 松尾真輔：作業療法を伝える～MTDLPを用いた臨床実習指導経験より～, 千葉作業療法, 第8巻1号, pp11-15, 2019. 3.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・松尾真輔, 太田恵: 4年制養成校学生の臨床に向けた行動目標に対する調査-2014年度入学生の卒業年次での意識調査-,

第31回教育研究大会・教員研修会, 2018.8.24, 北海道文教大学.

- ・太田恵, 松尾真輔: 理学療法士・作業療法士養成校学生に対する進路希望に関する調査—臨床実習前後における縦断研究—, 第31回教育研究大会・教員研修会, 2018.8.24, 北海道文教大学.
- ・浦部智章, 松尾真輔, 須藤崇行, 松山昌史: 千葉県における生活行為向上マネジメント研修の動向と課題, 第52回作業療法学会, 2018.9.8, 名古屋.

4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・第21回千葉県作業療法学会, 活動と参加に向けて～MTDLPワークショップ～, 2019年3月3日, 国際医療福祉大学成田キャンパス.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究, 地域住民つながりの場チェックリストの作成に向けたパイロットスタディ. 研究分担者
- ・学長裁量, 集合住宅在住の高齢者に対する居住構造・近隣等の環境因子への介入による転倒予防効果—2018年度UR集合住宅在住高齢者の横断調査による転倒要因の研究と地域住民を育成するための指導者・介入準備—, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・匝瑳市地域活性イベント. 作業療法士会運営スタッフ. 2018年4月2日

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県作業療法士会. MTDLP 担当理事. 2014年4月～2018年6月.
- ・千葉県作業療法士会. 千葉中央ブロック代議員. 2014年4月～現在に至る.
- ・千葉県作業療法士会. 千葉県生活行為向上マネジメント委員会. 委員長. 2013年11月～2018年6月.
- ・千葉県作業療法士会. 千葉県生活行為向上マネジメント委員会. 委員. 2013年8月～現在に至る.
- ・千葉県作業療法士会. 千葉県作業療法誌. 査読者. 2014年4月～現在に至る.
- ・千葉県作業療法士会. 災害対策委員会. 委員. 2015年4月～現在に至る.
- ・千葉県POS連盟. 千葉POS災害対策委員会. 委員. 2016年1月～現在に至る.
- ・千葉県作業療法士会. ブロック活動部. 部長. 2016年6月～2018年6月.
- ・千葉県作業療法士会. 千葉中央ブロック担当理事. 2016年6月～2018年6月.
- ・千葉県作業療法士会. 副会長. 2018年6月～現在に至る.
- ・千葉県作業療法士会. 運転特設委員会・担当理事. 2018年6月～現在に至る.
- ・千葉県POS連盟. 理事. 2018年6月～現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会. 千葉県作業療法士会. 日本公衆衛生学会. 千葉県POS連盟.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉県作業療法士会災害対策研修会. 運営スタッフ. 2018年4月～2019年3月.
- ・第7回千葉県がんのリハビリテーション研修会. 運営スタッフ. 2018年10月19日～21日.
- ・第21回千葉県作業療法学会. 学会運営スタッフおよび口述座長等. 2018年11月～2019年3月.
- ・千葉県POS連盟. 災害対策研修会運営スタッフ. 2018年4月～2019年3月.
- ・千葉県POS連盟. 理事会出席. 2018年7月～2019年3月.
- ・千葉県作業療法士会. 理事会出席. 2018年4月～2019年3月.
- ・千葉県作業療法士会. 定時総会出席. 2018年6月10日.

- ・千葉県作業療法士会. 予算総会出席. 2019年3月21日.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称. 主催 団体名称. 講演テーマ等. 対象. 開催日. 時場所）

- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント事例検討会. 2018年6月22日. 千葉県立保健医療大学
- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント基礎研修会. 2018年7月22日. 千葉県立保健医療大学
- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント事例検討会. 2018年8月5日. 安房地域医療センター
- ・千葉県回復期連携の会. MTDLPのより良い活用について. 2018年11月30日. 千葉市文化センター
- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント基礎研修会. 2019年3月17日. 千葉県立保健医療大学

7 その他

- ・日本作業療法士協会. MTDLP 全国会議. 2018年5月24日. 東京.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・キャンパス・ハラスメント防止対策委員会. 紀要編集部会員. 報告書作成等部会. 体験ゼミナール部会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議. 作業療法学専攻会議. 臨床実習指導者会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

専攻内での担当科目や業務の役割では、体験実習を中心とした科目担当や臨床実習指導者会議の開催を企画準備し、さらに委員会や部会員としても他学科と専攻との調整を行い、学内での業務に対して滞りなく取り組めた。また学外でも社会貢献として、所属する職能団体の研修会の運営や講師、また委員会活動などで精力的に動き、さらには千葉県の職能団体の役員となったことで組織運営に携わることができた。

VII 次年度の目標

次年度も自身の業務について滞りなく従事し、学内業務を円滑に行えるよう意識しながら調整していきたい。また学生への学業面や専門技術における個別指導を行うと同時に、国試対策にも時間を調整しながら取り組んでいきたいと考える。

資料1 履修規程 別表 (看護学科)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	千葉県の健康づくり	特色1	2後	1				○		必修3単位
	体験ゼミナール	特色2	1前	1					○	
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4前		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	2後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	1前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1		○		
	外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	一般31	1・2・3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語Ⅱ(基礎英会話)	一般32	1・2・3・4前		1			○	
		英語Ⅲ(講読・記述)	一般33	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅳ(英会話)	一般34	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅴ(保健医療英語)	一般35	2後		2		○		
		英語Ⅵ(応用英語)	一般36	1・2・3・4後		1			○	

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目(「観察生物学入門」又は「生物学」)、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

(看護学科)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	2 前		1		○			必修 16 単位 + 選択 4 単位
		生化学総論	保健 2	2 前	1			○			
		栄養学 I (基礎)	保健 3	1 後	1			○			
		栄養学 II (応用)	保健 4	1 後		1		○			
		心の健康	保健 5	1・2・3・4 前			1	○			
		薬理学 I (総論)	保健 6	1 後	1			○			
		薬理学 II (各論)	保健 7	1 後	1			○			
		病理学 I (総論)	保健 8	1 前	1			○			
		病理学 II (各論)	保健 9	1 前	1			○			
		微生物学 I (総論)	保健 10	1 前	1			○			
		微生物学 II (各論)	保健 11	1 前	1			○			
		発達心理学	保健 12	2 前		1		○			
		臨床心理学	保健 13	1 後		1			○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	1 前		1		○			
		公衆衛生学 I (基礎)	保健 15	1 前	1			○			
		公衆衛生学 II (応用)	保健 16	2 後	1			○			
		疫学・保健統計 I (基礎)	保健 17	3 前	1			○			
		疫学・保健統計 II (応用)	保健 18	3 前	1			○			
		リハビリテーション概論	保健 19	2 後		1		○			
		救命・救急の理論と実際	保健 20	2 前	1			○			
		保健医療福祉論 I (基礎)	保健 21	2 後	1			○			
		保健医療福祉論 II (応用)	保健 22	2 後	1			○			
		食育論 I (基礎)	保健 23	3 前		1		○			
		食育論 II (応用)	保健 24	3 前		1		○			
		健康と運動	保健 25	1 後		1		○			
		家族社会学	保健 26	1 前		1		○			
		医療経営管理論	保健 27	4 後		1		○			
		リスクマネジメント論	保健 28	2 後	1			○			
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能 I (骨・筋・神経系)	看 1	1 前	1			○		【専門科目】 必修 75 単位 + 選択 4 単位	
		人体の構造と機能 II (呼吸器・循環器・消化器系)	看 2	1 前	1			○			
		人体の構造と機能 III (泌尿器・生殖器・感覚器系)	看 3	1 後	1			○			
		病態学 I (内科系疾病論)	看 4	2 前	2			○			
		病態学 II (外科系疾病論)	看 5	2 前	2			○			
		病態学 III (高齢者・精神疾病論)	看 6	2 前	1			○			
		臨床検査実習	看 7	2 前	1				○		
	基礎看護科目	看護学入門	看 8	1 前	1				○		
		看護倫理	看 9	2 後	1				○		
		看護技術論 I (生活援助技術)	看 10	1 前	2				○		
		看護技術論 II (看護共通技術)	看 11	1 後	1				○		

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ（フィジカルアセスメント技術）	看 12	2 前	2				○	
		看護技術論Ⅳ（検査治療技術）	看 13	2 後	2				○	
		看護技術論Ⅴ（看護過程展開技術）	看 14	2 後	1				○	
		看護ふれあい体験学習	看 15	1 前	2					○
		基礎看護学実習	看 16	2 前	2					○
	医療・生活支援	成人看護学概論	看 17	2 後	1			○		
		成人看護学方法論Ⅰ	看 18	3 前	2			○		
		成人看護学方法論Ⅱ	看 19	3 前	2			○		
		がん看護学	看 20	2 後	1			○		
		ターミナルケア論	看 21	3 前		1		○		
		成人看護学実習（急性期）	看 22	3 後・4 前	3					○
		成人看護学実習（慢性期）	看 23	3 後・4 前	3					○
	療養支援	こころの健康と看護	看 24	1 後	1			○		
		療養支援看護概論	看 25	2 前	1			○		
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	看 26	2 後	1				○	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ	看 27	3 前	2				○	
		精神看護学方法論	看 28	3 前	2				○	
		高齢者看護学実習	看 29	3 後・4 前	3					○
		在宅看護学実習	看 30	3 後・4 前	1					○
	精神看護学実習	看 31	3 後・4 前	2					○	
	健康支援	地域看護学概論	看 32	2 前	2			○		
		地域看護学方法論Ⅰ	看 33	2 後	1			○		
		地域看護学方法論Ⅱ	看 34	3 前	2			○		
		地域看護学方法論Ⅲ	看 35	3 前	2			○		
		地域看護学実習	看 36	3 後・4 前	3					○
	育成支援	育成支援看護概論	看 37	2 前	1			○		
		小児看護学方法論Ⅰ	看 38	2 後	1				○	
小児看護学方法論Ⅱ		看 39	3 前	1				○		
母性看護学方法論Ⅰ		看 40	2 後	1				○		
母性看護学方法論Ⅱ		看 41	3 前	1				○		
母性看護学実習		看 42	3 後・4 前	2					○	
小児看護学実習		看 43	3 後・4 前	2					○	
助産学概論		看 44	3 前		1		○			
助産診断・技術学Ⅰ（実践基礎）		看 45	3 前		1		○			
助産診断・技術学Ⅱ（ライフサイクル各期）		看 46	4 前		2			○		
助産診断・技術学Ⅲ（分娩期）		看 47	4 通		2			○		
助産診断・技術学Ⅳ（ヘリスク分娩）		看 48	4 後		2			○		
助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）		看 49	3 後		1				○	
助産学実習Ⅱ（継続支援）		看 50	4 通		3				○	
助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）		看 51	4 通		3				○	

【専門科目】
（再掲）
必修 75 単位
+
選択 4 単位

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	発展看護科目	看護管理学	看 52	4 前	1			○		
		感染看護学	看 53	2 後		1		○		
		看護政策論	看 54	4 後		1		○		
		災害看護学	看 55	3 前	1			○		
		看護キャリア発達論	看 56	2 前		1		○		
		看護管理学実習	看 57	4 前	1					○
		総合実習	看 58	4 後	2					○
		看護研究	看 59	4 通	2				○	
		看護学統合	看 60	4 後	1				○	
		リーダーシップ論	看 61	4 後		1		○		
		継続看護方法論	看 62	4 後		1		○		
		国際看護論	看 63	2 前		1		○		
		家族看護学概論	看 64	2 後		1		○		
		家族看護学方法論	看 65	3 前		1		○		

(看護学科)

先修条件

【特色科目（平成28年度入学生より適用する）】

1. 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
2. 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

1. 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない授業科目の名称																										
		講義科目						演習科目						実習科目														
		看護学入門	こころの健康と看護	成人看護学概論	育成支援看護概論	地域看護学概論	療養支援看護概論	看護管理学	看護技術論ⅠⅡⅢ	看護技術論ⅣⅤⅥ	成人看護学方法論Ⅰ	成人看護学方法論Ⅱ	地域看護学方法論ⅠⅡⅢ	精神看護学方法論	高齢者・在宅看護学方法論ⅠⅡ	母性看護学方法論ⅠⅡ	小児看護学方法論ⅠⅡ	看護ふれあい体験学習	基礎看護学実習	成人看護学実習(急性期)	成人看護学実習(慢性期)	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	総合実習
1前	看護ふれあい体験学習	○																										
2前	基礎看護学実習	○	○					○										○										
3後 ~ 4前	成人看護学実習(急性期)			○					○	○	○							○	○									
	成人看護学実習(慢性期)			○					○	○	○							○	○									
	地域看護学実習					○			○		○							○	○									
	精神看護学実習						○		○			○						○	○									
	在宅看護学実習						○		○					○				○	○									
	高齢者看護学実習						○		○					○				○	○									
	母性看護学実習				○				○						○			○	○									
小児看護学実習				○				○							○		○	○										
4前	看護管理学実習						○											○	○									
4後	総合実習																											
	看護学統合																		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	4 単位	20 単位	24 単位
保健医療基礎科目	16 単位	4 単位	20 単位
専門科目	75 単位	4 単位	79 単位
合計	98 単位	28 単位	126 単位

○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ（実践基礎）」の計2単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ（ライフサイクル各期）」、「助産診断・技術学Ⅲ（分娩期）」、「助産診断・技術学Ⅳ（ハイリスク分娩）」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）」の計13単位が必要である。

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」,「生涯身体運動科学」,「英語Ⅴ（保健医療英語）」,「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

(看護学科 編入生)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	千葉県の健康づくり	特色1	3後	1				○		必修3単位
	体験ゼミナール	特色2	3前	1					○	
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	3・4前		2		○		
		文学	一般3	3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	3・4後		2		○		
		教育学	一般7	3・4前		2		○		
		人間関係論	一般8	3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	3・4後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般13	3・4前		2		○		
		社会学	一般14	3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	3・4前		2		○		
		経済学	一般16	3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	3・4後		2		○		
		科学論	一般21	3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	3・4前		2		○		
		化学	一般26	3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	3・4後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシー I	一般28	3前	1				○	
		情報リテラシー II	一般29	3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	3・4後		1			○	
	外国語群	英語 I(基礎講読)	一般31	3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語 II(基礎英会話)	一般32	3・4前		1			○	
		英語 III(講読・記述)	一般33	3・4後		1			○	
		英語 IV(英会話)	一般34	3・4後		1			○	
		英語 V(保健医療英語)	一般35	3後		2			○	
		英語 VI(応用英語)	一般36	3・4後		1			○	

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目(「観察生物学入門」又は「生物学」)、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

(看護学科 編入生)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	3 前		1		○		必修 16 単位 + 選択 4 単位
		生化学総論	—	—	1			○		
		栄養学 I (基礎)	—	—	1			○		
		栄養学 II (応用)	保健 4	3 後		1		○		
		薬理学 I (総論)	—	—	1			○		
		薬理学 II (各論)	—	—	1			○		
		病理学 I (総論)	—	—	1			○		
		病理学 II (各論)	—	—	1			○		
		微生物学 I (総論)	—	—	1			○		
		微生物学 II (各論)	—	—	1			○		
		発達心理学	保健 12	4 前		1		○		
	臨床心理学	保健 13	3 後		1			○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	3 前		1		○		
公衆衛生学 I (基礎)		—	—	1			○			
公衆衛生学 II (応用)		—	—	1			○			
疫学・保健統計 I (基礎)		保健 17	3 前	1			○			
疫学・保健統計 II (応用)		保健 18	3 前	1			○			
リハビリテーション概論		保健 19	3 後		1		○			
救命・救急の理論と実際		保健 20	3 前	1			○			
保健医療福祉論 I (基礎)		保健 21	3 後	1			○			
保健医療福祉論 II (応用)		保健 22	3 後	1			○			
食育論 I (基礎)		保健 23	3 前		1		○			
食育論 II (応用)		保健 24	3 前		1		○			
健康と運動		保健 25	3 後		1		○			
家族社会学	保健 26	3 前		1		○				
医療経営管理論	保健 27	4 後		1		○				
リスクマネジメント論	保健 28	4 後	1			○				
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能 I (骨・筋・神経系)	—	—	1			○		【専門科目】 必修 76 単位 + 選択 3 単位
		人体の構造と機能 II (呼吸器・循環器・消化器系)	—	—	1			○		
		人体の構造と機能 III (泌尿器・生殖器・感覚器系)	—	—	1			○		
		病態学 I (内科系疾病論)	—	—	2			○		
		病態学 II (外科系疾病論)	—	—	2			○		
		病態学 III (高齢者・精神疾病論)	—	—	1			○		
		臨床検査実習	—	—	1				○	
	基礎看護科目	看護学入門	—	—	1				○	
		看護倫理	看 9	3 後	1				○	
		看護技術論 I (生活援助技術)	—	—	2				○	
看護技術論 II (看護共通技術)		—	—	1				○		

		看護技術論Ⅲ（フィジカルアセスメント技術）	—	—	2				○		
		看護技術論Ⅳ（検査治療技術）	—	—	2				○		
		看護技術論Ⅴ（看護過程展開技術）	—	—	1				○		
		看護ふれあい体験学習	—	—	2					○	
		基礎看護学実習	—	—	2					○	
専門科目	実践看護科目	医療・生活支援	成人看護学概論	看 17	3 後	1			○		
			成人看護学方法論Ⅰ	—	—	2			○		
			成人看護学方法論Ⅱ	—	—	2			○		
			がん看護学	看 20	3 後	1			○		
			ターミナルケア論	看 21	3・4 前		1		○		
			成人看護学実習（急性期）	—	—	3					○
			成人看護学実習（慢性期）	—	—	3					○
		療養支援	こころの健康と看護	看 24	3 後	1			○		
			療養支援看護概論	看 25	3 前	1			○		
			高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	—	—	1				○	
			高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ	—	—	2				○	
			精神看護学方法論	—	—	2				○	
			高齢者看護学実習	—	—	3					○
			在宅看護学実習	—	—	1					○
		健康支援	精神看護学実習	—	—	2					○
			地域看護学概論	看 32	3 前	2			○		
			地域看護学方法論Ⅰ	看 33	3 後	1			○		
			地域看護学方法論Ⅱ	看 34	3 前	2			○		
			地域看護学方法論Ⅲ	看 35	3 前	2			○		
		育成支援	地域看護学実習	看 36	3 後	3					○
			育成支援看護概論	看 37	4 前	1			○		
			小児看護学方法論Ⅰ	—	—	1				○	
			小児看護学方法論Ⅱ	—	—	1				○	
			母性看護学方法論Ⅰ	—	—	1				○	
			母性看護学方法論Ⅱ	—	—	1				○	
			母性看護学実習	—	—	2					○
			小児看護学実習	—	—	2					○
助産学概論	看 44		3 前		1		○				
助産診断・技術学Ⅰ（実践基礎）	看 45	3 前		1		○					
【専門科目】 （再掲） 必修 76 単位 ＋ 選択 3 単位											

(看護学科)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	発展看護科目	看護管理学	看 52	4 前	1			○		【専門科目】 (再掲) 必修 76 単位 + 選択 3 単位
		感染看護学	看 53	4 後		1		○		
		看護政策論	看 54	4 後		1		○		
		災害看護学	看 55	3 前	1			○		
		看護キャリア発達論	看 56	3 前	1			○		
		看護管理学実習	看 57	4 前	1				○	
		総合実習	看 58	4 後	2				○	
		看護研究	看 59	4 通	2				○	
		看護学統合	看 60	4 後	1				○	
		リーダーシップ論	看 61	4 後		1		○		
		継続看護方法論	看 62	4 後		1		○		
		国際看護論	看 63	3 前		1		○		
		家族看護学概論	看 64	3 後		1		○		
		家族看護学方法論	看 65	4 前		1		○		

(看護学科 編入生)

先修条件

【特色科目】

1. 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
2. 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

1. 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない授業科目の名称																										
		講義科目					演習科目										実習科目											
		看護学入門	こころの健康と看護	成人看護学概論	育成支援看護概論	地域看護学概論	療養支援看護概論	看護管理学	看護技術論ⅠⅡⅢ	看護技術論ⅣⅤⅥ	成人看護学方法論Ⅰ	成人看護学方法論Ⅱ	地域看護学方法論ⅠⅡⅢ	精神看護学方法論	高齢者・在宅看護学方法論ⅠⅡⅢ	母性看護学方法論ⅠⅡⅢ	小児看護学方法論ⅠⅡⅢ	看護ふれあい体験学習	基礎看護学実習	成人看護学実習(急性期)	成人看護学実習(慢性期)	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	総合実習
1前	看護ふれあい体験学習	○																										
2前	基礎看護学実習	○	○					○										○										
3後 4前	成人看護学実習(急性期)			○					○	○	○							○	○									
	成人看護学実習(慢性期)			○					○	○	○							○	○									
	地域看護学実習					○			○			○						○	○									
	精神看護学実習						○		○				○					○	○									
	在宅看護学実習							○		○				○				○	○									
	高齢者看護学実習						○		○					○				○	○									
	母性看護学実習				○				○							○			○	○								
小児看護学実習				○				○								○		○	○									
4前	看護管理学実習						○												○	○								
4後	総合実習																			○:選択する領域の実習								
	看護学統合																		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

(看護学科 編入生)

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	4 単位	20 単位	24 単位
保健医療基礎科目	16 単位	4 単位	20 単位
専門科目	76 単位	3 単位	79 単位
合計	99 単位	27 単位	126 単位

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計 8 単位が必要である。

○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

(栄養学科)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	千葉県の健康づくり	特色 1	2 後	1				○		必修 3 単位
	体験ゼミナール	特色 2	1 前	1					○	
	専門職間の連携活動論	特色 3	4 後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般 1	1・2・3・4 前		2		○		必修 9 単位 + 人間理解群, 生活と環境群, 情報理解群から 選択 13 単位 + 外国語群から 選択 2 単位
		哲学	一般 2	1・2・3・4 前		2		○		
		文学	一般 3	1・2・3・4 前		2		○		
		歴史と文化	一般 4	1・2・3・4 前		2		○		
		生命倫理	一般 5	1・2・3・4 後	2			○		
		宗教学	一般 6	1・2・3・4 後		2		○		
		教育学	一般 7	1・2・3・4 前		2		○		
		人間関係論	一般 8	1・2・3・4 前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般 9	1・2・3・4 前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般 10	1・2・3・4 前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般 11	1・2・3・4 前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般 12	1・2・3・4 後	2			○		
		法学(日本国憲法)	一般 13	1・2・3・4 前		2		○		
		社会学	一般 14	1・2・3・4 後		2		○		
		文化人類学	一般 15	1・2・3・4 前		2		○		
		経済学	一般 16	1・2・3・4 前		2		○		
		国際関係論	一般 17	1・2・3・4 後		2		○		
		社会福祉学	一般 18	1・2・3・4 前		1		○		
		国際的な健康課題	一般 19	1・2・3・4 後	1			○		
		人権・ジェンダー	一般 20	1・2・3・4 後		2		○		
		科学論	一般 21	1・2・3・4 前		2		○		
		環境変化と生態	一般 22	1・2・3・4 後		2		○		
		観察生物学入門	一般 23	1・2・3・4 前後		2		○		
		生物学	一般 24	1・2・3・4 前後		2		○		
		物理学	一般 25	1・2・3・4 前		2		○		
		化学	一般 26	1・2・3・4 前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般 27	1・2・3・4 後		1			○	
		情報リテラシー I	一般 28	1・2・3・4 前	1				○	
		情報リテラシー II	一般 29	1・2・3・4 後		1			○	
		情報倫理	一般 30	1・2・3・4 後	1			○		
	外国語群	英語 I(基礎講読)	一般 31	1・2・3・4 前		1			○	
		英語 II(基礎英会話)	一般 32	1・2・3・4 前		1			○	
		英語 III(講読・記述)	一般 33	1・2・3・4 後		1			○	
		英語 IV(英会話)	一般 34	1・2・3・4 後		1			○	
		英語 V(保健医療英語)	一般 35	1・2・3・4 前	2			○		
		英語 VI(応用英語)	一般 36	1・2・3・4 後		1			○	

(栄養学科)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	4 前		1		○		
		生化学総論	保健 2	1 前			1	○		
		栄養学 I (基礎)	保健 3	2 後			1	○		
		栄養学 II (応用)	保健 4	2 後			1	○		
		心の健康	保健 5	2・4 後		1		○		
		薬理学 I (総論)	保健 6	1 後	1			○		
		薬理学 II (各論)	保健 7	1 後	1			○		
		病理学 I (総論)	保健 8	2 前	1			○		
		病理学 II (各論)	保健 9	2 前	1			○		
		微生物学 I (総論)	保健 10	1・4 前		1		○		
		微生物学 II (各論)	保健 11	1・4 前		1		○		
		発達心理学	保健 12	1・4 前		1		○		
		臨床心理学	保健 13	1・2・4 後		1			○	
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	1・4 前		1		○		
		公衆衛生学 I (基礎)	保健 15	2 前	1			○		
		公衆衛生学 II (応用)	保健 16	2 後	1			○		
		疫学・保健統計 I (基礎)	保健 17	3 前	1			○		
		疫学・保健統計 II (応用)	保健 18	3 前	1			○		
		リハビリテーション概論	保健 19	2・3 後		1		○		
		救命・救急の理論と実際	保健 20	2・4 前		1		○		
		保健医療福祉論 I (基礎)	保健 21	2 後	1			○		
		保健医療福祉論 II (応用)	保健 22	2 後	1			○		
		食育論 I (基礎)	保健 23	3 前	1			○		
		食育論 II (応用)	保健 24	3 前		1		○		
		健康と運動	保健 25	1・4 後		1		○		
		家族社会学	保健 26	1・4 前		1		○		
		医療経営管理論	保健 27	4 後		1		○		
		リスクマネジメント論	保健 28	2・4 後		1		○		
専門科目	専門基礎科目	管理栄養士導入教育	栄 1	1 前	1			○		
		解剖学総論	栄 2	1 前	2			○		
		解剖学実験	栄 3	1 後	1				○	
		生理学総論	栄 4	1 後	2			○		
		生理学実験	栄 5	2 前	1				○	
		生化学	栄 6	1 前	2			○		
		栄養生化学	栄 7	1 後	2			○		
		生化学実験	栄 8	2 前	1				○	
		疾病論	栄 9	2 前	2			○		
		高齢者医療論	栄 10	3 後		1		○		
		食品学各論	栄 11	1 前	2			○		
		食品学実験	栄 12	2 前	1				○	
		食品学総論演習	栄 13	1 通	2				○	
		食品化学実験	栄 14	2 前	1					○
		理化学演習	栄 15	1 後		1			○	
		食品衛生学	栄 16	2 後	2			○		

必修 11 単位
+
選択 8 単位

【専門科目】
必修 76 単位
+
選択 4 単位

(栄養学科)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	専門基礎科目	食品衛生学実験	栄 17	2 後	1					○
		食品加工学	栄 18	2 前	2			○		
		食品加工学実習	栄 19	4 前	1					○
		食品微生物学	栄 20	3 後		1		○		
		食事設計と調理	栄 21	1 前	2			○		
		食事設計と調理実習	栄 22	2 前	1					○
		調理実習	栄 23	1 後	1					○
		調理科学実験	栄 24	2 後	1					○
	学 基礎	基礎栄養学	栄 25	1 後	2			○		
		基礎栄養学実習	栄 26	2 後	1					○
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	栄 27	2 後	2			○		
		応用栄養学Ⅱ	栄 28	3 前	2			○		
		応用栄養学Ⅲ	栄 29	3 後	2			○		
		応用栄養学実習	栄 30	3 前	1					○
		スポーツ栄養学	栄 31	3・4 後		1		○		
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	栄 32	2 後	2			○		
		栄養教育論Ⅱ	栄 33	3 前	2			○		
		栄養教育論実習	栄 35	3 前	1					○
		栄養教育手法論	栄 34	3 前	2			○		
		国際栄養学	栄 36	4 前		1		○		
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	栄 37	2 前	2			○		
		臨床栄養学Ⅱ	栄 38	2 後	2			○		
		臨床栄養学実習	栄 39	2 後	1				○	○
		栄養ケアマネジメント論演習	栄 40	3 通	2				○	
栄養ケアマネジメント論実習		栄 41	3 前	1					○	
臨床検査学		栄 42	2 前	2			○			
在宅栄養支援論		栄 43	3・4 後		1		○			
障害者栄養支援論		栄 44	3・4 後		1		○			
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	栄 45	2 前	2			○			
	公衆栄養学Ⅱ	栄 46	2 後	1			○			
	公衆栄養学実習	栄 47	3 前	1					○	
	栄養疫学	栄 48	4 前	1			○			
管理論	給食経営管理論Ⅰ	栄 49	2 前	2			○			
	給食経営管理論Ⅱ	栄 50	2 後	2			○			
	給食経営管理実習	栄 51	3 前	2					○	
	フードマネジメント論	栄 52	3・4 後		1		○			
演習 総合	総合演習	栄 53	4 前	1				○		
	卒業研究	栄 54	4 通		4			○		
臨地実習	臨床栄養臨地実習	栄 55	3 通	2					○	
	給食経営管理臨地実習	栄 56	3 通	2					○	
	公衆栄養臨地実習	栄 57	3 通		1				○	
	栄養管理臨地実習	栄 58	4 通		1				○	
	事前指導	栄 59	3 通	1				○		
	事後指導	栄 60	3 通	1				○		

【専門科目】
(再掲)
必修 76 単位
+
選択 4 単位

(栄養学科)

先修条件

【特色科目（平成 28 年度入学生より適用する）】

1. 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること.
2. 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」, 「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること.

【専門科目】

1. 「臨床栄養学実習」を履修するには, 「臨床栄養学Ⅰ」の単位を修得済みであり, 「臨床栄養学Ⅱ」の単位は修得見込みであること.
2. 「栄養ケアマネジメント論演習」及び「栄養ケアマネジメント論実習」を履修するには, 「臨床栄養学実習」の単位を修得済みであること.
3. 「公衆栄養学実習」を履修するには, 「公衆栄養学Ⅰ」及び「公衆栄養学Ⅱ」の単位を修得済みであること.
4. 「給食経営管理実習」を履修するには, 「給食経営管理論Ⅰ」及び「給食経営管理論Ⅱ」の単位を修得済みであること.
5. 「臨床栄養臨地実習」, 「給食経営管理臨地実習」, 「公衆栄養臨地実習」, 「事前指導」及び「事後指導」を履修するには, 2 年生後期までに配当された必修の専門科目の単位を修得済みであり, 3 年前期に配当された必修の専門科目の単位を修得見込みであること.
6. 「栄養教諭教育実習」及び「栄養教諭教育実習: 事前・事後指導」を履修するには, 管理栄養士課程の「臨床栄養臨地実習」及び「給食経営管理臨地実習」を単位修得済みであり, 3 年次終了までに配当された教職課程の全科目を単位修得済みであること.

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	9 単位	15 単位	24 単位
保健医療基礎科目	11 単位	8 単位	19 単位
専門科目	76 単位	4 単位	80 単位
合計	99 単位	27 単位	126 単位

教職（栄養教諭一種）課程選択

栄養教諭一種免許取得希望者は、下表に指定する一般教養科目を含む卒業要件の126単位のほか、栄養教諭に関する科目を履修し、その単位を取得しなければならない。卒業時の取得単位数は149単位とする。

栄養教諭一種免許取得希望者の履修内容は次のとおりである。

科目区分		授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数	履修方法等
一般教養科目	理人 解群 間	健康スポーツ科学 (再掲)	一般 10	1・2 前後	1	
		生涯身体運動科学 (再掲)	一般 11	1 前後・3 前	1	
	環生 境活 と群	法学（日本国憲法） (再掲)	一般 13	1・3 前	2	
	理情 解群 報	情報リテラシーⅠ (再掲)	一般 28	1 前	1	
		情報リテラシーⅡ (再掲)	一般 29	1・2 後	1	
	外国 語群	英語Ⅱ（基礎英会話） (再掲)	一般 32	1・2 前	1	
		英語Ⅳ（英会話） (再掲)	一般 34	1 後	1	
英語Ⅵ（応用英語） (再掲)		一般 36	1 後	1		
に 関 する 科 目		食生活教育論	栄 61	3 前	2	3 科目のうち 2 単位を 選択必修とする
		学校栄養教育論	栄 62	3 後	2	
栄養教諭に関する科目	教職 の 意 義	教職論	栄 63	1 後	2	
		教育 の 基 礎 理 論	教育学概論	栄 64	2 後	
	教育心理		栄 65	2 前	2	
	教育制度論		栄 66	2 後	1	
	教育 課 程	カリキュラム論	栄 67	2 前	1	
		教育の方法と技術	栄 68	3 前	2	
		道徳教育・特別活動論	栄 69	2 前	1	
	生徒 指 導	生徒指導論	栄 70	3 前	2	
		教育相談	栄 71	3 後	2	
	総 合 演 習	教職実践演習（栄養教諭）	栄 72	4 後	2	
栄 養 教 諭 実 習	栄養教諭教育実習：事前・事後指導	栄 73	4 通	1		
	栄養教諭教育実習	栄 74	4 通	2		

(歯科衛生学科)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
特色科目	千葉県の健康づくり	特色 1	2 後	1				○		必修 3 単位	
	体験ゼミナール	特色 2	1 前	1					○		
	専門職間の連携活動論	特色 3	4 後	1				○			
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般 1	1・2・3・4 前		2		○		必修 9 単位	
		哲学	一般 2	1・2・3・4 前		2		○			
		文学	一般 3	1・2・3・4 前		2		○			
		歴史と文化	一般 4	1・2・3・4 前		2		○			
		生命倫理	一般 5	1・2・3・4 後	2			○			
		宗教学	一般 6	1・2・3・4 後		2		○			
		教育学	一般 7	1・2・3・4 前		2		○			
		人間関係論	一般 8	1・2・3・4 前		2		○			
		コミュニケーション理論と実際	一般 9	1・2・3・4 前		2		○			
		健康スポーツ科学	一般 10	1・2・3・4 前後	1				○		
		生涯身体運動科学	一般 11	1・2・3・4 前後		1			○		
	生活と環境群	生活とデザイン	一般 12	1・2・3・4 後		2		○			
		法学（日本国憲法）	一般 13	1・2・3・4 前	2			○			
		社会学	一般 14	1・2・3・4 後		2		○			
		文化人類学	一般 15	1・2・3・4 前		2		○			
		経済学	一般 16	1・2・3・4 前		2		○			
		国際関係論	一般 17	1・2・3・4 後		2		○			
		社会福祉学	一般 18	1・2・3・4 前		1		○			
		国際的な健康課題	一般 19	1・2・3・4 後		1		○			
		人権・ジェンダー	一般 20	1・2・3・4 後		2		○			
		科学論	一般 21	1・2・3・4 前		2		○			
		環境変化と生態	一般 22	1・2・3・4 後		2		○			
		観察生物学入門	一般 23	1・2・3・4 前後		2		○			
		生物学	一般 24	1・2・3・4 前後	2			○			
		物理学	一般 25	1・2・3・4 前		2		○			
		化学	一般 26	1・2・3・4 前		2		○			
	情報理解群	統計学	一般 27	1・2・3・4 後	1				○		
		情報リテラシー I	一般 28	1・2・3・4 前	1				○		
		情報リテラシー II	一般 29	1・2・3・4 後		1			○		
		情報倫理	一般 30	1・2・3・4 後		1		○			
	外国語群	英語 I (基礎講読)	一般 31	1・2・3・4 前		1			○		必修 2 単位 + 選択 2 単位
		英語 II (基礎英会話)	一般 32	1・2・3・4 前		1			○		
		英語 III (講読・記述)	一般 33	1・2・3・4 後		1			○		
		英語 IV (英会話)	一般 34	1・2・3・4 後		1			○		
		英語 V (保健医療英語)	一般 35	2 前	2			○			
		英語 VI (応用英語)	一般 36	1・2・3・4 後		1			○		

【一般教養科目】選択科目から選択 13 単位

(歯科衛生学科)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	2 前		1		○			必修 16 単位 + 選択 3 単位
		生化学総論	保健 2	1 前		1		○			
		栄養学 I (基礎)	保健 3	1 後	1			○			
		栄養学 II (応用)	保健 4	1 後	1			○			
		心の健康	保健 5	1 後	1			○			
		薬理学 I (総論)	保健 6	1 後	1			○			
		薬理学 II (各論)	保健 7	1 後	1			○			
		病理学 I (総論)	保健 8	1 前	1			○			
		病理学 II (各論)	保健 9	1 前	1			○			
		微生物学 I (総論)	保健 10	1 前	1			○			
		微生物学 II (各論)	保健 11	1 前	1			○			
		発達心理学	保健 12	1 前		1		○			
		臨床心理学	保健 13	1 後		1			○		
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	1 前		1		○			
		公衆衛生学 I (基礎)	保健 15	2 前	1			○			
		公衆衛生学 II (応用)	保健 16	2 後	1			○			
		疫学・保健統計 I (基礎)	保健 17	3 前		1		○			
		疫学・保健統計 II (応用)	保健 18	3 前		1		○			
		リハビリテーション概論	保健 19	2 後	1			○			
		救命・救急の理論と実際	保健 20	2 前	1			○			
		保健医療福祉論 I (基礎)	保健 21	2 後	1			○			
		保健医療福祉論 II (応用)	保健 22	2 後	1			○			
		食育論 I (基礎)	保健 23	3 前	1			○			
		食育論 II (応用)	保健 24	3 前		1		○			
		健康と運動	保健 25	1 後		1		○			
		家族社会学	保健 26	1 前		1		○			
		医療経営管理論	保健 27	4 後		1		○			
		リスクマネジメント論	保健 28	2 後		1		○			
専門科目	歯科衛生基礎	解剖学総論	歯 1	1 前	2			○			必修 28 単位
		生理学総論	歯 2	1 後	2			○			
		内科学概論	歯 3	1 後	1			○			
		高齢者医療論	歯 4	2 後	1			○			
		口腔解剖学	歯 5	1 前	2			○			
		口腔生理学	歯 6	2 前	1			○			
		口腔病理学	歯 7	1 後	1			○			
		口腔微生物学	歯 8	1 後	1			○			
		歯科薬理学	歯 9	2 前	1			○			
		歯科生化学・臨床検査法	歯 10	1 後	1			○			
		口腔衛生学	歯 11	1 後	2			○			
		歯科感染予防学	歯 12	2 後	1			○			
		歯科診断学	歯 13	2 後	1			○			
		歯科矯正学	歯 14	3 前	1			○			
		歯科材料学	歯 15	2 前	1			○			
		歯科治療学 I (保存修復・歯内療法学)	歯 16	2 前	2			○			

(歯科衛生学科)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	歯科衛生基礎	歯科治療学Ⅱ (歯周治療学)	歯 17	2 前	1			○		
		歯科治療学Ⅲ (歯科補綴学)	歯 18	2 前	2			○		
		顎口腔外科学	歯 19	2 前	2			○		
		顎口腔機能論	歯 20	2 前	1			○		
		歯科衛生基礎演習	歯 21	2 前	1				○	
	生涯歯科衛生	歯科衛生学概論	歯 22	1 前	2			○		
		チーム歯科医療論	歯 23	2 前	1			○		
		歯科疾患予防学	歯 24	2 前	1			○		
		発達歯科衛生学Ⅰ(小児)	歯 25	2 後	2			○		
		発達歯科衛生学Ⅱ(成人・高齢者)	歯 26	2 後	3			○		
		演習Ⅰ (歯科材料・歯科診療補助)	歯 27	3 前	2				○	
		演習Ⅱ (歯科予防処置)	歯 28	3 前	2				○	
		顎口腔機能リハビリテーション論	歯 29	2 後	1			○		
		演習Ⅲ (口腔機能リハビリテーション)	歯 30	3 前	1				○	
	在宅歯科衛生管理論Ⅰ	歯 31	3 前	1			○			
	在宅歯科衛生管理論Ⅱ	歯 32	4 前		1		○			
	歯科衛生健康推進	歯科衛生アセスメント論	歯 33	3 前	1			○		
		保健行動科学論	歯 34	2 前	1			○		
		歯科保健指導・健康教育論	歯 35	2 前	1			○		
		演習Ⅳ (歯科保健指導・カウンセリング)	歯 36	2 後～3 前	3				○	
		歯科衛生統計学	歯 37	3 前	1			○		
		地域歯科衛生学	歯 38	2 後	1			○		
		演習Ⅴ (地域歯科衛生)	歯 39	3 前	1				○	
		国際歯科衛生学	歯 40	3 前		1		○		
		歯科医療管理論	歯 41	4 前		1		○		
		社会保障・社会保険論	歯 42	3 前	1			○		
	総合演習	歯 43	3 後	1				○		
	臨床・臨床実習	歯科診療室基礎実習	歯 44	3 前	2					○
		歯科診療所実習	歯 45	3 後	4					○
		病院実習	歯 46	4 後	3					○
		継続・個別支援実習	歯 47	3 後・4 前	4					○
		発達歯科衛生実習Ⅰ (小児)	歯 48	4 前	2					○
発達歯科衛生実習Ⅱ (成人・高齢者)		歯 49	4 前	2					○	
地域歯科衛生実習		歯 50	4 前	1					○	
歯科診療室総合実習	歯 51	3 後・4 前	4					○		
研究	卒業研究	歯 52	3 後・4 通		3			○		

生涯歯科衛生及び歯科衛生健康推進から選択3単位

必修
16 単位

必修
11 単位

必修 22
単位

(歯科衛生学科)

先修条件

【特色科目（平成 28 年度入学生より適用する）】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 歯科衛生基礎演習を履修するには、口腔微生物学、口腔衛生学の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 2 演習Ⅰ（歯科材料・歯科診療補助）を履修するには、歯科材料学、チーム歯科医療論の単位を修得済みであること。
- 3 演習Ⅱ（歯科予防処置）を履修するには、歯科疾患予防学の単位を修得済みであること。
- 4 演習Ⅲ（口腔機能リハビリテーション）を履修するには、顎口腔機能論、顎口腔機能リハビリテーションの単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 5 演習Ⅳ（歯科保健指導・カウンセリング）を履修するには、歯科衛生アセスメント論、保健行動科学論、歯科保健指導・健康教育論の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 6 演習Ⅴ（地域歯科衛生）を履修するには、地域歯科衛生学の単位を修得済みであること。
- 7 総合演習を履修するには、演習Ⅰ、演習Ⅱ、演習Ⅲ、演習Ⅳ、演習Ⅴすべての単位を修得済みであること。
- 8 歯科診療室基礎実習を履修するには、以下のア、イの条件を満たさなければならない。
ア 保健医療基礎科目及び専門科目のうち、2年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
イ 演習Ⅰ（歯科材料・歯科診療補助）の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 9 歯科診療室基礎実習を除く臨床・臨地実習を履修するには、保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 10 卒業研究を履修するには、原則として4年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	11単位	13単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	3単位	19単位
専門科目	77単位	3単位	80単位
合計	107単位	19単位	126単位

(リハビリテーション学科理学療法専攻)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	千葉県の健康づくり	特色 1	2 後	1				○		必修 3 単位
	体験ゼミナール	特色 2	1 前	1					○	
	専門職間の連携活動論	特色 3	4 後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般 1	1・2・3・4 前	2			○		必修 2 単位
		哲学	一般 2	1・2・3・4 前		2		○		
		文学	一般 3	1・2・3・4 前		2		○		
		歴史と文化	一般 4	1・2・3・4 前		2		○		
		生命倫理	一般 5	1・2・3・4 後		2		○		
		宗教学	一般 6	1・2・3・4 後		2		○		
		教育学	一般 7	1・2・3・4 前		2		○		
		人間関係論	一般 8	1・2・3・4 前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般 9	1・2・3・4 前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般 10	1・2・3・4 前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般 11	1・2・3・4 前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般 12	1・2・3・4 後		2		○		必修 2 単位 このうち「人間関係論」「コミュニケーション理論と実際」から 1 科目を選択 「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から 1 科目を選択
		法学（日本国憲法）	一般 13	1・2・3・4 前		2		○		
		社会学	一般 14	1・2・3・4 後		2		○		
		文化人類学	一般 15	1・2・3・4 前		2		○		
		経済学	一般 16	1・2・3・4 前		2		○		
		国際関係論	一般 17	1・2・3・4 後		2		○		
		社会福祉学	一般 18	1・2・3・4 前		1		○		
		国際的な健康課題	一般 19	1・2・3・4 後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般 20	1・2・3・4 後		2		○		
		科学論	一般 21	1・2・3・4 前		2		○		
		環境変化と生態	一般 22	1・2・3・4 後		2		○		
		観察生物学入門	一般 23	1・2・3・4 前後		2		○		
		生物学	一般 24	1・2・3・4 前後		2		○		
		物理学	一般 25	1・2・3・4 前		2		○		
		化学	一般 26	1・2・3・4 前		2		○		
情報理解群	統計学	一般 27	1・2・3・4 後	1				○	必修 2 単位	
	情報リテラシー I	一般 28	1・2・3・4 前	1				○		
	情報リテラシー II	一般 29	1・2・3・4 後		1			○		
	情報倫理	一般 30	1・2・3・4 後		1		○			
外国語群	英語 I (基礎講読)	一般 31	1・2・3・4 前		1			○	必修 2 単位 + 選択 2 単位	
	英語 II (基礎英会話)	一般 32	1・2・3・4 前		1			○		
	英語 III (講読・記述)	一般 33	1・2・3・4 後		1			○		
	英語 IV (英会話)	一般 34	1・2・3・4 後		1			○		
	英語 V (保健医療英語)	一般 35	1・2・3・4 前		2		○			
	英語 VI (応用英語)	一般 36	1・2・3・4 後		1			○		

(リハビリテーション学科理学療法学専攻)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	2 前		1		○		必修 7 単位 + 選択 2 単位
		生化学総論	保健 2	1 前		1		○		
		栄養学Ⅰ (基礎)	保健 3	1 後		1		○		
		栄養学Ⅱ (応用)	保健 4	1 後		1		○		
		心の健康	保健 5	1 後		1		○		
		薬理学Ⅰ (総論)	保健 6	1 後		1		○		
		薬理学Ⅱ (各論)	保健 7	1 後		1		○		
		病理学Ⅰ (総論)	保健 8	1 前	1			○		
		病理学Ⅱ (各論)	保健 9	1 前		1		○		
		微生物学Ⅰ (総論)	保健 10	1 前	1			○		
		微生物学Ⅱ (各論)	保健 11	1 前		1		○		
		発達心理学	保健 12	1 前		1		○		
		臨床心理学	保健 13	1 後	1				○	
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	1 前	1			○		
		公衆衛生学Ⅰ (基礎)	保健 15	2 前		1		○		
		公衆衛生学Ⅱ (応用)	保健 16	2 後		1		○		
		疫学・保健統計Ⅰ (基礎)	保健 17	3 前		1		○		
		疫学・保健統計Ⅱ (応用)	保健 18	3 前		1		○		
		リハビリテーション概論	保健 19	1 後	1			○		
		救命・救急の理論と実際	保健 20	2 前		1		○		
		保健医療福祉論Ⅰ (基礎)	保健 21	2 後	1			○		
		保健医療福祉論Ⅱ (応用)	保健 22	2 後	1			○		
		食育論Ⅰ (基礎)	保健 23	3 前		1		○		
		食育論Ⅱ (応用)	保健 24	3 前		1		○		
		健康と運動	保健 25	1 後		1		○		
		家族社会学	保健 26	1 前		1		○		
		医療経営管理論	保健 27	4 後		1		○		
		リスクマネジメント論	保健 28	2 後		1		○		
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ (筋・骨・神経系の構造)	理 1	1 前	1			○		必修 24 単位 + 選択 1 単位
		人体の構造Ⅱ (脈管・内臓・感覚器の構造)	理 2	1 後	1			○		
		人体の構造実習	理 3	1 後	1				○	
		人体の機能Ⅰ (動物性機能)	理 4	1 前	1			○		
		人体の機能Ⅱ (植物性機能)	理 5	1 後	1			○		
		人体の機能実習	理 6	2 前	1				○	
		運動学Ⅰ (運動の基礎科学)	理 7	1 後	1			○		
		運動学Ⅱ (応用的運動科学)	理 8	2 前	1			○		
		運動学実習	理 9	2 後	1				○	
		臨床運動学	理 10	2 後	1			○		
		機能解剖学	理 11	1 後	1			○		
		人間工学	理 12	2 後		1		○		
		人間発達学	理 13	2 前	1			○		
		医学総論	理 14	1 後	1			○		
		内科学総論	理 15	2 前	1			○		
		内科学各論	理 16	2 後	1			○		
		神経内科学総論	理 17	2 前	1			○		
		神経内科学各論	理 18	2 後	1			○		
		整形外科学総論	理 19	2 前	1			○		

(リハビリテーション学科理学療法学専攻)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
	整形外科各論	理 20	2 後	1				○		
	精神神経科学総論	理 21	2 前	1				○		
	精神神経科学各論	理 22	2 後		1			○		
	老年科学	理 23	3 前	1				○		
	小児科学	理 24	3 前	1				○		
	臨床医学概論	理 25	3 前	1				○		
	リハビリテーション医学	理 26	3 前	1				○		
理学療法専門基礎科目	理学療法概論	理 27	1 前	2			○			必修 18 単位
	理学療法管理学	理 28	4 後	1			○			
	運動療法学	理 29	2 前	2			○			
	理学療法測定学	理 30	2 前	2			○			
	理学療法測定学演習	理 31	2 前	1				○		
	理学療法臨床測定学	理 32	2 後	1				○		
	日常生活活動学	理 33	2 前	2			○			
	日常生活活動学演習	理 34	2 後	1				○		
	物理療法学	理 35	2 後	1			○			
	物理療法学演習	理 36	2 後	1				○		
	義肢装具学	理 37	3 前	2			○			
	義肢装具学演習	理 38	3 前	1				○		
	理学療法研究方法論	理 39	3 前	1				○		
専門科目	運動器障害理学療法学	理 40	3 前	2			○			必修 23 単位 + 選択 2 単位
	運動器障害理学療法学演習	理 41	3 後	1				○		
	運動器障害理学療法学特論	理 42	3 後		1			○		
	神経系障害評価学	理 43	3 前	1			○			
	神経系障害理学療法学	理 44	3 前	2			○			
	神経系障害理学療法学演習	理 45	3 後	1				○		
	神経系障害理学療法学特論	理 46	3 後		1			○		
	内部障害理学療法学	理 47	3 前	2			○			
	内部障害理学療法学演習	理 48	3 後	1				○		
	内部障害理学療法学特論	理 49	3 後		1		○			
	老年期障害理学療法学	理 50	3 前	2			○			
	老年期障害理学療法学演習	理 51	3 後	1				○		
	発達障害理学療法学	理 52	3 前	2			○			
	発達障害理学療法学演習	理 53	3 後	1				○		
	発達障害理学療法学特論	理 54	3 後		1		○			
	地域理学療法学	理 55	3 前	2			○			
	地域理学療法学演習	理 56	3 後	1				○		
地域理学療法学特論	理 57	3 後	1			○				
理学療法技術論	理 58	4 後	1				○			
生体機能計測学	理 59	3 前	1				○			
理学療法発展領域論	理 60	4 後	1				○			
実習 臨床	臨床実習 I (体験実習)	理 61	1 後	1					○	必修 20 単位
	臨床実習 II (評価実習)	理 62	3 後	5					○	

	臨床実習Ⅲ（運動器系総合実習）	理 63	4 前	7					○	
	臨床実習Ⅳ（神経系総合実習）	理 64	4 前	7					○	
研究	卒業研究	理 65	4 通	2				○		必修 2 単位

先修条件

【特色科目（平成 28 年度入学生より適用する）】

1. 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
2. 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

1. 「運動療法学」、「臨床運動学」、「理学療法測定学」、「理学療法測定学演習」、「理学療法臨床測定学」および「神経系障害評価学」を履修するには、1 年次配当の必修科目「人体の構造Ⅰ」、「人体の構造Ⅱ」、「人体の構造実習」、「運動学Ⅰ」および「機能解剖学」単位を修得済みであること。
2. 「物理療法学」、「日常生活活動学」、「運動器障害理学療法学」、「神経系障害理学療法学」および「発達障害理学療法学」を履修するには、1 年次配当の必修科目「人体の機能Ⅰ」、「人体の機能Ⅱ」の単位を修得済みであること。
3. 「臨床実習Ⅱ」を履修するには、3 学年前期までに開講するすべての必修科目の単位を修得済みであること。
4. 「臨床実習Ⅲ」および「臨床実習Ⅳ」を履修するには、3 年後期までに開講するすべての必修科目（「臨床実習Ⅱ」を含む）の単位を修得済みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	8 単位	16 単位	24 単位
保健医療基礎科目	7 単位	2 単位	9 単位
専門科目	87 単位	3 単位	90 単位
合計	105 単位	21 単位	126 単位

(リハビリテーション学科作業療法学専攻)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	千葉県の健康づくり	特色 1	2 後	1				○		必修 3 単位
	体験ゼミナール	特色 2	1 前	1					○	
	専門職間の連携活動論	特色 3	4 後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般 1	1・2・3・4 前	2			○		必修 2 単位 + 選択 2 単位 (※4)
		哲学	一般 2	1・2・3・4 前		2		○		
		文学	一般 3	1・2・3・4 前		2		○		
		歴史と文化	一般 4	1・2・3・4 前		2		○		
		生命倫理	一般 5	1・2・3・4 後		2		○		
		宗教学	一般 6	1・2・3・4 後		2		○		
		教育学	一般 7	1・2・3・4 前		2		○		
		人間関係論	一般 8	1・2・3・4 前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般 9	1・2・3・4 前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般 10	1・2・3・4 前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般 11	1・2・3・4 前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般 12	1・2・3・4 後		2		○		必修 2 単位
		法学（日本国憲法）	一般 13	1・2・3・4 前		2		○		
		社会学	一般 14	1・2・3・4 後		2		○		
		文化人類学	一般 15	1・2・3・4 前		2		○		
		経済学	一般 16	1・2・3・4 前		2		○		
		国際関係論	一般 17	1・2・3・4 後		2		○		
		社会福祉学	一般 18	1・2・3・4 前		1		○		
		国際的な健康課題	一般 19	1・2・3・4 後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般 20	1・2・3・4 後		2		○		
		科学論	一般 21	1・2・3・4 前		2		○		
		環境変化と生態	一般 22	1・2・3・4 後		2		○		
		観察生物学入門	一般 23	1・2・3・4 前後		2		○		
		生物学	一般 24	1・2・3・4 前後		2		○		
		物理学	一般 25	1・2・3・4 前		2		○		
		化学	一般 26	1・2・3・4 前		2		○		
情報理解群	統計学	一般 27	1・2・3・4 後	1				○	必修 2 単位	
	情報リテラシー I	一般 28	1 前	1				○		
	情報リテラシー II	一般 29	1・2・3・4 後		1			○		
	情報倫理	一般 30	1・2・3・4 後		1			○		
外国語群	英語 I（基礎講読）	一般 31	1・2・3・4 前		1			○	必修 2 単位 + 選択 2 単位	
	英語 II（基礎英会話）	一般 32	1・2・3・4 前		1			○		
	英語 III（講読・記述）	一般 33	1・2・3・4 後		1			○		
	英語 IV（英会話）	一般 34	1・2・3・4 後		1			○		
	英語 V（保健医療英語）	一般 35	2 前		2			○		
	英語 VI（応用英語）	一般 36	1・2・3・4 後		1			○		

【一般教養科目】選択科目から選択 12 単位

※4 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」のどちらかを選択して履修する。

(リハビリテーション学科作業療法学専攻)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	2 前		1		○		必修 6 単位 + 選択 1 単位
		生化学総論	保健 2	1 前		1		○		
		栄養学Ⅰ (基礎)	保健 3	1 後		1		○		
		栄養学Ⅱ (応用)	保健 4	1 後		1		○		
		心の健康	保健 5	1 後		1		○		
		薬理学Ⅰ (総論)	保健 6	1 後		1		○		
		薬理学Ⅱ (各論)	保健 7	1 後		1		○		
		病理学Ⅰ (総論)	保健 8	1 前	1			○		
		病理学Ⅱ (各論)	保健 9	1 前		1		○		
		微生物学Ⅰ (総論)	保健 10	1 前		1		○		
		微生物学Ⅱ (各論)	保健 11	1 前		1		○		
		発達心理学	保健 12	1 前		1		○		
		臨床心理学	保健 13	1 後	1				○	
保健医療基礎科目	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	1 前	1			○		必修 6 単位 + 選択 1 単位
		公衆衛生学Ⅰ (基礎)	保健 15	2 前		1		○		
		公衆衛生学Ⅱ (応用)	保健 16	2 後		1		○		
		疫学・保健統計Ⅰ (基礎)	保健 17	3 前		1		○		
		疫学・保健統計Ⅱ (応用)	保健 18	3 前		1		○		
		リハビリテーション概論	保健 19	1 後	1			○		
		救命・救急の理論と実際	保健 20	2 前		1		○		
		保健医療福祉論Ⅰ (基礎)	保健 21	2 後	1			○		
		保健医療福祉論Ⅱ (応用)	保健 22	2 後	1			○		
		食育論Ⅰ (基礎)	保健 23	3 前		1		○		
		食育論Ⅱ (応用)	保健 24	3 前		1		○		
		健康と運動	保健 25	1 後		1		○		
		家族社会学	保健 26	1 前		1		○		
医療経営管理論	保健 27	4 後		1		○				
リスクマネジメント論	保健 28	2 後		1		○				
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ (筋・骨・神経系の構造)	作 1	1 前	1			○	○	必修 24 単位 + 選択 1 単位
		人体の構造Ⅱ (脈管・内臓・感覚器の構造)	作 2	1 後	1			○		
		人体の構造実習	作 3	1 後	1				○	
		人体の機能Ⅰ (動物性機能)	作 4	1 前	1			○		
		人体の機能Ⅱ (植物性機能)	作 5	1 後	1			○		
		人体の機能実習	作 6	2 前	1				○	
		機能解剖学	作 7	1 後		1		○		
		作業運動学Ⅰ (作業運動の基礎)	作 8	1 後	1			○		
		作業運動学Ⅱ (作業運動の応用)	作 9	2 前	1			○		
		作業運動学実習	作 10	2 後	1				○	
		作業運動学分析学	作 11	2 前	1			○		
		臨床運動学	作 12	2 前		1			○	
		人間工学	作 13	2 後		1			○	
		人間発達学	作 14	2 前	1				○	
		医学総論	作 15	1 後	1			○		
		内科学総論	作 16	2 前	1				○	
		内科学各論	作 17	2 後	1				○	
		神経内科学総論	作 18	2 前	1				○	
		神経内科学各論	作 19	2 後	1				○	

(リハビリテーション学科作業療法学専攻)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門基礎科目	整形外科学総論	作 20	2 前	1				○		必修 7 単位 + 選択 1 単位		
	整形外科学各論	作 21	2 後	1				○				
	精神神経科学総論	作 22	2 前	1				○				
	精神神経科学各論	作 23	2 後	1				○				
	老年科学	作 24	3 前	1				○				
	小児科学	作 25	3 前	1				○				
	臨床医学概論	作 26	3 前	1				○				
	リハビリテーション医学	作 27	3 前	1				○				
	基礎作業療法学	作業療法概論	作 28	1 前	2			○				
		作業療法管理学	作 29	3 後		1		○				
		作業療法基礎理論	作 30	2 前		1			○			
		作業療法研究法	作 31	3 後	1			○				
		基礎作業学・演習	作 32	1 前	1				○			
		基礎作業学実習	作 33	1 後	1						○	
		作業療法評価学概論	作 34	1 後	1			○				
		地域作業療法学概論	作 35	3 前	1			○				
	専門科目 実践作業療法学	作業療法評価学Ⅰ（神経・心肺機能系）	作 36	2 前	2			○				必修 32 単位
		作業療法治療学Ⅰ（神経・心肺機能系）	作 37	2 後	2			○				
		作業療法学Ⅰ演習（神経・心肺機能系）	作 38	3 前	1				○			
		作業療法評価学Ⅱ（廃用・運動機能系）	作 39	2 前	2			○				
		作業療法治療学Ⅱ（廃用・運動機能系）	作 40	2 後	2			○				
		作業療法学Ⅱ演習（廃用・運動機能系）	作 41	3 前	1				○			
		作業療法評価学Ⅲ（精神・心理機能系）	作 42	2 前	2			○				
		作業療法治療学Ⅲ（精神・心理機能系）	作 43	2 後	2			○				
		作業療法学Ⅲ演習（精神・心理機能系）	作 44	3 前	1				○			
		作業療法評価学Ⅳ（認知・知能機能系）	作 45	2 前	2			○				
		作業療法治療学Ⅳ（認知・知能機能系）	作 46	2 後	2			○				
作業療法学Ⅳ演習（認知・知能機能系）		作 47	3 前	1				○				
日常生活活動技術学		作 48	3 前	2			○					
日常生活活動技術学演習		作 49	3 後	1				○				
日常生活活動援助学		作 50	3 前	2			○					
日常生活活動援助学演習		作 51	3 後	1				○				
社会的適応支援評価学		作 52	2 後	2			○					
社会的適応支援学		作 53	3 前	2			○					
社会的適応支援学演習	作 54	3 後	1				○					
作業療法セミナー	作 55	3 前～4 前	1				○					
臨床実習	臨床体験実習	作 56	1 通	1					○	必修 27 単位		
	評価実習Ⅰ	作 57	3 通	3					○			
	評価実習Ⅱ	作 58	3 通	3					○			
	総合実習Ⅰ	作 59	4 通	8					○			
	総合実習Ⅱ	作 60	4 通	8					○			
	地域作業療法学実習	作 61	4 通	3					○			
研究	卒業研究	作 62	4 通	1				○				

(リハビリテーション学科作業療法学専攻)

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	8単位	16単位	24単位
保健医療基礎科目	6単位	1単位	7単位
専門科目	90単位	2単位	92単位
合計	107単位	19単位	126単位

先修条件

【特色科目（平成28年度入学生より適用する）】

- 1) 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2) 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県健康づくり」の両単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1) 「総合実習Ⅰ」および「総合実習Ⅱ」を履修するには、すでに「評価実習Ⅰ」および「評価実習Ⅱ」の両科目の単位を修得済みであること。

資料2 平成30年度非常勤講師一覧

氏名	科目
稲垣 三恵子	英語Ⅰ(基礎講読)
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅱ(基礎英会話)
稲垣 三恵子	英語Ⅳ(英会話)
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅳ(英会話)
稲垣 三恵子	英語Ⅴ(保健医療英語)
大西 仁	科学論
橋本 健一	観察生物学入門
安孫子 誠男	経済学
水口 章	国際関係論
牧 純	国際的な健康課題
福田 康二 常山 吾朗	コミュニケーション理論と実際①
福田 康二 常山 吾朗	コミュニケーション理論と実際②
島村 賢一	社会学
佐藤 真生子	社会福祉学
大江 満	宗教学
島村 賢一	人権・ジェンダー
高橋 良博	心理学
上野 義雪	生活とデザイン
橋本 健一	生物学
小館 貴幸	生命倫理
森 禎徳	生命倫理
高井 寛	哲学
常山 吾朗	人間関係論
岩崎 三郎	物理学
岩崎 三郎	物理学
柴 佳世乃	文学
安倍 宰	文化人類学
覺正 豊和	法学(日本国憲法)
黒崎 輝人	歴史と文化
佐藤 貴一郎	医療経営管理論
高尾 公矢	家族社会学
高梨 一彦	発達心理学
清水 健	微生物学Ⅰ(総論)
清水 健	微生物学Ⅱ(各論)
福井 謙二	病理学Ⅰ(総論)
福井 謙二	病理学Ⅱ(各論)
本多 敏明	保健医療福祉論Ⅰ(基礎)
鈴木 俊雄	薬理学Ⅰ(総論)
鈴木 俊雄	薬理学Ⅱ(各論)
高橋 静子	リスクマネジメント論
矢口 大雄	臨床心理学
児玉 久仁子	家族看護学概論
児玉 久仁子	家族看護学方法論
鈴木 康美	看護管理学
鈴木 明子	感染看護学
伊藤 尚子	国際看護論
岡野 達弥 賀川 真吾 鈴木 秀海 高野 重紹 三島 敬 石川 博士 山浦 晶 渡邊 倫子	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
杉澤 淳子	病態学Ⅲ(高齢者・精神疾病論)

雨宮 歩	解剖学総論
佐久間 祐子	教育心理
佐久間 祐子	教育相談
三好 美紀	国際栄養学
田中 和美	在宅栄養支援論
藤谷 朝実	障害者栄養支援論
土橋 昇	食品化学実験
土橋 昇	食品学総論演習
土橋 昇	食品加工学実習
土橋 昇	食品微生物学
本 国子	スポーツ栄養学
須藤 千尋	生理学総論
中澤 健	
松澤 大輔	
加藤 秀雄	フードマネジメント論
土橋 昇	理化学演習
野本 たかと	演習Ⅲ(口腔機能リハビリテーション)
雨宮 歩	解剖学総論
野本 たかと	顎口腔機能リハビリテーション論
阿部 伸一	口腔解剖学
山本 将仁	
田崎 雅和	口腔生理学
奥田 克爾	口腔微生物学
木戸田 直実	在宅歯科衛生管理論Ⅰ
吉田 由加里	在宅歯科衛生管理論Ⅱ
相川 敬子	歯科医療管理論
石原 和幸	歯科衛生基礎演習
山口 大	歯科矯正学
佐藤 裕	歯科生化学・臨床検査法
鈴木 俊雄	歯科薬理学
上條 英之	社会保障・社会保険論
須藤 千尋	生理学総論
中澤 健	
松澤 大輔	
加藤 邦大	運動器障害理学療法学演習
鈴木 勝	
高間 省吾	
石川 修平	運動器障害理学療法学特論
山内 弘喜	
山本 喜美夫	
稲垣 武	運動療法学
郷 貴博	義肢装具学
須田 裕紀	
高橋 素彦	
田口 直枝	
前田 雄	
郷 貴博	義肢装具学演習
須田 裕紀	
高橋 素彦	
田口 直枝	
前田 雄	
高柳 正樹	小児科学
笠置 泰史	人体の機能Ⅰ(動物性機能)
笠置 泰史	人体の機能Ⅱ(植物性機能)
北村 泰子	人体の構造Ⅱ(脈管・内臓・感覚器の構造)
杉澤 淳子	精神神経科学各論
小松 尚也	精神神経科学総論
渡邊 博幸	
中村 信義	地域理学療法学
中村 信義	地域理学療法学演習

田中 康之	地域理学療法学特論
忽那 俊樹	内部障害理学療法学
高橋 哲也	
鶴澤 吉宏	内部障害理学療法学演習
田中 繁	人間工学
栗田 英明	発達障害理学療法学
宮原 なおみ	発達障害理学療法学演習
宮原 なおみ	発達障害理学療法学特論
村永 信吾	理学療法管理学
市橋 則明	理学療法発展領域論
對馬 栄輝	
吉永 勝訓	リハビリテーション医学
浅川 育世	老年期障害理学療法学演習
川口 真	理学療法技術論
村山 尊司	
米持 喬	作業療法学Ⅰ演習(神経・心肺機能系)
石川 隆志	作業療法学Ⅳ演習(認知・知能機能系)
宮本 礼子	作業療法基礎理論
小倉 由紀	作業療法治療学Ⅳ(認知・知能機能系)
小倉 由紀	作業療法評価学Ⅳ(認知・知能機能系)
酒井 ひとみ	社会的適応支援学
池澤 直行	社会的適応支援学演習
大越 満	
倉持 昇	社会的適応支援評価学
坂田 祥子	
高柳 正樹	小児科学
笠置 泰史	人体の機能Ⅰ(動物性機能)
笠置 泰史	人体の機能Ⅱ(植物性機能)
北村 泰子	人体の構造Ⅱ(脈管・内臓・感覚器の構造)
杉澤 淳子	精神神経科学各論
小松 尚也	精神神経科学総論
渡邊 博幸	
大熊 明	地域作業療法学概論
浦田 敦	日常生活活動援助学
浦田 敦	日常生活活動援助学演習
加瀬澤 文芳	
坂田 祥子	日常生活活動技術学演習
田中 繁	人間工学
吉永 勝訓	リハビリテーション医学

自己点検・評価委員会 教育研究年報作成部会

部会長 細山田 康恵 (栄養学科)

部会員 今井 宏美 (看護学科)

大内 美穂子 (看護学科)

河野 舞 (歯科衛生学科)

堀本 佳誉 (リハビリテーション学科・理学療法専攻)

松尾 真輔 (リハビリテーション学科・作業療法学専攻)

田中 宏明 (事務局企画運営課)



Annual Report of Education and Research
Chiba Prefectural University Of Health Sciences

10-1, Wakaba 2-chome, Mihama-ku, Chiba 261-0014, Japan

Tel : 043-296-2000 / Fax : 043-272-1716